福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1275 集

九州大学統合移転用地内埋蔵文化財調査報告書

Motooka Kuwabara

元岡・桑原遺跡群 24

－第 42 次調査の報告３・第 61 次調査の報告－

２０１５

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1275 集

九州大学統合移転用地内埋蔵文化財調査報告書

Motooka　Kuwabara

元岡・桑原遺跡群 24

－第 42 次調査の報告３・第 61 次調査の報告－

調査番号 0451
1315

２０１５

福岡市教育委員会

序

九州大学は、福岡市箱崎地区・六本松地区・春日市原町地区のキャンパスを統合移転し、福岡市西区元岡・同桑原・糸島市にまたがる新キャンパスを建設する事業を進めており、すでに平成18年度には工学部が移転したところです。本市は九州大学統合移転事業の円滑な促進のための協力支援を行うとともに、多角連携型都市構造の形成に向けて、箱崎・六本松地区の移転跡地や西部地域におけるまちづくりなど、長期的・広域的な視点から対応を行っております。

統合移転用地内における事前発掘調査もこの一環として平成7年度から当教育委員会が取り組んでおり、すでに土地の先行取得を行った福岡市土地開発公社を委託者とした発掘調査報告書が17冊、土地の再取得後に九州大学を委託者とする報告書が4冊発行されております。

また本書は第42次調査の3冊目の報告になります。地域の歴史を語る上で欠かすことが出来ない成果と考えております。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、学術研究の資料として活用いただければ幸いです。

最後に調査を委託された九州大学をはじめとする関係各機関と地元の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成27年3月25日

福岡市教育委員会

教育長　酒井龍彦

例　言

1　本書は九州大学統合移転事業に伴い、九州大学の委託を受けて福岡市教育委員会が実施した元岡・桑原遺跡群第 42 次調査の３冊目及び同第 61 次調査の報告書である。

2　本書は九州大学と受託契約を結んで実施した調査の第５冊目の報告であるが、本年度第 42 次調査の報告がもう１冊発行される。また、他に福岡市土地開発公社分が 17 冊ある。

3　本書に掲載した遺構図の作成者は次のとおりである。

第 42 次調査　米倉秀紀（調査担当者）・池田祐二（福岡市職員）・土井良伸

第 61 次調査　清金良太（調査担当者）

4　本書に掲載した遺物の実測図の作成・整図者は次のとおりである。

第 42 次調査　米倉･山崎賀代子（福岡市技能員）･大庭友子（同）･井上加代子（同）･相原聡子（同）力武卓治・山口譲治

第 61 次調査　清金

5　本書に掲載した写真は、第 42 次調査を米倉が、第 61 次調査を清金が撮影した。

6　掲載した遺物の番号は、第 42 次調査については土器と土製品を通し番号とし、木製品は木製品での通し番号とした。第 61 次調査は通し番号とした。また両調査とも挿図と図版の番号を一致させた。

7　本書の執筆は、第 42 次調査を米倉・山口（Ⅲ）、第 61 次調査を清金が行った。

8　本書の編集は清金の協力を得て、米倉が行った。

9　本調査で出土した遺物および調査の記録類は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵し､活用される。

遺跡名	元岡・桑原遺跡群	調査次数	42 次	調査略号	MOT- 42
調査番号	0451	分布地図図幅名	140 元岡	遺跡登録番号	2782
調査地	福岡市西区大字元岡地内			調査面積	4,800 ㎡
調査期間	平成 16（ 2004 ）年 10 月 1 日～平成 21（ 2009 ）年 6 月 30 日				

遺跡名	元岡・桑原遺跡群	調査次数	61 次	調査略号	MOT-61
調査番号	1315	分布地図図幅名	140 元岡	遺跡登録番号	2782
調査地	福岡市西区大字元岡地内			調査面積	407㎡
調査期間	平成 25（2013）年 7 月 1 日～ 10 月 23 日				

目　　次

第 42 次調査Ⅰ区 …… 9
Ⅰ　はじめに …… 11
　1　第 42 次調査の概要 …… 11
　2　本書での内容 …… 13
　3　調査の組織 …… 17
Ⅱ　Ⅰ区（Ａ～Ｅ－３～７区）出土土器・土製品 …… 18
　1　Ａ～Ｅ－３区出土土器 …… 18
　2　Ｄ・Ｅ－３・４区間ベルト出土土器 …… 41
　3　Ａ～Ｅ－４区出土土器 …… 41
　4　Ａ～Ｅ－５区出土土器 …… 74
　5　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器 …… 87
　6　Ａ～Ｅ－６・７区出土土器 …… 93
　7　Ａ～Ｅ－３～７区出土玉類・土製品 …… 129
Ⅲ　Ⅰ区出土木製品 …… 131

第 61 次調査 …… 203
Ⅰ　はじめに …… 205
Ⅱ　調査の記録 …… 206
Ⅲ　遺構と遺物 …… 209
Ⅳ　結語 …… 212

挿　図　目　次

第 42 次調査Ⅰ区
図 1　元岡・桑原遺跡群の位置と周辺の遺跡 …… 11
図 2　元岡・桑原遺跡群調査地点位置図 …… 12
図 3　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査区位置図 …… 13
図 4　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査区主要遺構配置図 …… 14
図 5　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査Ⅰ区遺構配置図 …… 15
図 6　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査Ⅰ区土器群配置図 …… 16
図 7　Ｄ－３区付近土器群９Ａ～９Ｃ分布範囲図 …… 19
図 8　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図１ …… 21
図 9　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図２ …… 22
図 10　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図３ …… 23
図 11　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図４ …… 24

図 12　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図５ ……25
図 13　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図６ ……26
図 14　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図７ ……27
図 15　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図８ ……28
図 16　Ｄ－３区付近土器群９Ａ出土土器実測図９・同土器群９Ｂ実測図 ……29
図 17　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図１ ……30
図 18　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図２ ……31
図 19　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図３ ……32
図 20　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図４ ……33
図 21　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図５ ……34
図 22　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図６ ……35
図 23　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図７ ……36
図 24　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図８ ……37
図 25　Ｄ－３区付近土器群９Ｃ出土土器実測図９ ……38
図 26　Ａ～Ｃ－３区遺構面出土土器及びＤ・Ｅ－３区ＳＤ０１出土土器実測図１ ……39
図 27　Ｄ・Ｅ－３区ＳＤ０１出土土器実測図２ ……40
図 28　Ｄ・Ｅ－３・４区間ベルト土層断面実測図 ……42
図 29　Ｄ・Ｅ－３・４区間ベルト出土土器実測図１ ……43
図 30　Ｄ・Ｅ－３・４区間ベルト出土土器実測図２ ……44
図 31　Ｄ－４区付近土器群９Ａ～９Ｃ・土器群 14 分布範囲図 ……45
図 32　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図１ ……47
図 33　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図２ ……48
図 34　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図３ ……49
図 35　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図４ ……50
図 36　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図５ ……51
図 37　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図６ ……52
図 38　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図７ ……53
図 39　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図８ ……54
図 40　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図９ ……55
図 41　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図 10 ……56
図 42　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図 11 ……57
図 43　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図 12 ……58
図 44　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図 13 ……59
図 45　Ｄ－４区付近土器群９Ａ出土土器実測図 14 ……60
図 46　Ｄ－４区付近土器群９Ｂ・９Ｃ出土土器実測図１ ……61
図 47　Ｄ－４区付近土器群９Ｃ出土土器実測図２ ……62
図 48　Ｄ－４区付近土器群９Ｃ出土土器実測図３ ……63
図 49　Ｄ－４区付近土器群９Ｃ出土土器実測図４ ……64
図 50　Ｄ－４区付近土器群９Ｃ出土土器実測図５ ……65
図 51　Ｄ－４区付近土器群９Ｃ出土土器実測図６ ……66

図 52　Ｄ－４区付近土器群９Ｃ出土土器実測図７ ……67
図 53　Ｄ－４区付近土器群９Ｄ出土土器実測図 ……68
図 54　ＳＢ０８・０９及び土器群 14 出土状況実測図……69
図 55　Ｄ－４区土器群 14 出土土器実測図 ……71
図 56　Ａ～Ｃ－４区遺構面出土土器及びＤ・Ｅ－４区ＳＤ０１出土土器実測図 ……73
図 57　Ｄ－５区付近土器群９分布範囲図 ……74
図 58　ＳＤ０４土層断面実測図 ……75
図 59　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図１ ……76
図 60　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図２ ……77
図 61　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図３ ……78
図 62　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図４ ……79
図 63　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図５ ……80
図 64　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図６ ……81
図 65　Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器実測図７ ……82
図 66　Ｄ－５区付近土器群９Ｂ出土土器実測図 ……83
図 67　Ｄ－５区付近土器群９Ｃ・９Ｄ出土土器実測図 ……・84
図 68　Ｃ～Ｅ－５区ＳＤ０１出土土器実測図１ ……85
図 69　Ｄ・Ｅ－５区ＳＤ０１出土土器実測図２ ……86
図 70　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト土層断面実測図……87
図 71　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器実測図１ ……88
図 72　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器実測図２ ……89
図 73　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器実測図３ ……90
図 74　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器実測図４ ……91
図 75　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器実測図５ ……92
図 76　Ｄ・Ｅ－５・６区間ベルト出土土器実測図６ ……93
図 77　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９分布範囲図 ……94
図 78　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ａ出土土器実測図１ ……97
図 79　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ａ出土土器実測図２ ……98
図 80　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ａ出土土器実測図３ ……99
図 81　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ａ出土土器実測図４ ……100
図 82　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ａ出土土器実測図５ ……101
図 83　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ａ出土土器実測図６ ……102
図 84　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図１ ……103
図 85　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図２ ……104
図 86　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図３ ……105
図 87　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図４ ……106
図 88　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図５ ……107
図 89　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図６ ……108
図 90　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｂ出土土器実測図７ ……109
図 91　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｃ出土土器実測図１ ……110

図 92　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｃ出土土器実測図２ ……111
図 93　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｃ出土土器実測図３ ……112
図 94　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｃ出土土器実測図４ ……113
図 95　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｃ出土土器実測図５ ……114
図 96　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｃ出土土器実測図６ ……115
図 97　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｄ出土土器実測図１ ……116
図 98　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｄ出土土器実測図２ ……117
図 99　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｄ出土土器実測図３ ……118
図 100　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｄ出土土器実測図４ ……119
図 101　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｅ出土土器実測図１ ……120
図 102　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｅ出土土器実測図２ ……121
図 103　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｅ出土土器実測図３ ……122
図 104　Ｃ・Ｄ－６・７区付近土器群９Ｅ出土土器実測図４ ……123
図 105　Ｂ・Ｃ－６・７区付近土器群 15 分布範囲図 ……125
図 106　土器群 15 出土土器実測図 ……126
図 107　Ｃ～Ｅ－６・７区ＳＤ０１出土土器実測図１ ……127
図 108　Ｃ～Ｅ－６・７区ＳＤ０１出土土器実測図２ ……128
図 109　Ｃ～Ｅ－３～７区出土玉類・土製品実測図１ ……129
図 110　Ｃ～Ｅ－３～７区出土土製品実測図２ ……130
図 111　Ｉ区出土木製工具実測図 ……132
図 112　Ｉ区出土木製農具実測図１ ……133
図 113　Ｉ区出土木製農具実測図２ ……135
図 114　Ｉ区出土木製農具実測図３ ……137
図 115　Ｉ区出土木製農具実測図４ ……139
図 116　Ｉ区出土木製農具実測図５ ……140
図 117　Ｉ区出土木製漁労具実測図 ……141
図 118　Ｉ区出土木製調度等実測図 ……143
図 119　Ｉ区出土木製調理加工具等実測図１ ……145
図 120　Ｉ区出土木製調理加工具等実測図２ ……146
図 121　Ｉ区出土木製容器等実測図１ ……147
図 122　Ｉ区出土木製容器等実測図２ ……148
図 123　Ｉ区出土木製品実測図 ……151
図 124　Ｉ区出土建築部材実測図 ……153
図 125　Ｉ区出土木製品実測図１ ……154
図 126　Ｉ区出土木製品実測図２ ……155
図 127　福岡市内出土青銅製鋤先および木製工具・農具実測図 ……156

第 61 次調査

図 １　第 61 次調査区位置図 ……205
図 ２　第 61 次調査区全体図 ……207

図 3　第 61 次調査区壁面土層実測図 ……208
図 4　ＳＸ 001 鉄滓出土状況及び出土遺物 ……210
図 5　ＳＸ 001 出土遺物１ ……210
図 6　ＳＸ 001 出土遺物２ ……211
図 7　ＳＸ 001 出土遺物３ ……212

写　真　目　次

第 42 次調査

写真 1　Ｄ－３区周辺土器群９Ａ ……19
写真 2　Ｄ－３区周辺土器群９Ｃ ……20
写真 3　Ｄ－３区周辺土器群９Ｃ ……20
写真 4　Ｃ・Ｄ－３区・４区間ベルト上土器群９Ａ ……41
写真 5　Ｄ－４・５区周辺土器群９Ａ ……45
写真 6　Ｄ－４区周辺土器群９Ｃ ……46
写真 7　ＳＢ０８・０９ ……70
写真 8　土器群 14 ……72
写真 9　Ｄ－５区周辺土器群９Ａ ……75
写真 10　Ｃ・Ｄ－６・７区土器群９Ｂ ……95
写真 11　Ｃ・Ｄ－６・７区土器群９Ｃ ……95
写真 12　Ｃ・Ｄ－６・７区土器群９Ｅ ……96
写真 13　Ｃ・Ｄ－６・７区土器群９Ｆ ……96
写真 14　土器群 15 ……125

図　版　目　次

第 42 次調査

図版 1　上：元岡・桑原遺跡群全景（西から）　下：第 42 次調査遠景（南から） ……185
図版 2　上：第 42 次調査区全景（北東から）　下：第 42 次調査区全景（北から）……186
図版 3　上：第 42 次調査区全景（南東から）　下：第 42 次調査区Ⅱ区（南から）……187
図版 4　上：ＳＤ０１全景（北から）　下：ＳＤ０１コーナー部（東から）……188
図版 5　木製品出土状況１ ……189
図版 6　木製品出土状況２ ……190
図版 7　出土土器１ ……191
図版 8　出土土器２ ……192
図版 9　出土土器３ ……193
図版 10　出土土器４ ……194
図版 11　出土土器５ ……195
図版 12　出土土器６ ……196
図版 13　出土土器７ ……197

図版 14　出土土器８ ……198
図版 15　出土土器９ ……199
図版 16　出土木製品１ ……200
図版 17　出土木製品２ ……201
図版 18　出土木製品３ ……202

第 61 次調査
図版１　第 61 図調査区全景（東から）・壁面土層 Ｘ－Ｙ１（南から） ……213
図版２　壁面土層 Ｘ－Ｙ２（南から）・壁面土層 Ｘ’－Ｙ’１（南から）……214
図版３　壁面土層 Ｘ’－Ｙ’２（東から）・ＳＸ００１鉄滓出土状況（東から） ……215
図版４　第 61 次調査出土遺物 ……216

表　目　次

表１　第 42 次調査Ｉ区出土木製品一覧表 ……159
表２　掲載土器一覧表 ……167

元岡・桑原遺跡群第42次調査の報告（３）

―Ｉ区出土の土器（２）・木製品―

Ⅰ　はじめに

1　第 42 次調査の概要

元岡・桑原遺跡群第 42 次調査は、元岡・桑原遺跡群の南西隅、糸島市との市境に位置する。調査区前面に広がる平野部は、江戸時代の干拓によるもので、縄文時代海進以降中世までは、東の博多湾から入り込んだ湾を形成しており（古今津湾）、当調査区はその湾の一番奥北側に位置している。元岡・桑原遺跡群は幅の狭い丘陵群とその間の狭い谷部及び小平地から成っており、第 42 次調査も同様の立地にある。

発掘調査は、平成 16 年 10 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日まで約 4,800㎡の調査を行ったが、上述の幅の狭い谷部から平地部にかけて流れる南北方向の２本の流路と、流路の間の住居や掘立柱建物などの遺構から成っている。２本の流路からは、弥生時代から古墳時代初頭の大量の遺物が出土した。１万箱に及ぶ土器のほか、500 点近くの木製品、100 箱を超す石器のほか、小銅鐸２点、中国銭９枚、絵画土器や絵画木製品など、極めて特徴的な遺物が出土した。

調査区は東半部をⅠ区、西半部をⅡ区としたが、当初東半部のみを第 42 次調査として発掘調査を

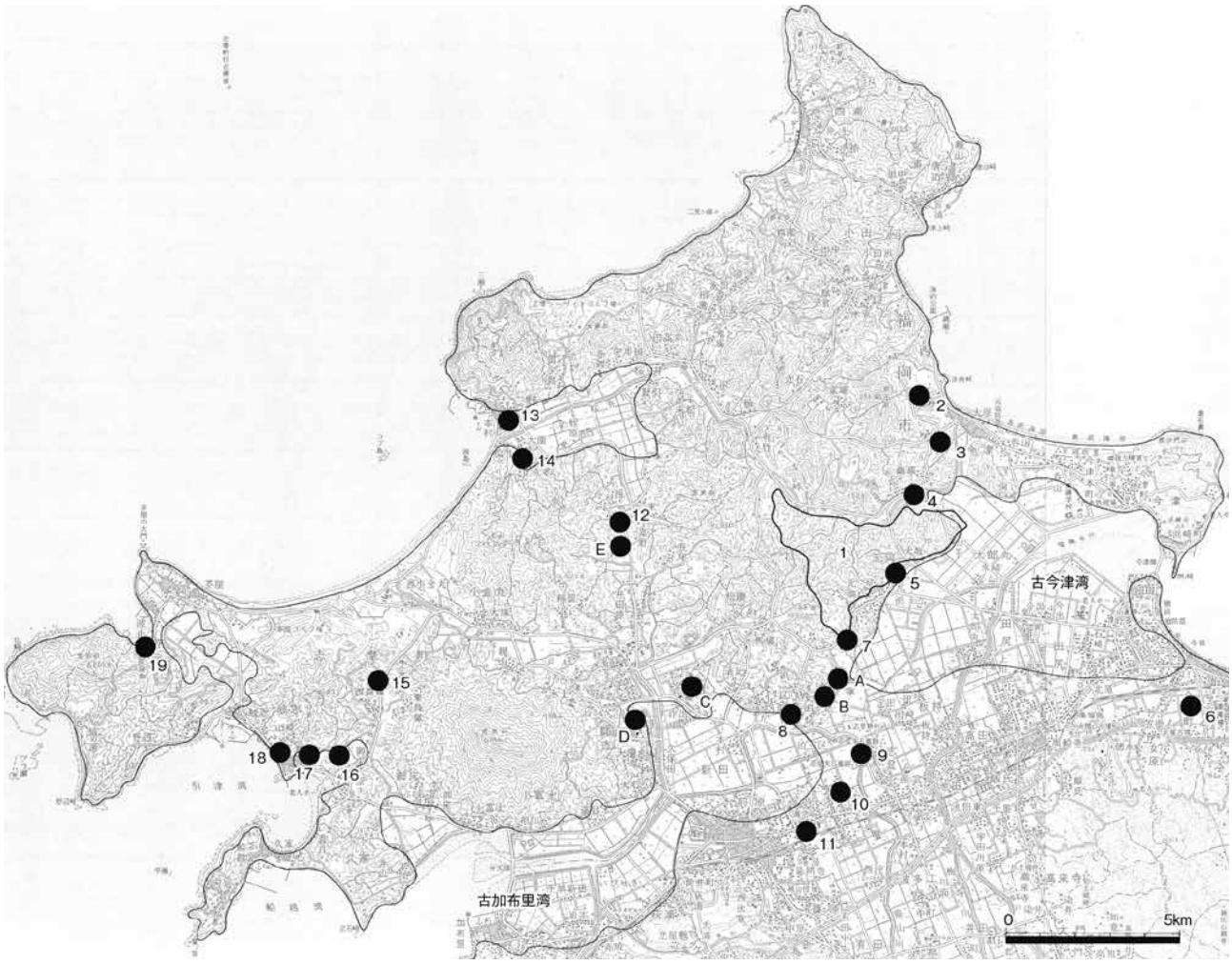


図１　元岡・桑原遺跡群の位置と周辺の遺跡

1元岡・桑原遺跡群　2大原D遺跡　3大原A遺跡　4桑原飛櫛貝塚　5元岡瓜尾貝塚　6今宿五郎江遺跡　7泊桂木・泊リュウサキ遺跡　8泊熊野遺跡　9志登遺跡群　10 潤遺跡群　11 浦志遺跡群　12 蓮輪遺跡　13 吹切遺跡　14 久米遺跡　15 八熊製鉄遺跡　16 御床松原遺跡　17 新町遺跡　18 岐志元村遺跡　19 天神山貝塚　A泊大塚古墳　B御道具山古墳　C津和崎権現古墳　D稲葉古墳群　E井田原開古墳

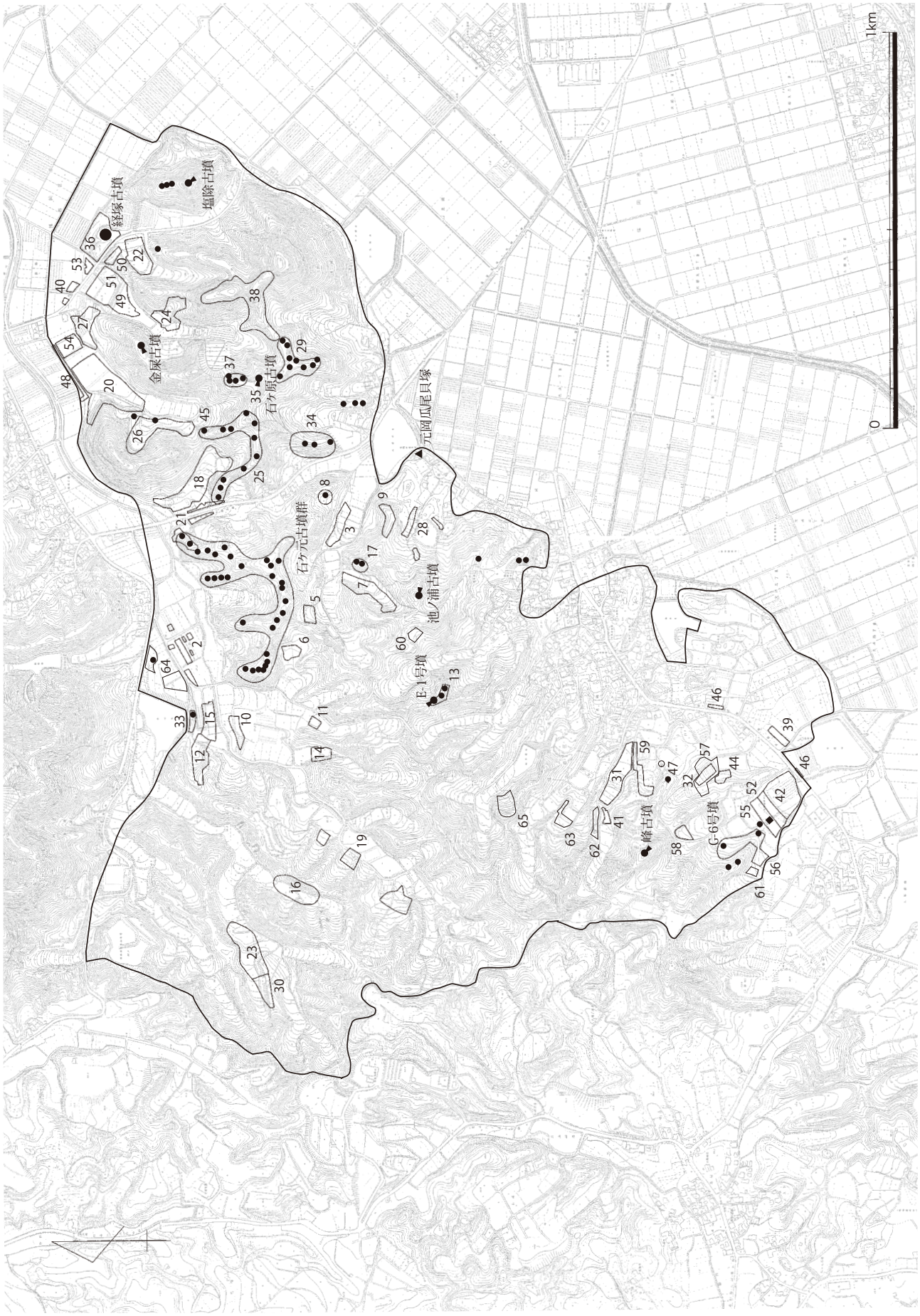


図 2　元岡・桑原遺跡群調査地点位置図

行う予定であったため、Ⅰ区の西端から10ｍおきにＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅと名付けたため、Ⅱ区は東からＺ・Ｙ・Ｘ・・・と名付けざるを得なくなった。なお、南から北へは10ｍごとに１・２・３・・・と７区まで名付けた。従ってグリッド名としてはＡ－１・Ａ－２・・・となり、各グリッドが10ｍ四方である。なお、第42次調査の北側に隣接する第52次調査もこのグリッドの名称を踏襲している。

第42次調査では、１万箱を超す遺物が出土しており、その遺物量の多さから１冊では収まりきれず、すでに２冊の発掘調査報告書を刊行し、調査区東半（Ⅰ区）の出土土器の一部（「元岡・桑原遺跡群21」）と西半（Ⅱ区）の木製品及び調査区全域の金属器（「元岡・桑原遺跡群23」）を報告した。

２　本書での内容

本書では、Ⅰ区のＡ～Ｅ－３～７区出土土器・土製品及びⅠ区出土の木製品を報告する。さらに石器と縄文時代遺物については次年度以降に報告予定である。また同時に別冊でⅡ区の遺構・出土土器・石器等を報告する（「元岡・桑原遺跡群25」）。

Ⅰ区の出土遺物のほとんどは幅約30ｍの自然流路ＳＤ０１内から出土している。出土遺物は集中する部分があり、土器群１・２・・・の名称を付した。前書ではⅠ区のうちＡ～Ｆ－１・２区の出土土器を報告したが、本書では残りのＡ～Ｅ－３～７区の土器・土製品及びⅠ区全体から出土した木製品を報告する。土器群の内、１～８、10～13はすべて前書に属し、土器群９・14・15が本書に含まれる。

そのうち、土器群９は総延長60ｍを超す長さがあり、今回報告する遺物の大半が土器群９に属している。土器群９はＳＤ０１の西岸沿いに延々と連なっているが、地点によりその状況は異なっている。Ｄ－３区あたりでは、西岸は急速に立ち上がり、その上がったあたりに遺物が分布し、その後の堆積土壌があまりないため、弥生時代中期から古墳時代初頭の土器のレベル差があまりない状態で出土している。一方Ｄ－６区周辺では、西岸が緩やかに立ち上がり、遺物は緩やかに立ち上がる底近くに分布しているため、各時期とも堆積土壌が多く、時代によるレベル差が明瞭である。

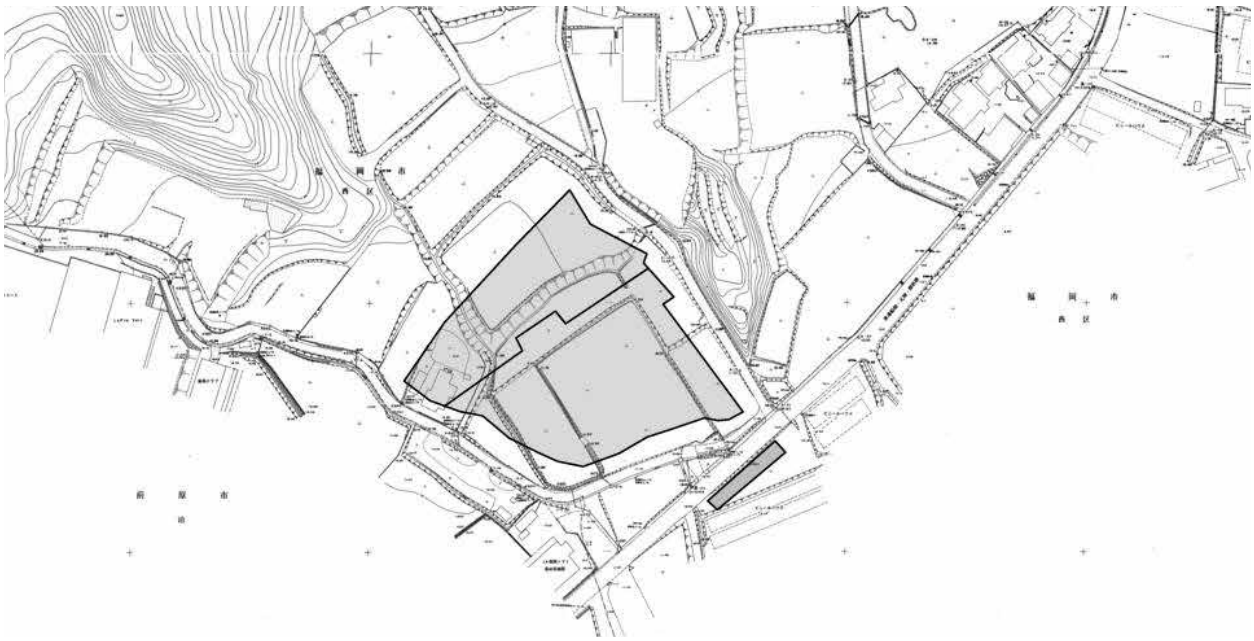


図３　元岡・桑原遺跡群第42次調査区位置図（1/4000）

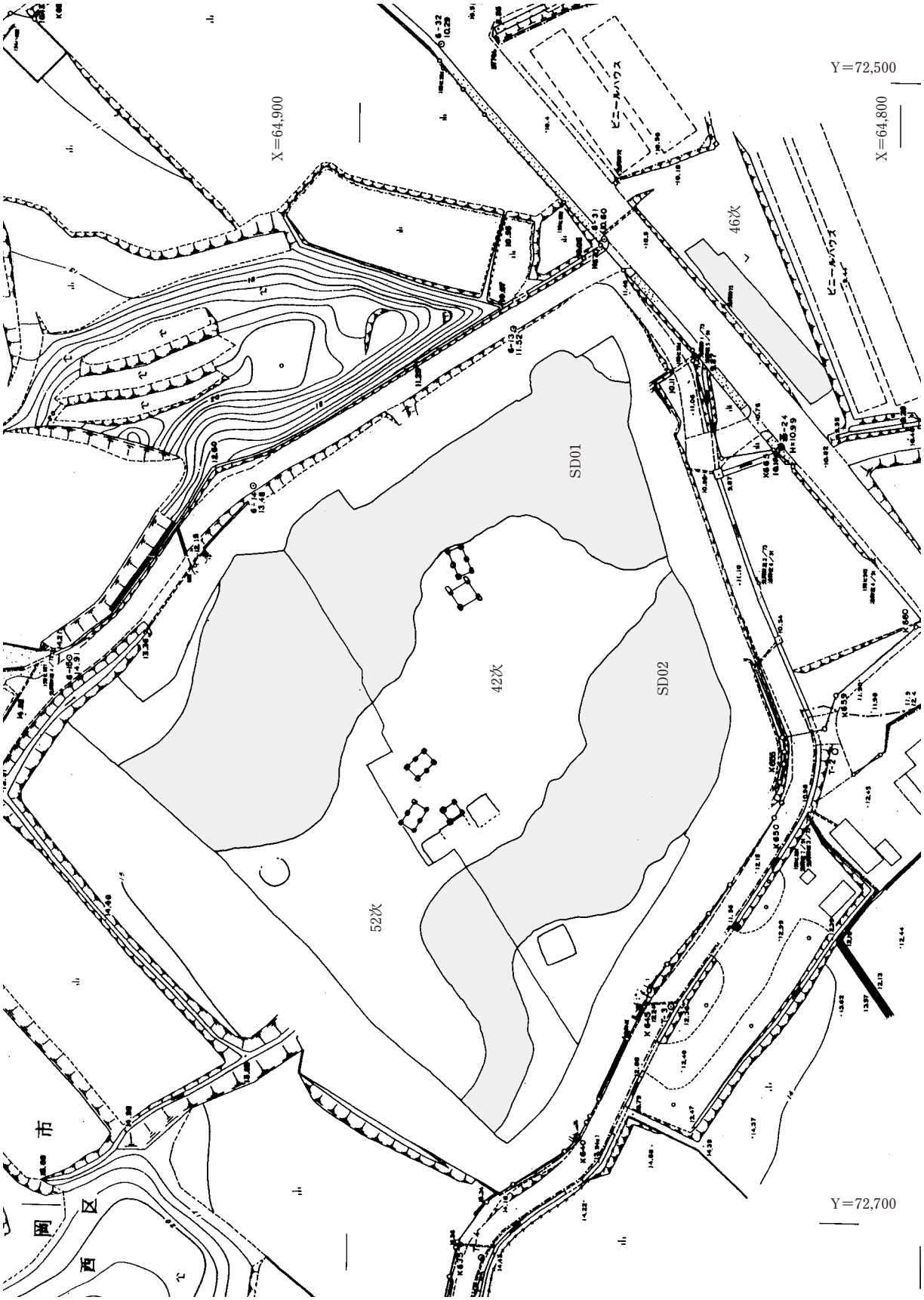


図 4　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査区主要遺構配置図（1/1000）

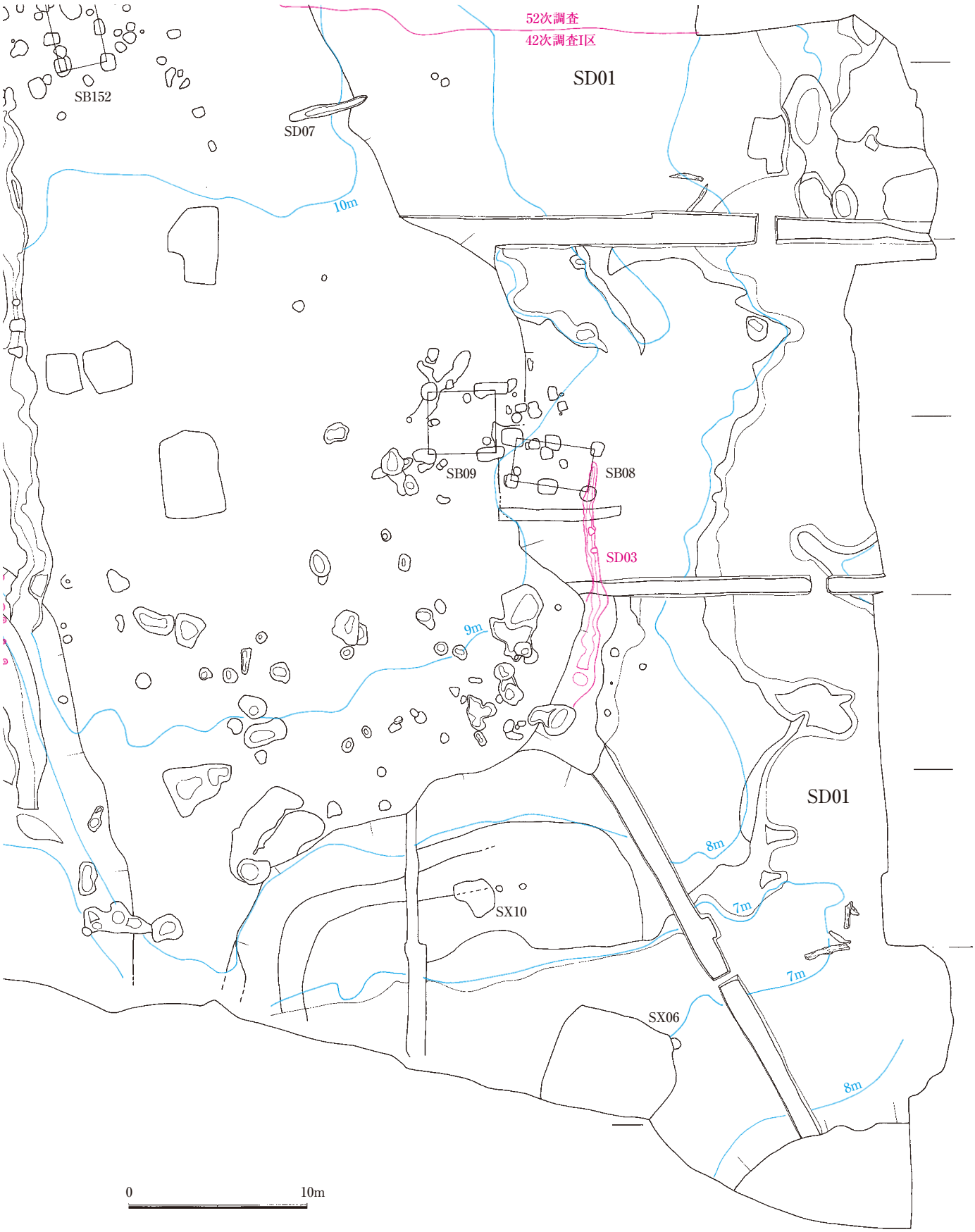


図 5　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査I区遺構配置図（1/300）

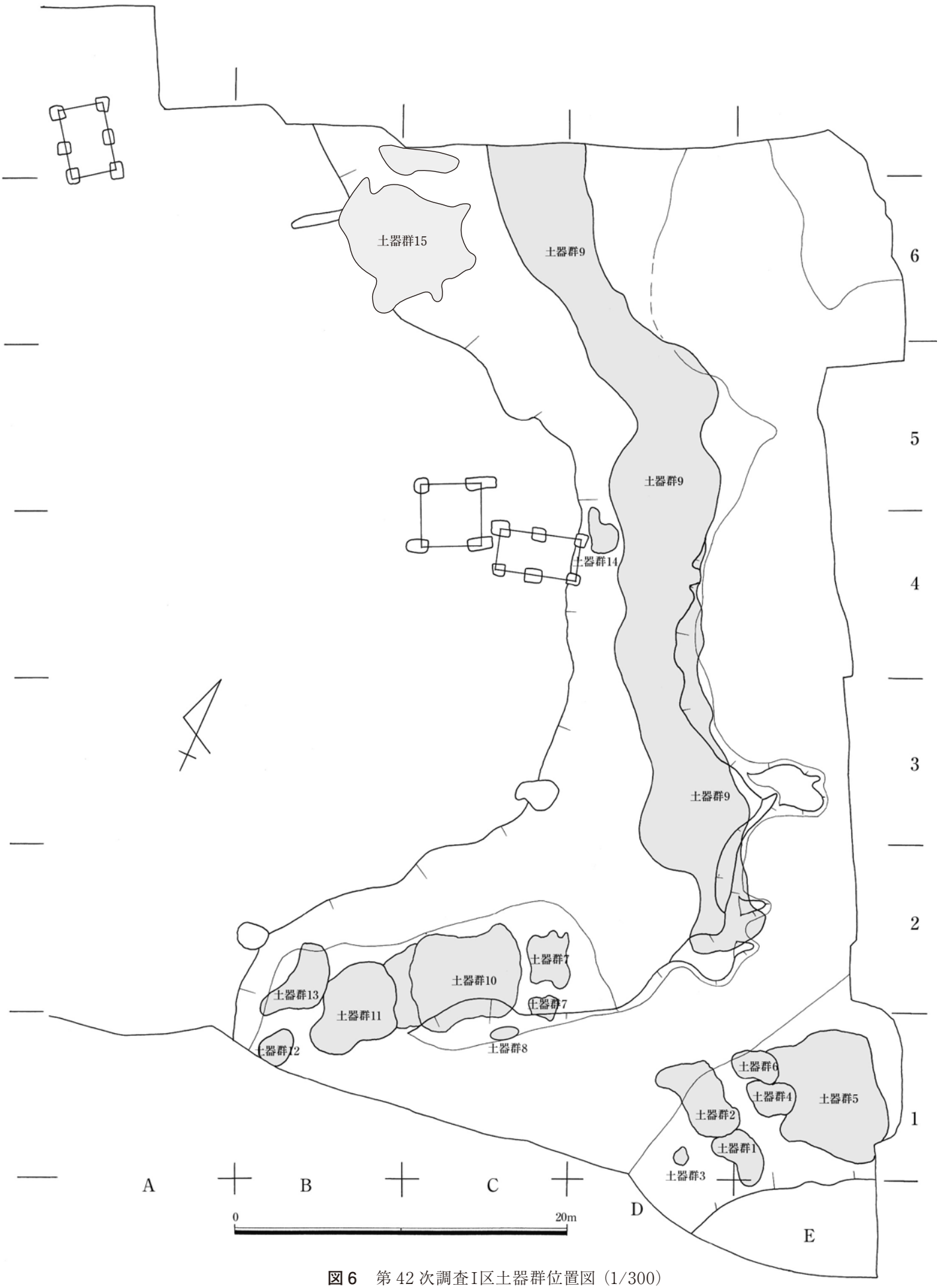


図6　第42次調査I区土器群位置図（1/300）

土器群９のほとんどは遺棄した土器群と考えられる。完形に近い状態の土器や、大型器台・高坏群やミニチュア土器も存在し、祭祀的な状況も考えられるが、原位置をとどまっていると考えられる破片が大量にあることからも、その大半は廃棄に伴うものと判断できる。

土器群 14 は弥生時代中期の高坏・鉢などの赤彩完形土器から成っている。この土器群のすぐ西側には地山を方形に成形した中に立つ掘立柱建物２棟があり、祭祀的な用途がうかがえる。

土器群 16 はＣ・Ｄ－６区あたりにある西から東に向かってＳＤ０１に注ぐようにある薄く細長い土器群である。土器はほとんどが小破片で、弥生土器から須恵器までごっちゃに入っている状態であることから、ＳＤ０１部分がまだ窪んでいる時代（恐らく出土須恵器の時代）に雨水等によって流れてできたものと考えられる。この土器群には、小型仿製鏡（既報告）が１面出土している。

出土した土器は、Ｉ区全体でコンテナ 4000 箱を超える。本報告では各区（３・４・５の順）ごとに章を設け、土器の出土状況を記述したのち、各層ごとの土器の傾向と一部の土器の詳述のみ行い、ほとんどの土器については、一覧表での記述のみとせざるを得ない。

第 42 次調査既刊報告書
福岡市教育委員会 「元岡・桑原遺跡群 21」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1174 集　2012
福岡市教育委員会 「元岡・桑原遺跡群 23」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1246 集　2014

３　調査の組織

発掘調査時及び平成 23 年度までの組織については、「元岡･桑原遺跡群 21」に記述しているので、平成 24 年度から平成 26 年度の第 42 次調査の整理体制のみ記す。なお、平成 24 年４月１日に文化財部は教育委員会から経済観光文化局に移管された。

福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課
課長　　宮井善朗（平成 24・25 年度）→常松幹雄（平成 26 年度）
調査第２係長　　菅波正人（平成 24 年度）→榎本義嗣（平成 25・26 年度）
第 42 次整理担当　米倉秀紀（Ⅰ区）・常松幹雄（Ⅱ区）
庶務　埋蔵文化財審査課管理係　横田　忍・川村啓子

Ⅱ　Ⅰ区（Ａ～Ｅ－３～７区）出土土器・土製品

１　Ａ～Ｅ－３区出土土器

（１）Ａ～Ｅ－３区の概要

Ａ～Ｅ－３区で出土した土器は、①ＳＤ０１西岸の土器群９出土土器（主にＤ－３区）、②ＳＤ０１内出土土器（主にＥ－３区）、③ＳＤ０１西側の遺構面及び遺構面上の凹凸から出土した土器（主にＡ～Ｃ－３区）に分けられる。土器群９は前述のようにＳＤ０１の西側立ち上がり付近に延々と分布しているが、Ｄ－３区付近ではそのほとんどがＳＤ０１のすぐ西側に分布している。大半がＳＤ０１の外の遺構面上にあることから、その後の堆積土壌が少なく、弥生時代中期から古墳時代前期までの土器が大きなレベル差がない。それでも、土器群の厚さは概ね20cm近くあり、最初に検出し一番上で出土した一群を土器群９Ａと名付け、９Ａを除去した下から出土した土器を土器群９Ｂ、さらにその下から出土した土器群を土器群９Ｃとした。

土器群９Ａは、小破片に割れているのが多く、表面の磨滅も激しいものが多く、その後の堆積土壌が少ないことから考えて、比較的長い期間、風雨にさらされていたものと思われる。土器群９Ａを取り除いた後は、９Ａに続くように３区の南側付近で土器が少量出土した（土器群９Ｂ）が、それ以外の部分は、土器は無く土であった。土器群９Ｂとまわりの土部分を下げると、再び土器群が一面に現れる（土器群９Ｃ）。Ｄ－３区の土器群９Ａ～Ｃだけで、約300箱出土した。とにかく多くの土器の破片が次々と遺棄され続けた、という表現がぴったりくる出土状況である。

なお、Ｄ－３区では、遺構面であるシルト層上部から縄文時代晩期の土器が出土したが、縄文時代包含層については、次年度以降報告する。

（２）土器群９Ａ出土土器（図８～16）

土器群９Ａは幅３～５ｍの範囲に、立錐の余地もないほどに分布している（写真１）。土が見えている部分はほとんどない。前述のように表面が磨滅しているものが多いこと、異なる時期のものがほぼ同一レベルで出ていることから、比較的長い期間地表面に露出していたと考えられる。そのためか、大きな破片が少なく、細片状態になったものが多い。原形を保っている土器は、厚い器壁を持つ器台や小型の鉢などを除いてほぼ皆無であるが、その場で割れたと推察される土器もある。弥生時代中期・後期の土器がほとんどである。

１は外面に平行タタキを施した土器で、タタキを施した土器は出土しているが、いずれもわずかに高いレベルで出土している。２は甑の底部片である。３～20は弥生土器の甕で、18の胴部片には発掘調査時のものではない傷状の線刻が施されている。文様や絵を成すものではないと思われるが、念のため掲載した。21～41は各種の壺である。29は一見、弥生時代前期に似る。口縁部内面はハケメで一周し、頸部との間がわずかに段状を成している。底部は、張り付けた後に外面をていねいに指で押圧している。40・41の長頸壺は比較的少ない器形で、袋状口縁を取ったような長頸壺である。40が外面と口縁部内面、41は外面に赤彩を施し、41は頸部に暗文も施している。また41は底部外面もミガキ状の調整で仕上げている。42～52は鉢で、42は有脚の鉢である。47は外底部の対する位置に２か所と、外面胴部中央付近に圧痕状の穴があるが、圧痕というよりは、何かの使用痕状のものである。

53～62は蓋である。蓋はほとんど大型のものであるが、62は小型の無頸壺の蓋である。63～75は高坏、76～83は器台である。小型の鉢・蓋・器台には完形もしくは完形に近いものが多い。

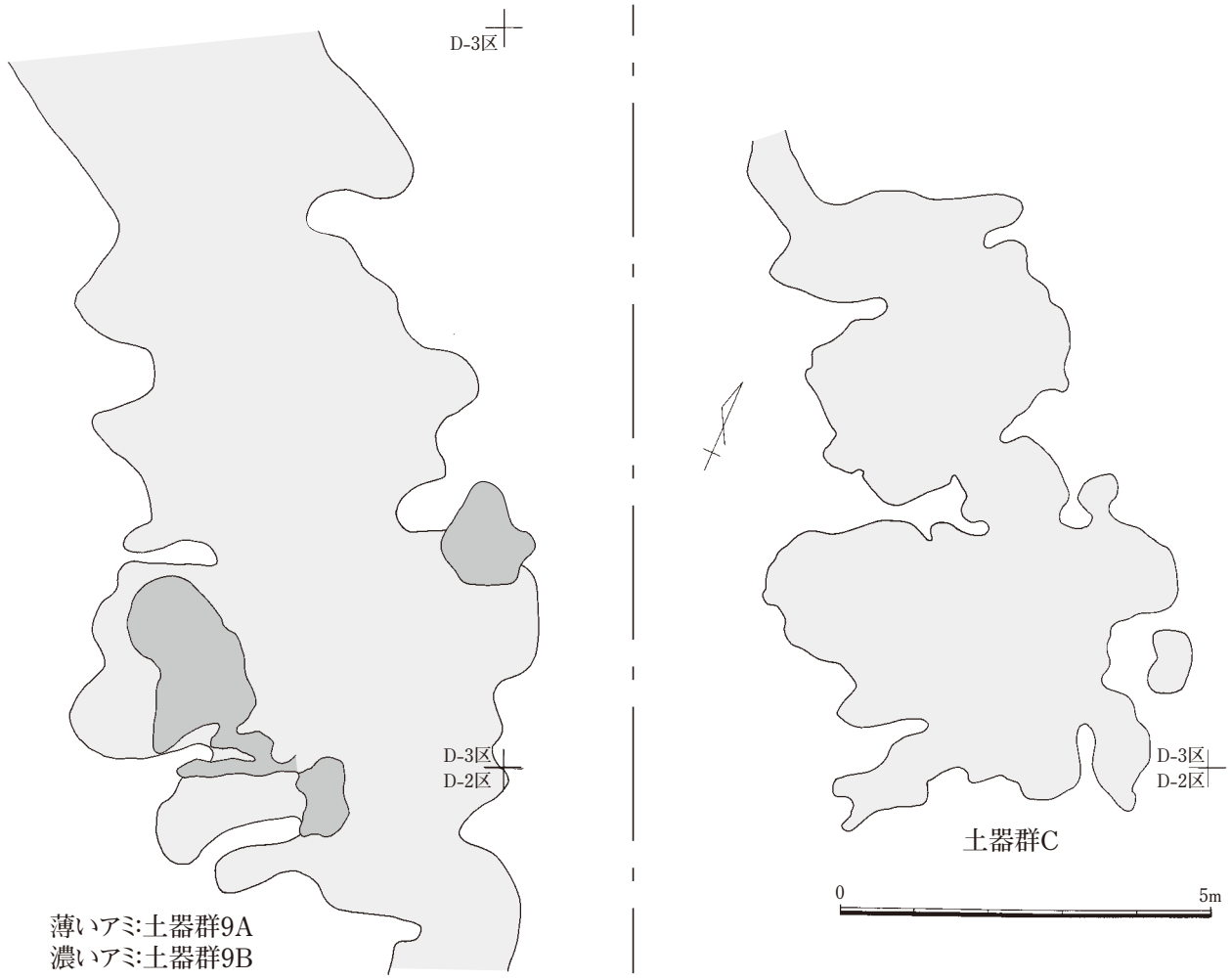


図７　Ｄ－3区付近土器群Ａ～Ｃ分布範囲図（1/100）

写真１　Ｄ－3区周辺土器群９Ａ

写真2　D－3区周辺土器群9C

写真3　D－3区周辺土器群9C

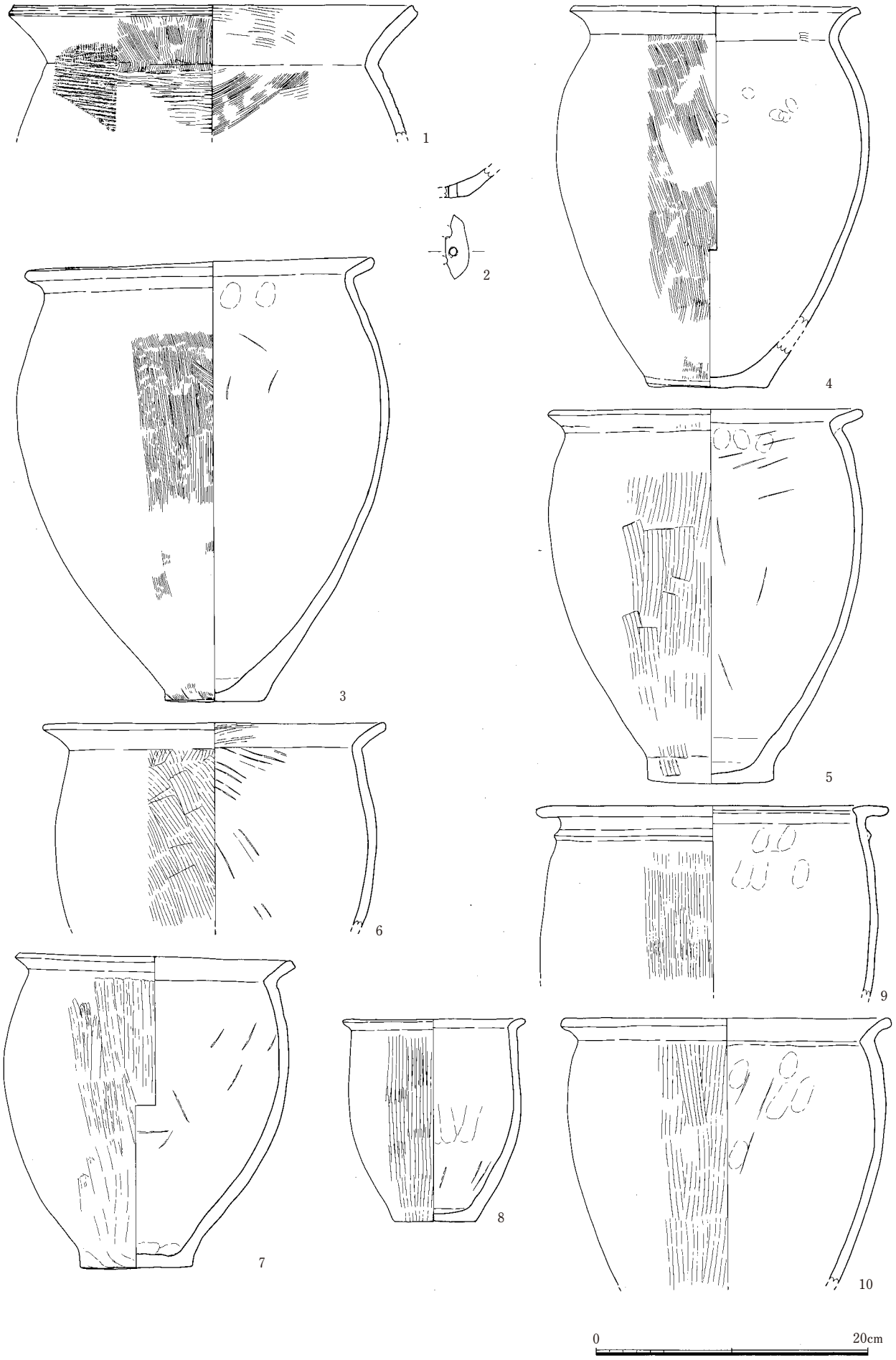


図８　Ｄ－3区付近土器群9Ａ出土土器実測図１（1/４）

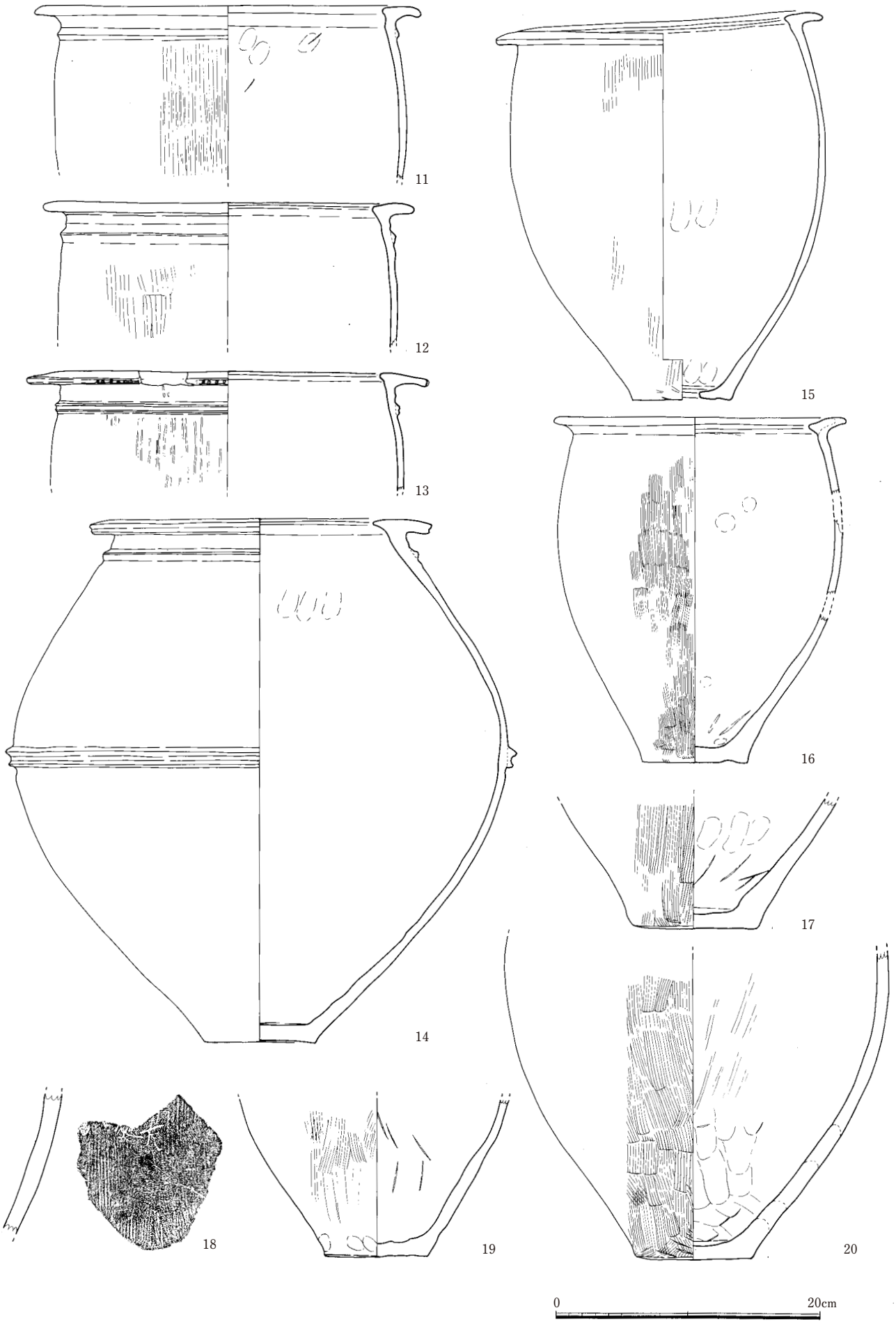


図９　Ｄ－3区付近土器群9Ａ出土土器実測図2（1/４）

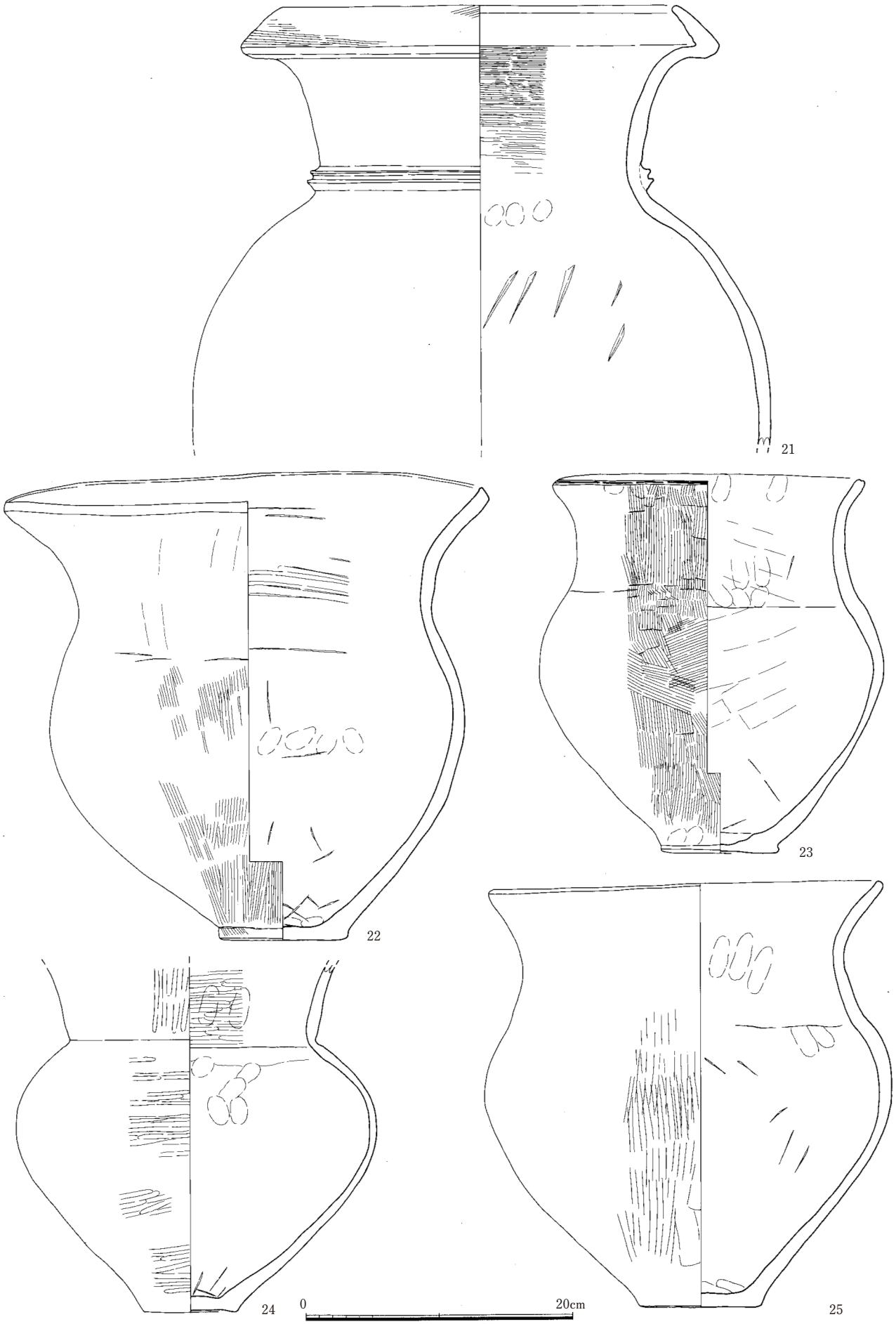


図 10　D－3区付近土器群9A 出土土器実測図3（1/ 4）

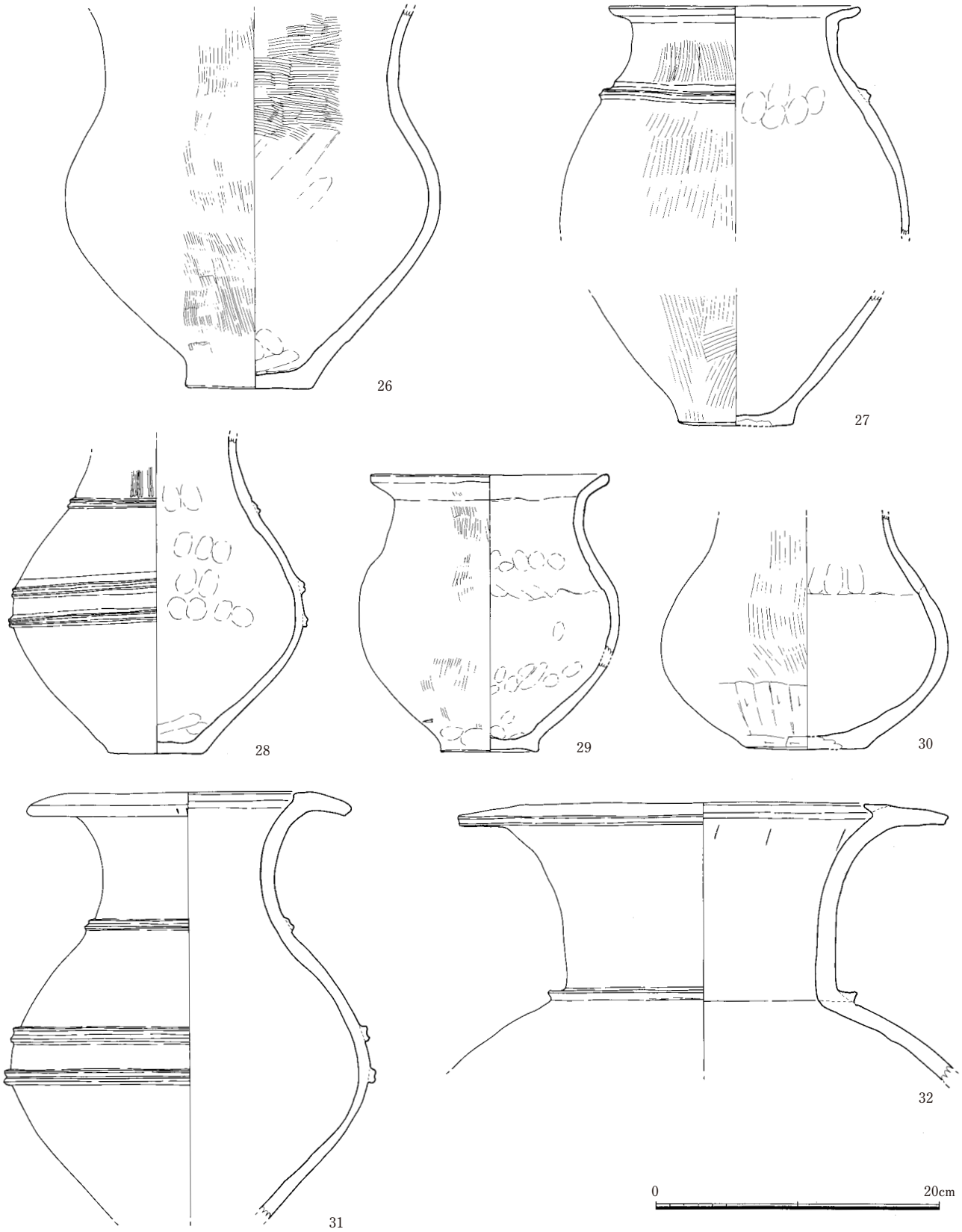


図 11　D－3区付近土器群9A 出土土器実測図4（1/ 4）

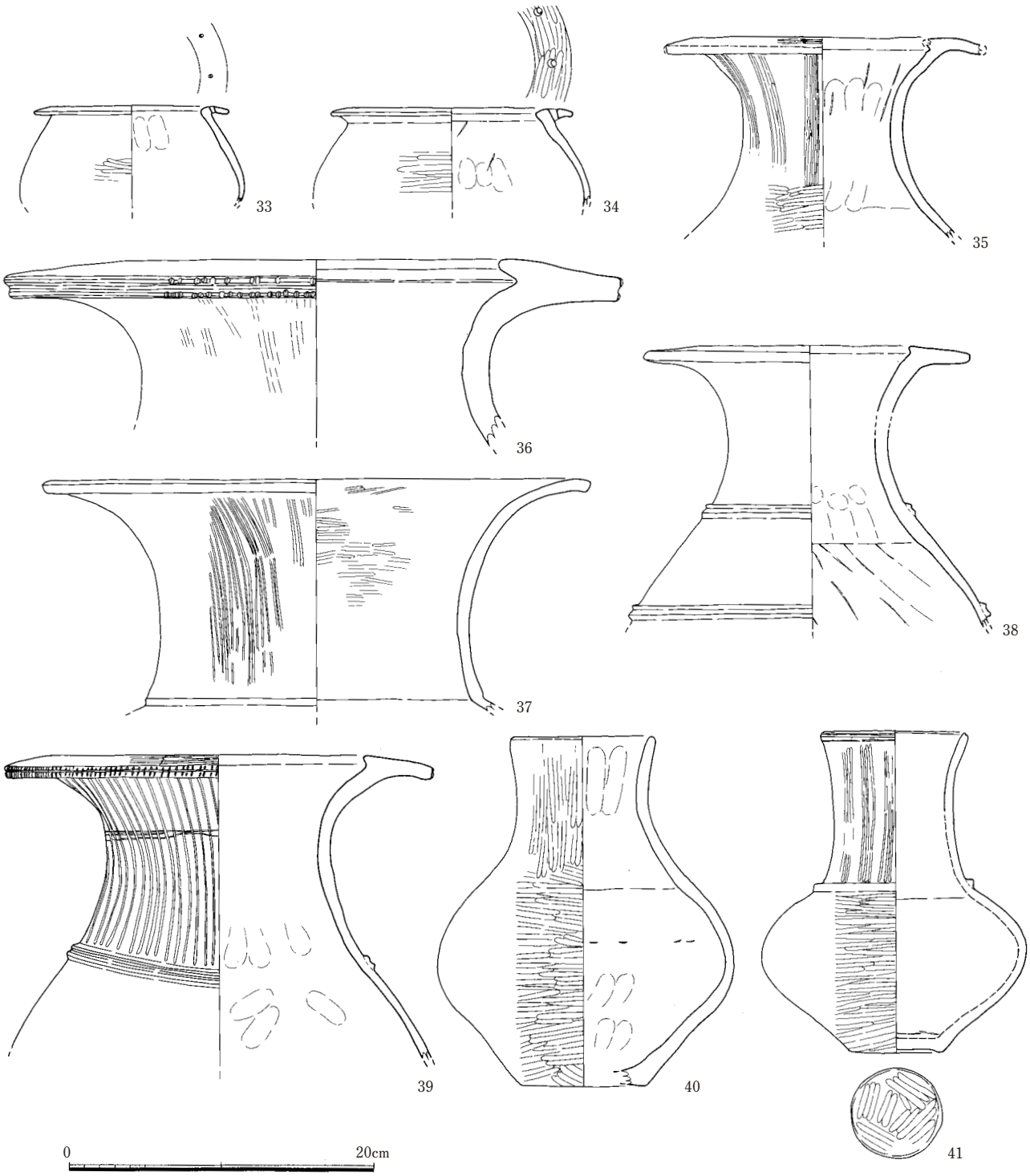


図 12　D－3区付近土器群9A 出土土器実測図5（1/ 4）

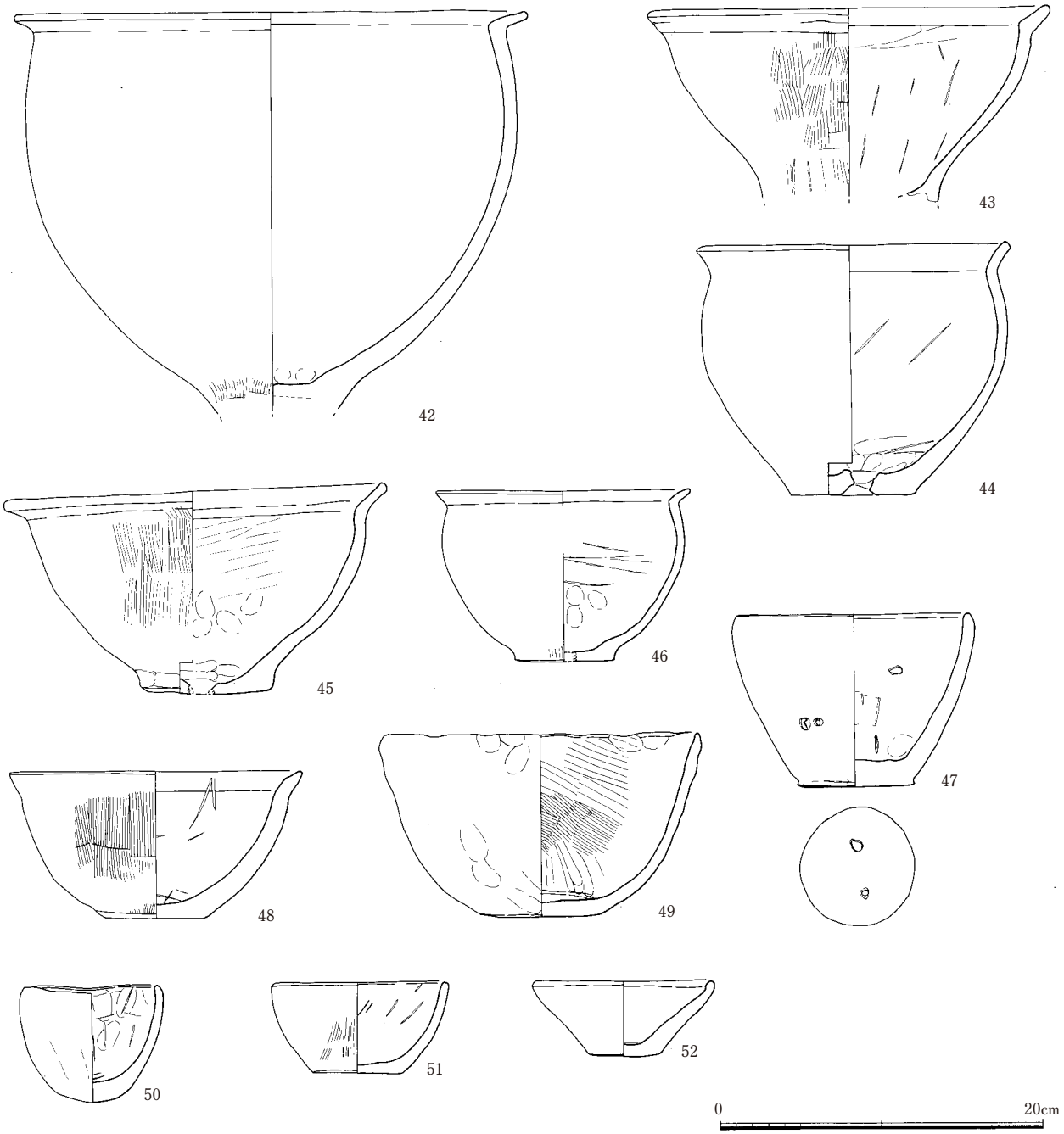


図 13　D－3区付近土器群9A 出土土器実測図6（1/ 4）

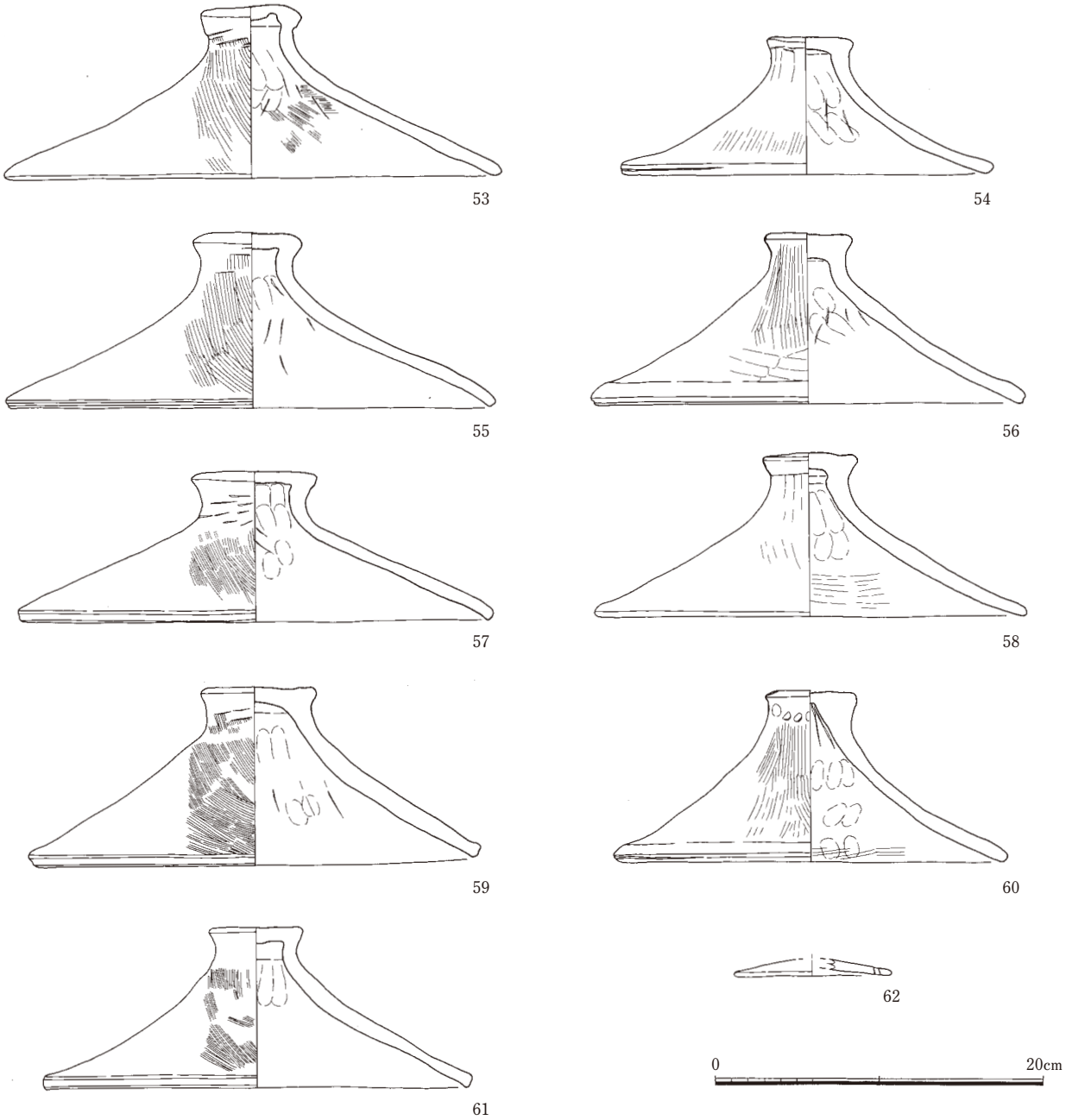


図 14　D－3区付近土器群9A 出土土器実測図7（1/ 4）

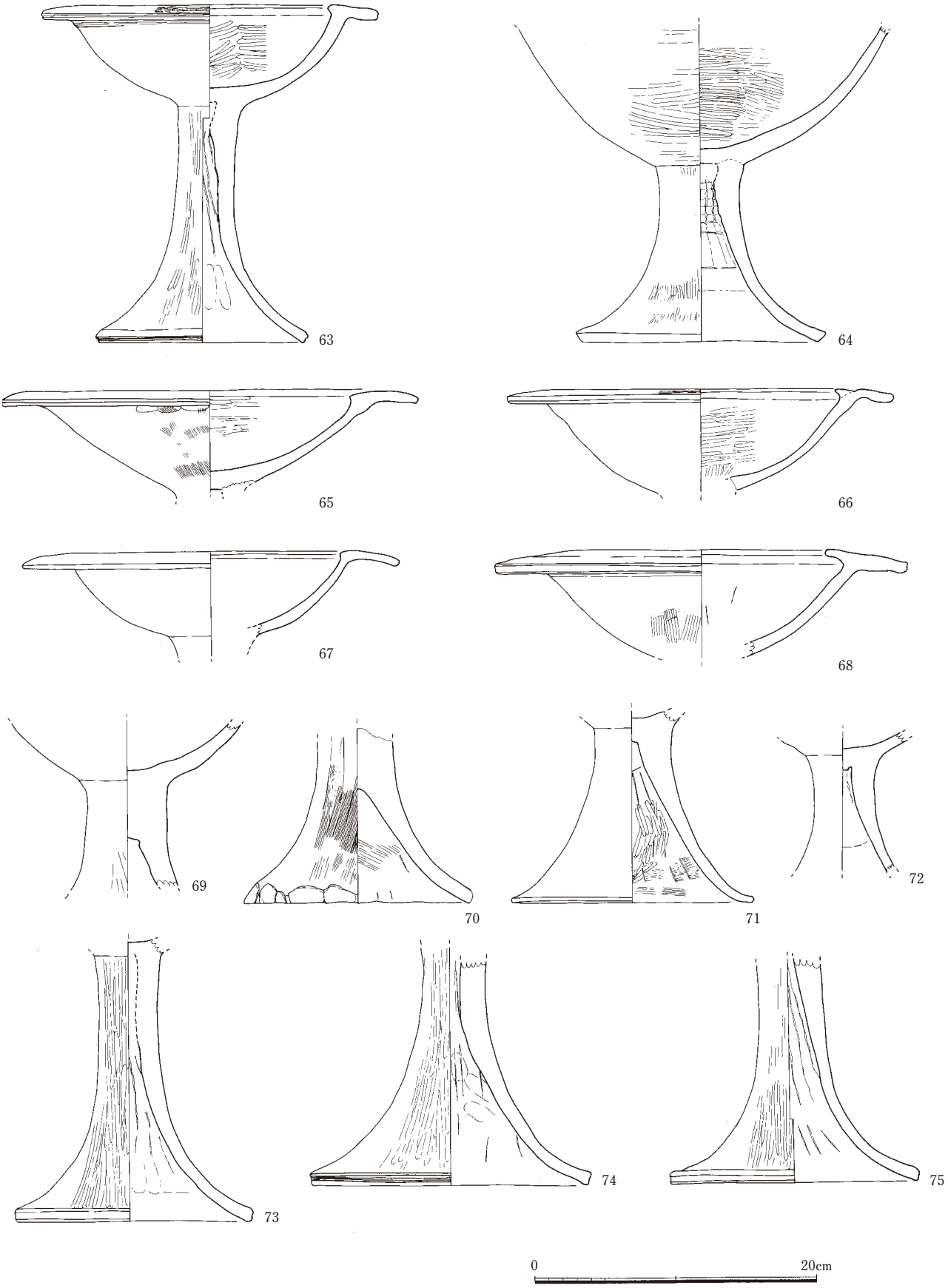


図 15　D－3区付近土器群9A 出土土器実測図8（1/ 4）

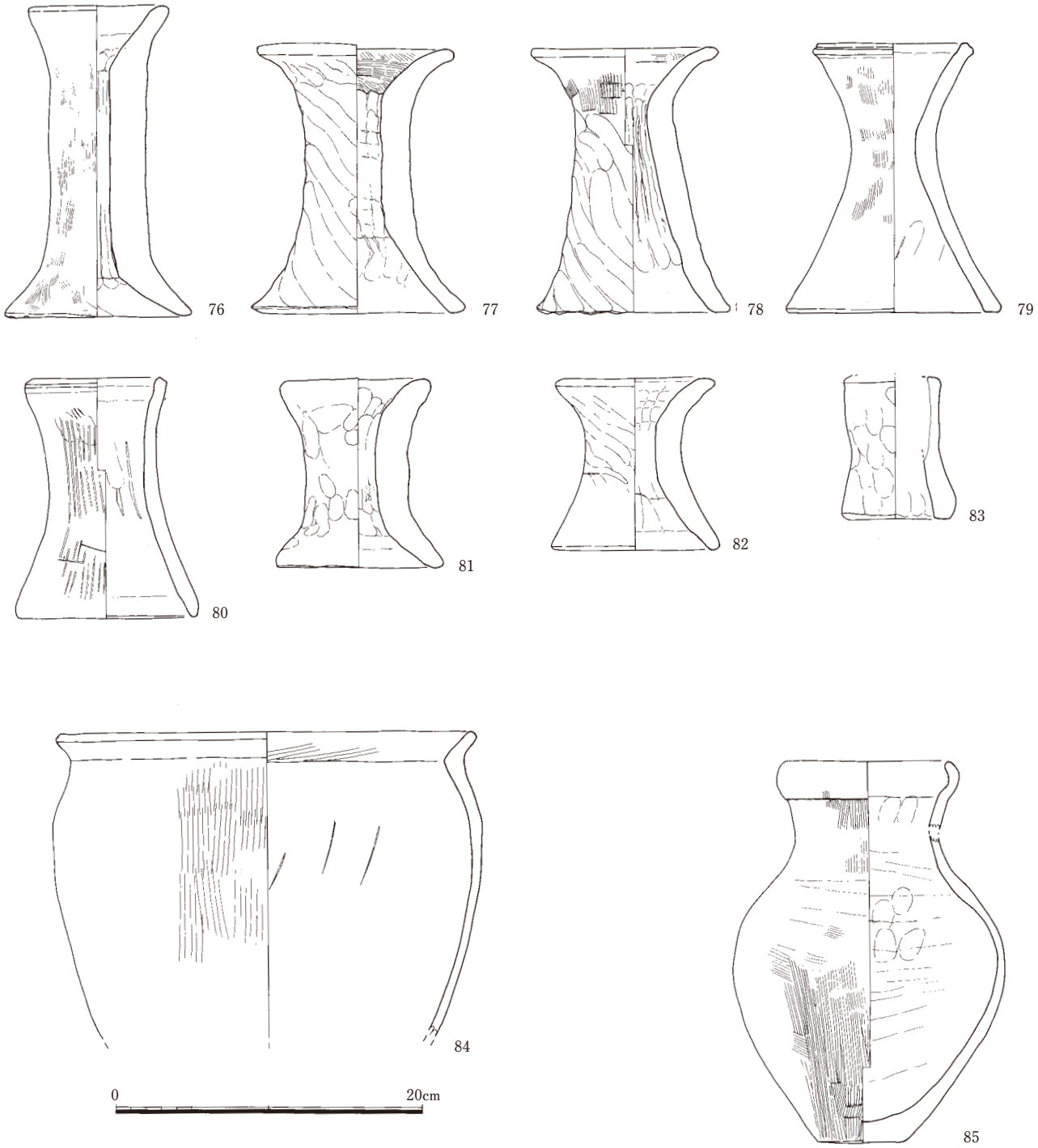


図 16　Ｄ－3区付近土器群9A 出土土器実測図9・同土器群9B 実測図（1/ 4）

（3）土器群９Ｂ出土土器（図 16 ）

土器群９Ｂは前述のように土器群９Ａを除去したのちに、南側の一部分のみに分布している土器群である。土器群９Ｂは、本来９Ａまたは９Ｃにつながるもので、その部分以外は薄い土に覆われ、９Ｂと薄い土層を除去すると土器群９Ｃの一群が姿を現した。９Ｂの分布域は狭いため量的にも少ない。また小片のものが多く、図化し、掲載したのは甕１点と壺１点のみである。甕はく字状口縁の上半部の破片（84）、壺は袋状口縁を持つもの（85）である。

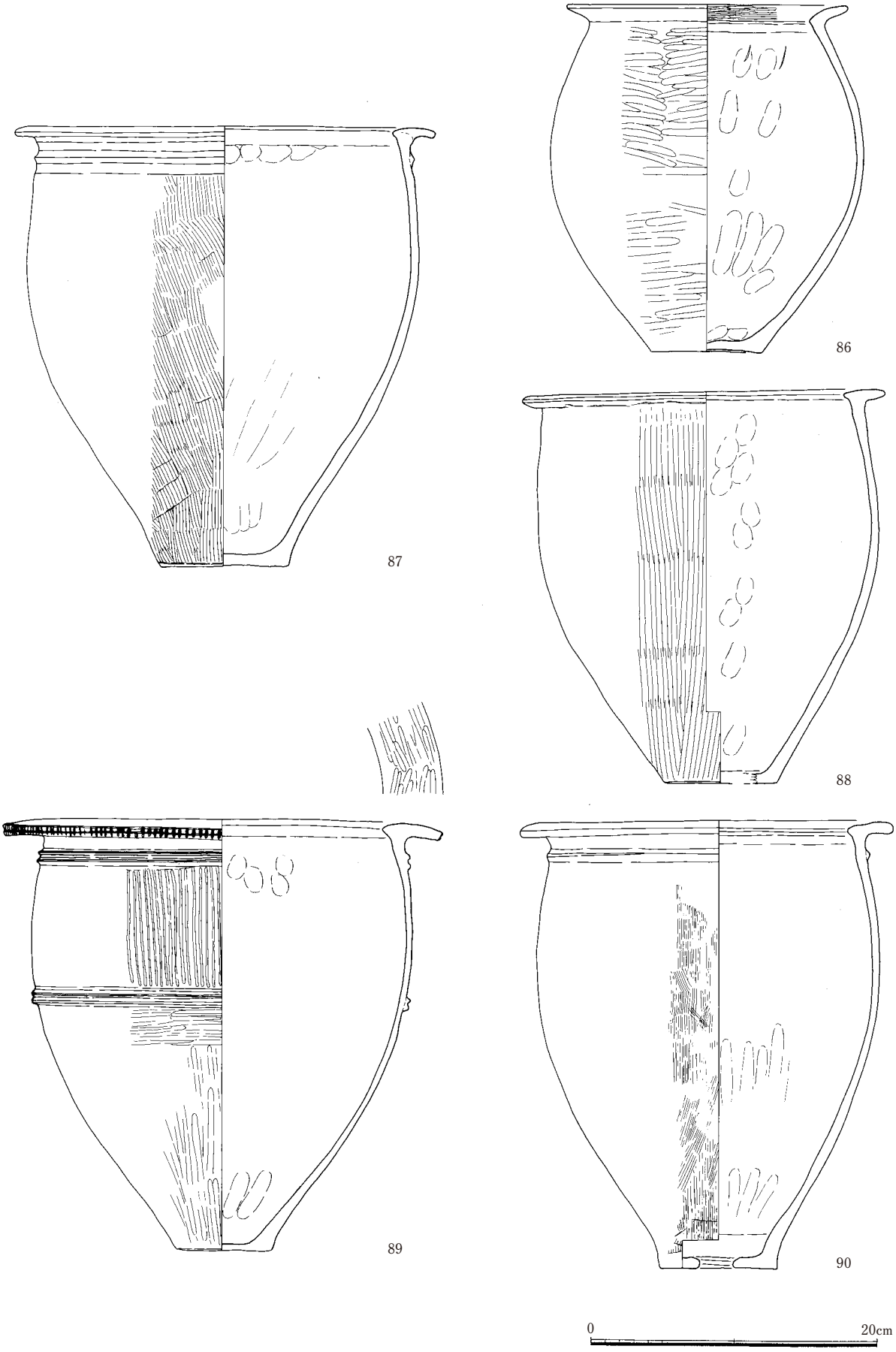


図 17　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図1（1/ 4）

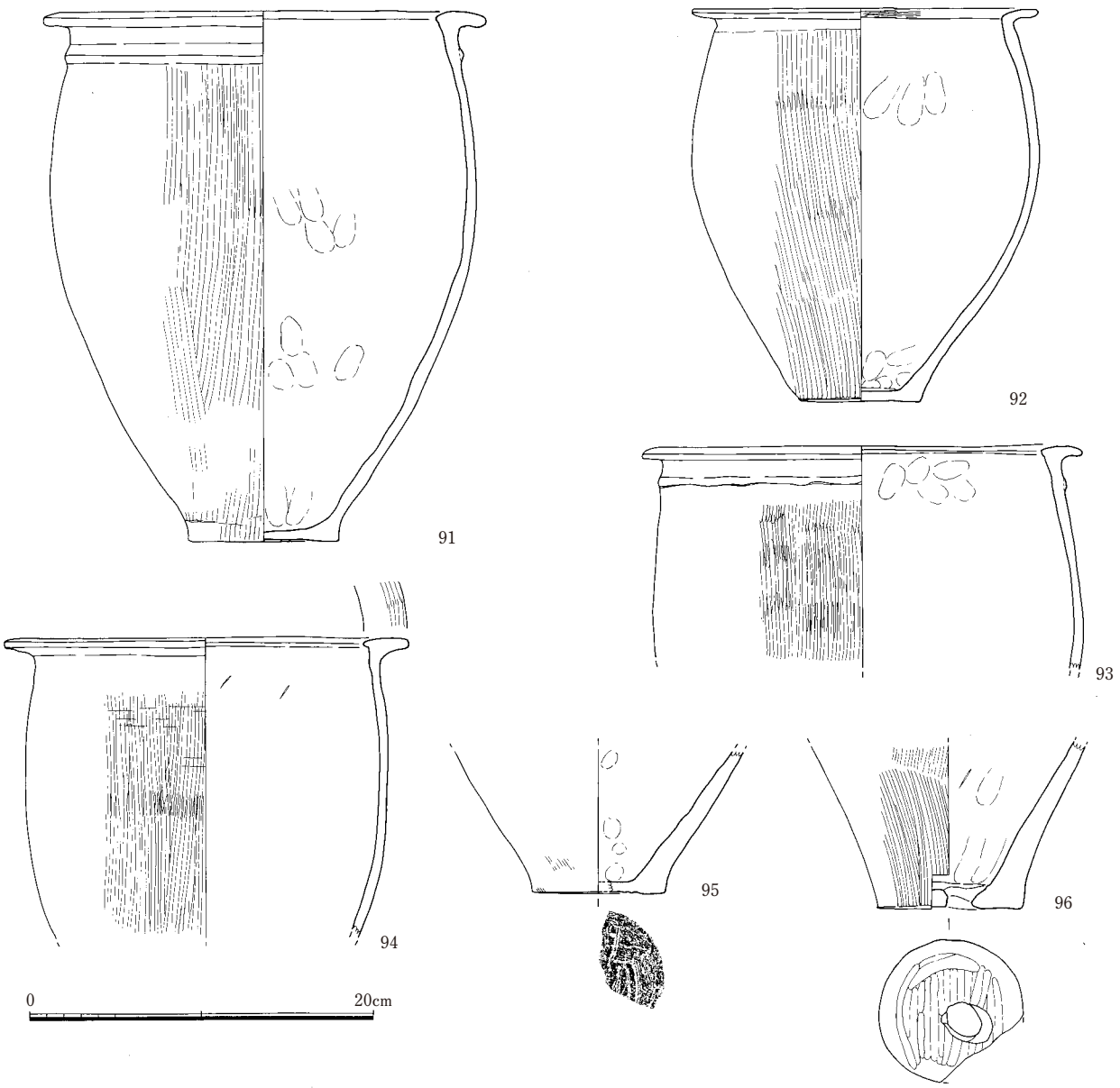


図 18　Ｄ－3区付近土器群9C 出土土器実測図2（1/ 4）

（4）土器群９Ｃ出土土器（図 17 ～図 25）

土器群９Ａの下のやや土が多くなった部分と９Ｂの除去した後には、再び大量の土器が出土した。土器群９Ｃである。９Ａほどではないものの、やはり足の踏み場もないほどに土器が遺棄されている。９Ａに比べて大きな破片が多く（写真２・３）、磨滅度も低い。土器群９Ｃではごく少量の弥生時代後期土器以外はほぼ弥生時代中期後半の土器が占めている。甕が比較的少なく、蓋･高坏の量が多い。高坏や大型の器台なども含まれている。

86 ～ 96 は甕で、90 と 96 は焼成後に穿孔が施されている。95 の外底部はハケメもしくは櫛状施文具で調整し、96 の外底部はミガキ状にナデ調整している。97 以降は壺で、97 ～ 103・105・106 は広口壺で、109 は頸部外面の突帯のすぐ上に長さ３cm前後の沈線状のものが、概ね３cm前後の間隔で入っているが、同様の線は内外面の随所に見られ、ミガキ時の調整痕と思われるが、結果的に文様的な効

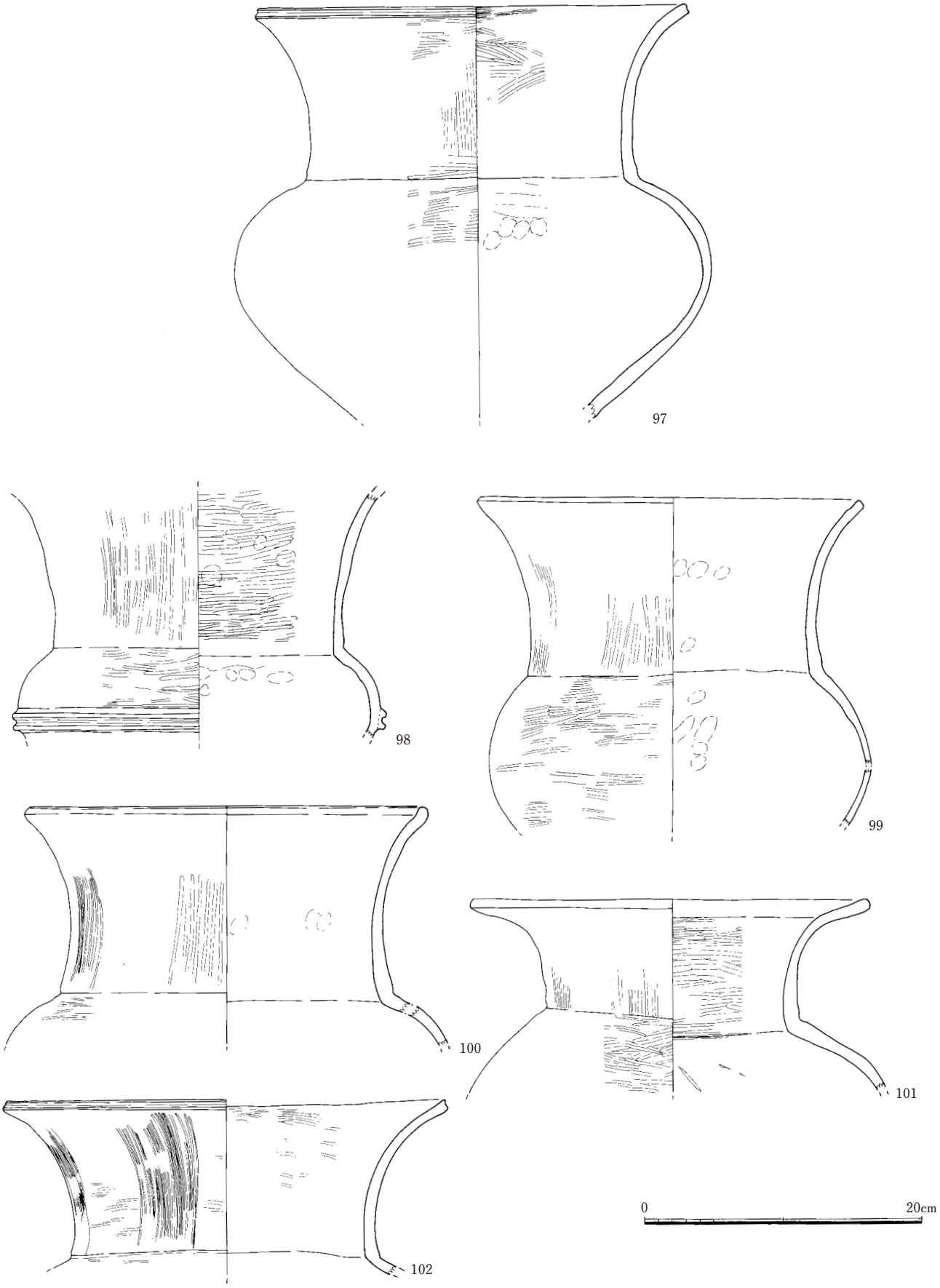


図 19　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図3（1/ 4）

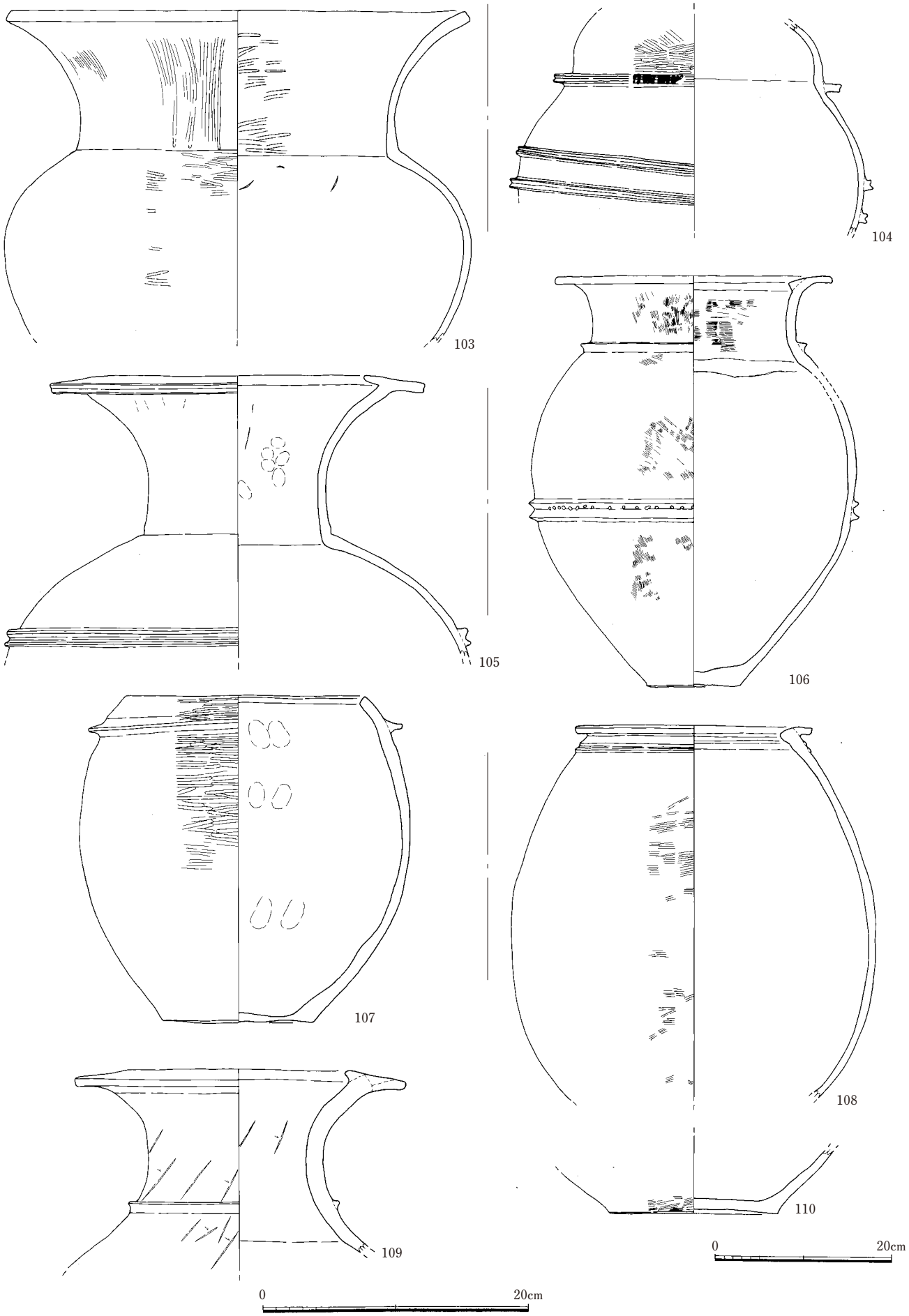


図 20　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図4（1/ 4・1/ 6）

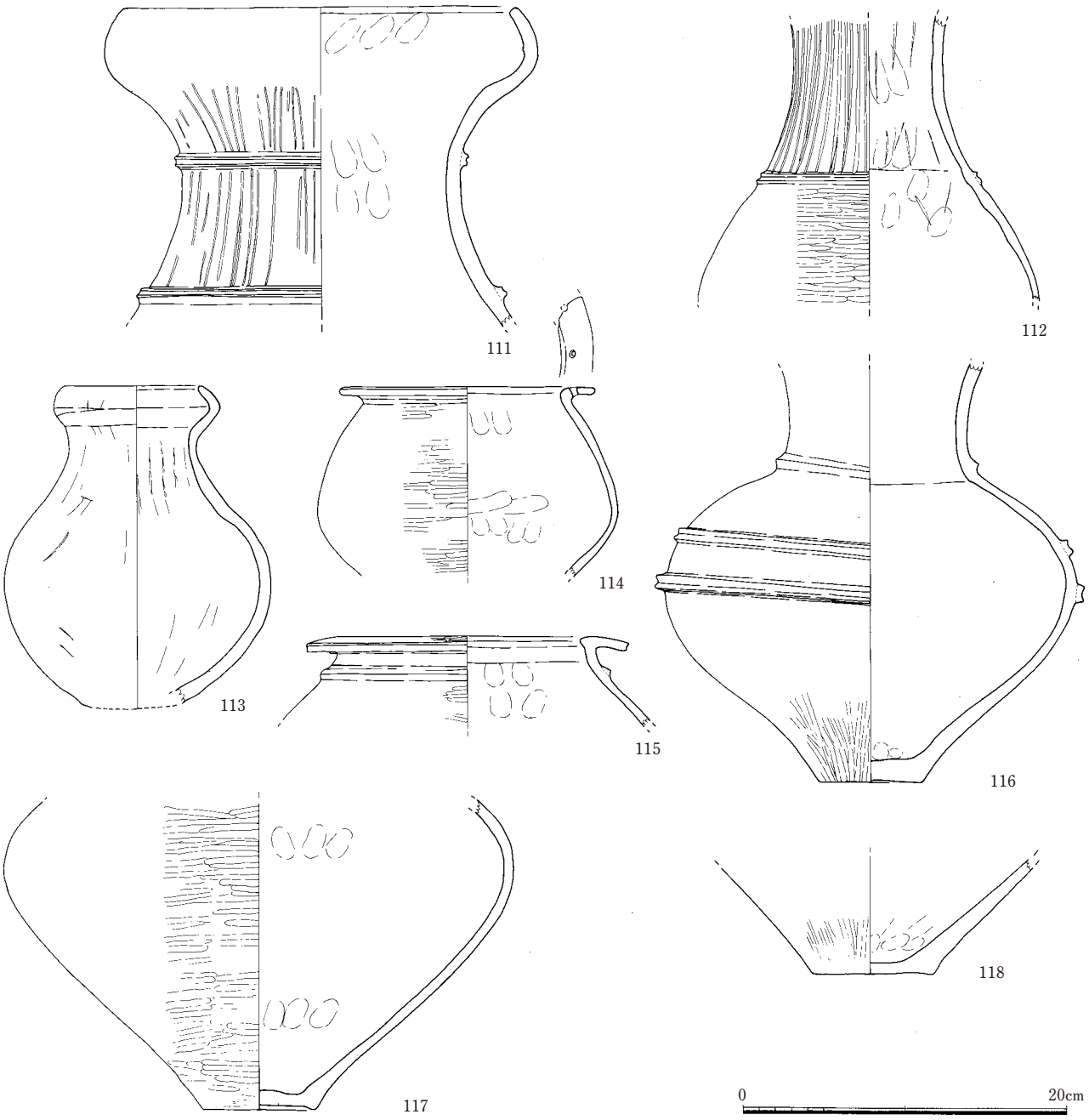


図 21　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図5（1/ 4）

果を発揮している可能性もある。105 は頸部がかなり狭い。壺は赤彩土器が多い。106 の２条の三角凸帯のうち、上の凸帯下部に刺突文が施されている。107 は無頸の樽形に近い土器、108 は同じような形態だが、外に折れ曲がる口縁部を持っている。104 は瓢形の土器である。瓢のくびれ部にある凸帯には刺突が施されている。小型の無頸壺で大型の破片のものは１点（114）のみと少ない。ミガキ調整で赤彩している。

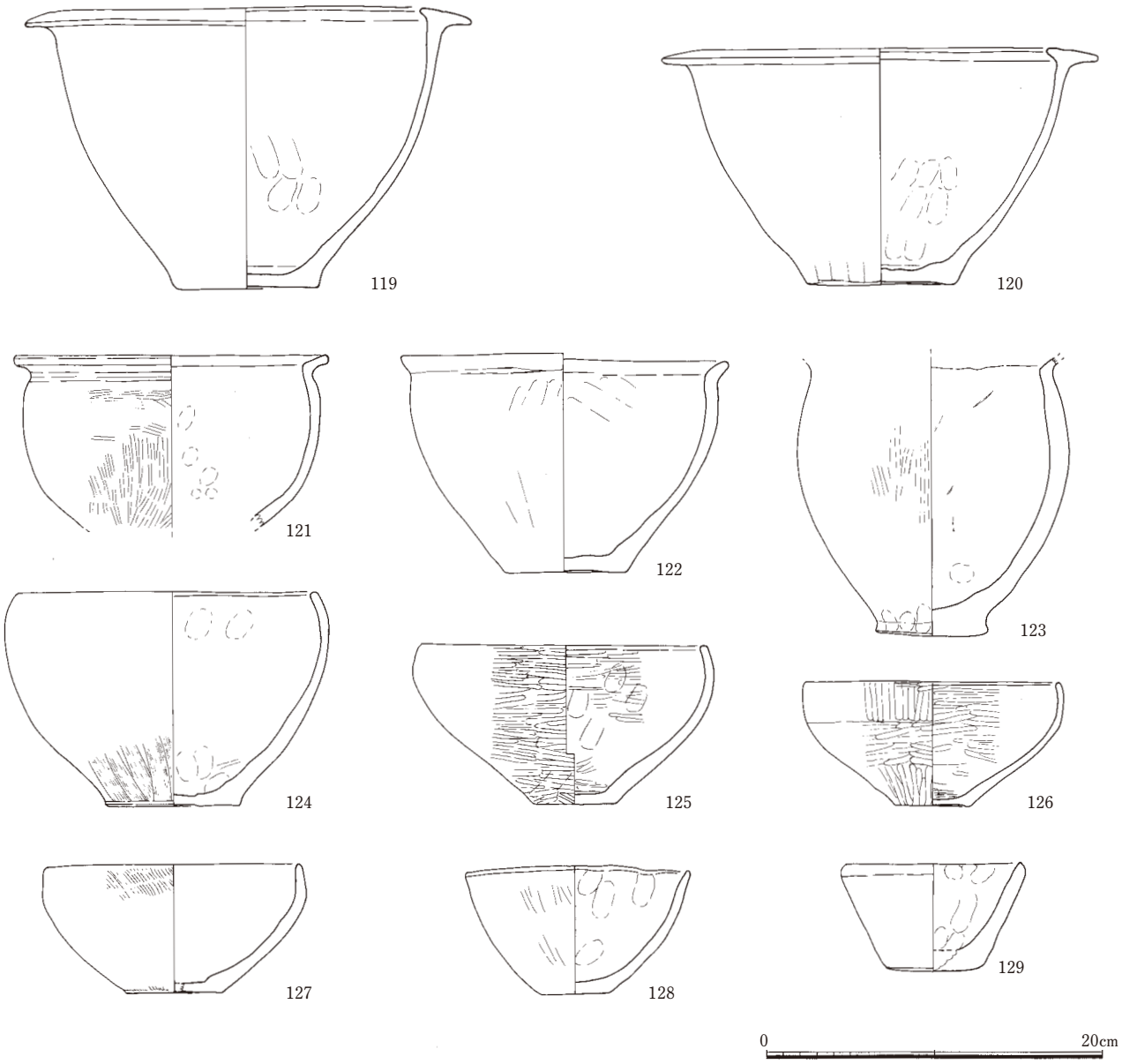


図 22　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図6（1/ 4）

119 ～ 129 は鉢で、鋤先口縁、外反口縁、無口縁のものがあり、125・126 は全面ミガキ調整で赤彩を施している。130 ～ 142 は蓋である。蓋は口径 30cm前後のものが多く出土し、小型の無頸壺の蓋は 142 の 1 点のみの実測で、無頸壺と同様の傾向である。高坏（143 ～ 154）は鋤先口縁のものが大半である。147 は口唇部に刻目を施している。149 は坏部が丸みを持たずに直線的な形態を成している。152 のみは直立する口縁部を持っている。坏部はほぼ全点ミガキで仕上げ、赤彩を施している。154 はかなり大型の脚部で、脚径 36cmを測る。155 ～ 163 は器台で、155 は口縁下に鍔を持つ大型器台である。推定器高 45cm強を測る。156 以下の小型の器台は上下ほぼ対称の器形を成し、ハケメまたはナデで仕上げている。

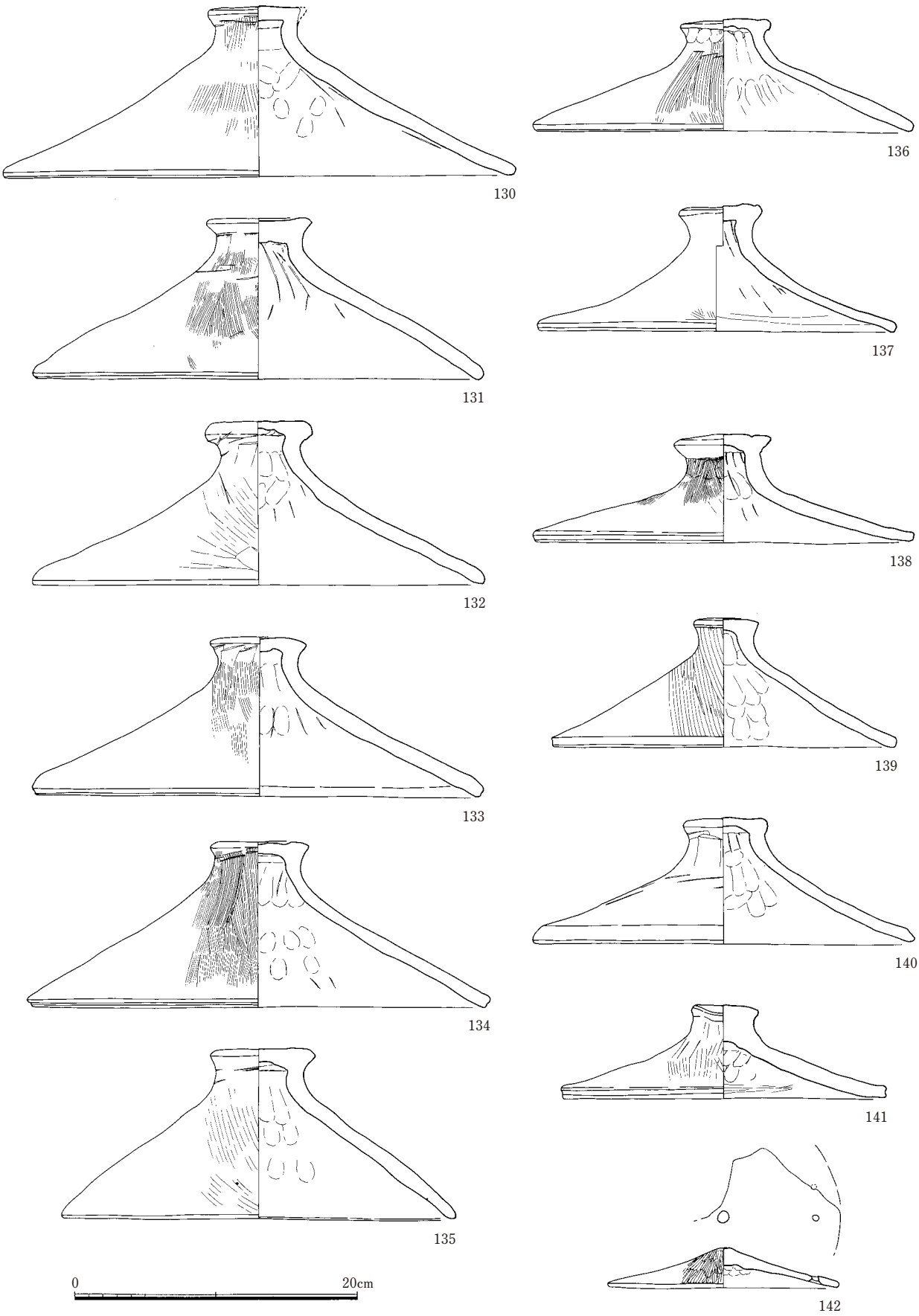


図 23　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図7（1/ 4）

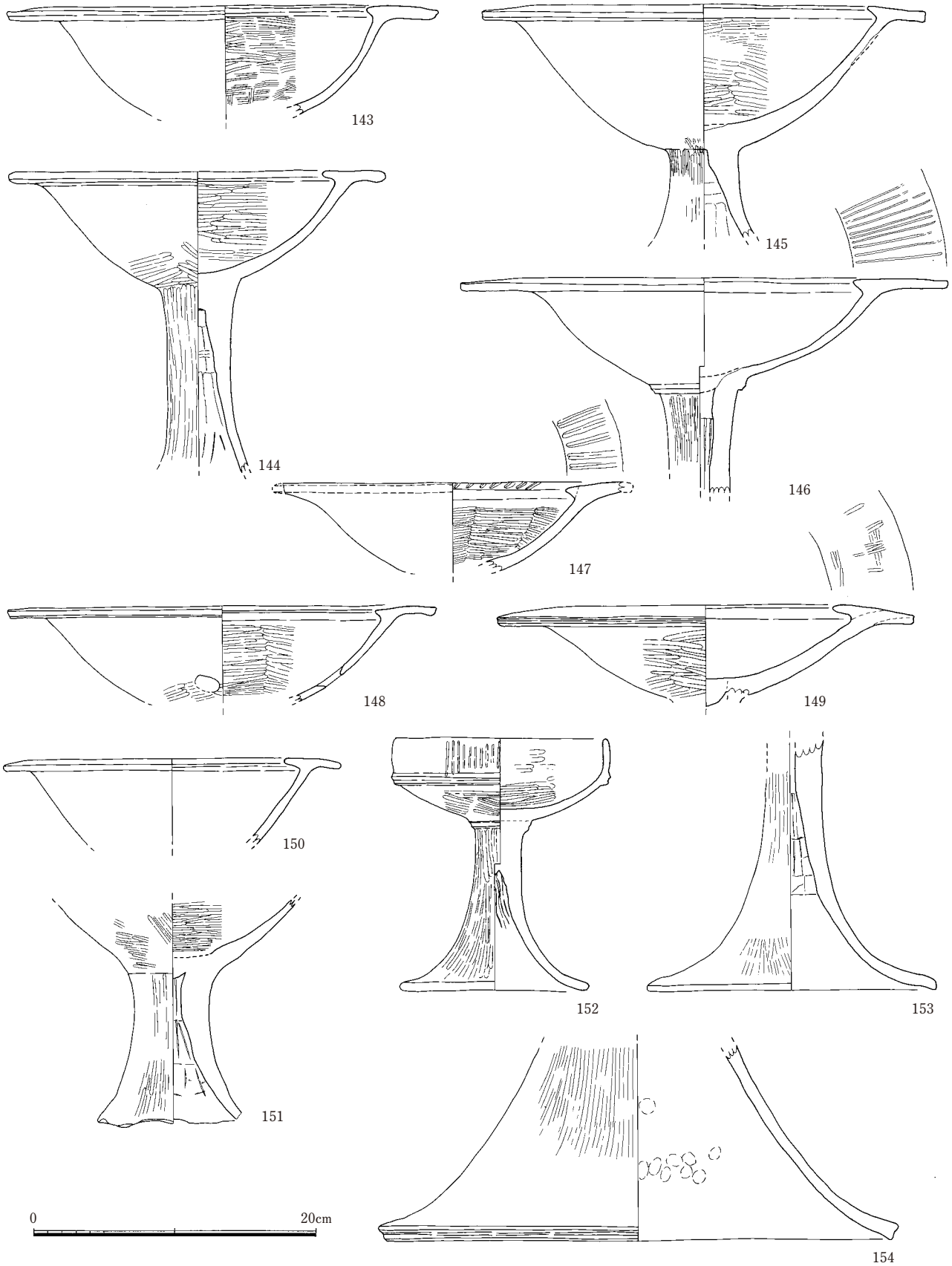


図 24　D－3区付近土器群9C 出土土器実測図8（1/ 4）

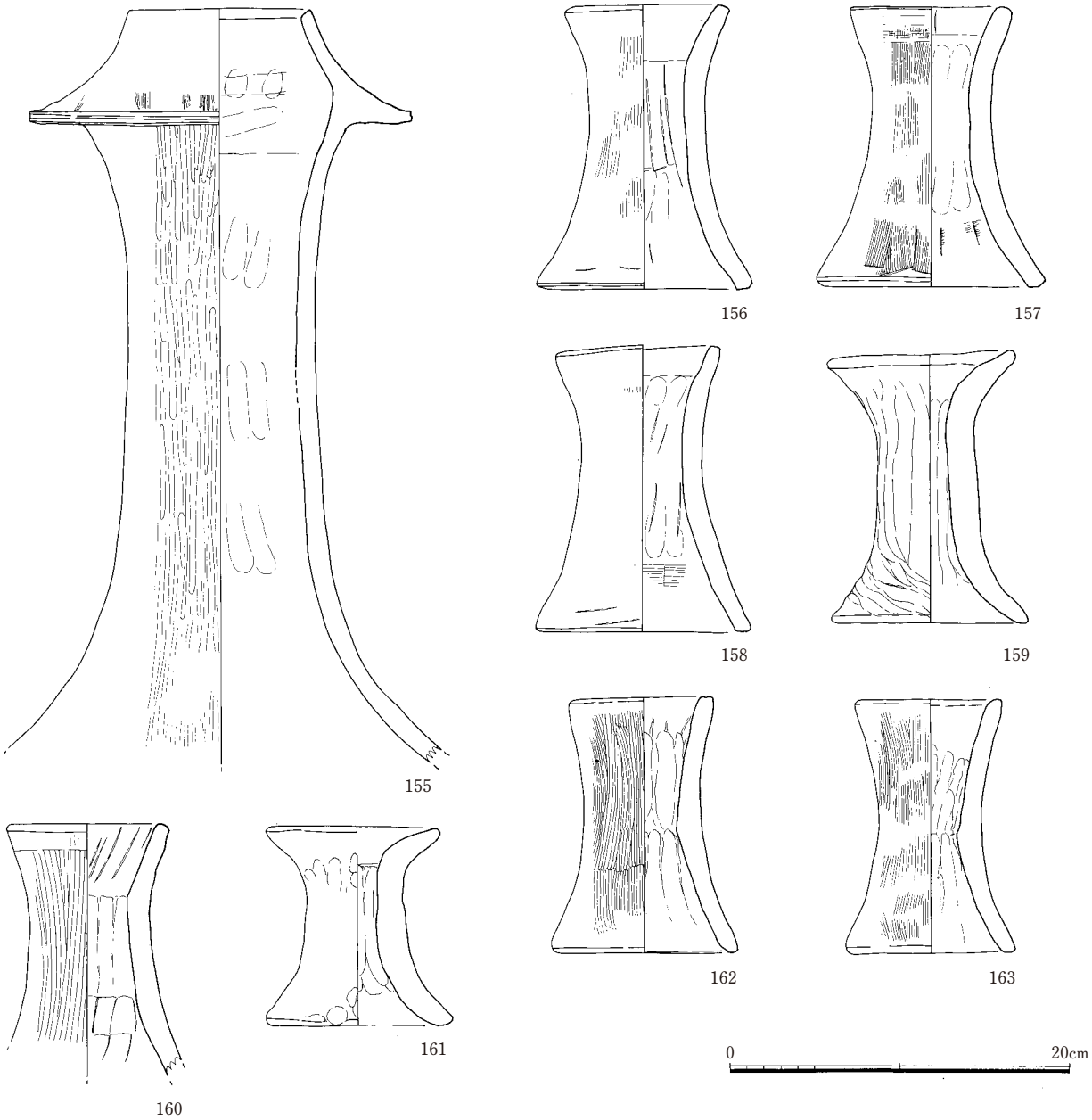


図 25　Ｄ－3区付近土器群9C 出土土器実測図9（1/ 4）

（５）ＳＤ０１内出土土器（図 26・27）

土器群９以外で、ＳＤ０１内から出土した土器は多くない。かつ小破片が多い。最上層からは古墳時代前期の土器が少量出土するが、おおむね上層から弥生時代後期から終末、中層から下層は弥生時代中期の土器が出土する。一部縄文土器も出土する。175 はＥ－３区１層から出土した布留式土器で口径 23.2cmを測る。177 は丸底の底部で中層出土。178･179 は下層出土で､179 は底部の破片であるが、意識的に割っているような印象を受ける。181・182 はＥ－３区１層から出土した。181 は小さな底の外底部にもハケメが残っている。182 は外面に格子目タタキを施している。183 は大型の高坏で脚径 36.8cmを測る。193 は沓形支脚で中層出土。

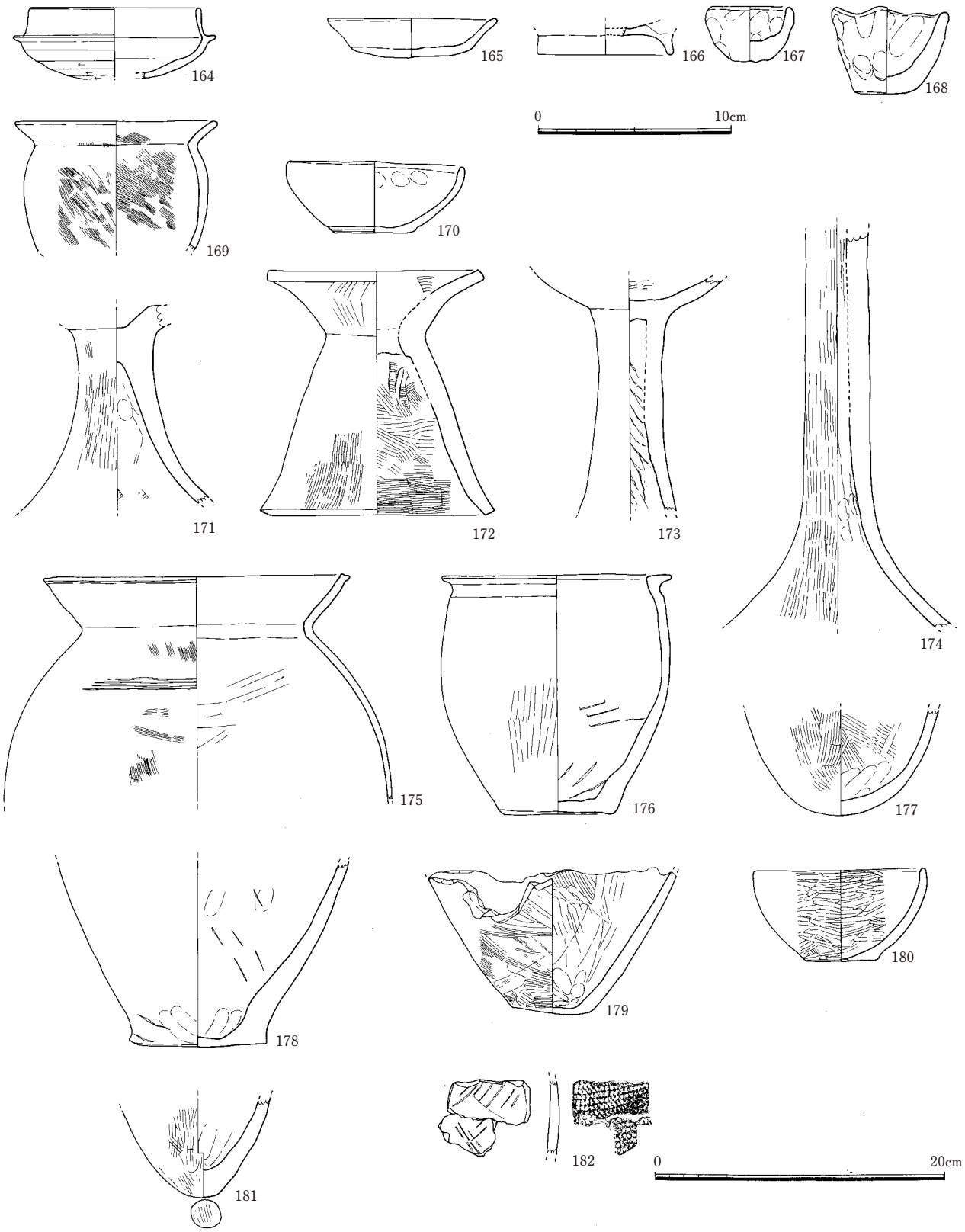


図 26　A ～ C －3区遺構面出土土器及び D･E －3区 SD 01出土土器実測図1（1/ 3･1/ 4）

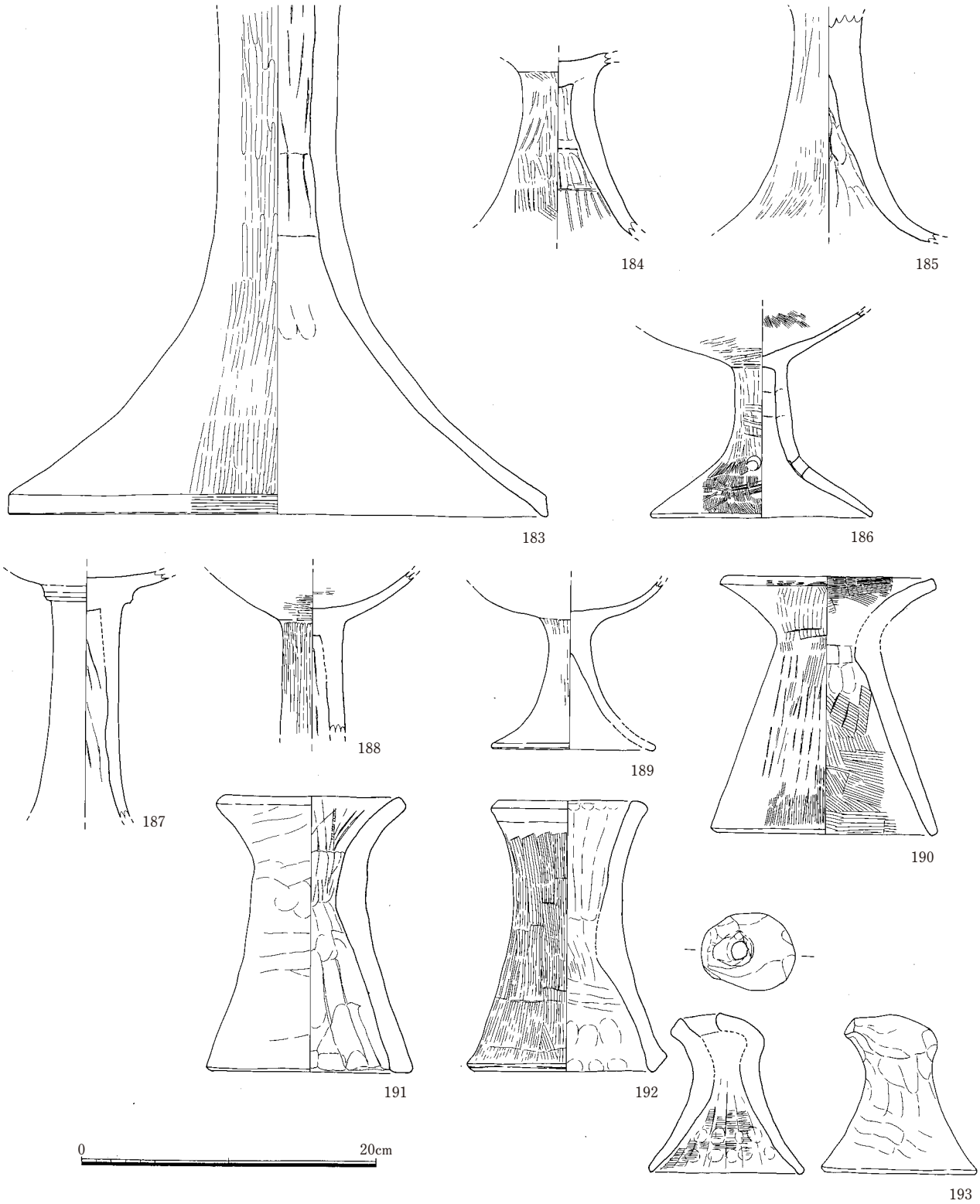


図 27　D・E －3区 SD01 出土土器実測図2（1/ 4）

（6）遺構面出土土器（図 26）

Ａ～Ｃ区の遺構面には自然にできたと考えられる凹凸があるが、Ｄ－３区からＤ－４区にかけては、ＳＤ０１のすぐ西側にＳＤ０１に付随する小溝がある。これらの凹凸や小溝から、弥生土器の他、古墳時代須恵器・土師器、古代から中世の土器・陶磁器が少量出土したが、そのほとんどが細片で、実測したのは数点にとどまる。164 は須恵器の坏で、口径 11.9cmを測り、口縁部は直立に近い。165 は土師器の皿で、口径 8.8cmを測る。166 は土師器の高台付碗で、高台径７cmを測る。

２　Ｄ・Ｅ－３・４区間ベルト出土土器（図 29・30）

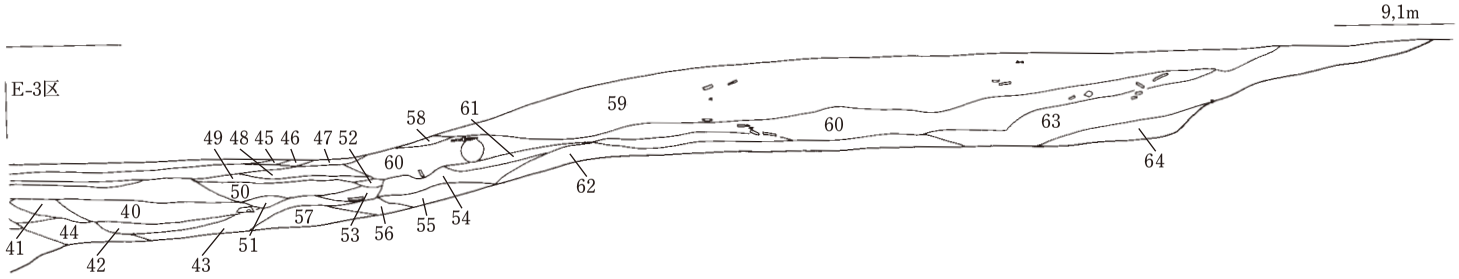
Ｄ･Ｅ－３区と４区の間のベルトは、調査終了近くまで撤去しなかったため、ベルト内の土器は、Ｄ－３区から続く土器群９Ａのみナンバーを付けながら、９Ａから下は層ごとに掘り下げて遺物を取り上げた。ベルト内の遺物はさほど多くは無く、ここでは、器種ごとに分けた。196 を除く土器が土器群９Ａ出土、196 はＳＤ０１下層の出土である。194 は土器群９Ａ出土の甕で、いわゆる窓付土器である。窓部分は欠損している部分が多いが、半分弱生きている辺がある。窓枠の大きさは約 12.0 × 9.5㎝を測る。器形・胎土等他の土器と変わるところは無い。口縁部内面のみハケメ調整が残るほかは、ほぼ全面ナデで仕上げている。200 は鉢で、底部中央に焼成前の小孔が施され、胴下部に径５㎝前後の焼成後穿孔が施されているが、この穴は器の内部から外に向かってあけられている。201 は甕かとも思われるが、胴部内面が破裂している部分があり、底部内面にコゲ状のものが付着している。211 は小型の壺状の土器で、胴上部以外はハケメを消している。胴部最大径あたりの内面に黒色のものが付着しているが、何かはよくわからない。

３　Ａ～Ｅ－４区出土土器

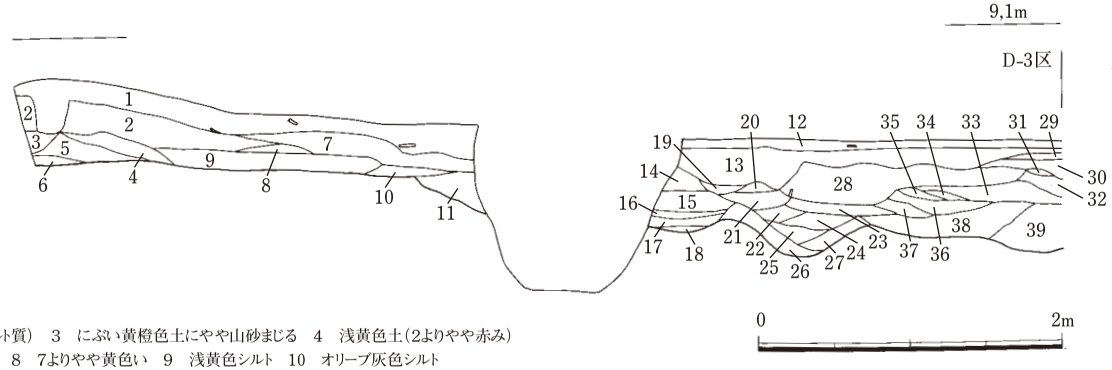
（１）Ａ～Ｅ－４区の概要

４区には、ＳＤ０１以外に大型建物２棟（ＳＢ０８･０９）と小溝（ＳＤ０３）がある（既報告）。ＳＤ０３はＳＤ０１埋没後にできた小溝で、ＳＢ０８の柱穴を切っている。出土遺物は細片が多く、出土遺物の実測までには至っていない。ＳＢ０８・０９は方向が若干異なっており、建物間の距離の短さからも、別時期の建物と考えられる。ＳＢ０８は地山面を一部削り出して平坦面を作った上に構築されている。ＳＢ０８・０９ともに２段堀の柱穴が多い。またＳＢ０８の柱穴の一部には礎板が敷かれている。

写真４　Ｃ･Ｄ－3区、4区ベルト上土器群 9A



40　灰白色細砂に腐葉土少量含む　41　灰白色粗砂　42　灰色粘質土　43　1～2㎝大の礫まじり黒褐色腐葉土(粗砂少量含む)　44　少量の灰色土と灰白色粗砂含む2～5㎝大礫
45　黒色腐葉土に灰白色細砂含む　46　灰白色細砂　47　黒色腐葉土　48　黒褐色腐葉土を含む灰白色粗砂　49　明緑灰色シルト　50　黒褐色腐葉土+灰白色細砂(土器片多量)
51　黒褐色腐葉土　52　黒色腐葉土+灰白色細砂　53　黒色腐葉土　54　明緑灰色シルトに黒色土少量含む　55　黒色土(一部腐葉土)　56　黒色土に礫･細砂少量含む
57　56より粗砂多い(弥生土器含む)　58　明緑灰色シルト　59　黒褐色腐葉土　60　黒色腐葉土　61　暗灰色粘質土　62　オリーブ灰色シルト　63　オリーブ灰色粘質土(ややシルト質)
64　オリーブ黒色粘質土



1　灰オリーブ土(ややシルト質)　2　浅黄褐色土(ややシルト質)　3　にぶい黄橙色土にやや山砂まじる　4　浅黄色土(2よりやや赤み)
5　灰白色砂質土　6　花崗岩風化土　7　灰白色シルト　8　7よりやや黄色い　9　浅黄色シルト　10　オリーブ灰色シルト
11　灰白色粗砂+細砂+礫　12　黒色腐葉土　13　黒褐色腐葉土　14　灰白色細砂　15　灰白色粗砂　16　黒色腐葉土　17　灰白色粗砂+礫
18　灰オリーブ土(ややシルト質)　19　灰色土　20　淡黄色細砂　21　灰白色礫まじり粗砂　22　灰白色粗砂　23　黒色腐葉土　24　礫(2～5㎝大)
25　黄色粘土　26　粗砂まじり礫(3～5㎝大)　27　灰白色礫　28　13に細砂を少量含む　29　13+明緑色シルト　30　13より腐葉の度合いが進んでいる
31　灰白色細砂　32　黒褐色腐葉土　33　28より砂少ない　34　灰白色細砂に腐葉土少量含む　35　黒褐色腐葉土　36　黒褐色腐葉土+灰白色細砂
37　黒褐色腐葉土に少量の灰白色細砂　38　2～3㎝大の礫+灰白色粗砂+少量の腐葉土　39　38より礫が相当少ない

図28　D・E－3・4区間ベルト土層断面実測図（1/50）

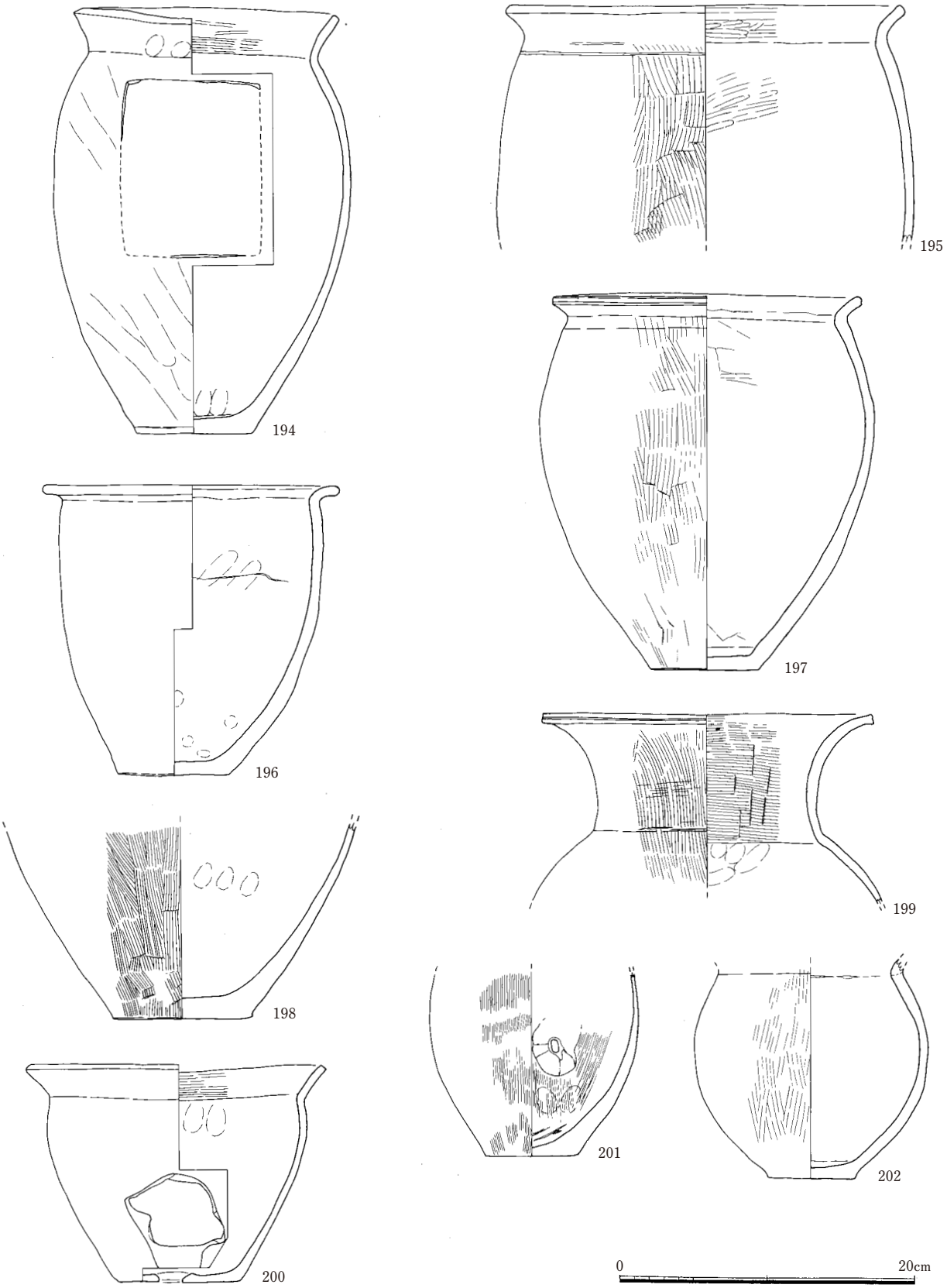


図 29　D・E－3・4区間ベルト出土土器実測図1（1/ 4）

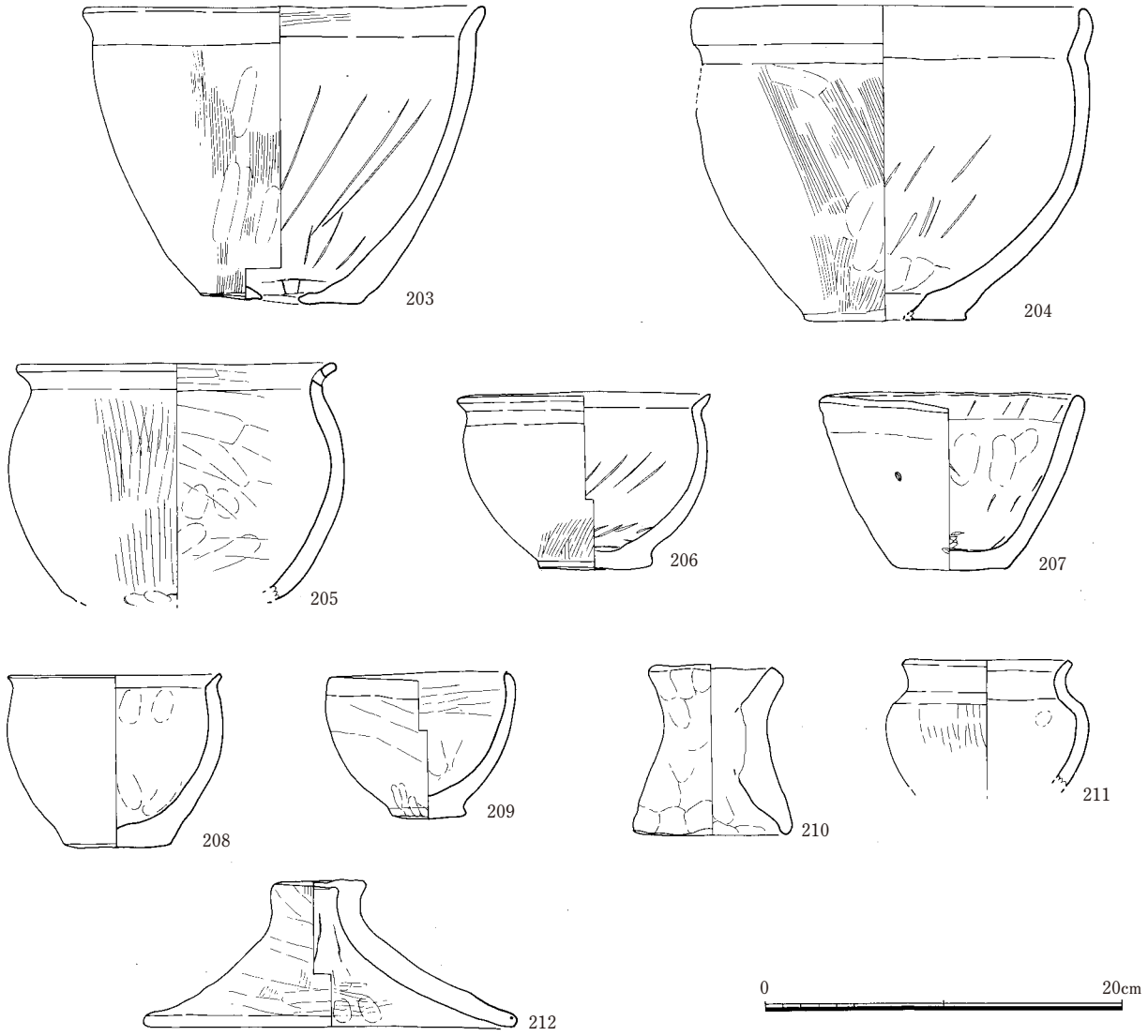


図 30　D・E－3・4区間ベルト出土土器実測図2（1/ 4）

ＳＢ０８のすぐ北東側に弥生時代中期の完形品の一群土器群 14 がある。土器群 14 は少なくとも高坏２・鉢２・無頸壺１・蓋１から成っており、いずれも精製の赤彩土器である。距離の近さからＳＢ０８・０９との関係が考えられるが、ＳＢ０８の掘り込み面は、土器群 14 よりずいぶん高いと考えられ、ＳＢ０８の基盤が整地上に高くしたか、土器群 14 部分を掘り下げて埋置しない限り、同一時期である確証は無く、少なくともそのような痕跡を検出することはできなかった。

土器群９は３区から途切れることなく北側の５区に向けて続いているが、３区に比べると、密度がやや粗い。３区では地山面から土器群９Ａまでのレベル差があまりなかったが、４区ではＳＤ０１の西側立ち上がりが緩やかな斜面を成し、地山面から９Ａまでのレベル差が最大約 40cmあり、その間に土器が継続して堆積していることから、９Ａから９Ｄまで４面に分けた。ただし、最下層である９Ｄは量的には少ない。また３区は土器片が細片化しているのに比べ、４区では斜面上での堆積のため埋没する時間が早かったため、磨滅度が少なく、比較的大きな破片が多い。そのため実測した土器の量も３区に比べて多かった。

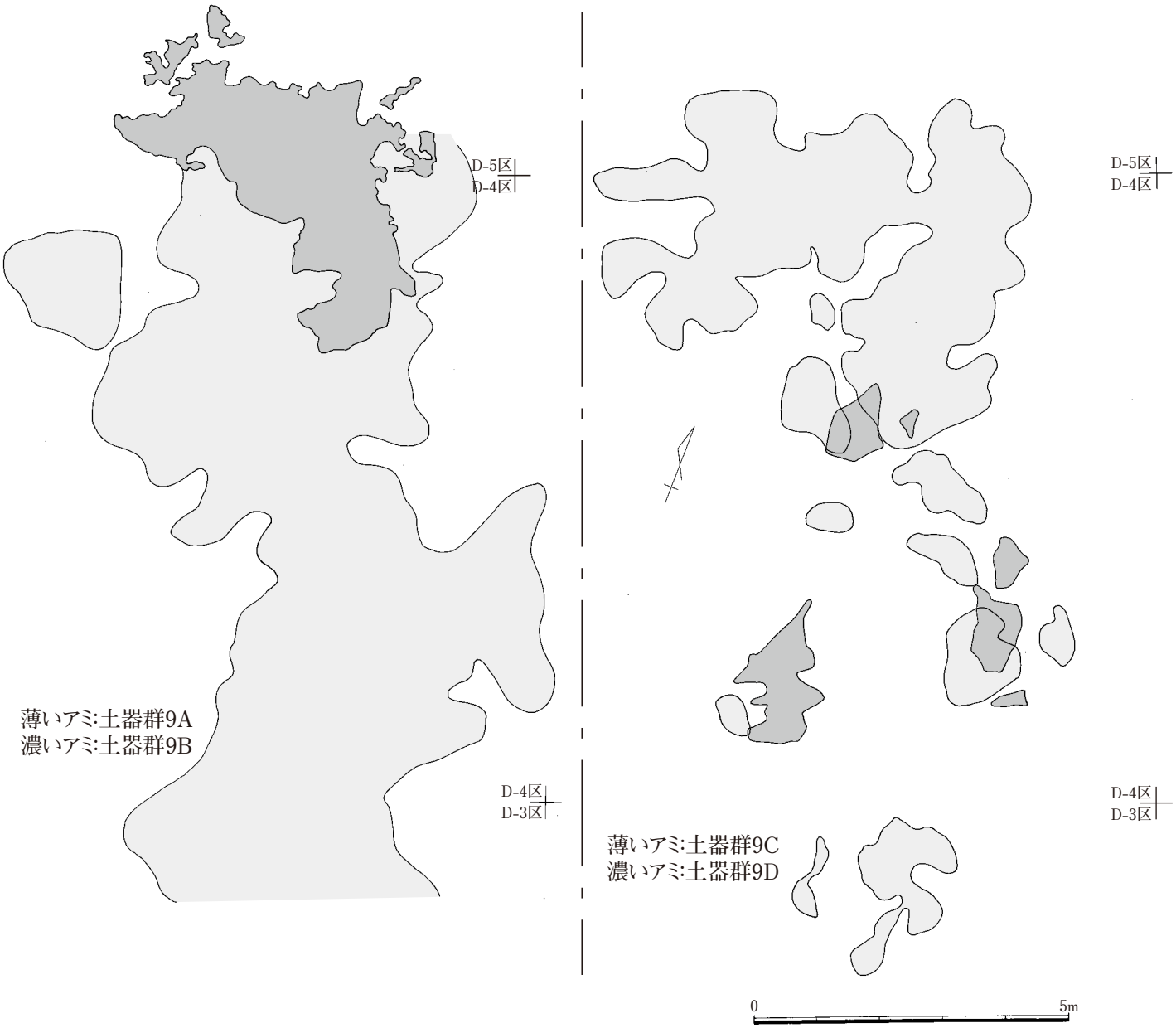


図 31　D－4区付近土器群9A ～9C・土器群 14 分布範囲図（1/100）

写真5　D－4・5区周辺土器群9A

写真6　D－4区周辺土器群9C

（2）土器群９Ａ出土土器（図 32 ～図 45）

213 ～ 258 は甕で、213 は布留式土器である。214 以降はいわゆる「く」字状を呈する口縁部で、外面はハケメ、内面はハケメまたはナデ調整のものがほとんどで、一部鋤先口縁のものがある。底部はいずれもしっかりとした幅広の平底ばかりである。232 は鋤先口縁を持つ胴張りの器形で、外面は全面ミガキで仕上げている。口縁部に蓋を緊縛するための孔をあけている。

272 ～ 298 は壺で、272 は複合口縁壺で、外面・内面ともにハケメで仕上げている。そのほかの壺は比較的大型の広口壺が多いが、外面にハケメを施すものと、ていねいなナデもしくはミガキを施すものがある。294 は袋状口縁を成す長頸壺、295 は頸部が狭い小形の壺である。

299 ～ 330 は鉢で、299 は甕に近い形態である。302 ～ 304 は短頸壺に分類できるかもしれない。305 は胴部最大径が底部近くにある。両面にきれいな赤彩を施している。314・315 は丸底である。318 は全面ミガキで仕上げており、赤彩を施している。323 ～ 330 は比較的小型の鉢で、330 は手捏ね土器で、328 とともに器体の割に厚い器壁である。

331 ～ 333 は蓋で、331・332 は口径 20cm前後を測る。333 は口径約 10cmで無頸壺の蓋である。334 ～ 343 は高坏である。334 は直立する口縁部を成している。338 は坏部全体が歪んでおり、口径 19.8cm、器高 18.3cmを測る。339 の脚部には孔が９か所確認できる。341 は大型高坏の筒部である。これらの土器の多くは赤彩を施している。

344 ～ 352 は器台で、くびれ部上部にある後期後半的なもの（344）は少なく、天地対称的なものが多い。一部天地がわからないものがある。353 は支脚で、いわゆる沓形の支脚で、外面に平行タタキを施している。

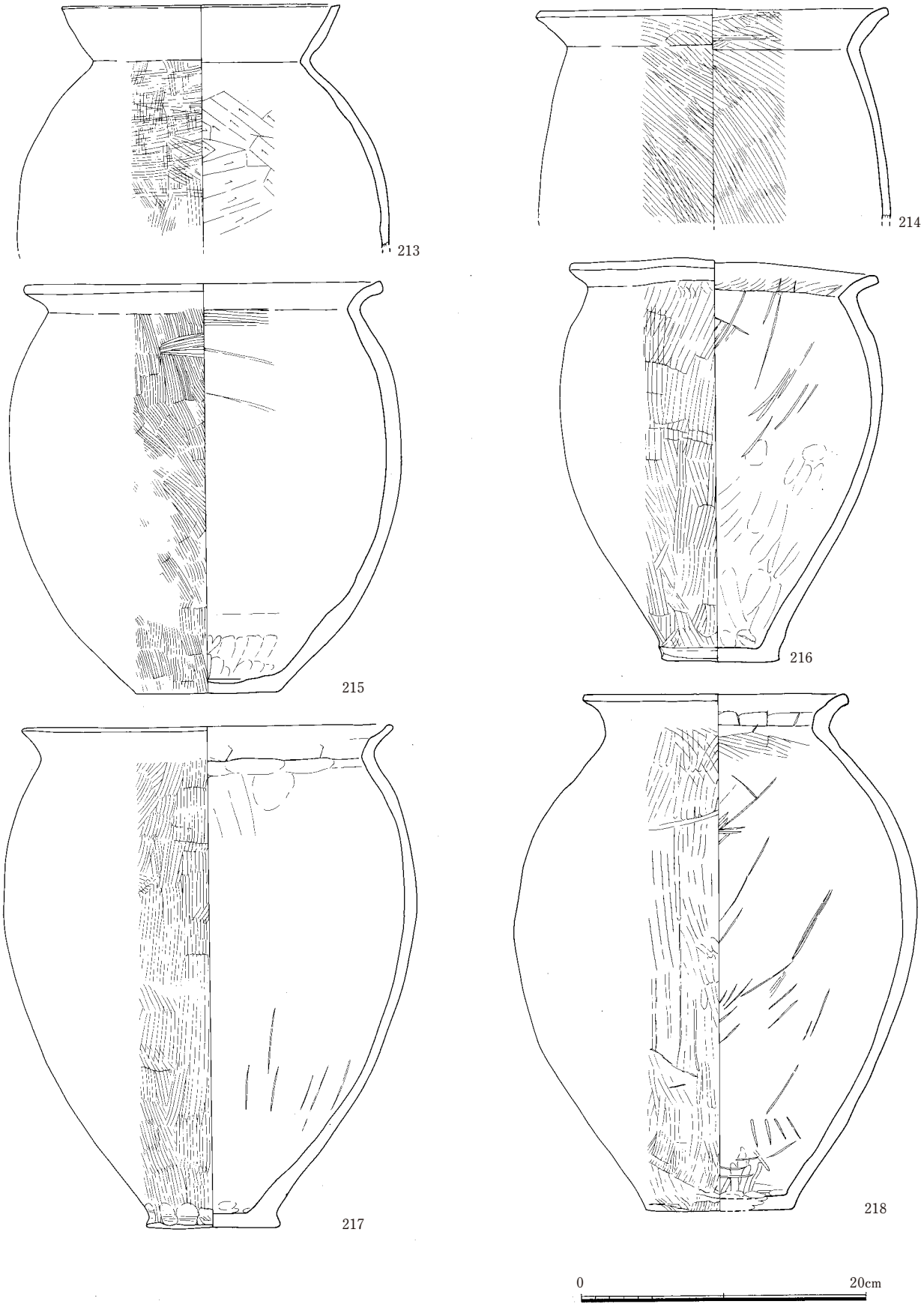


図 32　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図1（1/ 4）

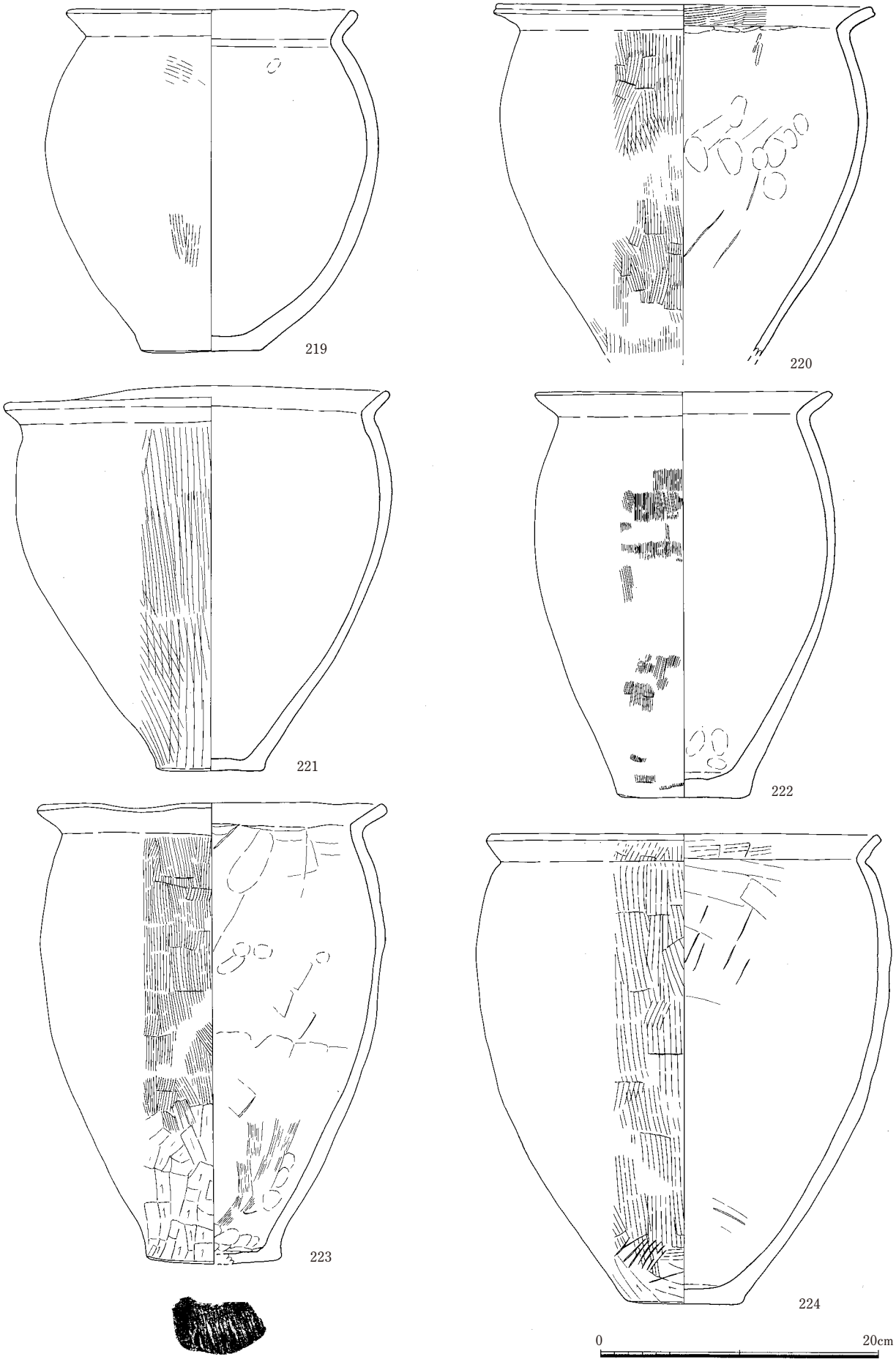


図 33　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図2（1/ 4）

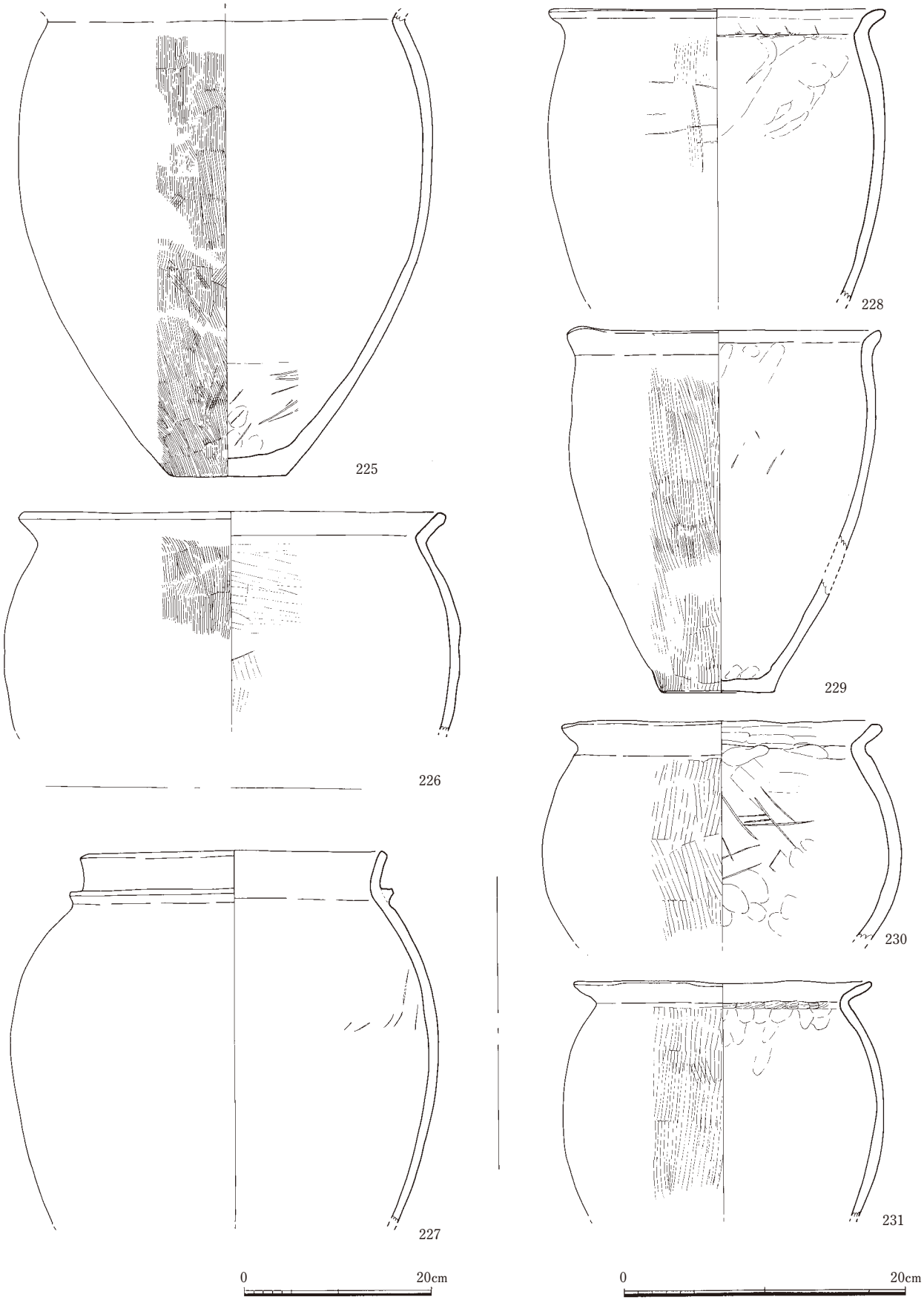


図 34　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図3（1/ 4・1/ 6）

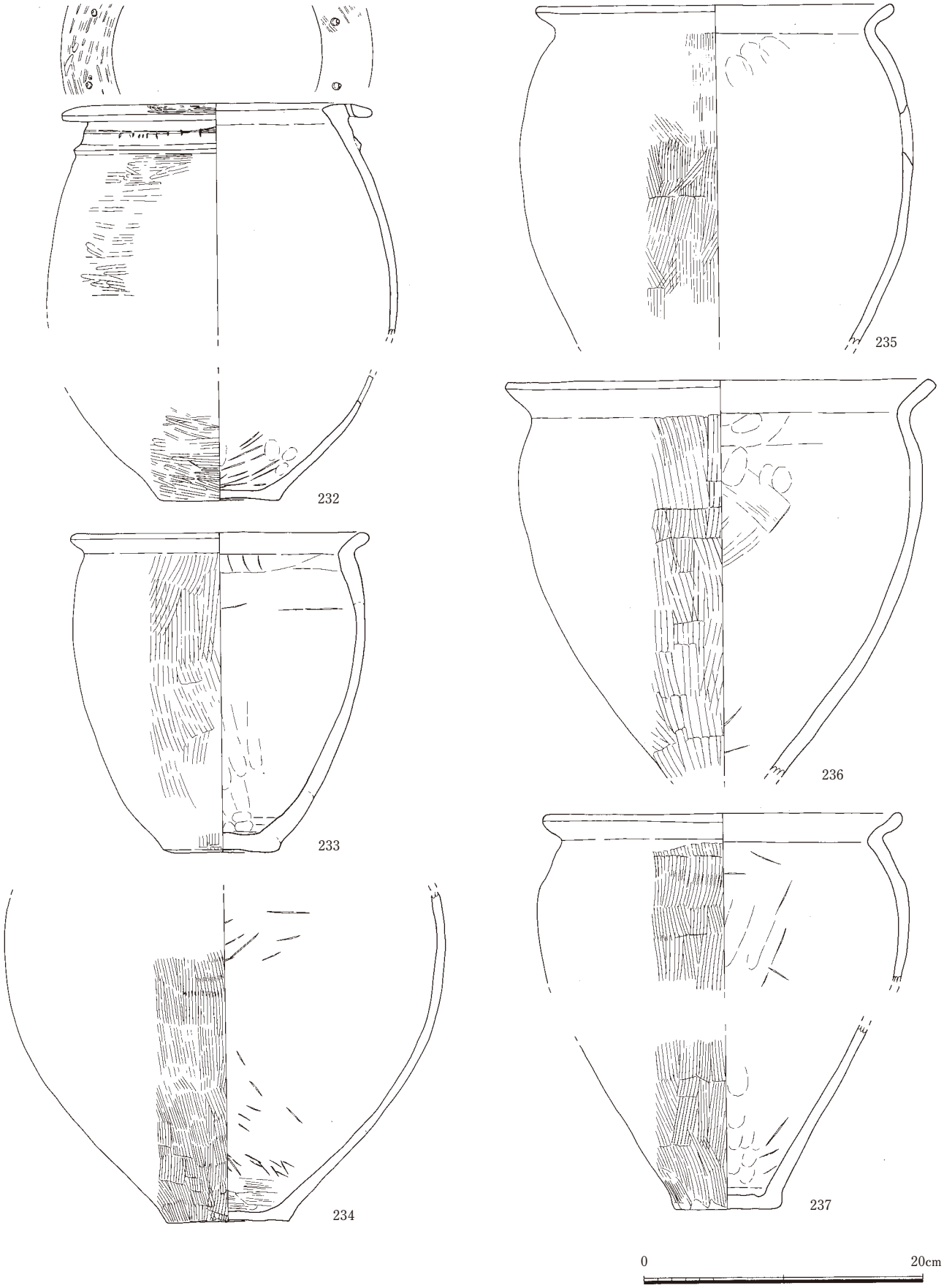


図 35　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図4（1/ 4）

図 36　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図5（1/ 4）

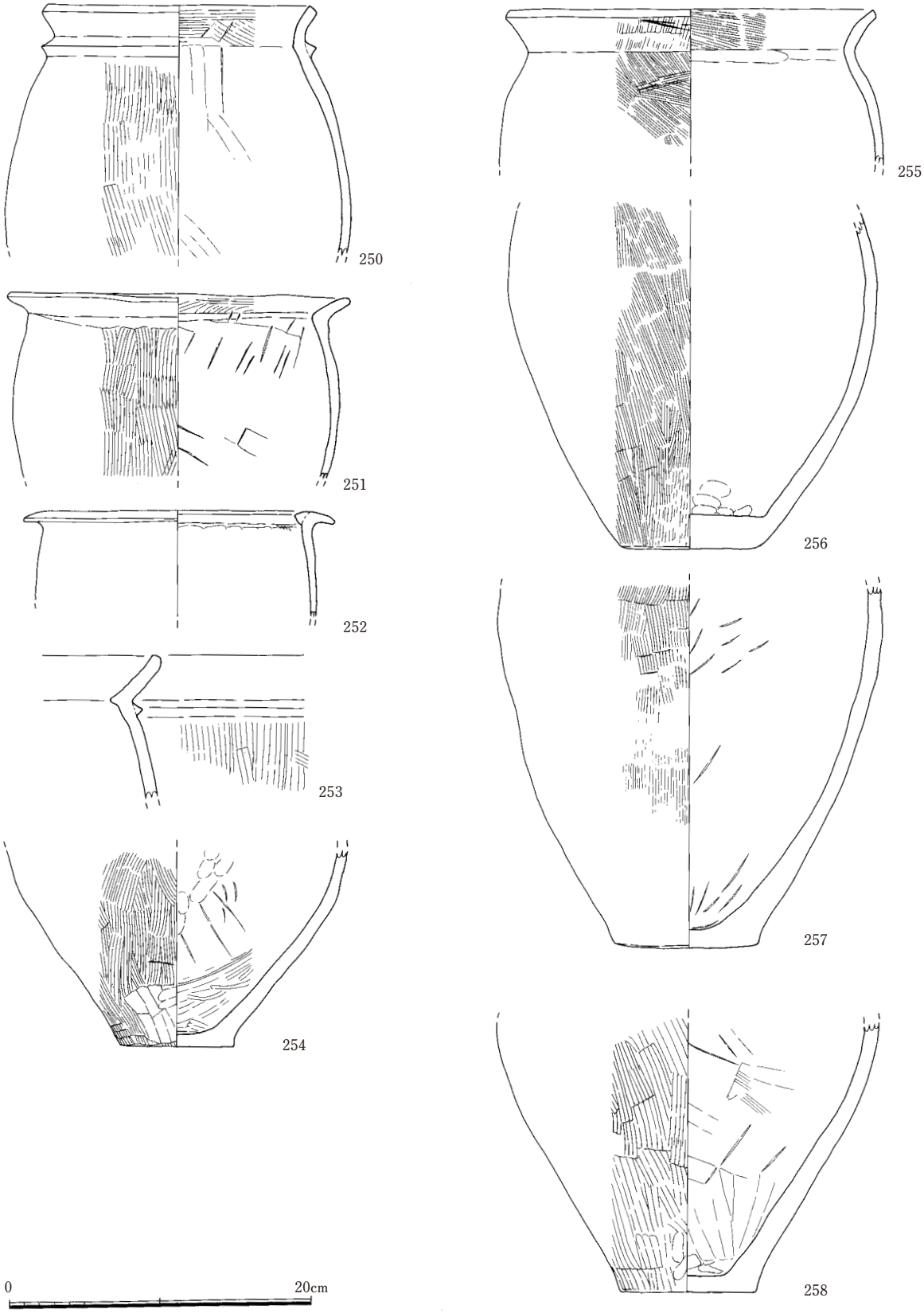


図 37　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図6（1/ 4）

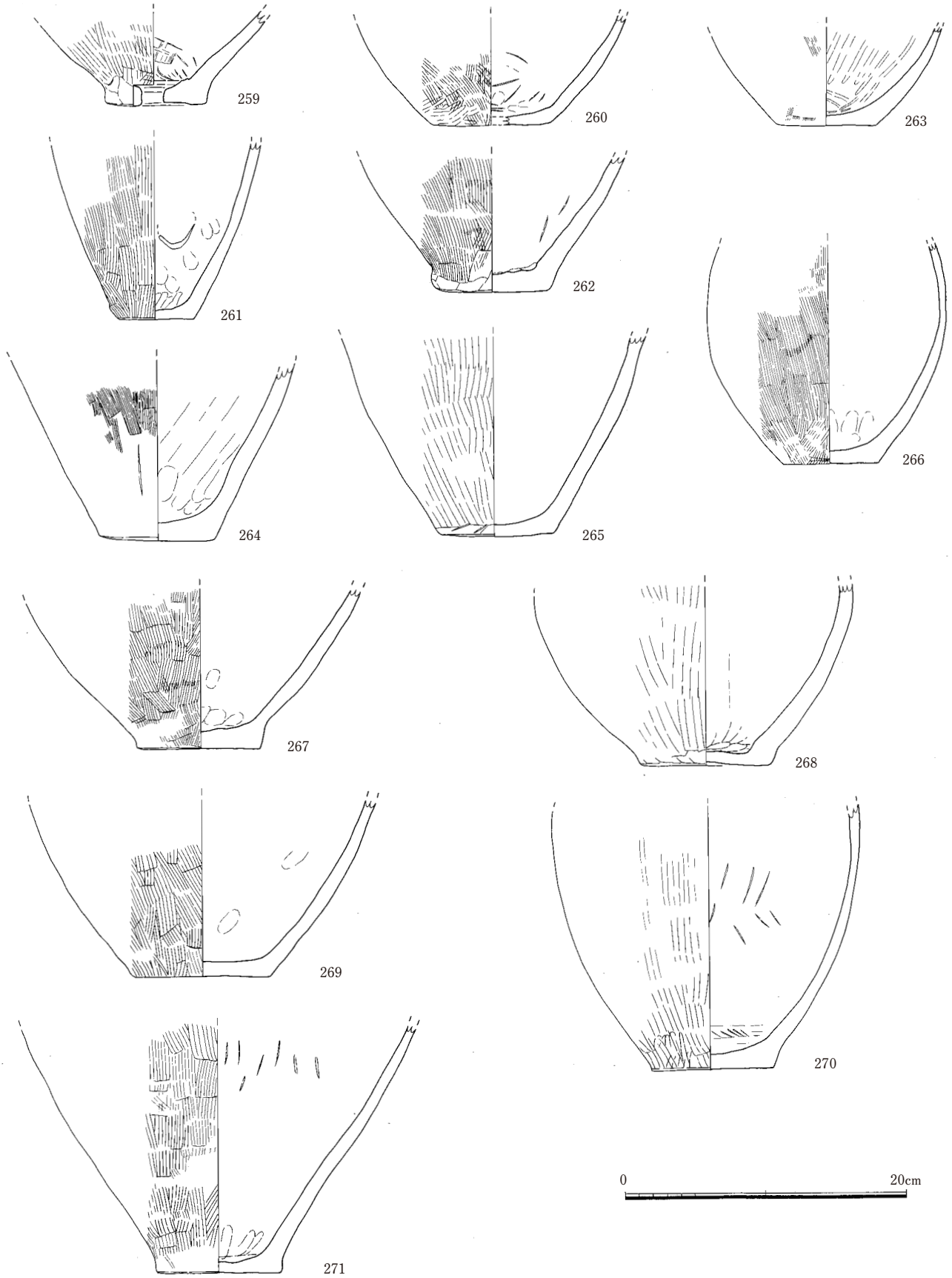


図 38　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図7（1/ 4）

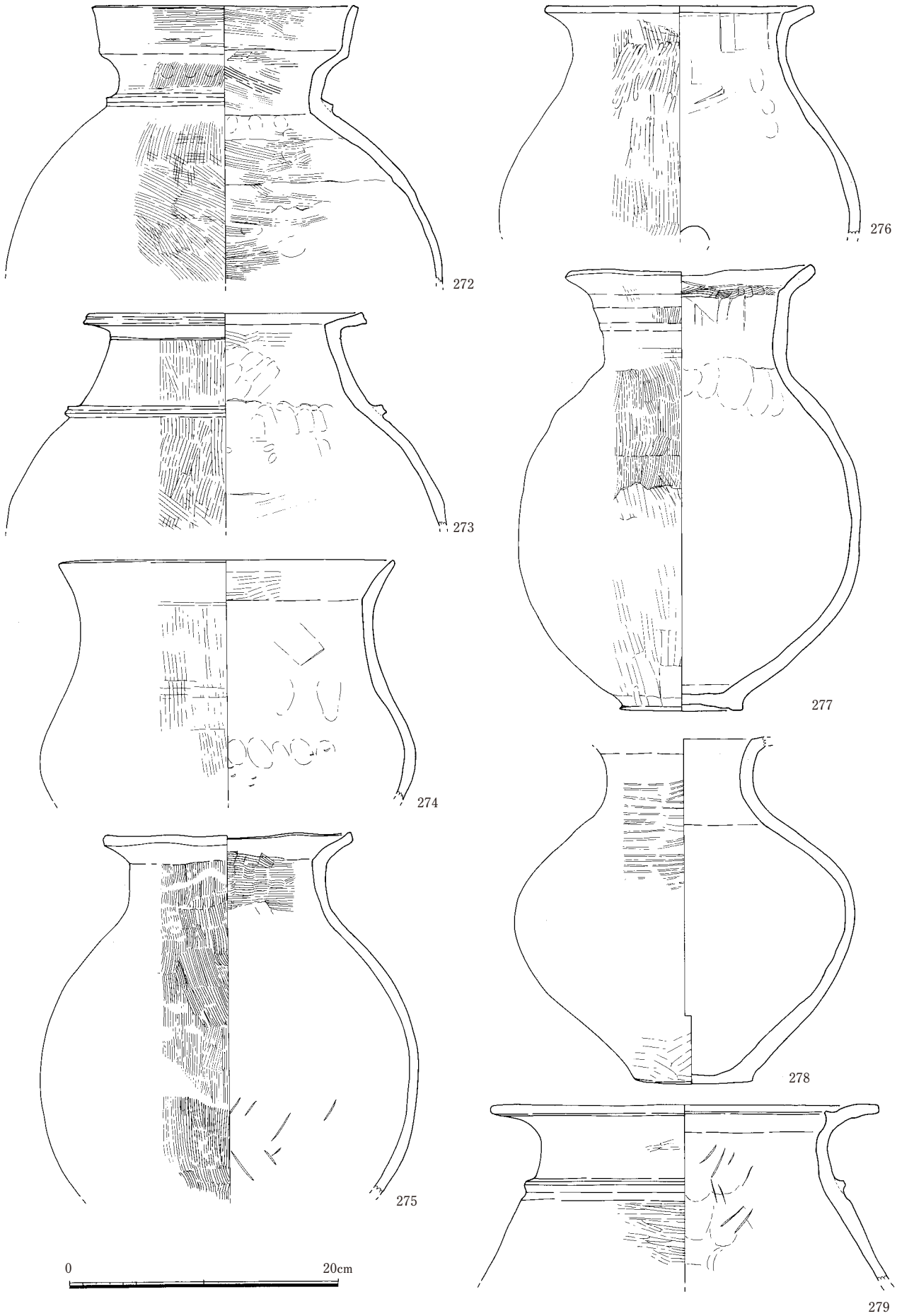


図 39　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図8（1/ 4）

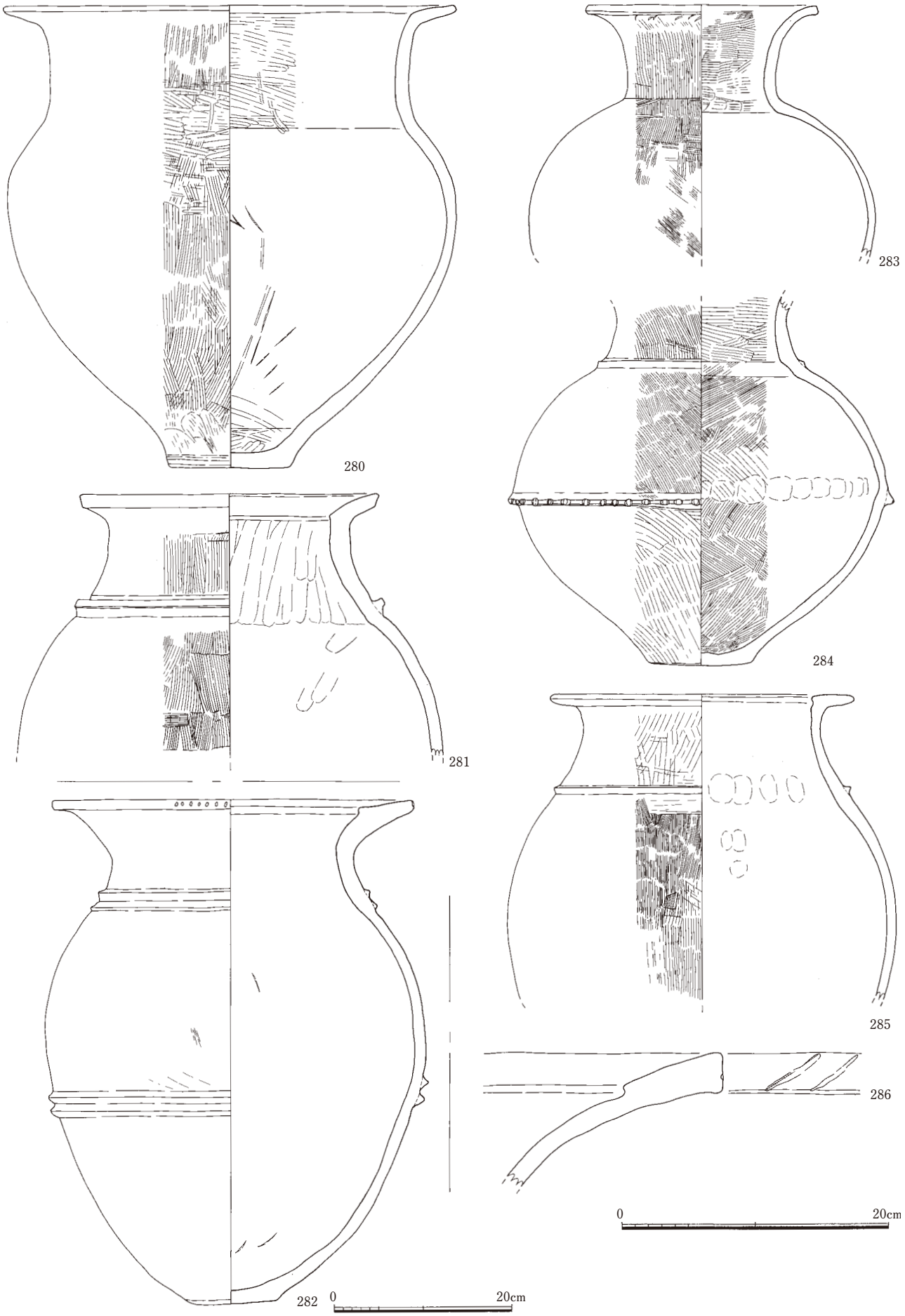


図 40　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図9（1/ 4・1/ 6）

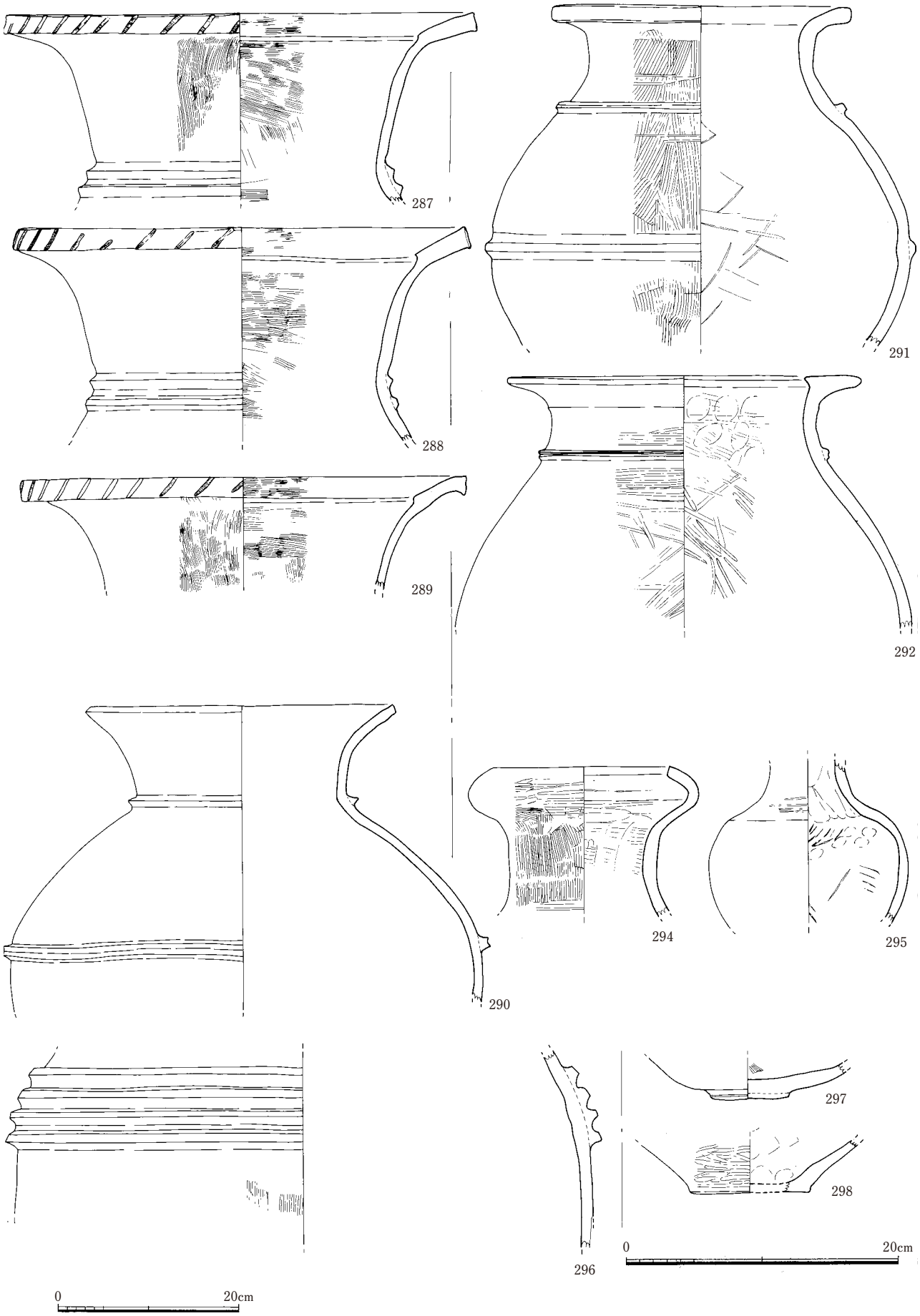


図 41　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図 10（1/ 6・1/ 4）

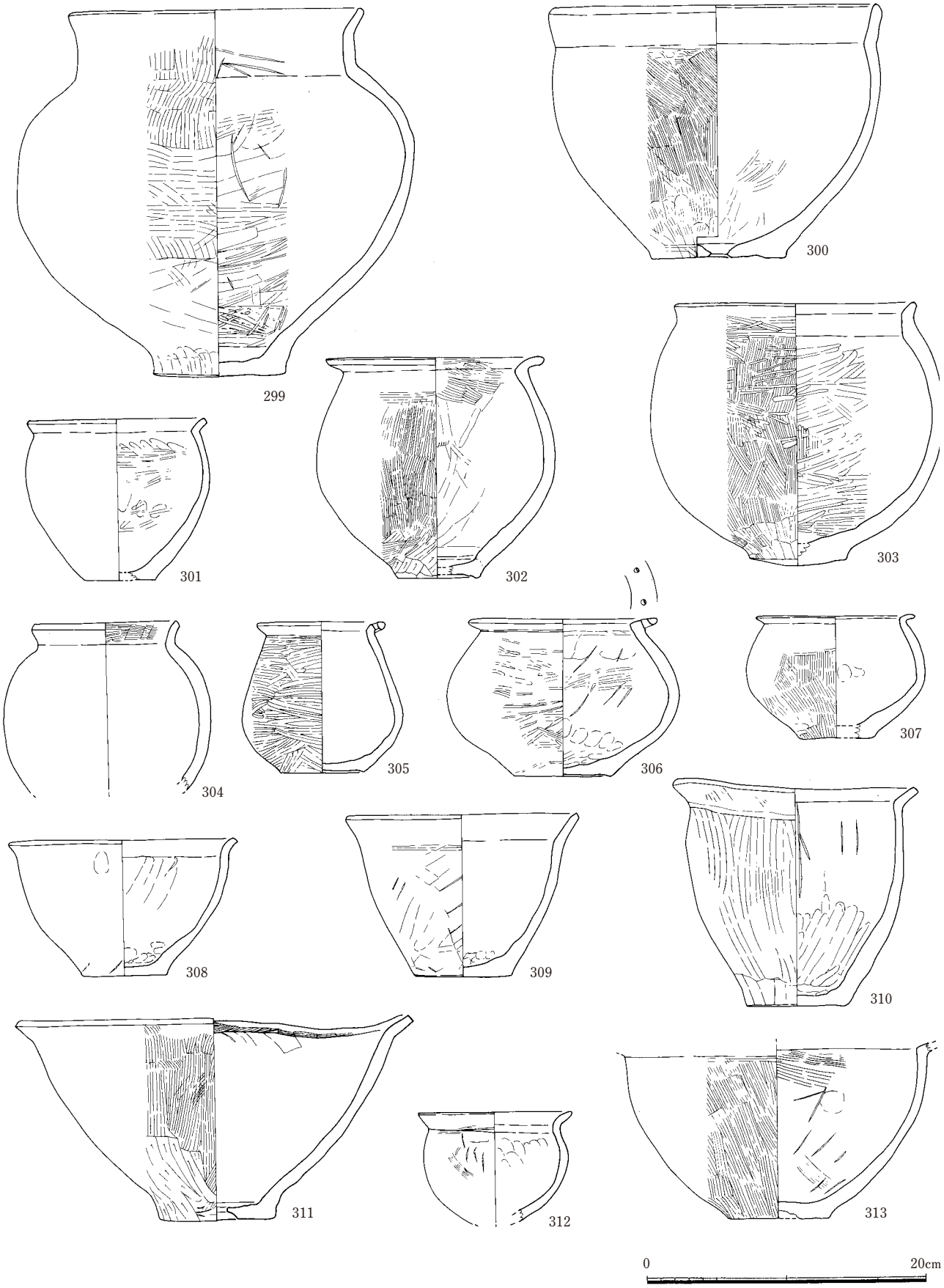


図 42　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図 11（1/ 4）

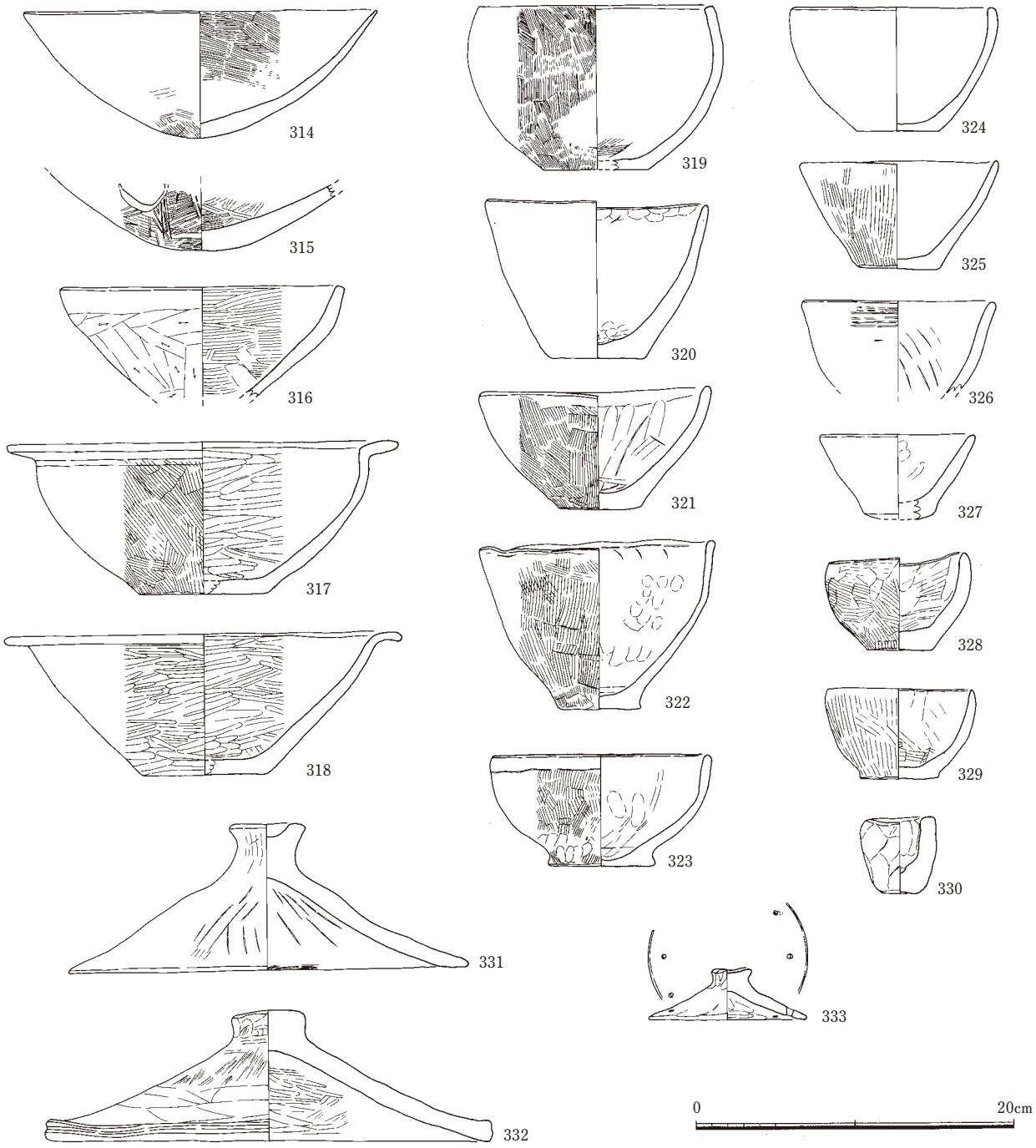


図 43　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図 12（1/ 4）

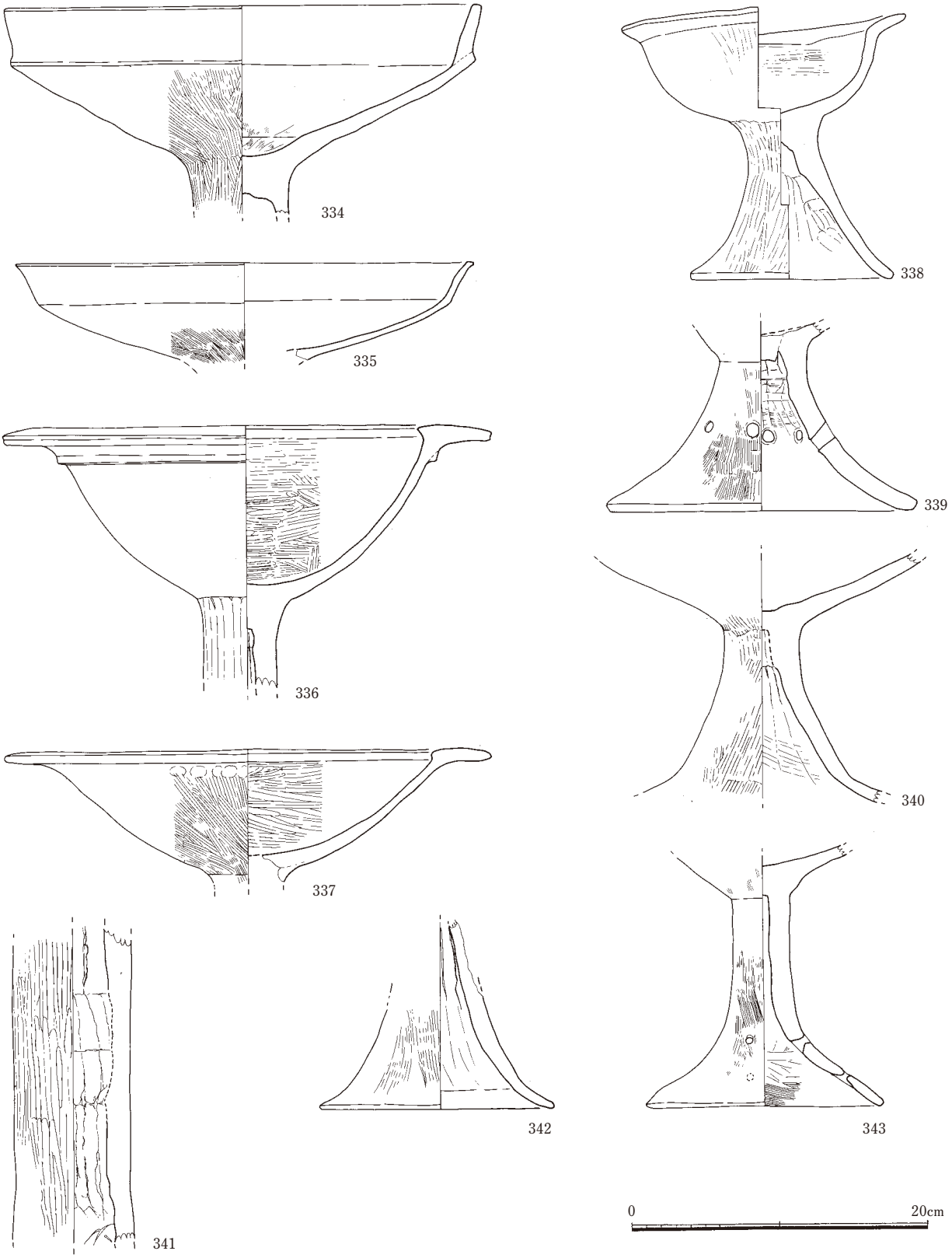


図 44　D－4区付近土器群9A 出土土器実測図 13（1/ 4）

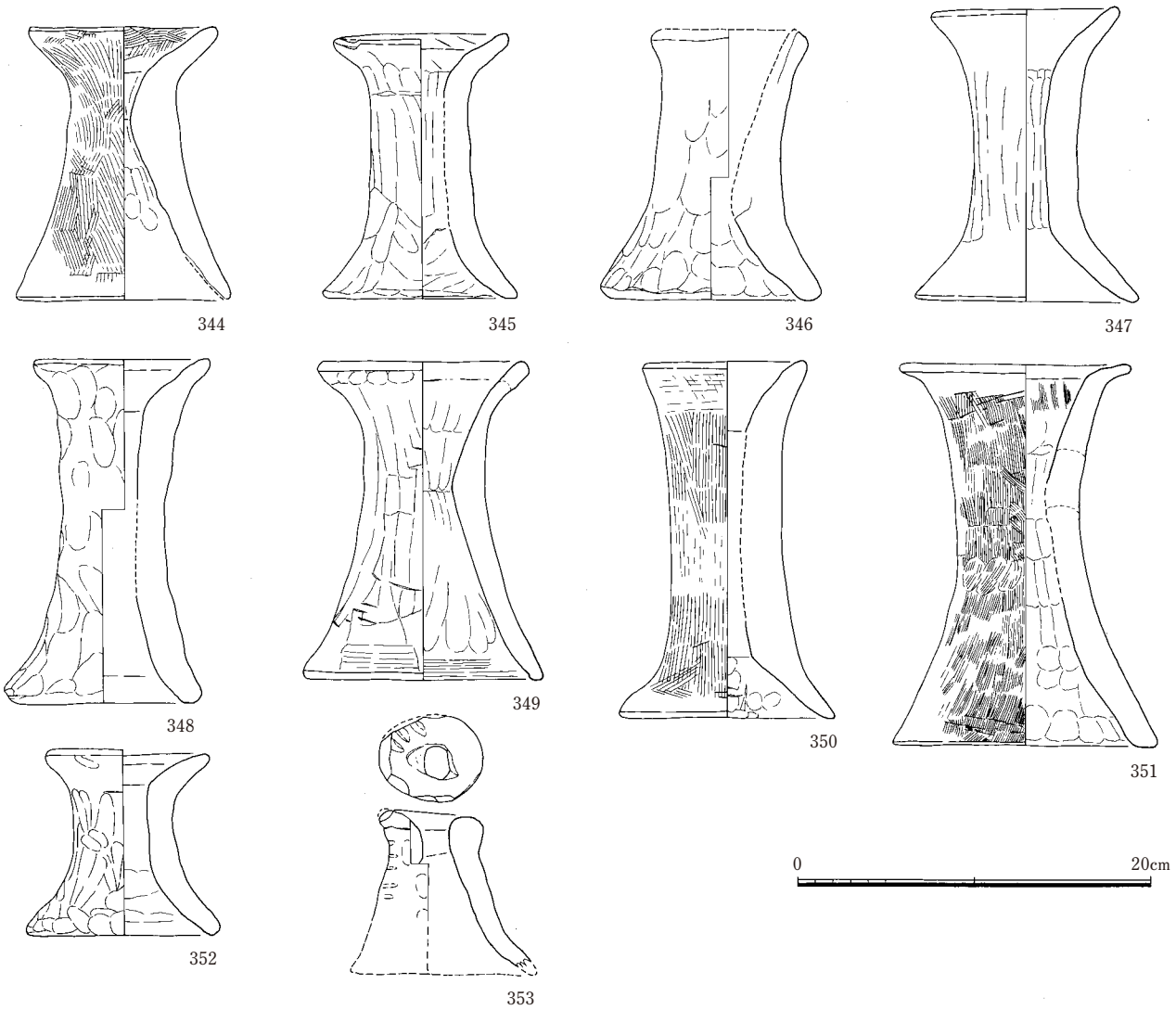


図 45　Ｄ－4区付近土器群9Ａ出土土器実測図 14（1/ 4）

（3）土器群９Ｂ出土土器（図 46）

土器群９Ｂは、９Ａの残りのように出土した土器群で、量は少ない。図化したのは４点のみである。354 は短い口縁部を有する甕で口径 22.0cm、器高 26.5cm を測る。355 は器台、356 は高坏、357 は鉢である。

（4）土器群９Ｃ出土土器（図 46 ～ 52）

土器群９Ｃは３区と同様に９Ａと薄い土層を挟んでいる。量的には多くはない。甕は「く」字状口縁を呈するものが多い。壺は中期的なものから後期的なもの、大型のものから小型のまでバラエティーがある。379 は胴部最大径付近に焼成後穿孔が施されている。鉢はやや丸底に近い 393 や 395 がある。高坏・器台は中期的なものがほとんどである。

（5）土器群９Ｄ出土土器（図 53）

ＳＤ０１の底面直上で出土した一群であるが、量的に多くは無い。いずれも破片で、砂層内に溜まった土器片である。

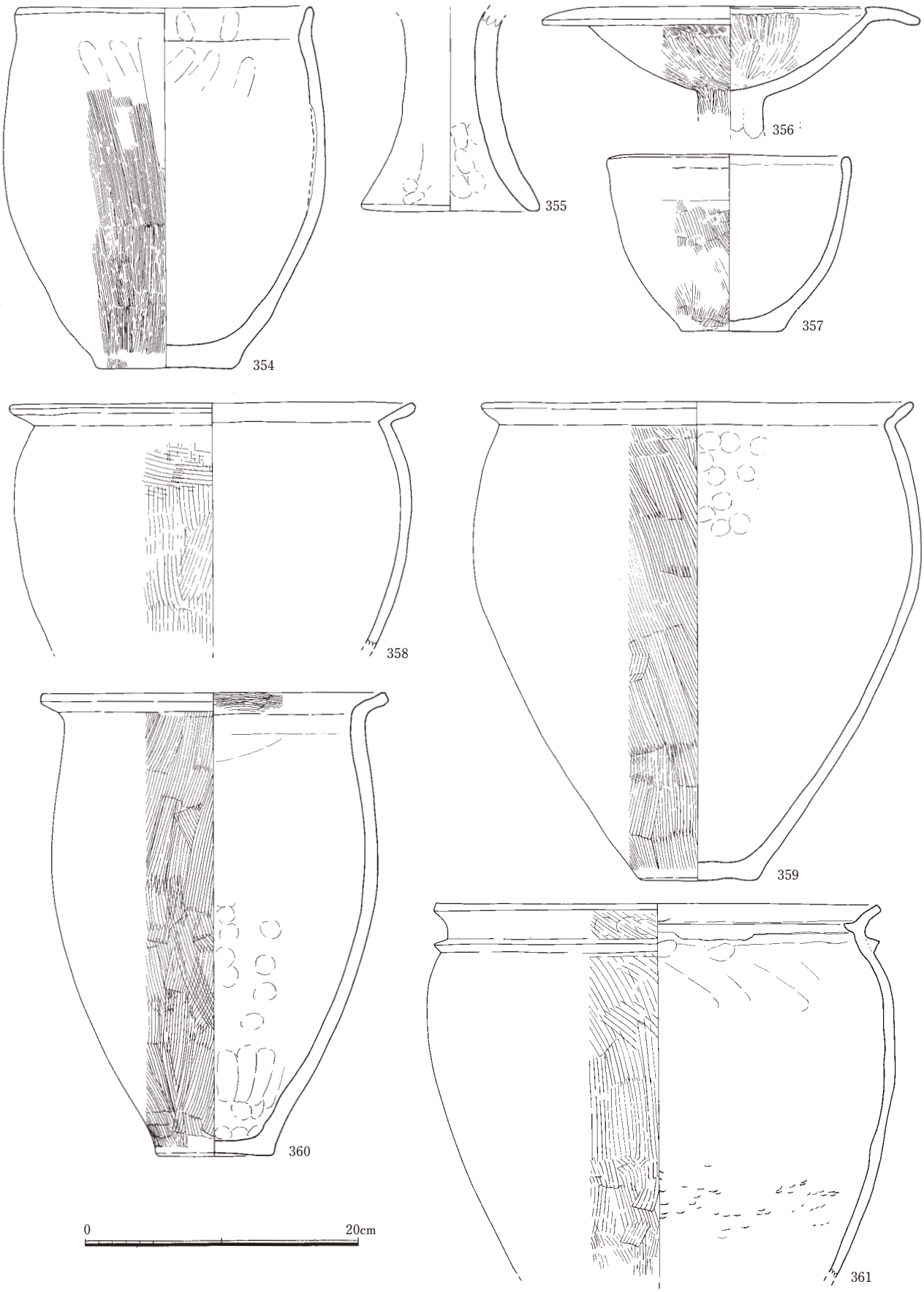


図 46　D－4区付近土器群9B・9C 出土土器実測図１（1/ 4）

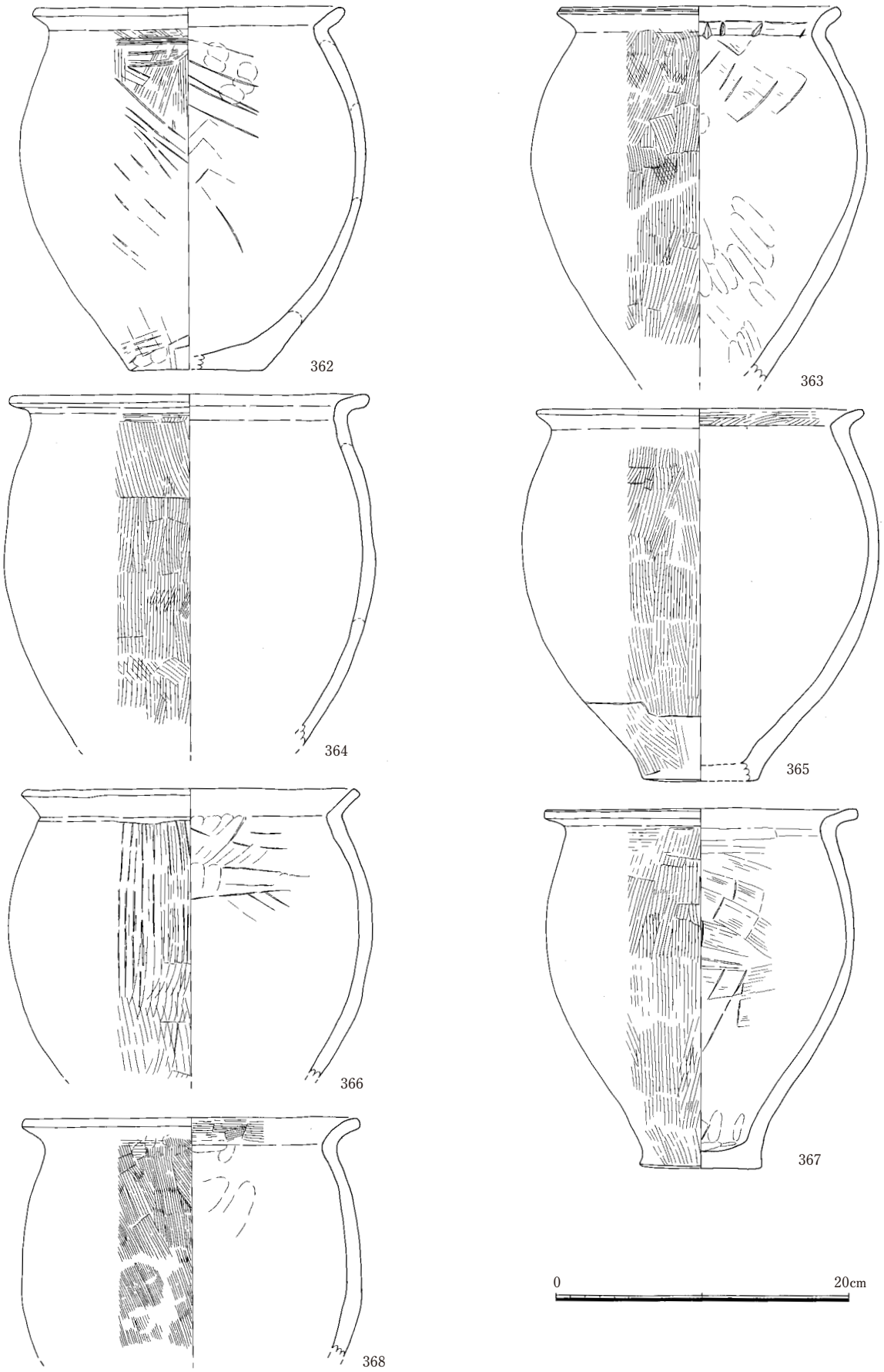


図 47　D－4区付近土器群9C 出土土器実測図2（1/ 4）

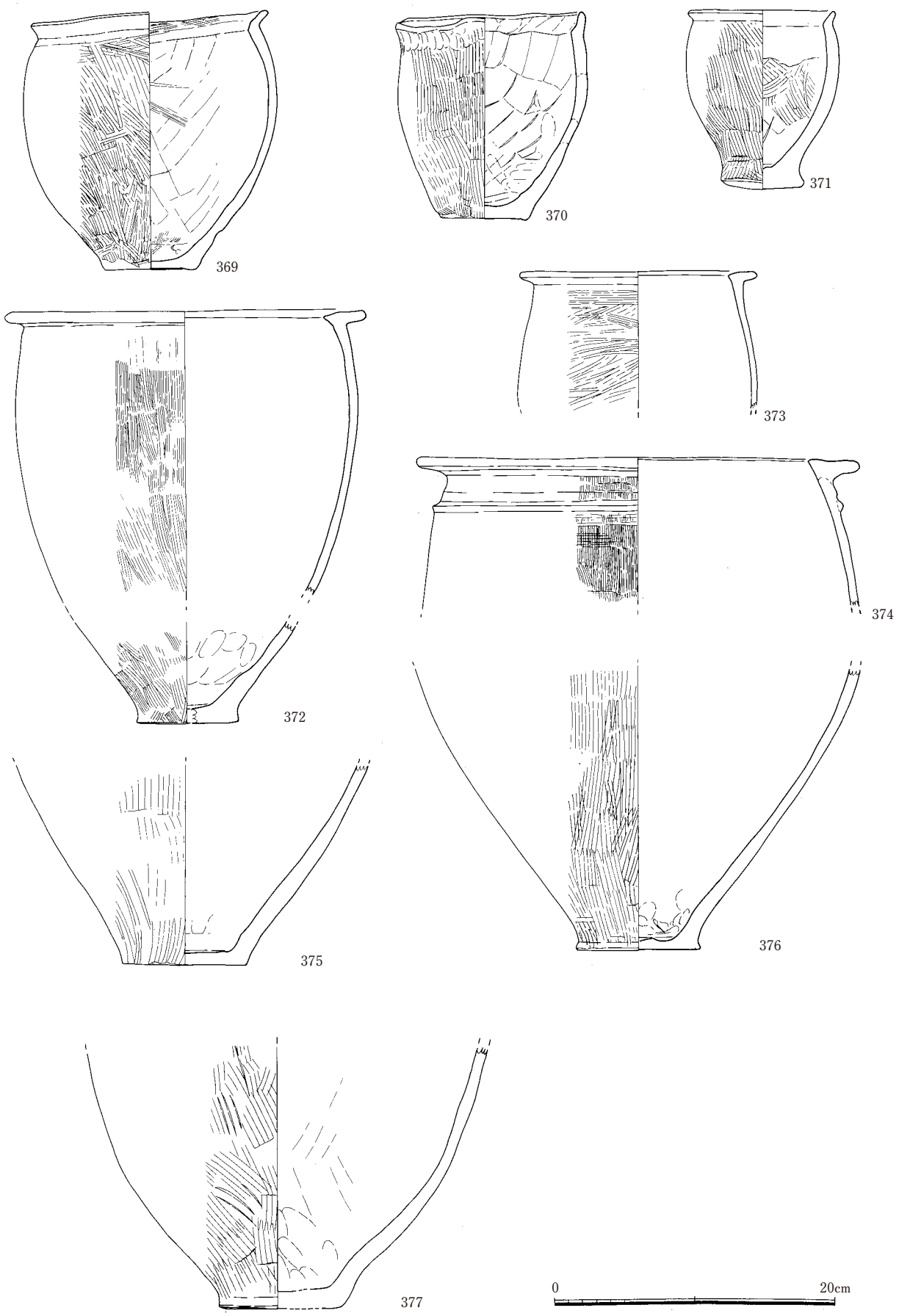


図 48　D－4区付近土器群9C 出土土器実測図3（1/ 4）

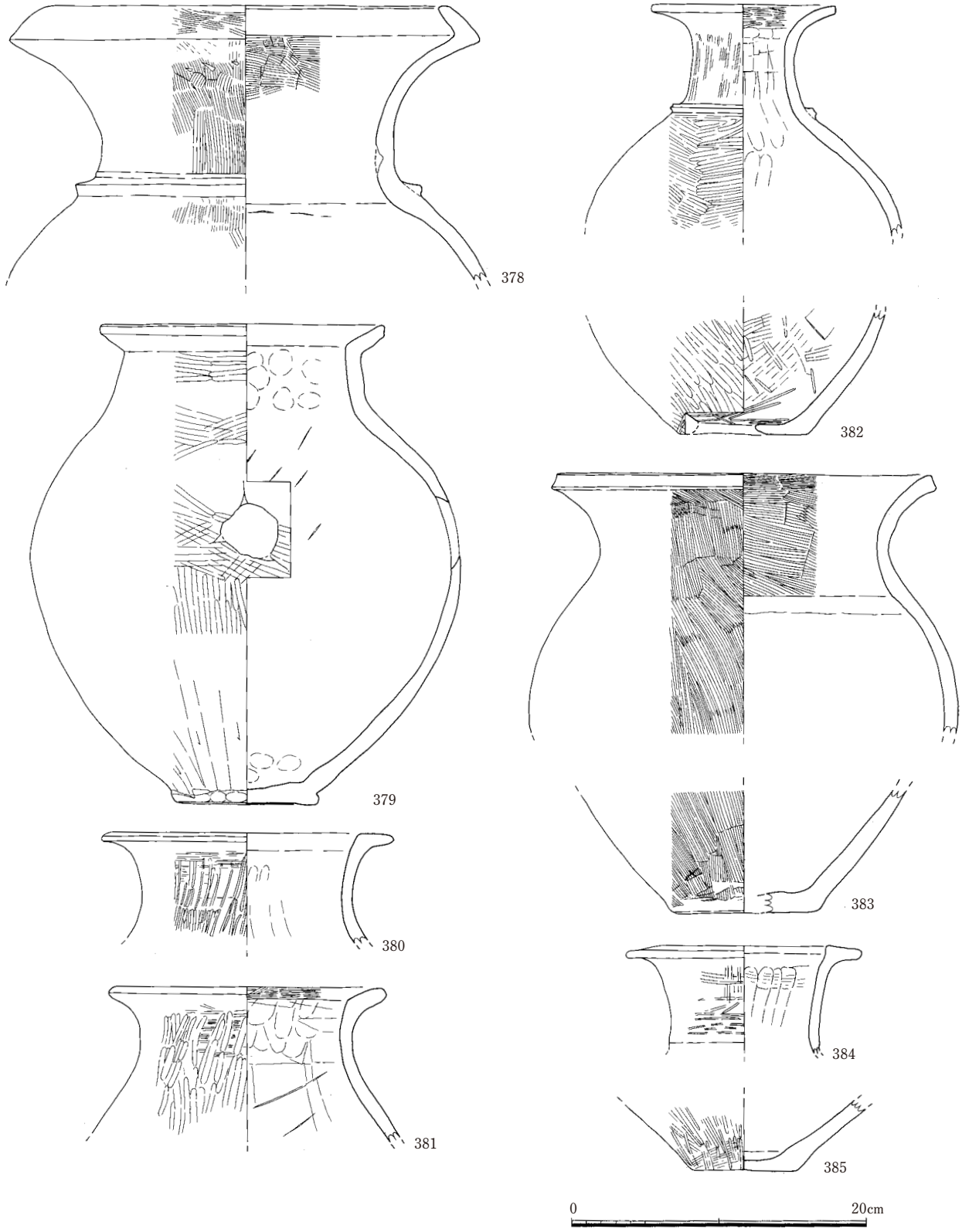


図 49　D－4区付近土器群9C 出土土器実測図4（1/ 4）

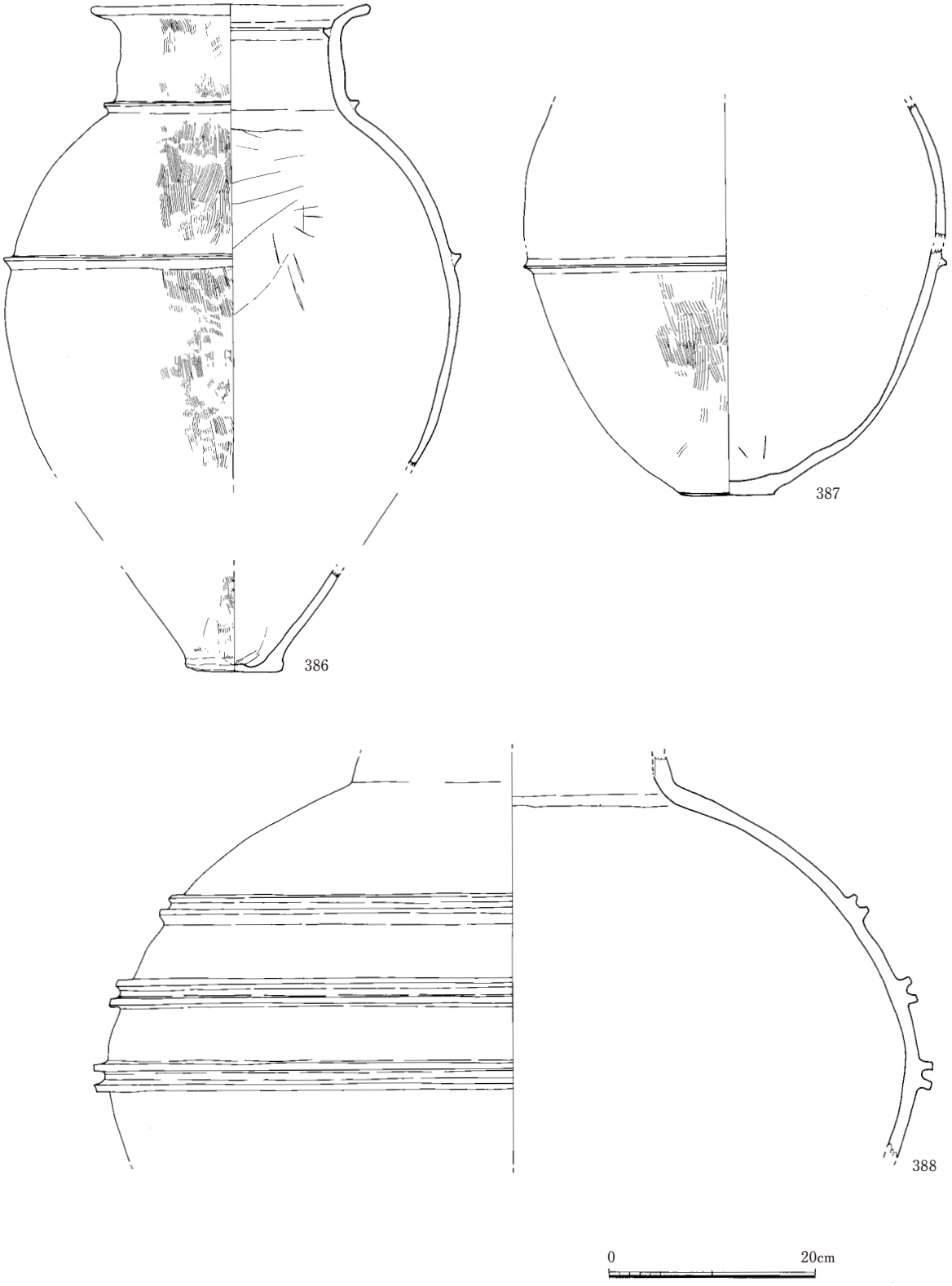


図 50　D－4区付近土器群9C 出土土器実測図5（1/ 6）

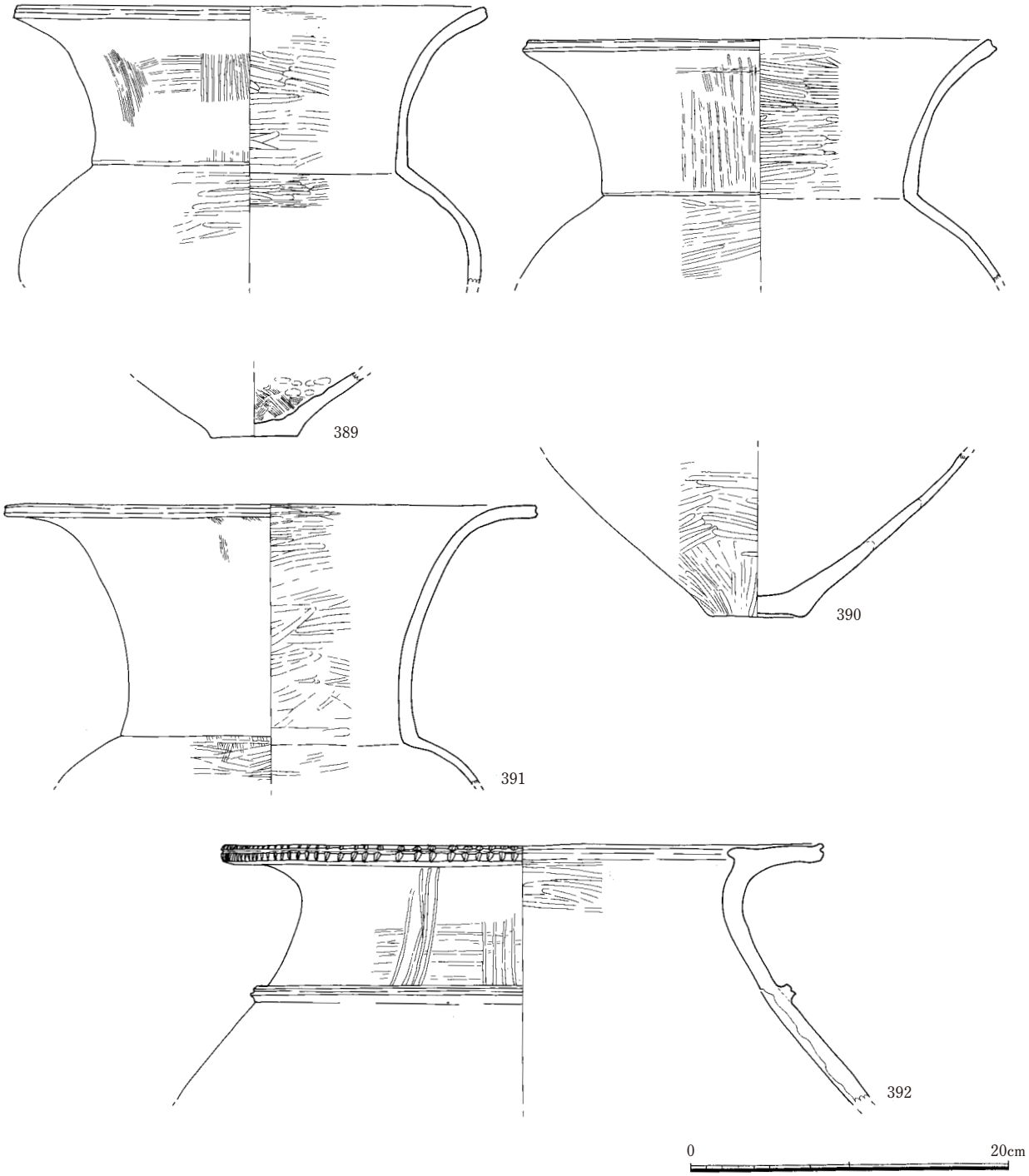


図 51　D－4区付近土器群9C 出土土器実測図6（1/ 4）

図 52　D－4区付近土器群9C 出土土器実測図7（1/ 4）

図 53　D－4区付近土器群9D 出土土器実測図（1/ 4・1/ 6）

（6）ＳＢ０８・０９出土土器

ＳＢ０８･０９柱穴からは、土器の細片が各柱穴から小ビニール１袋程度（破片数十点）が出土し、両建物合わせて小コンテナ１箱が出土したが、いずれも細片で、すべて弥生土器の破片と思われる。時期が確認できるものはいずれも中期後半の鋤先口縁を有するもので、出土土器がそのまま建物の時期を表すものかどうか不明であるが、確実に後期に属する土器を見出し得ない。

（7）土器群 14 出土土器（図 55）

土器群 14 はＳＢ０８北東隅柱のすぐ横から出土した一群である。一部破片も一緒に群を成しているが、本来は赤彩土器から成る完形品のみから構成されているものと考えられる。430 の無頸壺と 432 の鉢は他の土器とはやや離れており、出土時は倒れていたが、本来は直立していたであろう。433 の蓋、431 の鉢、436･437 の高坏、429 の甕はほぼ一列に並んでいる。鉢は天地逆に置かれている。甕は胴下半以下が無いが、割取られている可能性がある。いずれも完形品で赤彩土器であることから何らかの祭祀に伴って埋置されたものと考えられる。土器群の時期が、土器群９の形成が成され始めた時期であることから、ＳＤ０１の利用（使用）開始に関する何らかの祭祀と思われる。

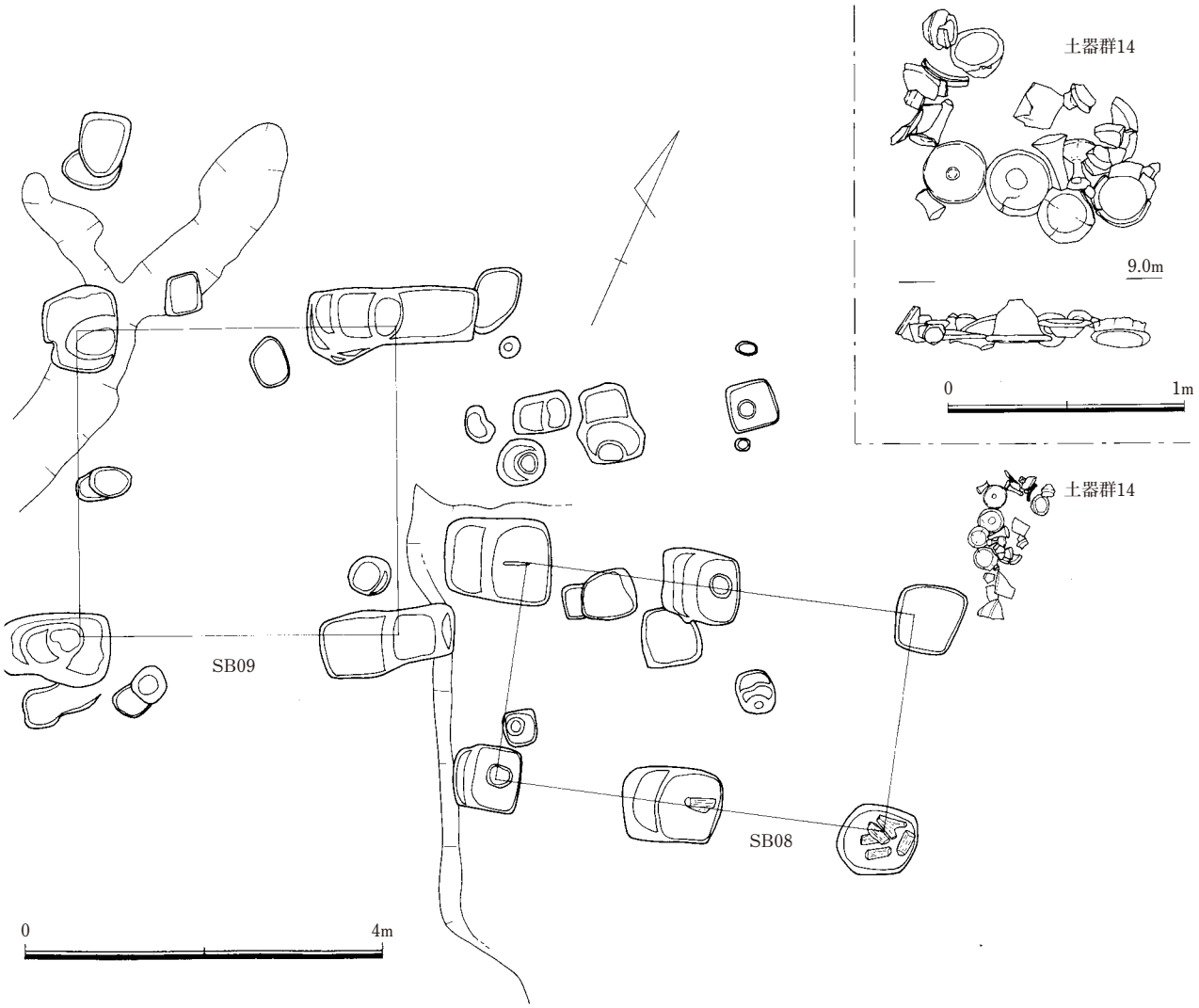
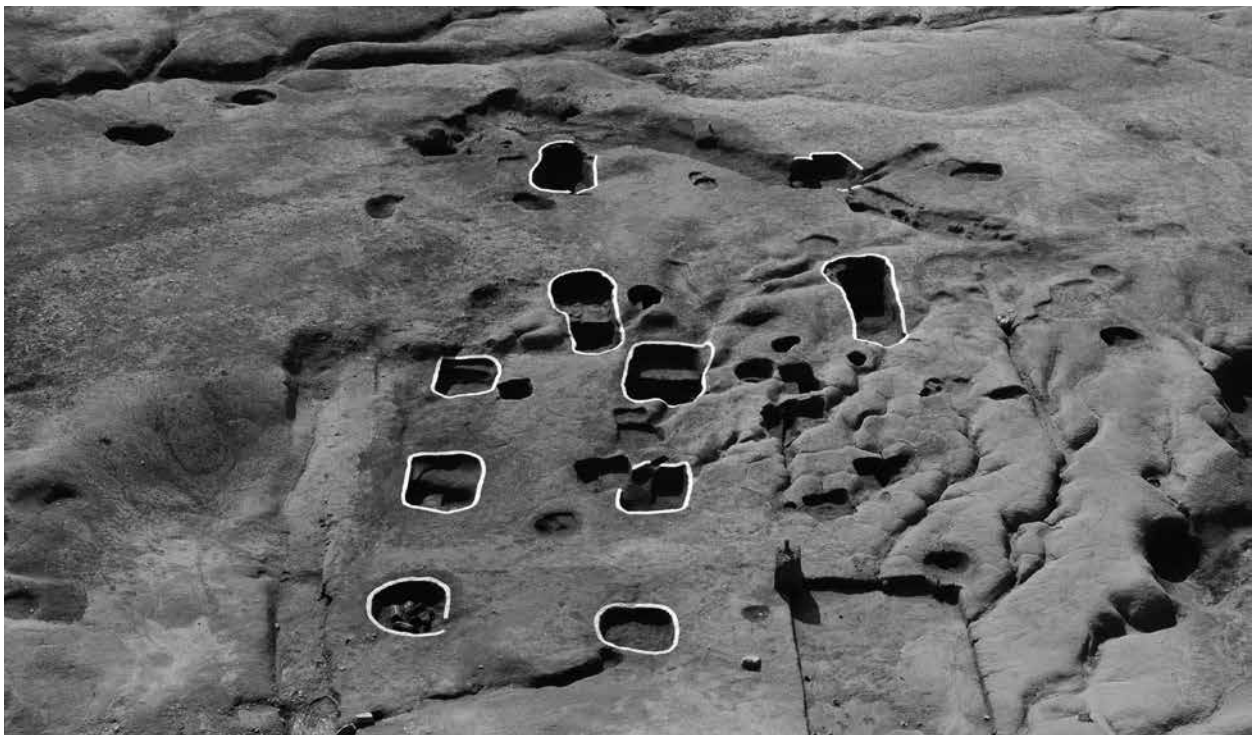


図 54　SB08・09（1/80）及び土器群 14 出土状況実測図（1/30）



SB08・09（東から）

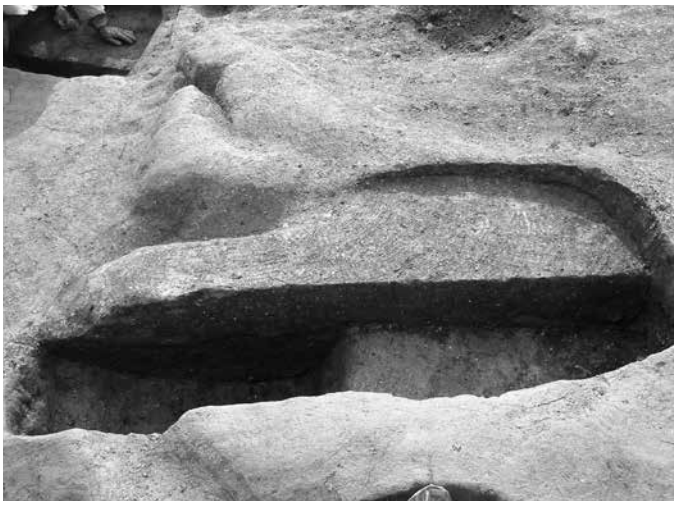


写真7　SB08・09

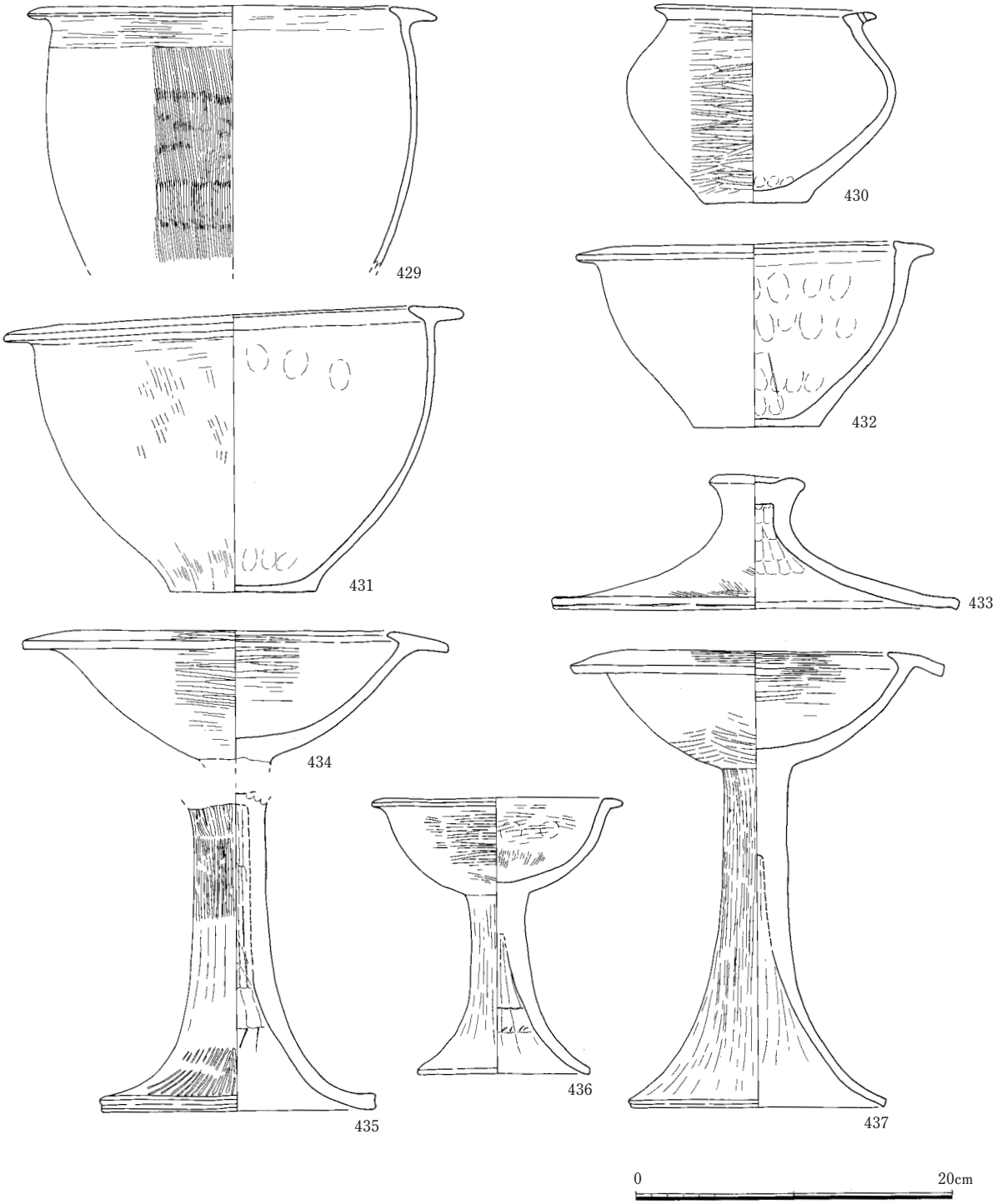


図 55　D－4区土器群 14 出土土器実測図（1/ 4）

写真８　土器群 14

429 は鋤先口縁を持つ甕で、口径 26cmを測る。天地逆に埋置し、胴下半以下が後世にとんだ可能性もある。430 は無頸壺で、口径 14.1cm、器高 12.6cmを測る。外面と内面口縁部に赤彩を施している。蓋を縛るための紐孔があるが、この壺の蓋は出土していない。431・432 はよく似た鉢で、431 は前述のとおり天地逆に置かれていた。口径 29.2cm、器高 18.0cm。432 は口径 22.7cm、器高 11.8cmを測る。433 は正置されていた蓋であるが、蓋の下に土器はなく、大きさ的に見て 431 の鉢、または 437 の高坏に使用されたものかもしれない。口径 26.0cm、器高 8.5cmを測る。434 の高坏坏部は、436・437 の高坏の横から出土し、435 の高坏脚部は蓋の横から出土した。434 は脚が無く、435 は坏部が無い。436・437 は、もともとは立っていたものと思われる。436 は口径 16.0cm、器高 17.4cmを測る。437 は 434・435 とよく似た器形をした高坏で、口径 23.8cm、器高 29.1cmを測る。いずれも須玖Ⅱ式に属する土器群で、赤彩を施した優美な土器である。前述のようにＳＢ０８・０９柱穴から出土した土器片とも概ね同じ時期である。

（８）ＳＤ０１出土土器（図 56）

438 ～ 441 はＤ－４区上層から中層出土、442 ～ 446 はＤ－４区下層出土土器である。440 は支脚の破片。441 は高坏で、脚内面に 1.2 ～ 1.5cmおきに調整具の痕跡がついている。447 ～ 451 はＥ－４区の上層出土、452 は同中層出土である。447 は丸底の壺で、内面はヘラケズリで仕上げている。448 はかなり胴部が張った形態を呈している。

（９）遺構面出土土器（図 56）

Ｂ－４・Ｃ－４区遺構面上の凹凸内から出土した土器である。前書でも記載したが、遺構面の上には水田層と思われる層があり、これらの凹凸は遺構面上を流れた水による窪みまたは水田に伴う凹凸と考えられる。455 はＢ－４区出土の黒色土器で、高台径 6.4cmを測る。板状圧痕が残る。456 はＢ－４区出土の瓦器状の皿で口径 10.2cmを測る。457 は白磁碗で高台径 8.0cmを測る。458・459 はやや黄色味を帯びた灰色を帯びており、陶質土器か。

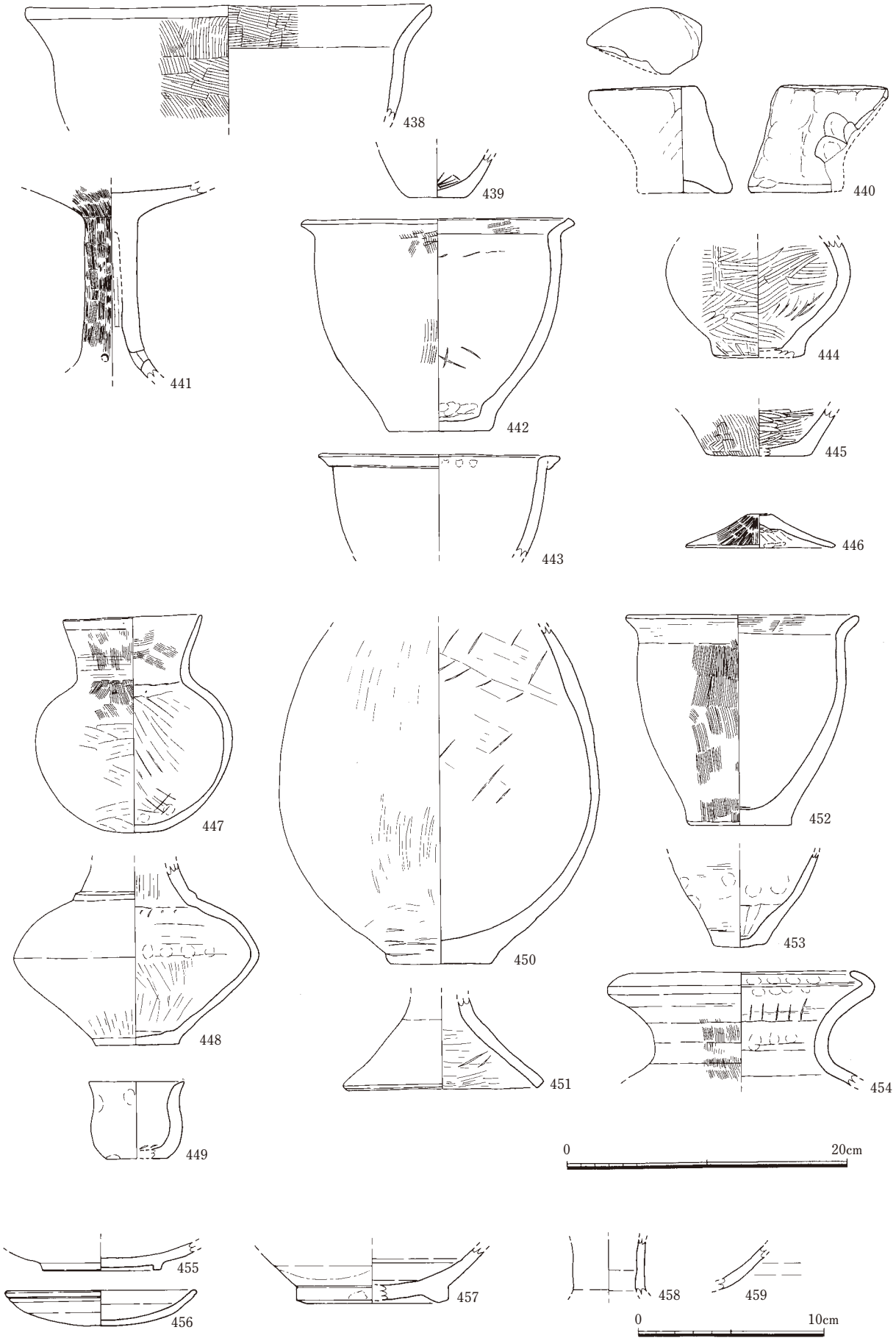


図 56　A ～ C －4区遺構面出土土器及び D・E －4区 SD 01出土土器実測図（1/ 3・1/ 4）

４　Ａ～Ｅ－５区出土土器

（１）Ａ～Ｅ－５区の概要

ＳＤ０１の西側立ち上がり付近に、ＳＤ０１の小分流であるＳＤ０３がある。ＳＤ０３はいくつかの小流路の集合体で、ＳＤ０１西側の微高地部分を上方から流れてきた雨水等がＳＤ０１に流れ込んでできた流路と考えられる。ＳＤ０３内から出土した土器片はいずれも細片で磨滅が著しいことから、雨水等とともに流れ込んできた土器片と考えられる。ＳＤ０３の北側延長線上には、同じく雨水等によって流れてきた土器片等が堆積してできたと考えられる土器群 15 がある。

土器群９は、他の区に比べもっとも量が少ない。９Ａは比較的まとまって分布しているが、他の地区に比べ量的にかなり少ない。土器群９Ｂ・９Ｃ・９Ｄになると、グリッドの中央付近は土器の分布がほとんどない。９Ｂはグリッド南端のみ、９Ｃは南端と北端に一部あるだけ。ＳＤ０１床面近くから出土した土器群９Ｄは南端のごく一部のみからの出土である。

（２）Ｃ・Ｄ－５区付近土器群９Ａ出土土器（図 58 ～図 65）

460 ～ 482 は甕で、全形がわかるものが数点しかなく、量も他の地区に比べ少ない。全形がわかる３点は、いずれも外面ハケメ、内面ナデ調整の後期の土器である。胎土自体が赤い色を呈しており、一見赤彩土器のようである。483 ～ 505 は壺である。486 は鋭角に折れ曲がる袋状口縁を有する大形のつぼで、口径 29.8cm、器高 52cmを測る。内面もほぼ全面細かいハケメを施している。490 は全形がわかる袋状口縁を有する壺で、口径 16.8cm、器高 38.2cmを測る。494 は一見前期の土器に似るが、全体の作り等から見て後期土器と思われる。495 は胴部最大径付近に穿孔が施されている。両面ともほぼ全面ハケメを施している。

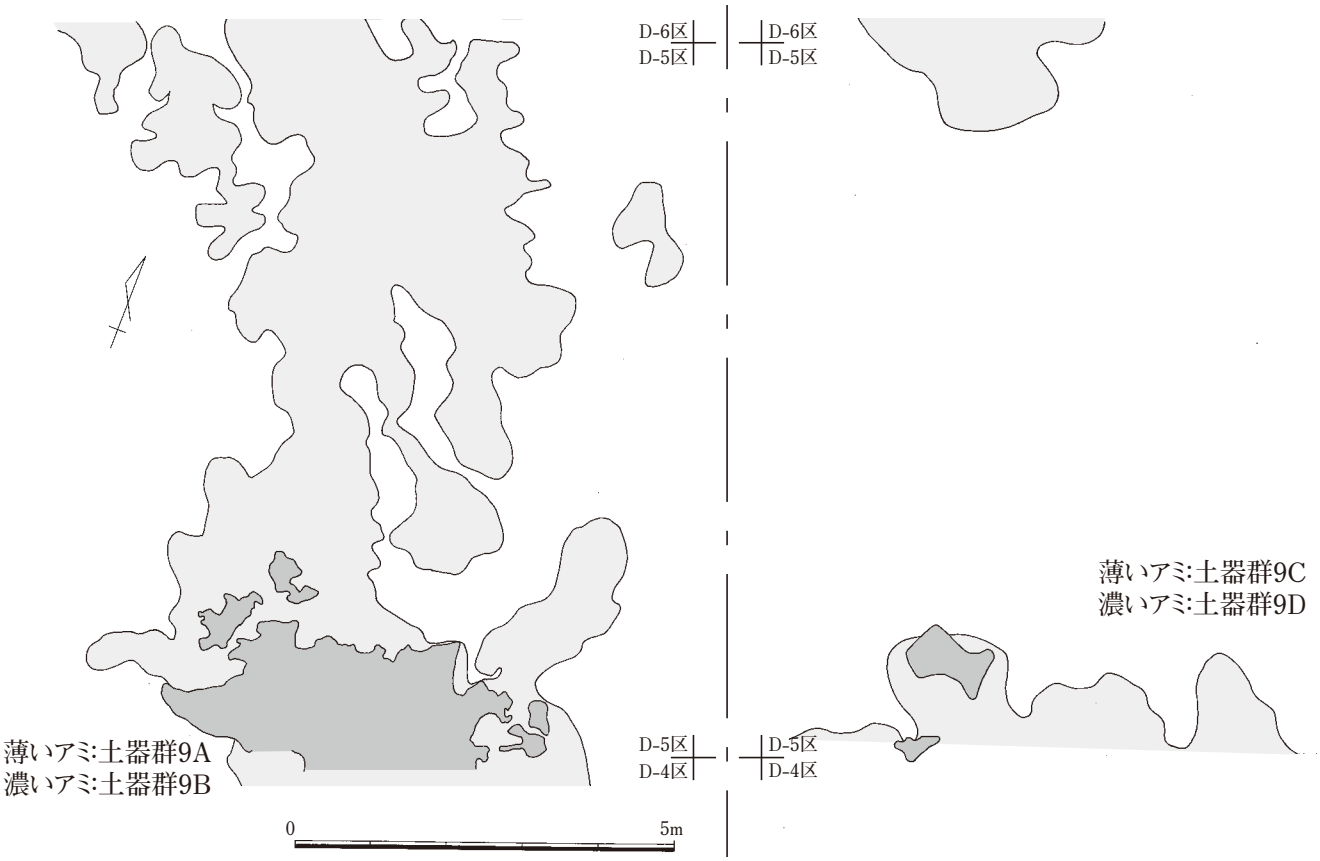


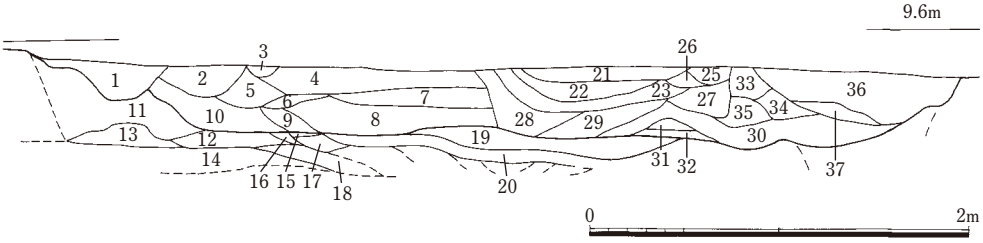
図 57　Ｄ－5区付近土器群９分布範囲図実測図（1/100）

鉢・蓋・高坏も図化した遺物は多くはないが、530 以降の器台は完形品が比較的多い。これは他の地区でもそうであるが、厚めで頑丈なためである。514 ～ 516 は手捏ね土器である。534・535 の器台は高さ 7. 5㎝前後しかない。

（3）C・D－5区付近土器群９B出土土器（図 66）

上述のように総量が少ない。甕で図化したのは 548 の１点だけである。549 は口縁部と底部が遺存している。無頸の壺と考えたが、甕に分類すべきか。551 は５条の突帯を施した長胴の壺で、口縁部はこのまま鋤先口縁になるものと思われる。552 は長めの頸部の壺である。

写真9　D－5周辺土器群9A



1　黒色土（土器多い）2　黒褐色土（土器多い）　3　黒褐色土（土器多い）　4　にぶい黄褐色粗砂　5　褐灰色土まじり粗砂
6　緑灰色シルト　7　にぶい黄褐色細砂・シルトまじり粗砂　8　浅黄褐色粗砂と明緑灰色細砂互層　9　浅黄色粗砂＋緑灰色シルト
10　灰オリーブ土（下部鉄分多量）　11　明緑灰色シルト＋浅黄色粗砂　12　明青灰色シルト　13　にぶい黄色小礫まじり粗砂
14　明青灰色シルトを浅黄色細砂互層　15　明緑灰色シルト　16　灰色粘質土　17　灰オリーブ色粗砂　18　浅黄色粗砂　19　灰色細砂
20　青灰色シルト＋浅黄色粗砂　21　黒褐色土（土器多い）　22　21より暗い（土器多い）　23　22より暗い（土器多い）　24　（欠番）
25　21に少量粗砂含む（土器多い）　26　にぶい黄色粗砂（土器多い）　27　黒色土（土器多い）　28　にぶい黄色粗砂
29　黄褐色粗砂と淡黄色細砂互層　30　浅黄色粗砂　31　灰白色細須磨　32　淡黄色粗砂　33　淡黄色土　34　灰白色～明青灰色粘質土
35　浅黄色砂質土　36　黒色土（土器多い）　37　34より暗い

図 58　SD04 土層断面実測図（1/40）

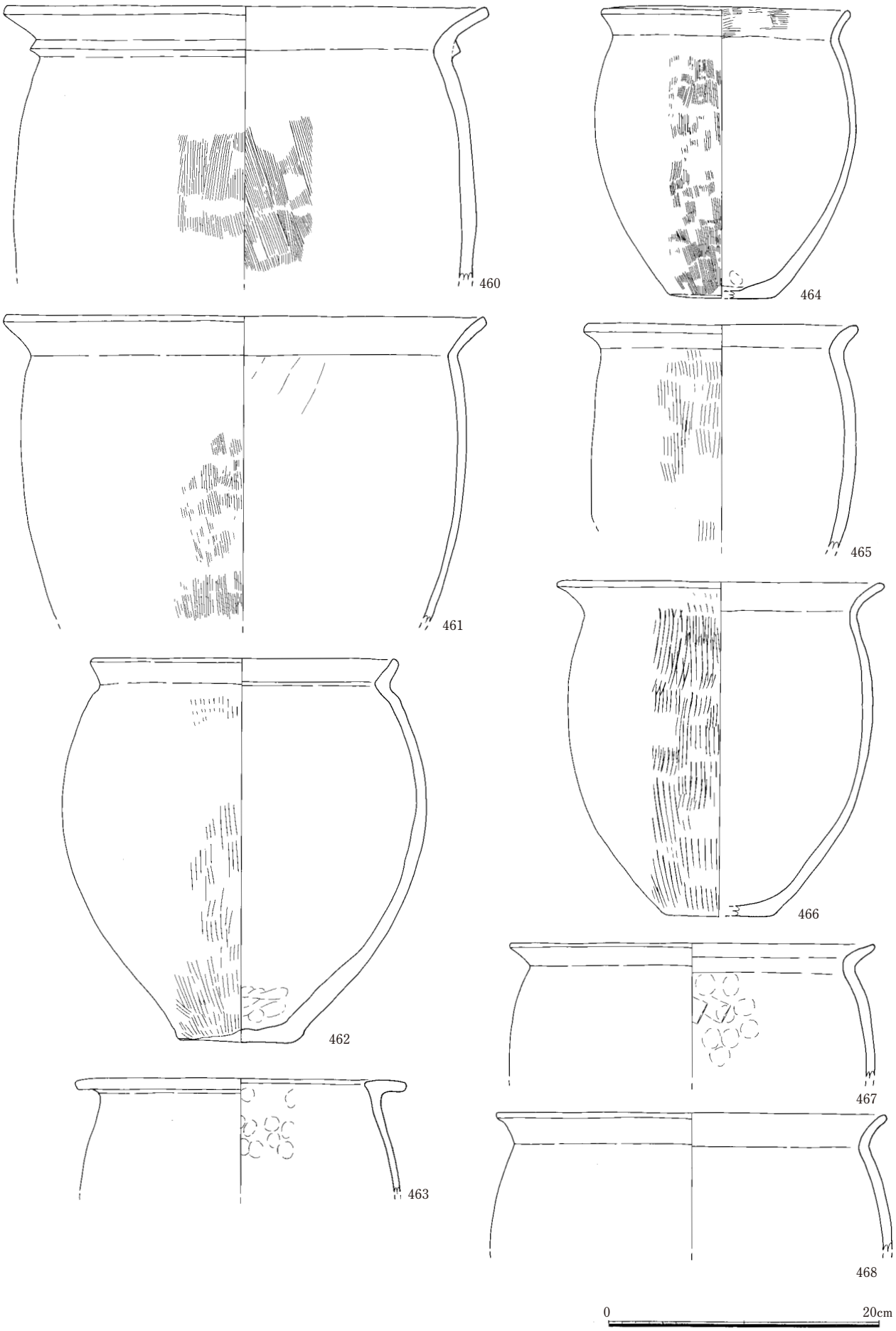


図 59　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図1（1/ 4）

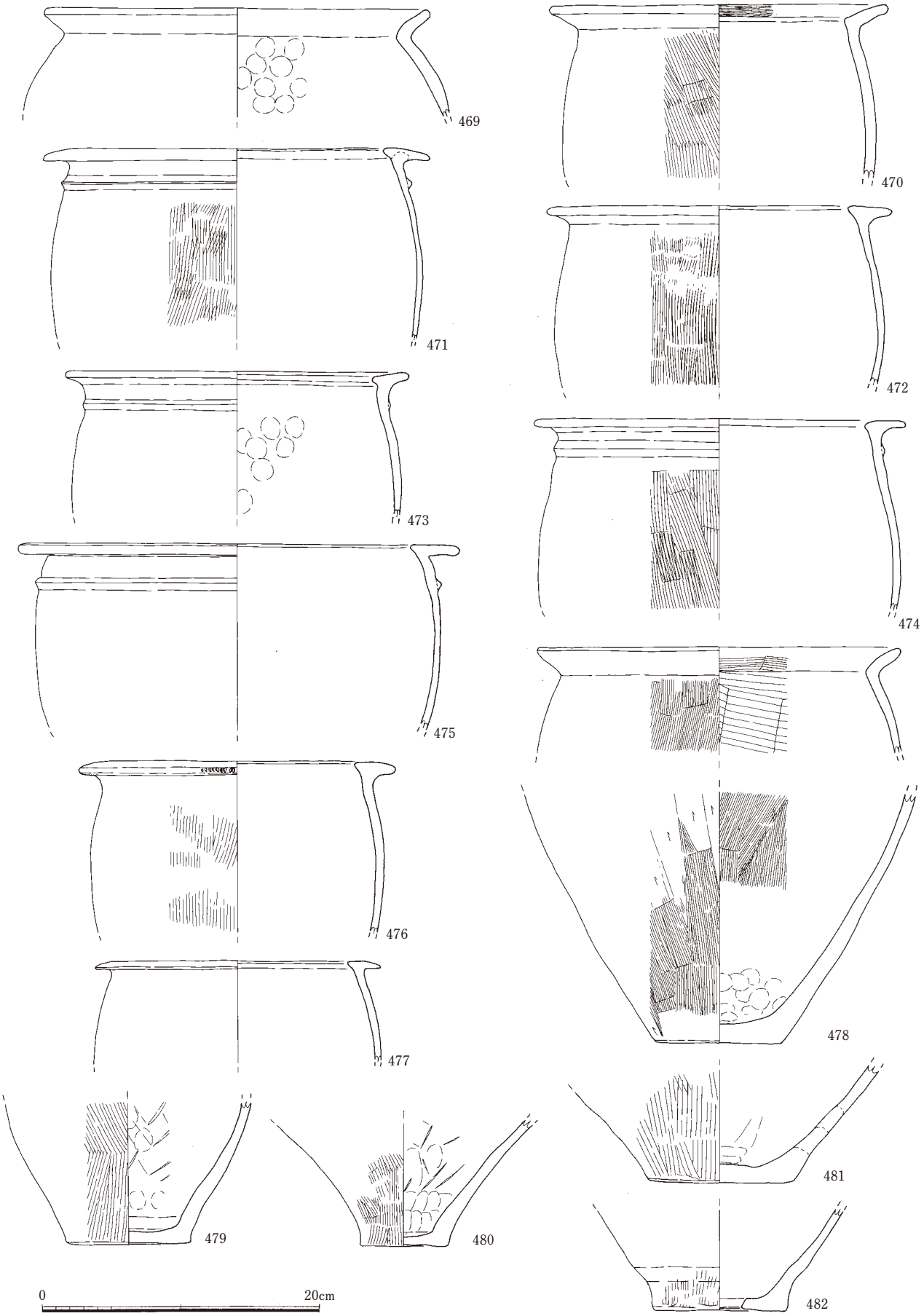


図 60　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図2（1/ 4）

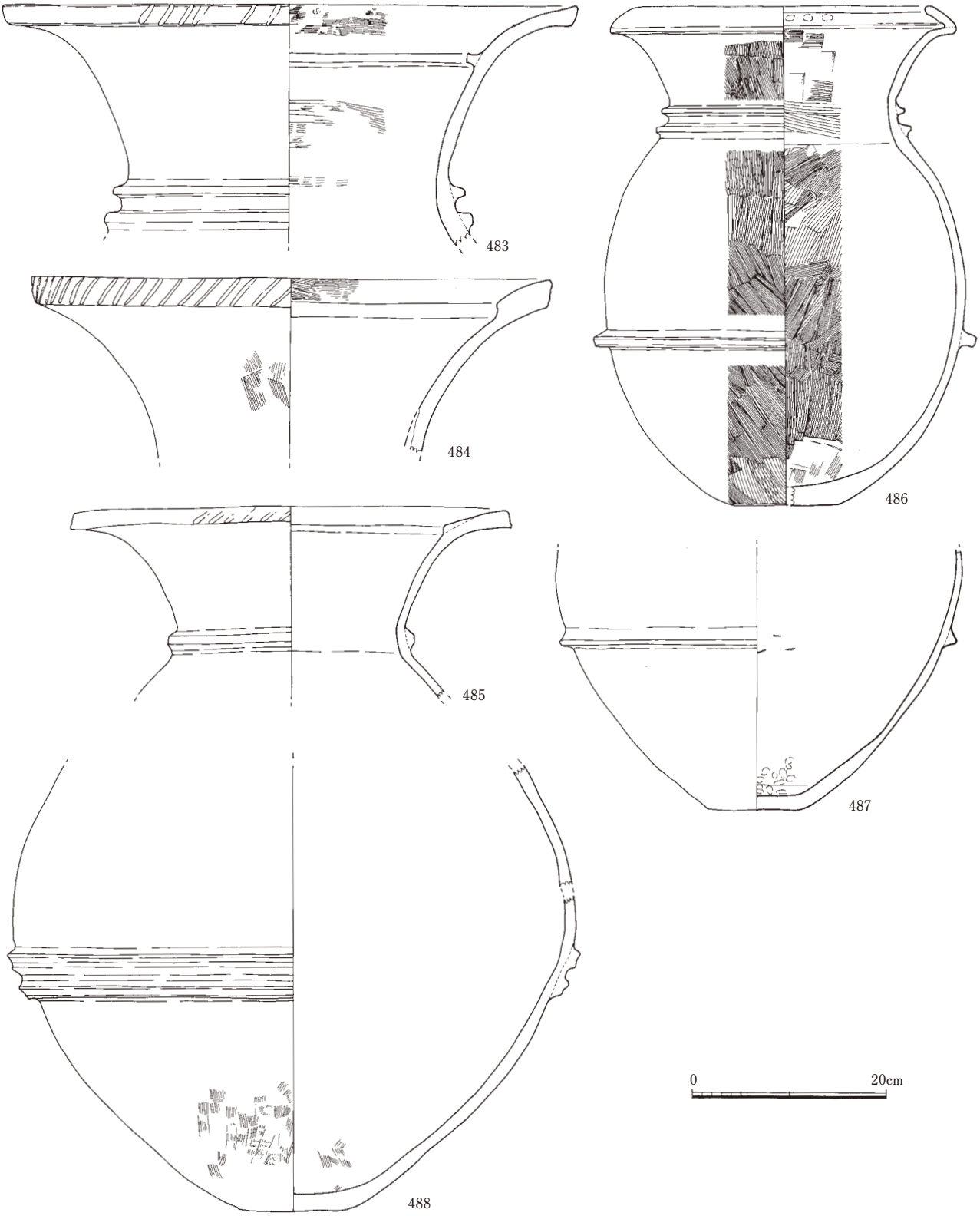


図 61　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図3（1/ 6）

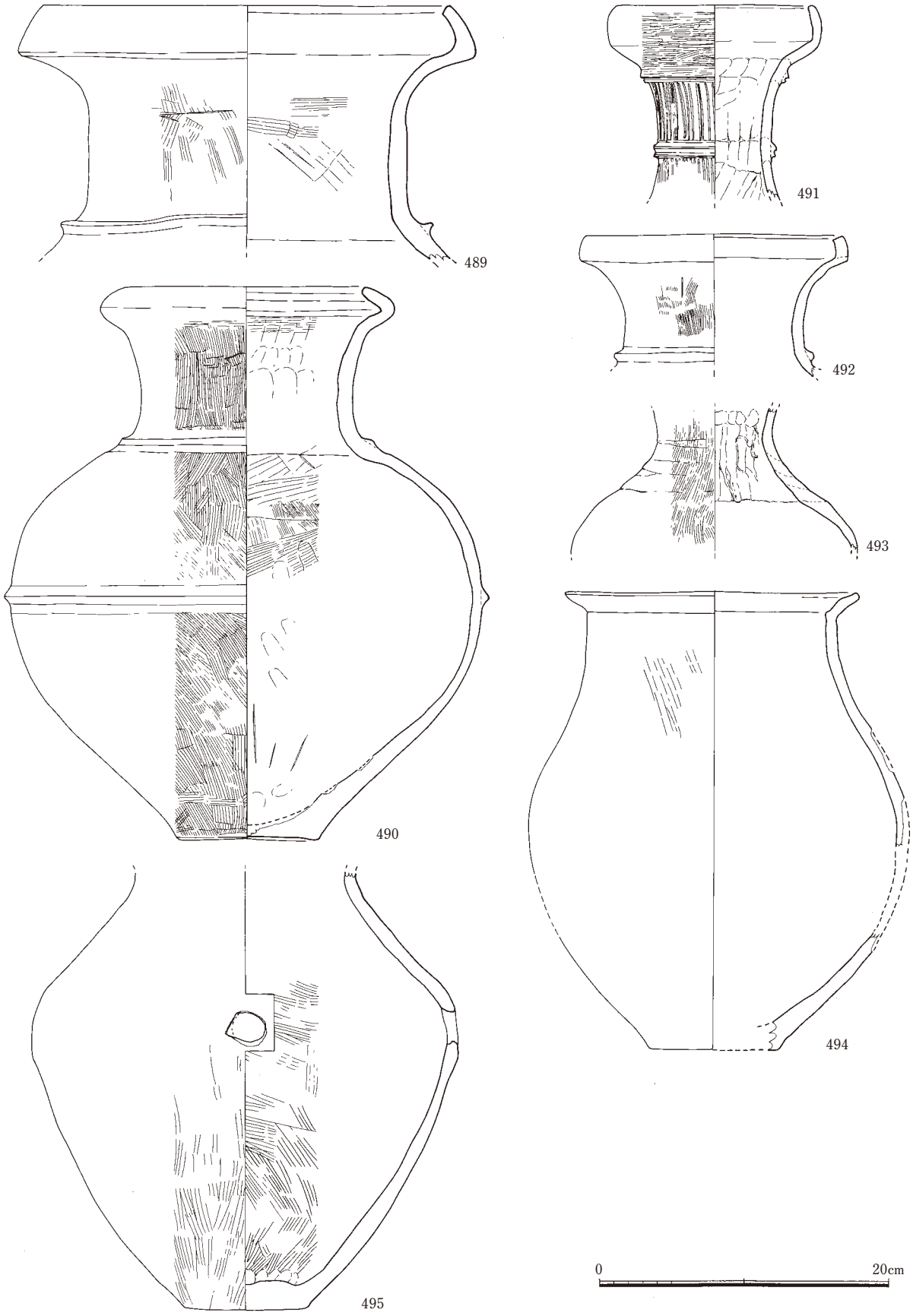


図 62　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図4（1/ 4）

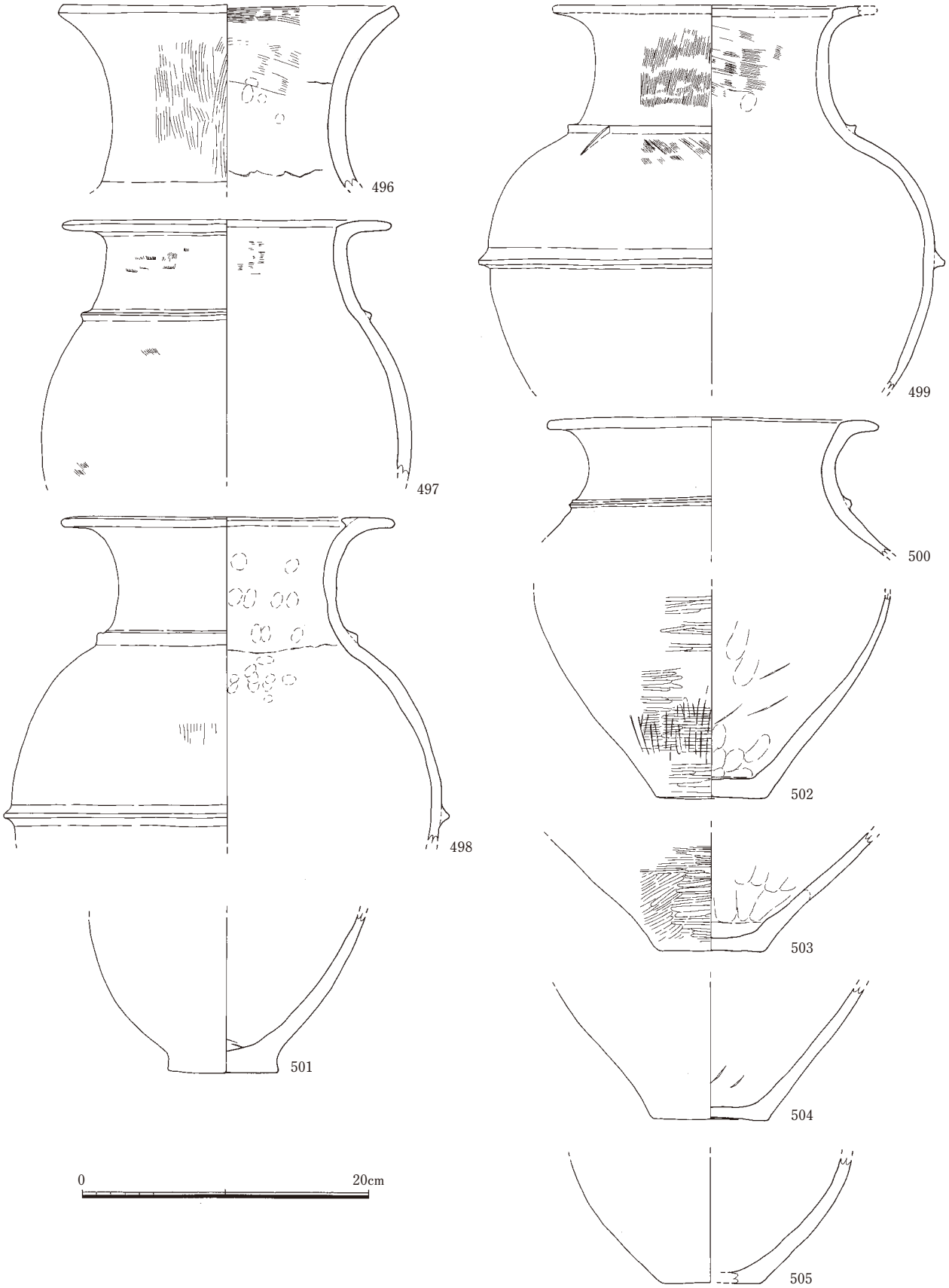


図 63　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図5（1/ 4）

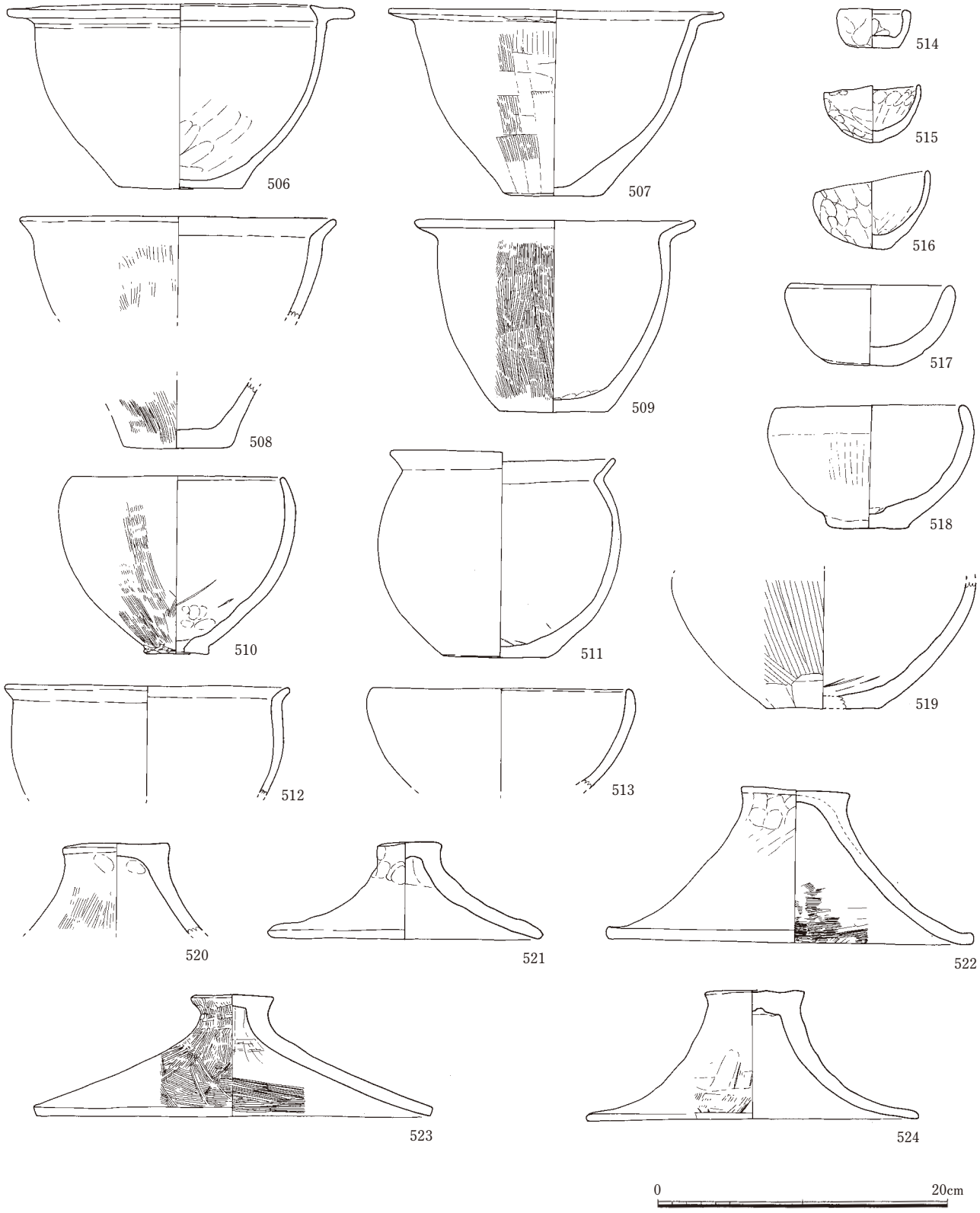


図 64　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図6（1/ 4）

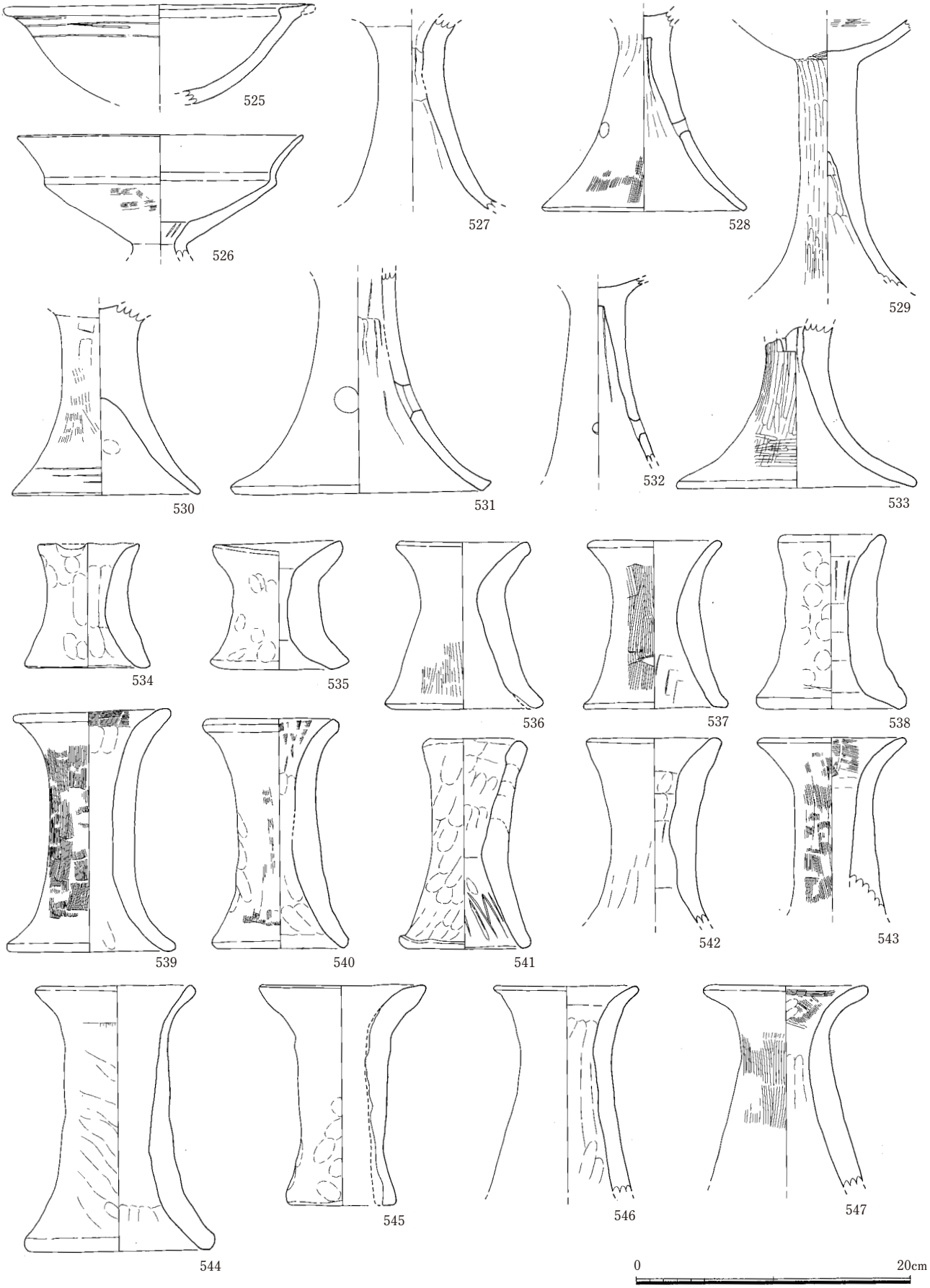


図 65　D－5区付近土器群9A 出土土器実測図7（1/ 4）

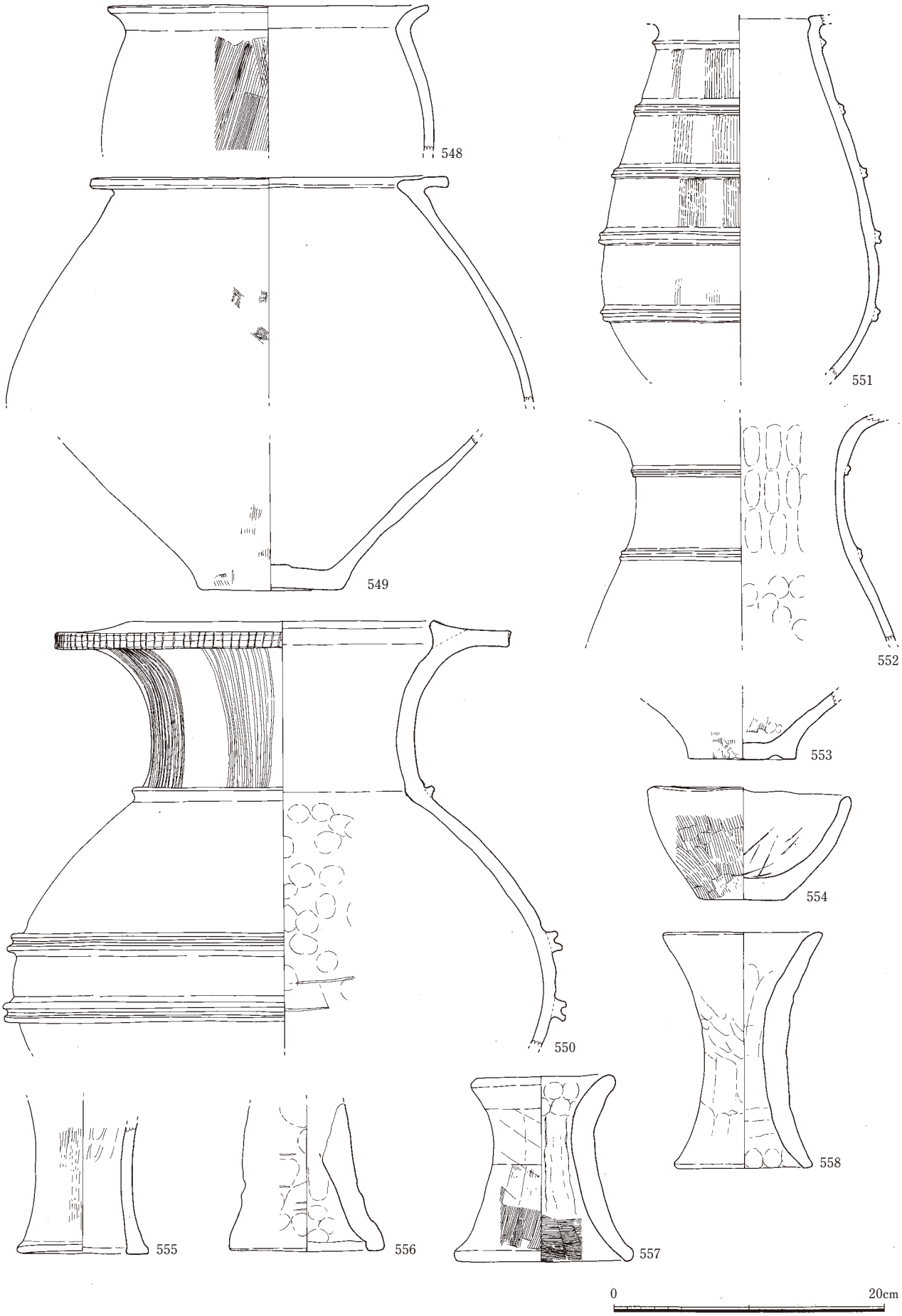


図66　D－5区付近土器群9B出土土器実測図（1/4）

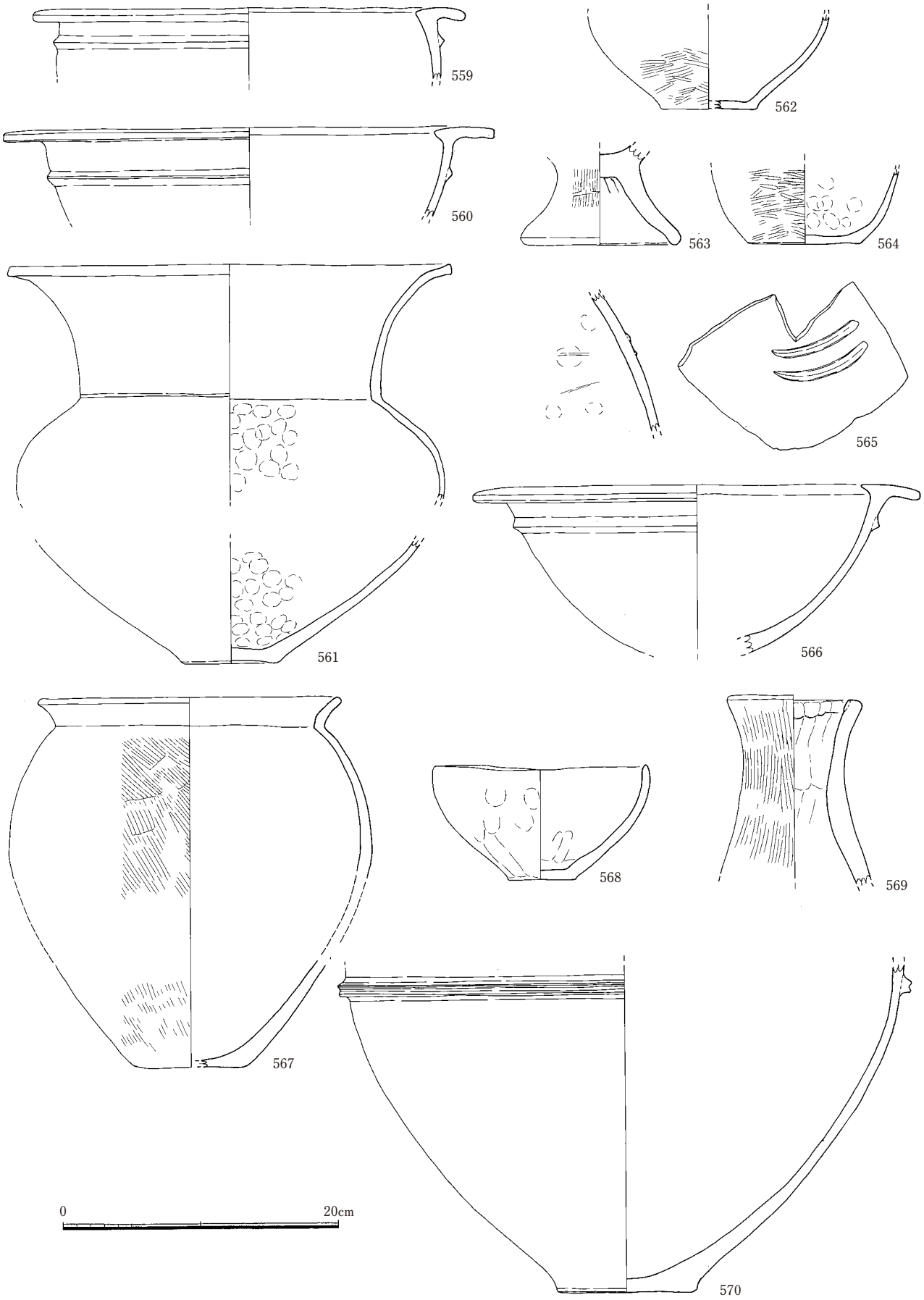


図 67　D－5区付近土器群9C・9D 出土土器実測図（1/ 4）

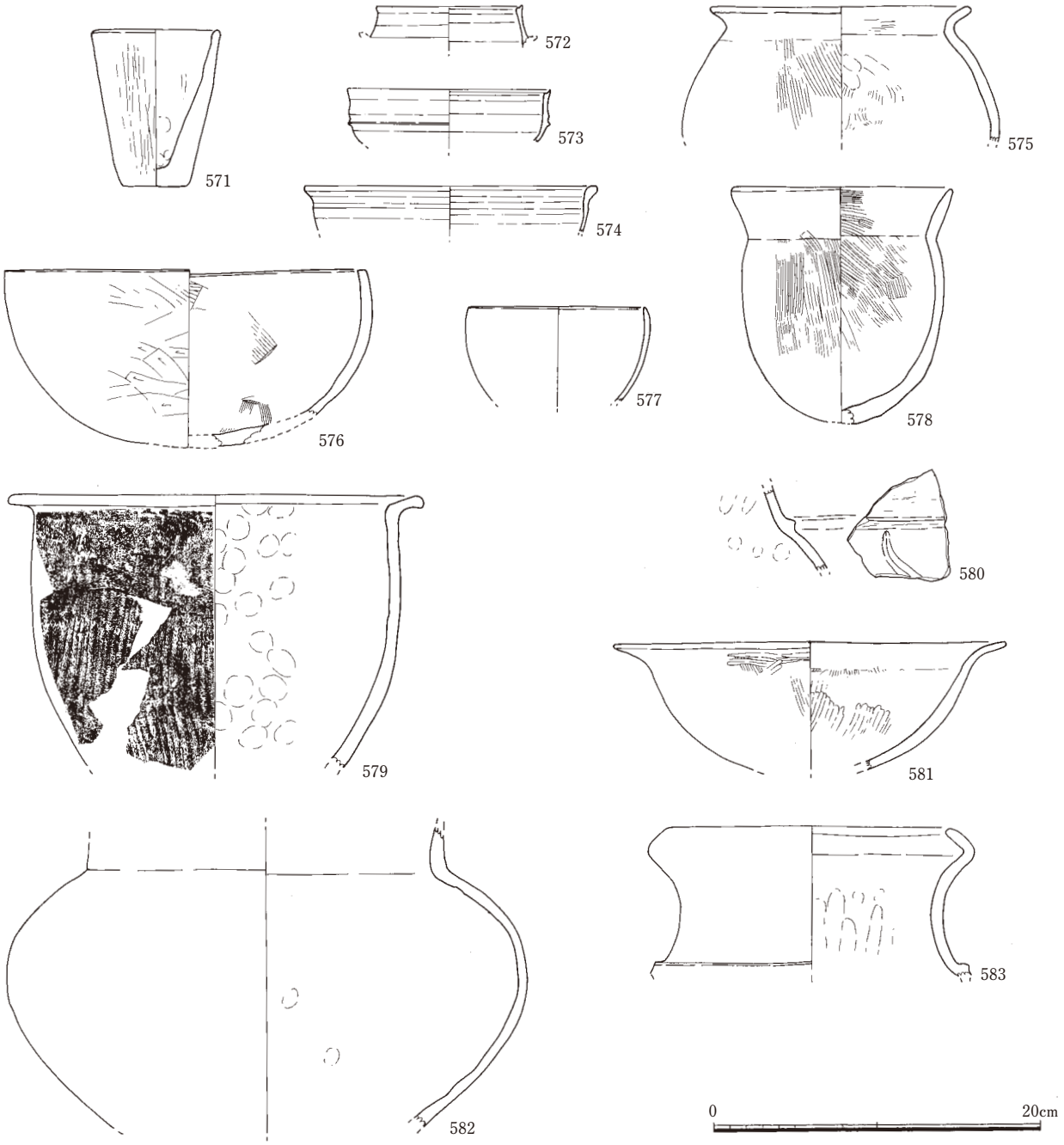


図 68　C ～ E －5区 SD 01出土土器実測図1（1/ 4）

（4）D－５区付近土器群９C出土土器（図 67）

９Cも総量は少ない。561 は全形がわかる壺で、推定器高 30cm前後、口径 32.2cmを測る。565 は小さな弧を成す短い貼り付け突帯２条を有している。

（5）D－５区付近土器群９D出土土器（図 67）

９Dはごく一部で出土しており、ＳＤ０１の底近くで出土した。567 は全形がわかる甕で、口径 22 cm、器高 27cmを測る。568 は鉢で、口径 15.7cm、器高 5.0cmを測る。

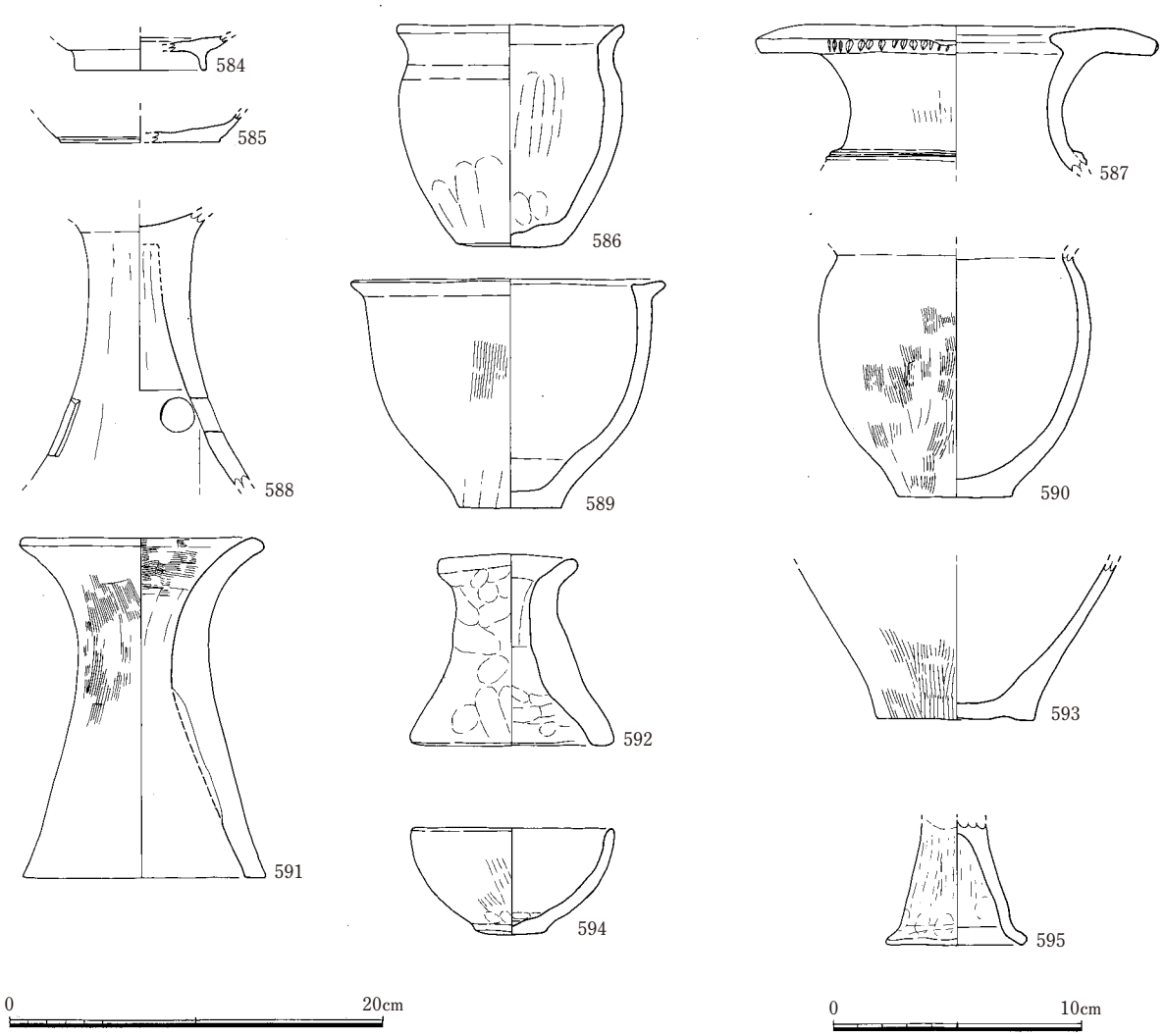


図 69　D・E－5区 SD 01出土土器実測図2（1/ 3・1/ 4）

（6）C～E－5区ＳＤ０１出土土器（図 68・69）

571 はＣ－５区ＳＤ０１上端付近で出土したコップ形土器で口径 7.8cm、器高 9.5cmを測る。572 は須恵器坏身で、口径 9.0cmを測る。573 は須恵器坏蓋で口径 12.5cmを測る。574 は須恵器の壺か。いずれもＤ－５区１層出土。575 ～ 579・581 もＤ－５区１層出土。580 は２層出土で、弧状の文様を貼りつけている。582 はＳＤ０１上端付近の地山直上出土の壺。595 の高坏脚部は１層、583 は中層出土。

584 ～ 595 はＥ－５区出土。584 は１層出土で、土師器の高台付碗。585 は土師器の皿で底部は糸切りである。587 ～ 590 は中層出土。592・593 は下層上部出土で、591・594 は最下層出土である。

（7）ＳＤ０３出土土器

ＳＤ０３からはコンテナ２箱程度が出土したが、大半は細片で、時期が明確に分かる土器は弥生時代中期から後期である。

5　D・E－5・6区間ベルト出土土器（図71～図76）

5・6区間ベルトは調査の最後で撤去を行い、最上面の土器群9Aのみ遺物番号をつけて取り上げた。土器群9Aはこのベルト付近から出土量が多くなり、完形に近い土器の出土が増える。

598～625は土器群9Aから出土した。甕は多くが外反口縁で、しっかりとした平底を有する。609はあまり見ない器形の頸長壺で、外面は一部にハケメ痕跡が残っているが、ほぼ全面ミガキ調整で仕上げている。610はかなり大型の土器である。621・622は器高の低い（11cm前後）器台で、622は口縁部が袋状を呈している。

626～645は土器群9A以外の土器である。626は最上層出土の布留式土器で、口径17.8cm、器高25.4cmを測る。肩部に全周しない沈線を1条施している。627も丸底の甕である。内面下部にケズリ痕跡が残るが、上部はハケメで仕上げている。637は口径13.4cmを測る。中国地方の土器か。652は特殊な器形である。全体は椀形を呈し、口縁部下に鍔状の突帯を貼りつけている。両面ともミガキで仕上げ、両面ともわずかに赤彩の痕跡が残っている。弥生土器か。

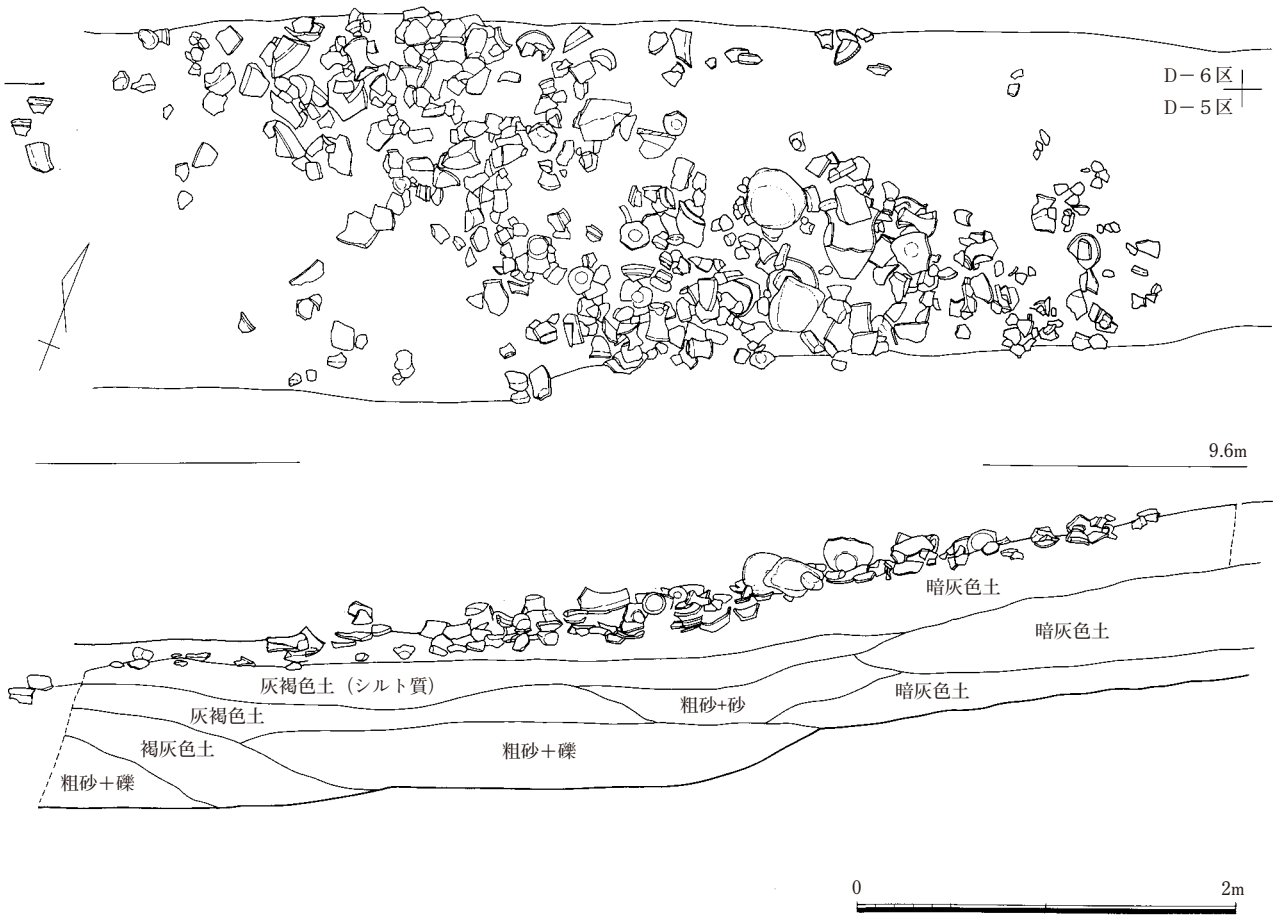


図70　D・E－5・6区間ベルト土層断面実測図（1/40）

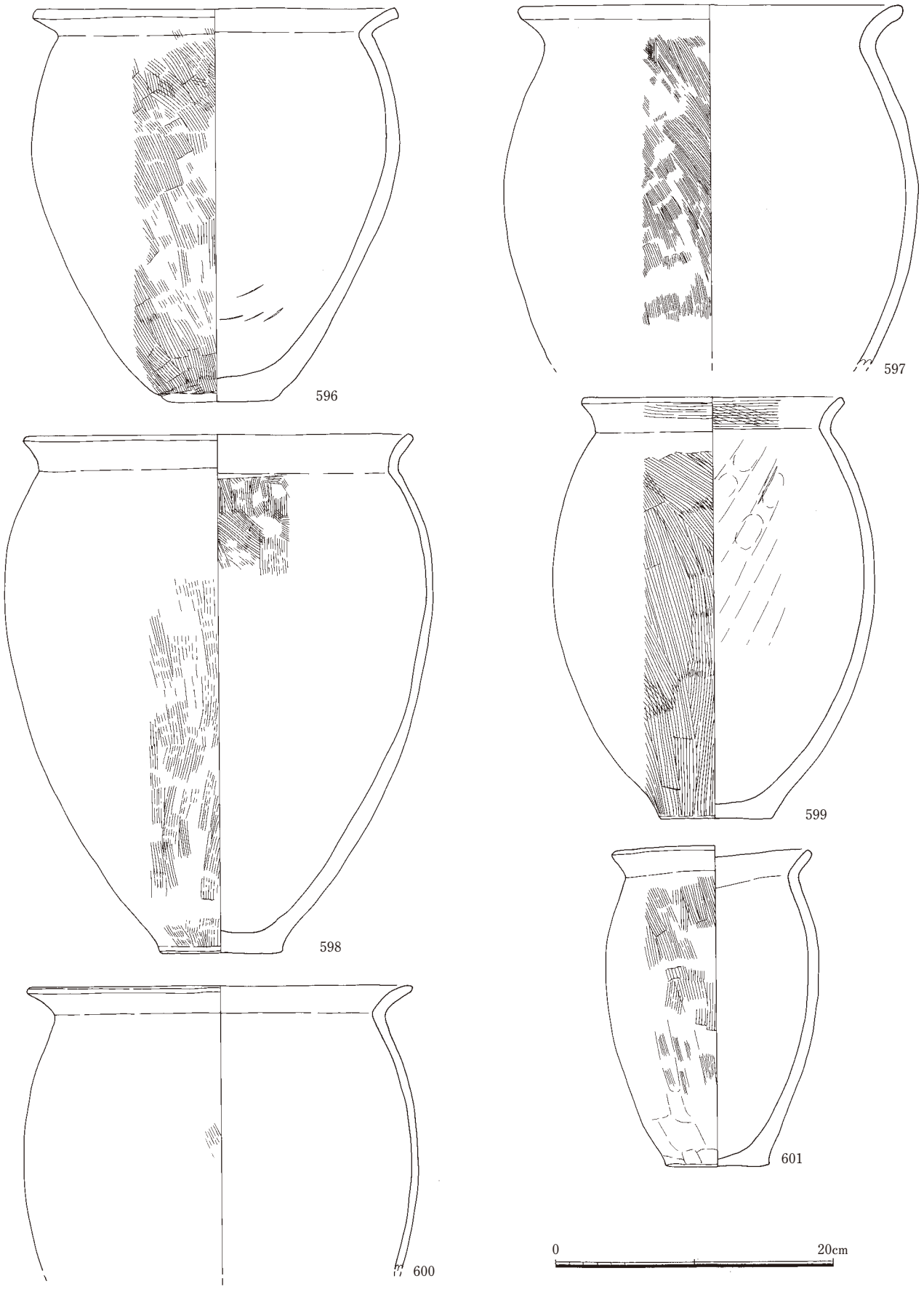


図 71　D・E－5・6区間ベルト出土土器実測図1（1/ 4）

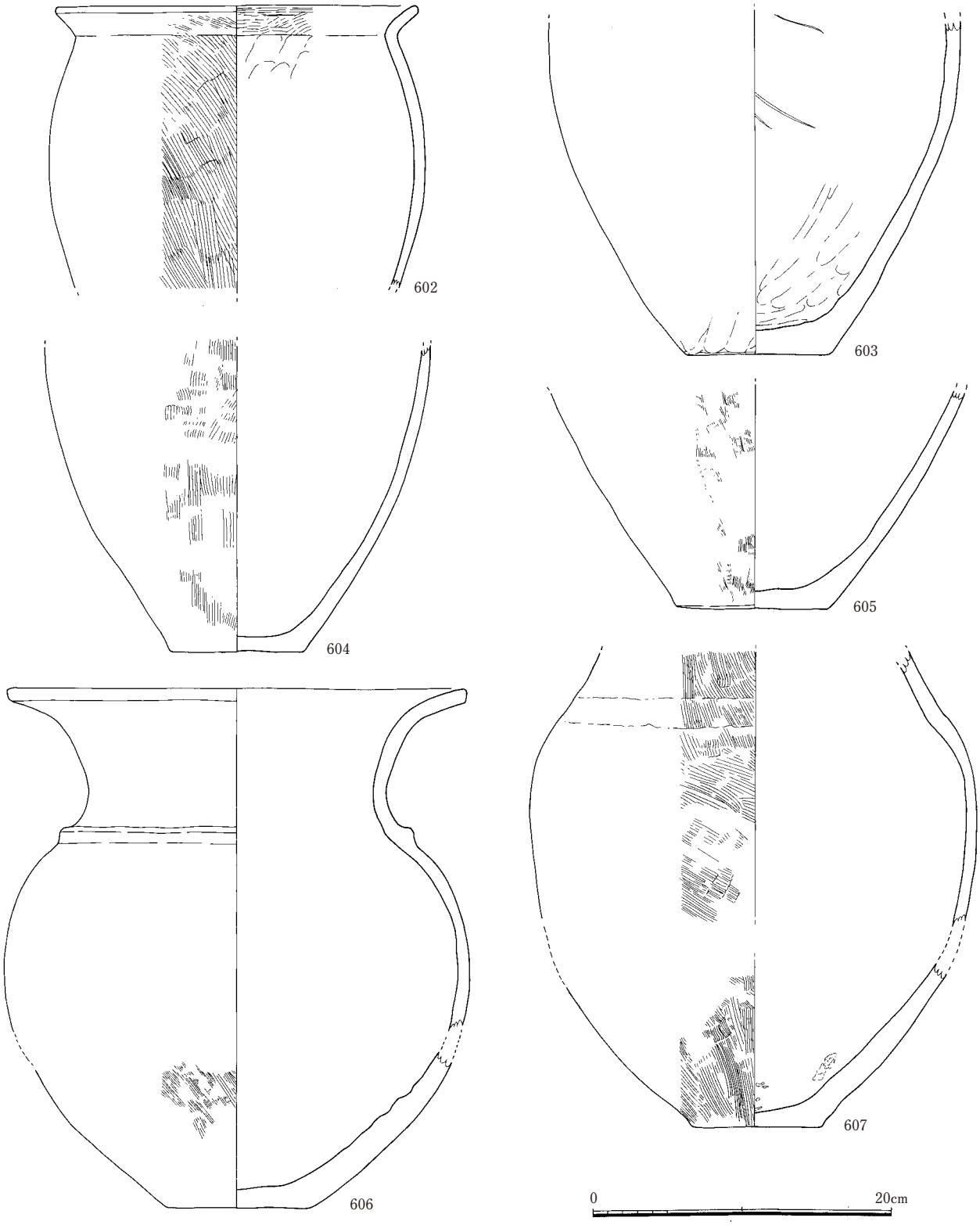


図 72　D・E－5・6区間ベルト出土土器実測図2（1/ 4）

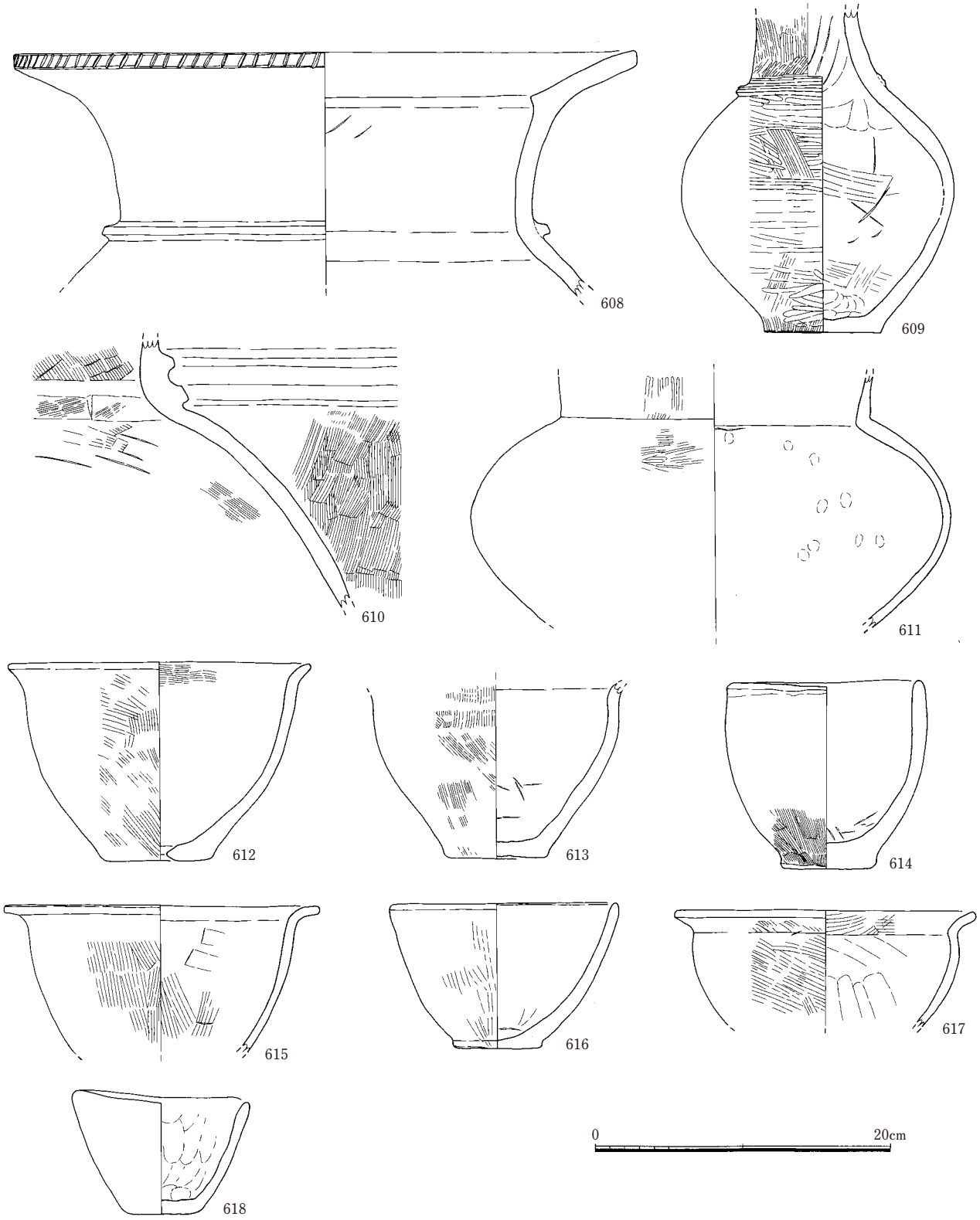


図 73　D・E－5・6区間ベルト出土土器実測図3（1/ 4）

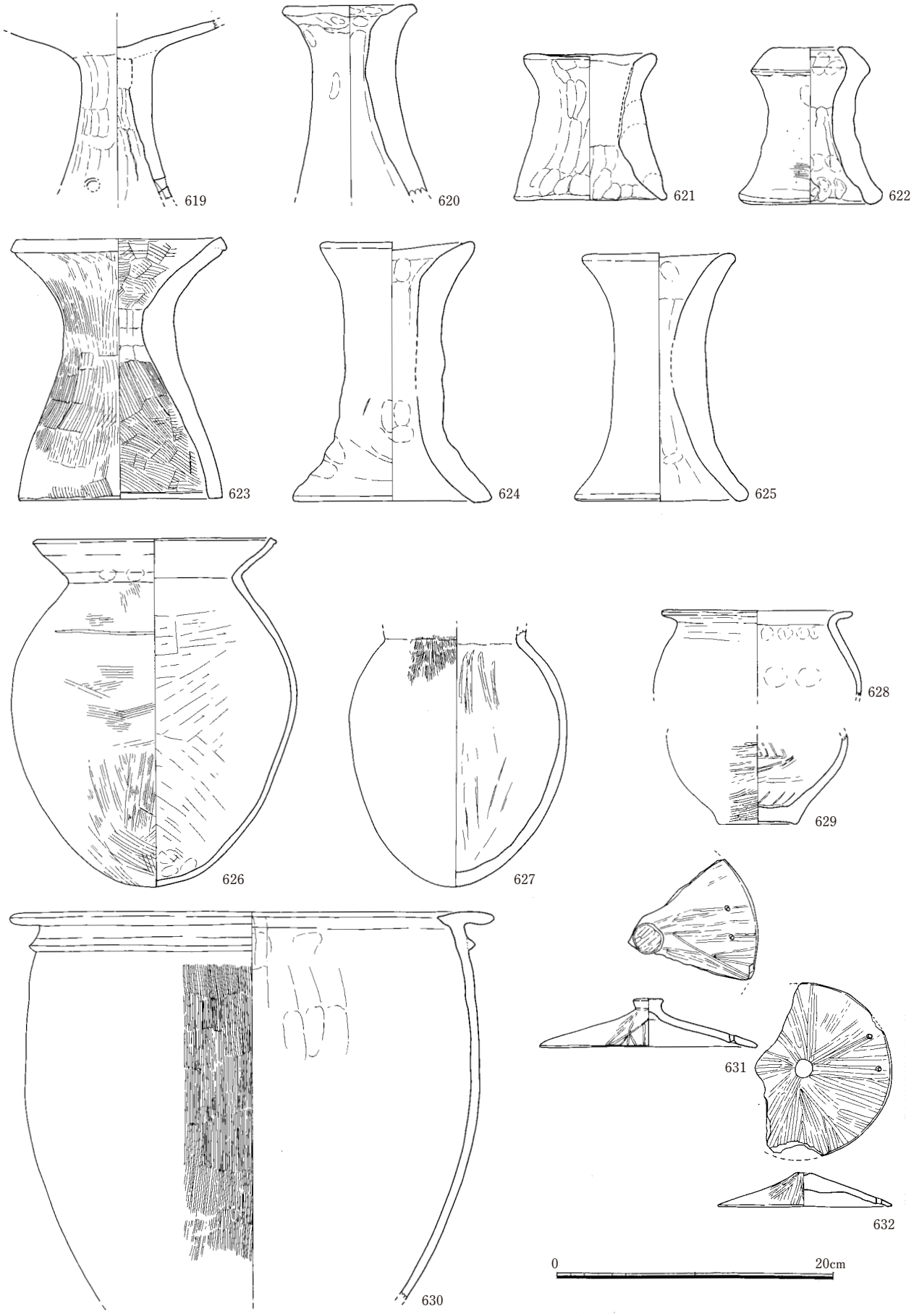


図 74　D・E－5・6区間ベルト出土土器実測図4（1/ 4）

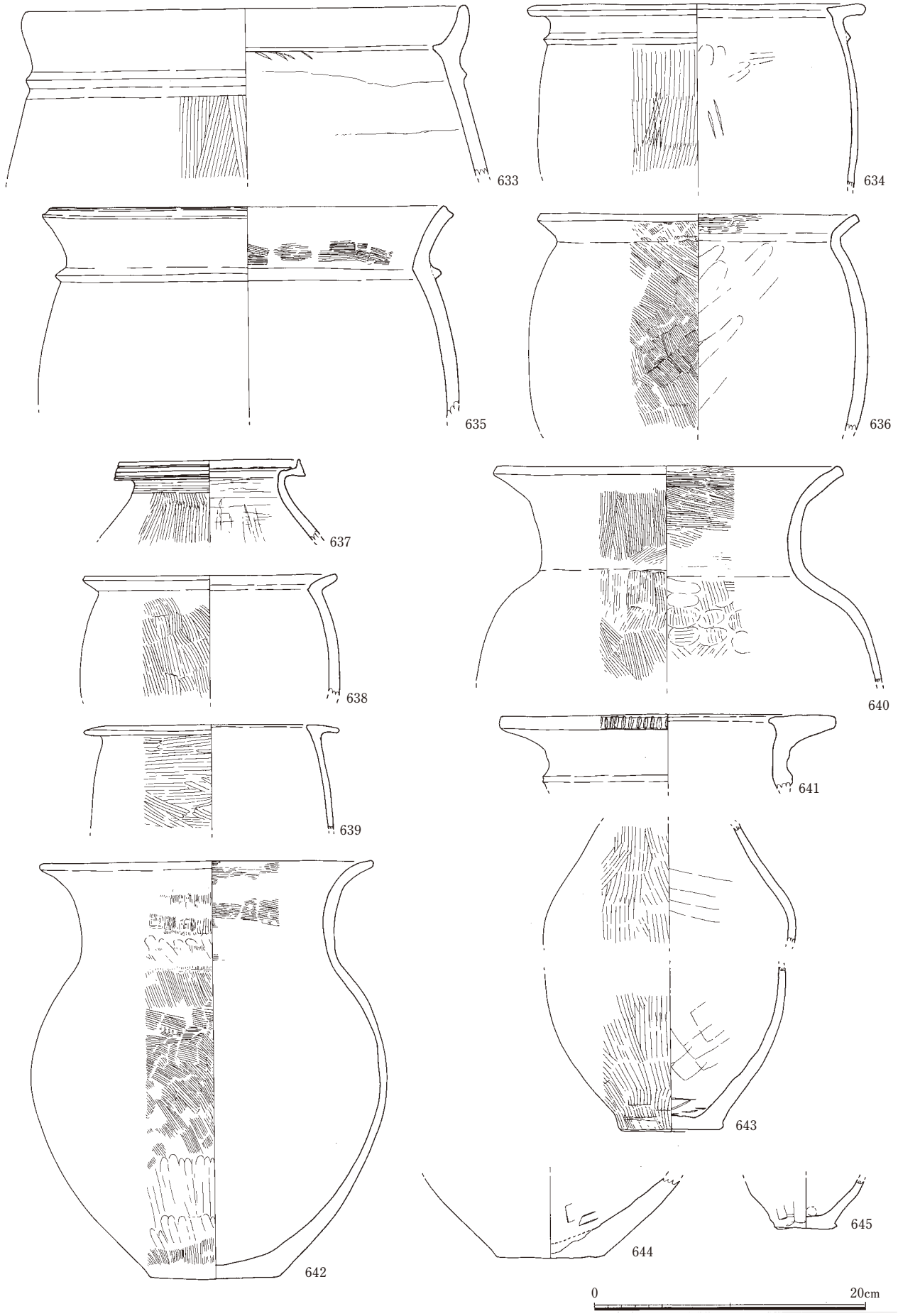


図 75　D・E－5・6区間ベルト出土土器実測図5（1/ 4）

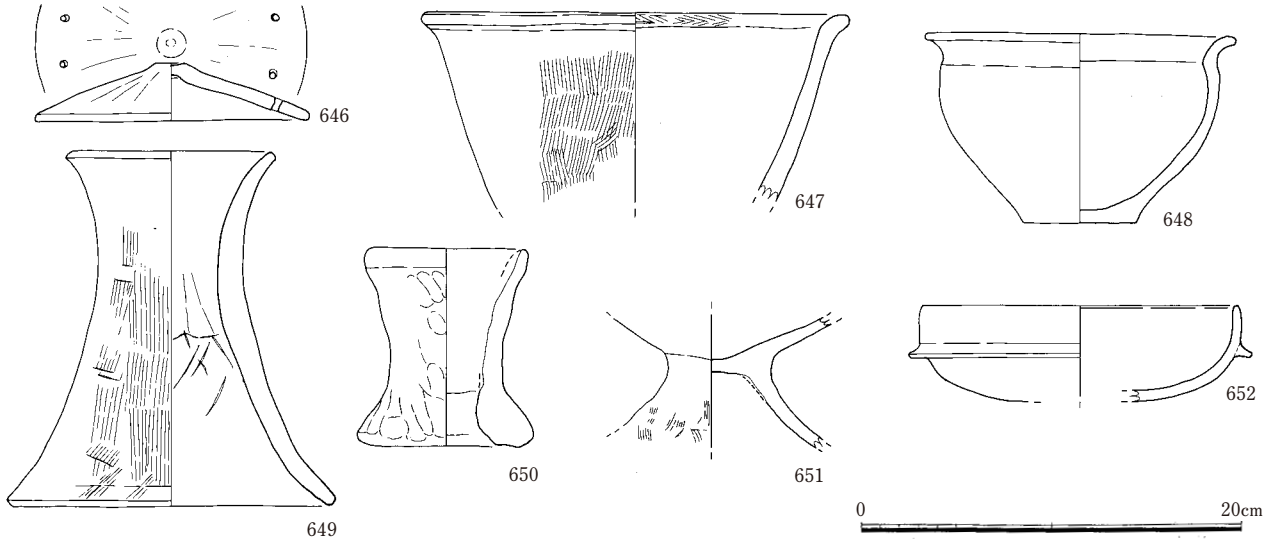


図 76　D・E－5・6区間ベルト出土土器実測図6（1/ 4）

6　A～E－6・7区出土土器

（1）A～E－6・7区の概要

この地点では、ＳＤ０１の西側立ち上がり上端が大きく西に触れている。流路の最深部は５区からそのまま直線的にあるため、西側立ち上がりがかなり緩やかな斜面を成している。この斜面上から大量の土器が出土した。A～E－6・7区で500箱を超える。土器群９はその斜面の中央付近を走っており、最上面からＳＤ０１の床面近くまでの深さ約１ｍの間に、土器が切れ間なく出土した。上層から下層までの土器の間にはほぼ間層を挟まず、上から出土した順に土器群９Ａから最土器群９Ｆまで６面に分けて土器を取り上げた。

土器群９Ａはほぼ6・7区を南北に貫いて分布している。大型の破片が多く、総量も多い。土器群９Ａの中には、下部の土器群９Ｃの大型土器の一部が含まれており、次々と土器をこの地点に遺棄していった状況が垣間見れる。この状況はＥ－１区の土器群９と同じような状況であるが、土器群５は弥生時代終末から古墳時代初頭の土器を大量に含み、格子目タタキを施した土器があったのに比べ、この地点では前者の土器が圧倒的に少なく、後者の土器を全く含まない。出土した土器の破片は大きく、完形に近い土器も含んでいる。

土器群９Ｂも比較的９Ａに近い分布で、土器の量も多い。土器群９Ｃは主にグリッドの北側に分布し、以下９Ｄから９Ｆまでグリッド北側に分布し、北側の第52次調査へと続いている。下層に行くにしたがって分布範囲は狭くなっているが、いずれの群も完形に近い土器を含んでおり、それぞれの場所に遺棄したものと思われる。

土器群９の西側（Ｂ－６・７区付近）はＳＤ０１上端近くの浅い緩斜面を成しているが、この部分に、土器の細片が浅く広く堆積していた（土器群15)。土器はローリングを受けたものが多く、上方から流れてきた土器片が堆積したものと判断した。

Ｅ－６区では、ＳＤ０１東側の下端は大きく東側に入り込んでいる。この入り込んだ部分には縄文時代晩期の遺物が溜まった層があり、その層の上に弥生時代中期以降の層が堆積している。縄文時代晩期の包含層はＤ－４区など他の地点でも確認されており、ＳＤ０１の開削が縄文時代晩期であることの証左となるが、縄文時代の遺構と遺物に関しては、さらに報告書をあらためたい。

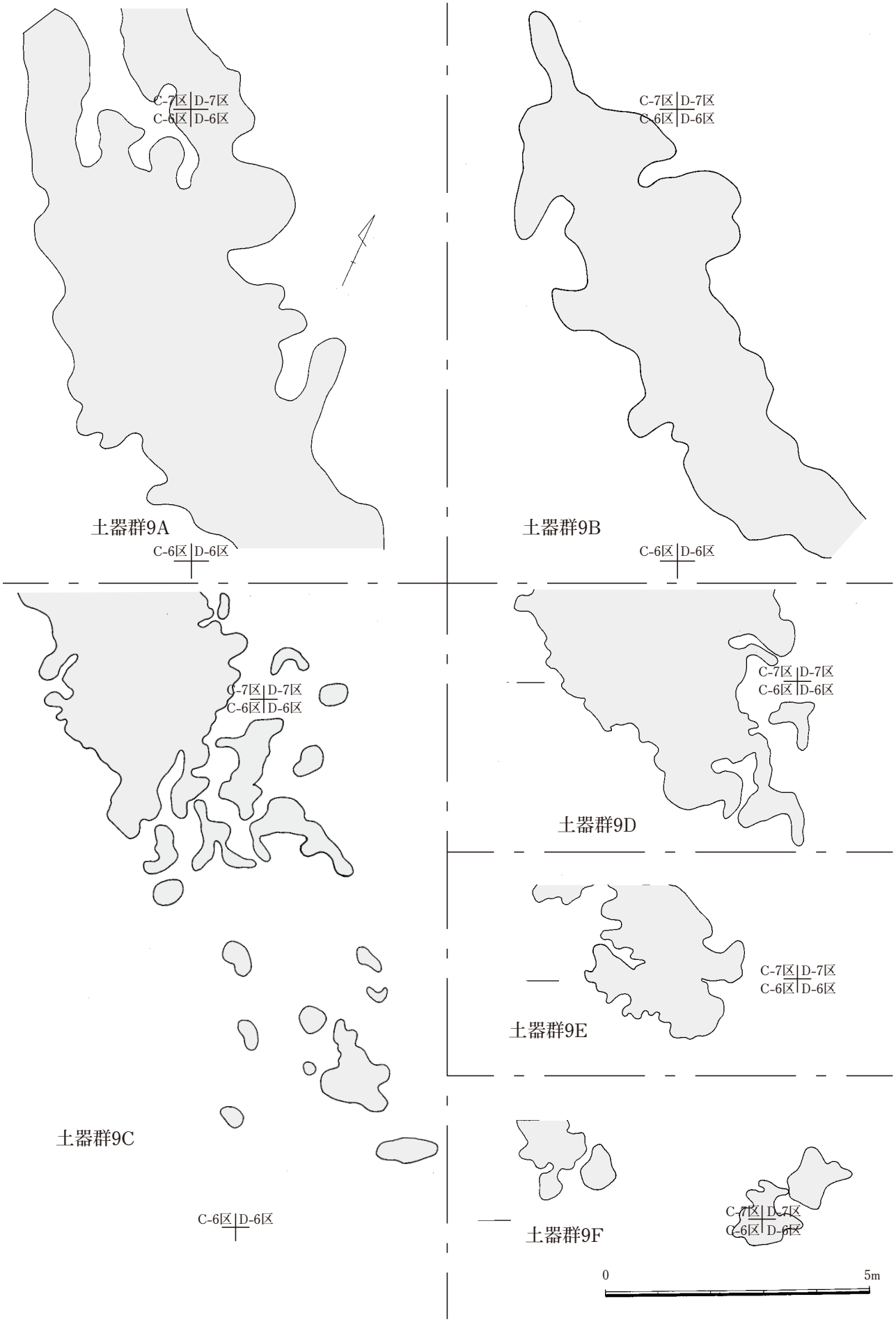


図 77　C・D－6・7区付近土器群9分布範囲図（1/100）

写真 10　C・D－6・7区土器群9B

写真 11　C・D－6・7区土器群9C

写真 12　C・D－6・7区土器群9E

写真 13　C・D－6・7区土器群9F

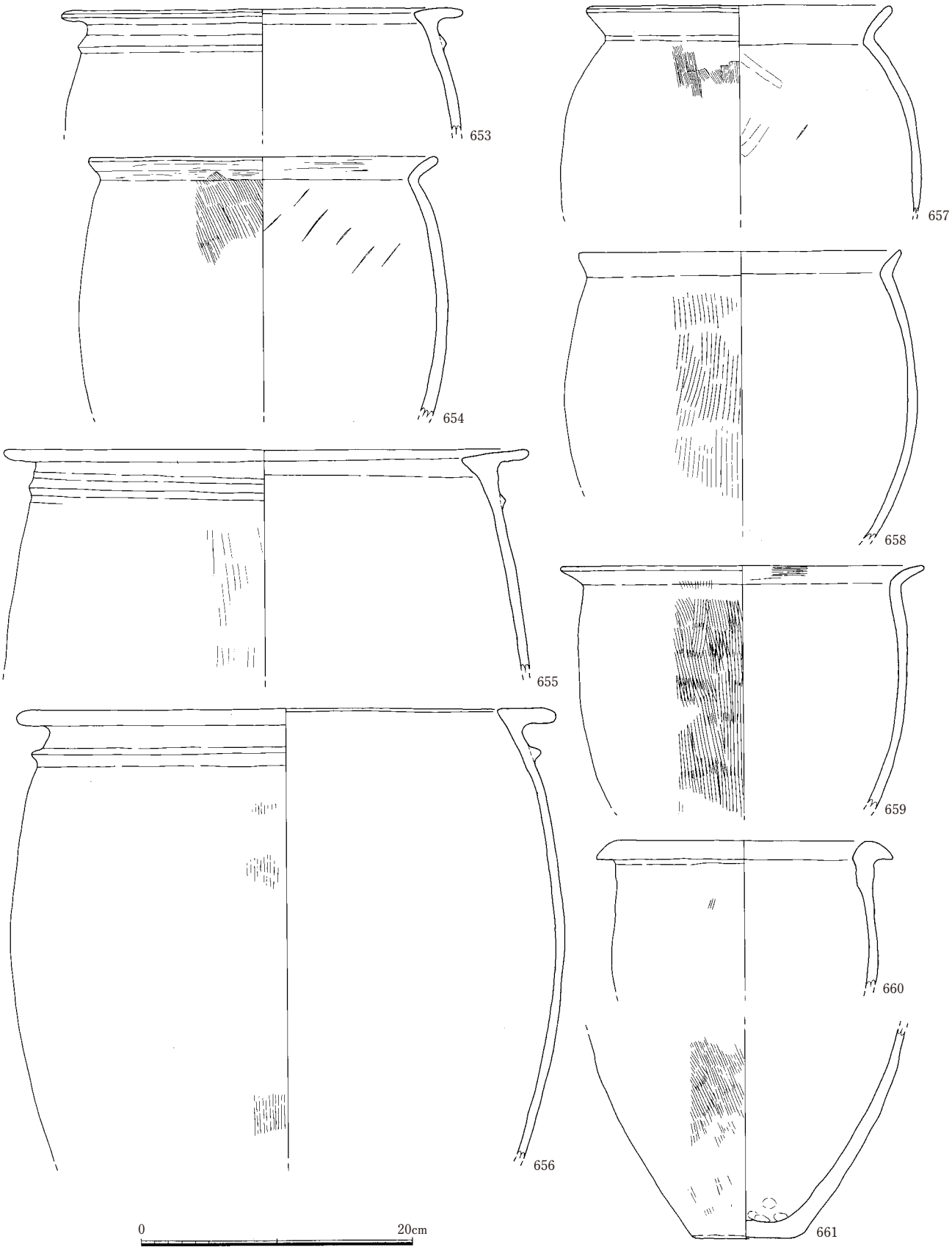


図 78　C・D－6・7区付近土器群9A 出土土器実測図1（1/ 4）

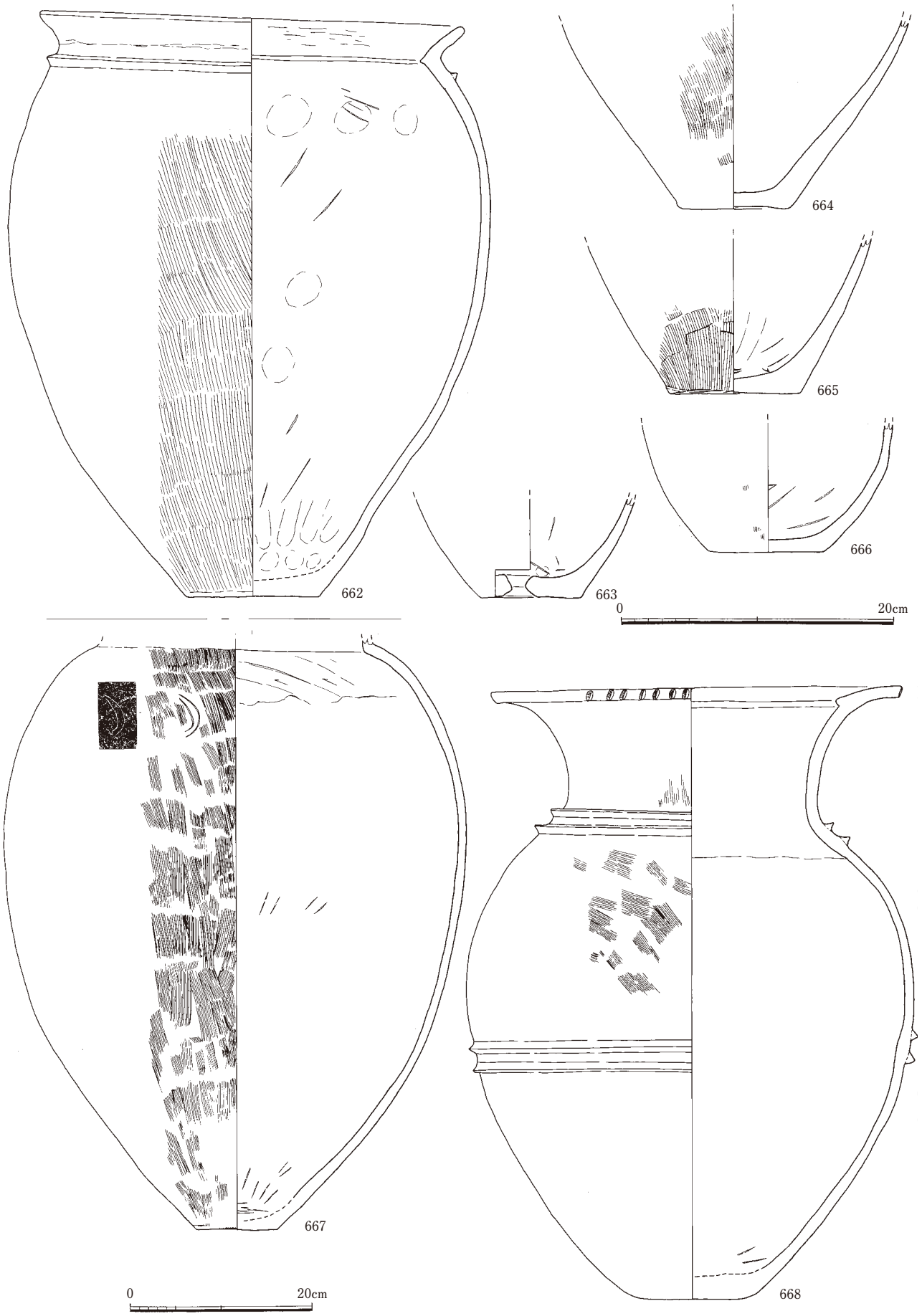


図79　C・D－6・7区付近土器群9A 出土土器実測図2（1/4・1/6）

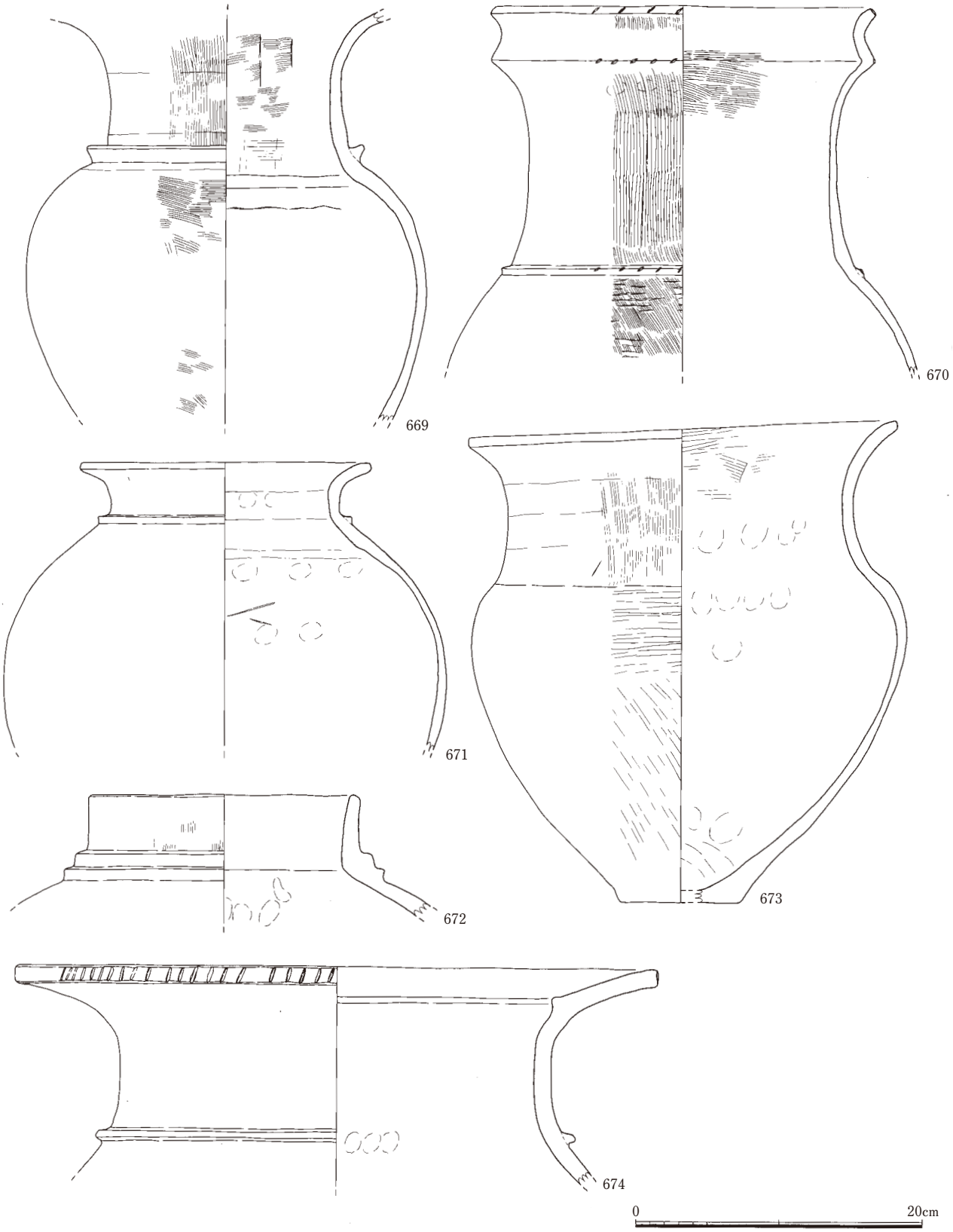


図 80　C・D－6・7区付近土器群9A 出土土器実測図3（1/ 4）

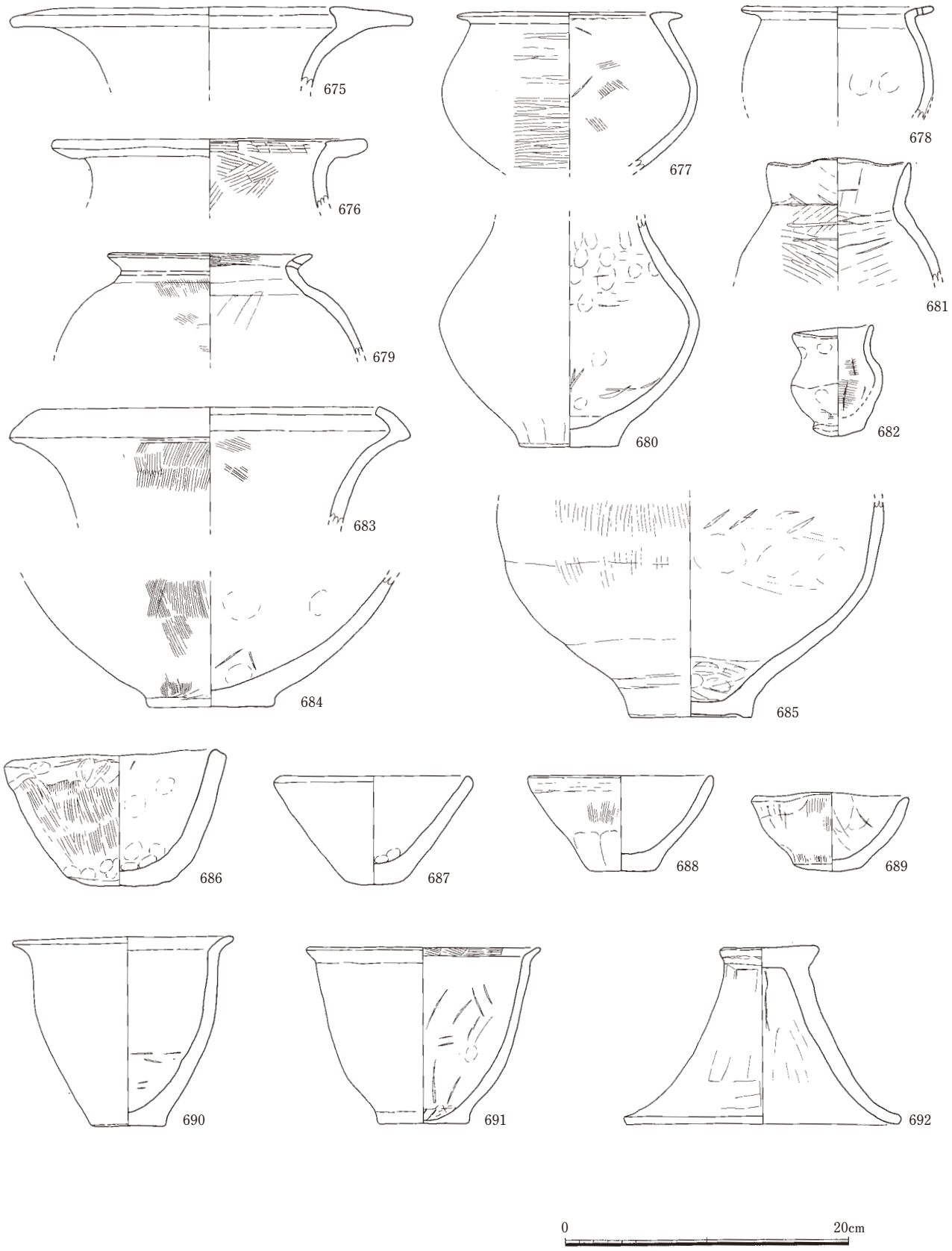


図 81　C・D－6・7区付近土器群9A 出土土器実測図4（1/ 4）

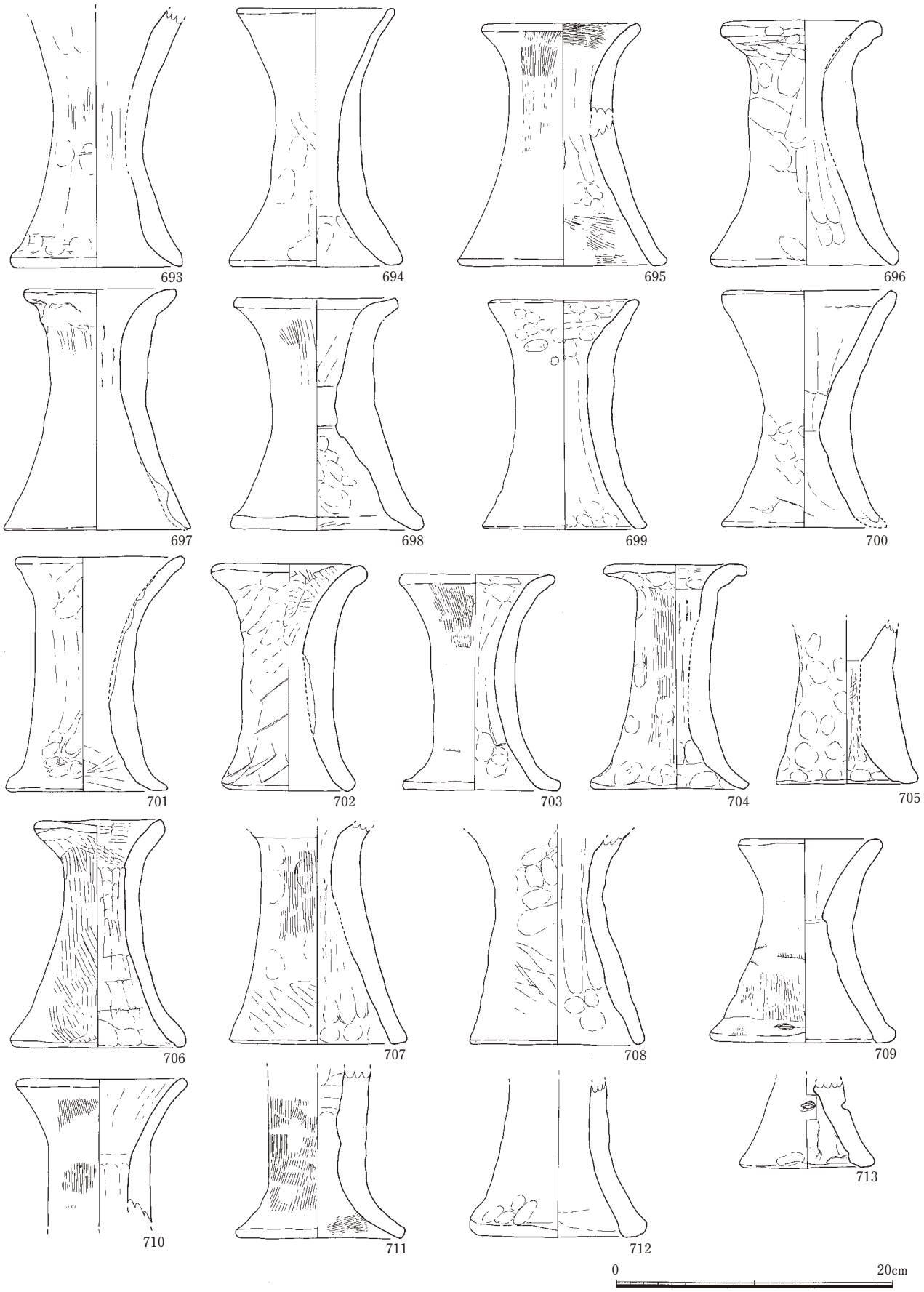


図 82　C・D－6・7区付近土器群9A 出土土器実測図5（1/ 4）

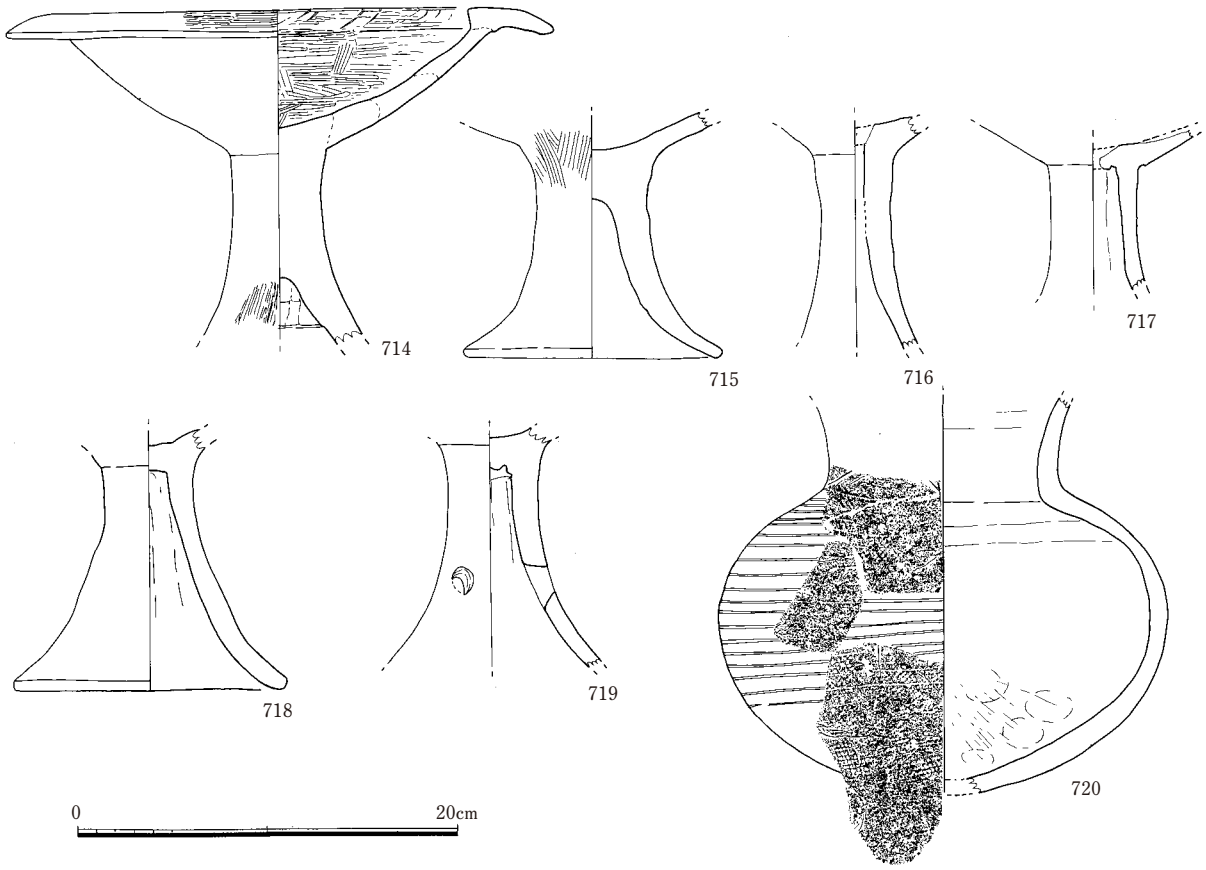


図 83　C・D－6・7区付近土器群9A 出土土器実測図6（1/ 4）

（2）C・D－6・7区付近土器群９Ａ出土土器（図 78 ～図 83）

土器群９Ａは全体の量に比して甕・壺の量がやや少なく、器台の個体数が多い。ただし甕・壺も完形近くまで復元できるものもあり、大きな破片が多い。中期から後期のものまで含んでいるが、終末期のものはかなり少ない。662・667 は口縁部の一部を欠くだけである。660 は外面肩部に鉤状文の線刻が施されている。680 は一見、前期の壺の形態を呈している。土器の作りなどから後期土器と思われる。682 は壺のミニチュアであるが、手捏ねに近く、全体が歪んでいる。692 の蓋は口径に比して器高が高い。693 ～ 713 の器台は、器台の特質（厚く頑丈）のためもあり、完形のものが多いが、当区は特に出土比率が高い。720 は陶質土器で､胴部最大径 23. 8 ㎝を測る。両面とも黒色を呈している。外面の文様はかない摩耗しているが、胴部下半に細かな格子目タタキが見える。胴上半部は横方向沈線 20 本の下に地文状にタタキの痕跡が確認できる。摩耗のため一部を除き明瞭ではないが、胴下部と同様に格子目タタキと思われる。内面はほぼ全面ナデ調整が施され、本来あったと思われる当て具の痕跡は確認できない。焼成は土器よりは固く須恵器よりは悪い。全体的に器面の保持が悪く、内面頸部周辺は、破裂痕状の小さな剥落が多い。

（3）C・D－6・7区付近土器群９Ｂ出土土器（図 84 ～図 90）

甕はやや外反口縁を有する長胴のものが大半を占めている。724 はその中でも長めの胴部である。外面はハケメ、内面はナデ調整で仕上げているものが多い。734 の破片は内面に爪状の痕跡が多くついている。735・736 の穿孔部分はいずれも焼成後の穿孔である。740 は全体丸みを帯びた形である。壺は中期的なものと後期のものが混在する。外面をハケメで仕上げているものが比較的多い。また土器群９Ａや他のグリッドに比べて、袋状口縁を有する長頸壺が多い。739・741・749 は胴部や口縁部

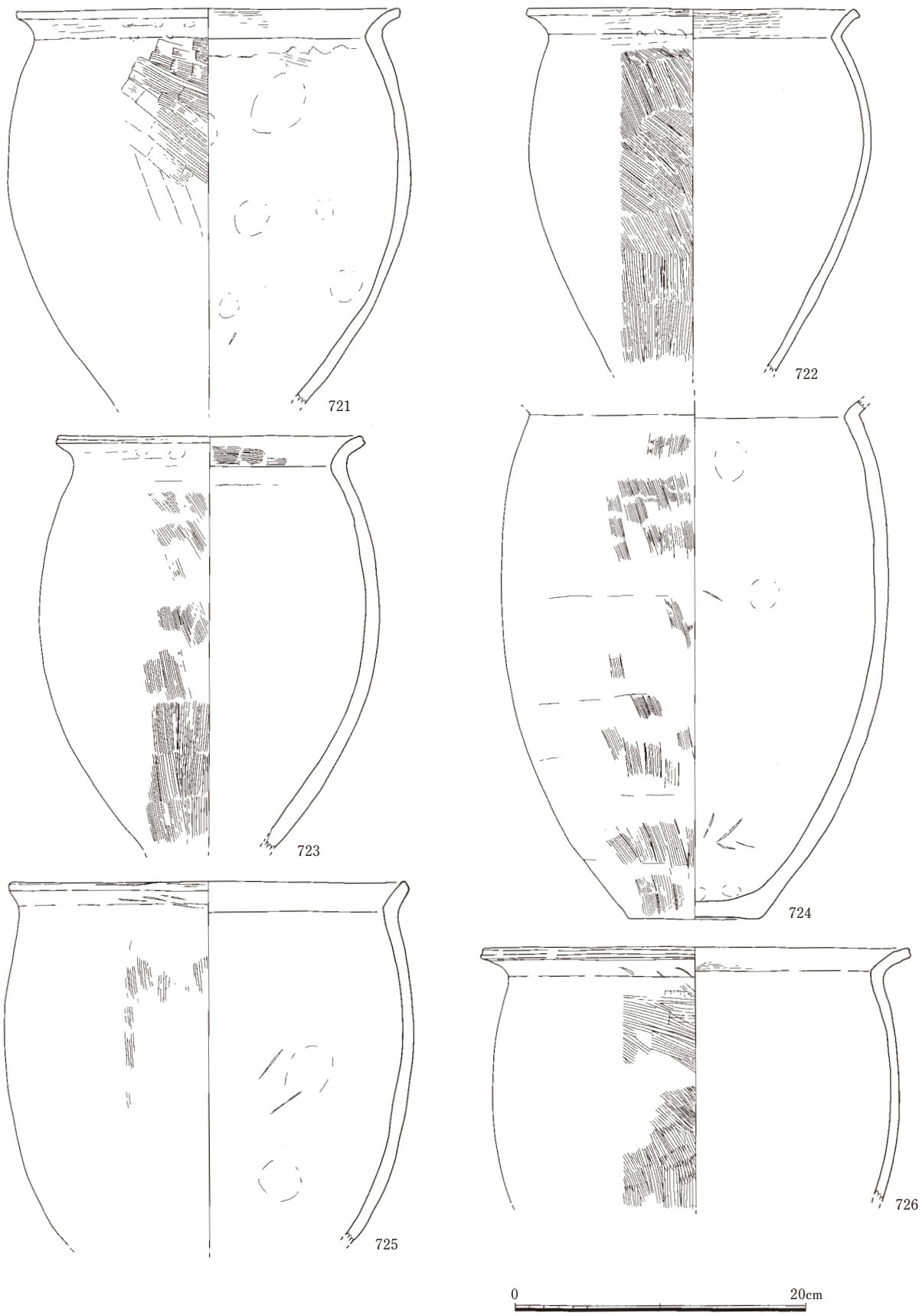


図 84　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図1（1/ 4）

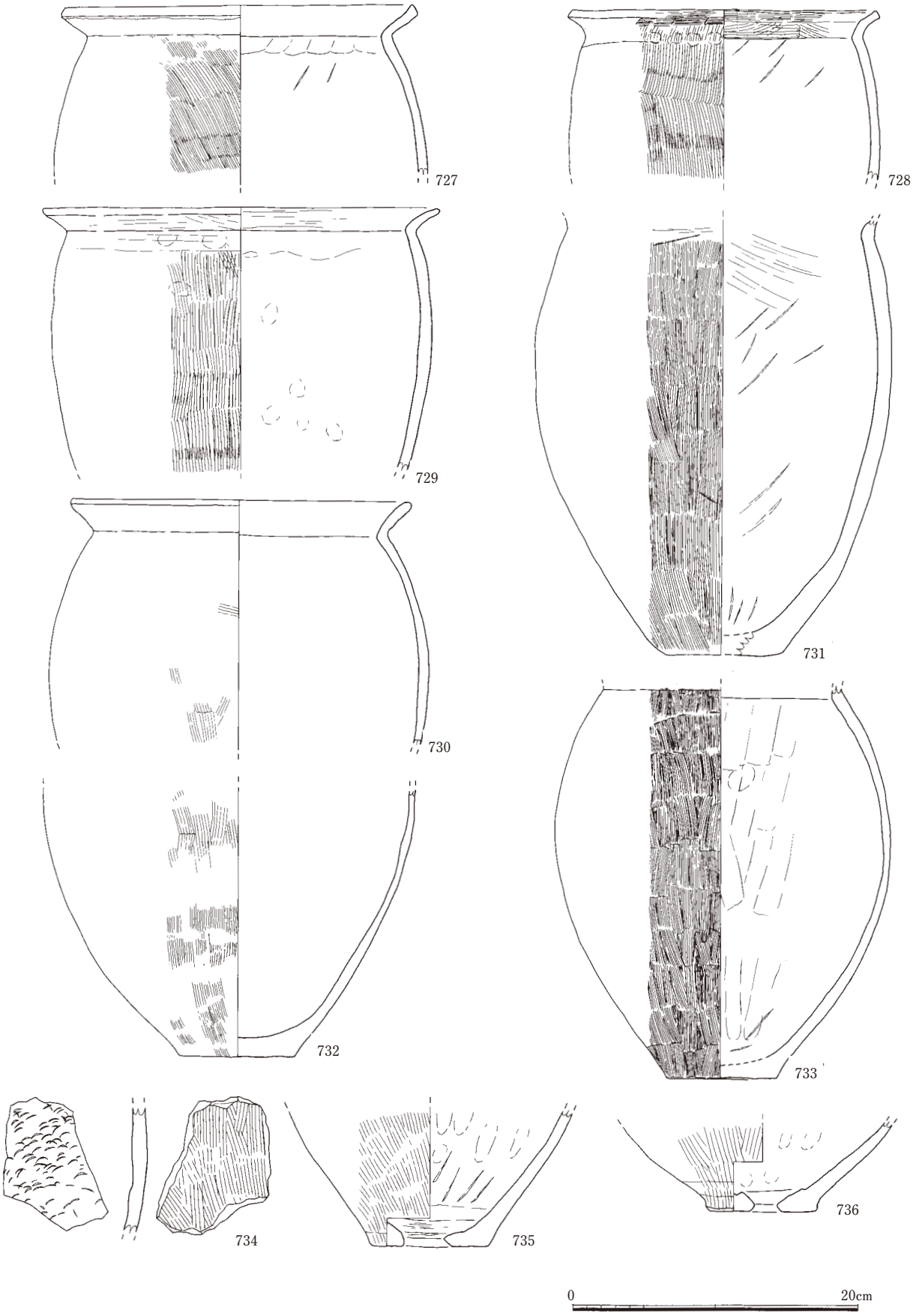


図 85　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図2（1/ 4）

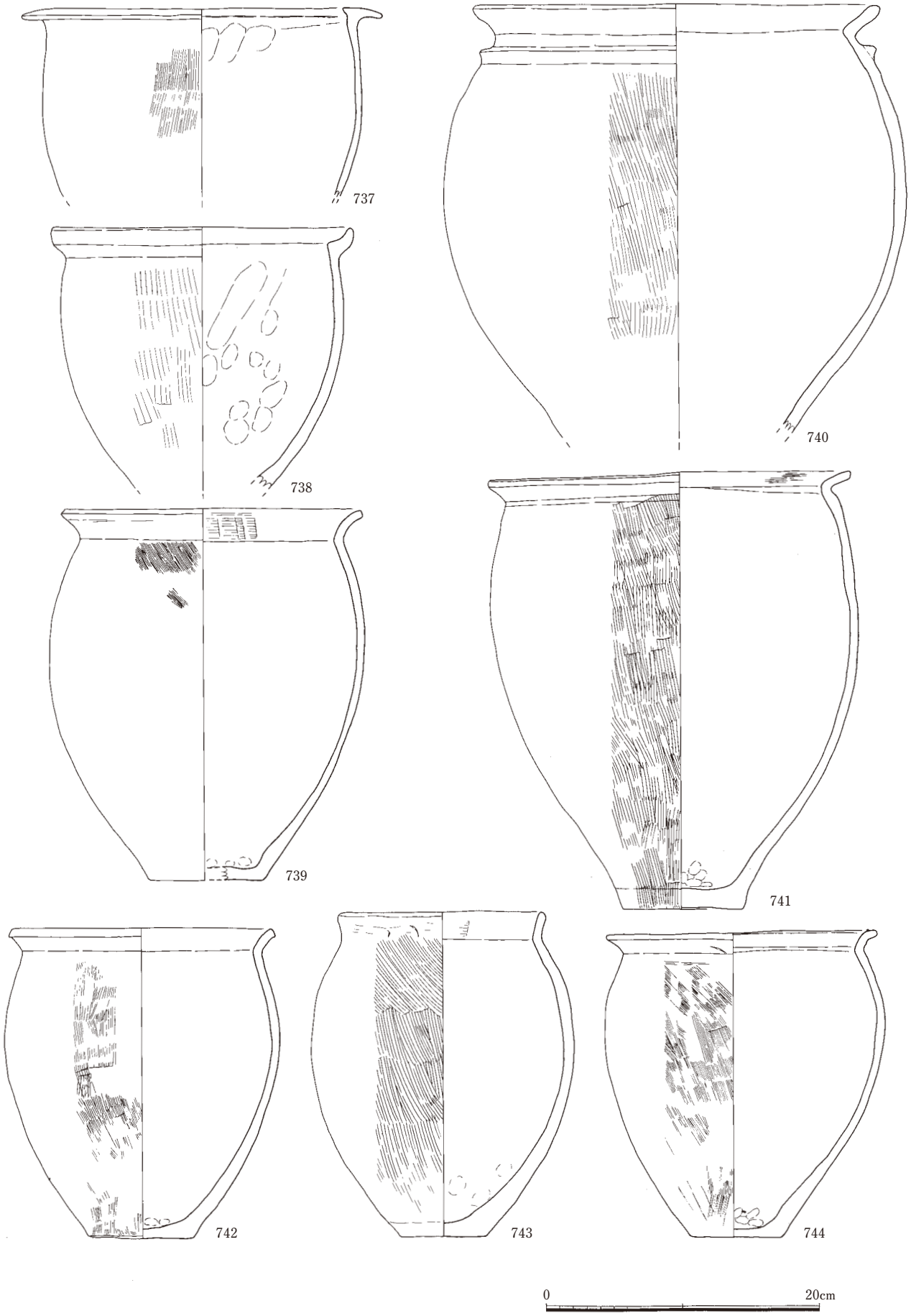


図 86　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図3（1/ 4）

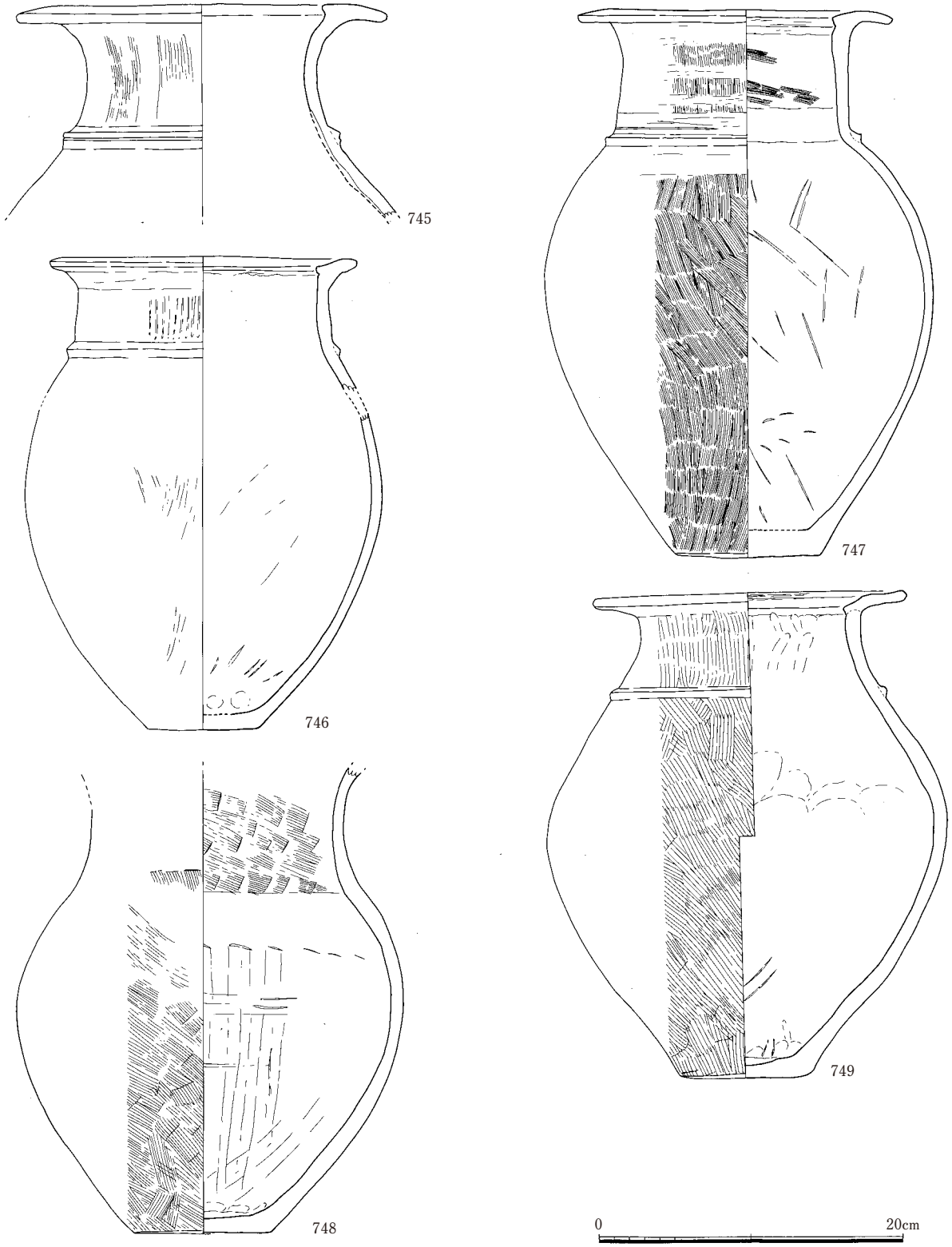


図 87　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図4（1/ 4）

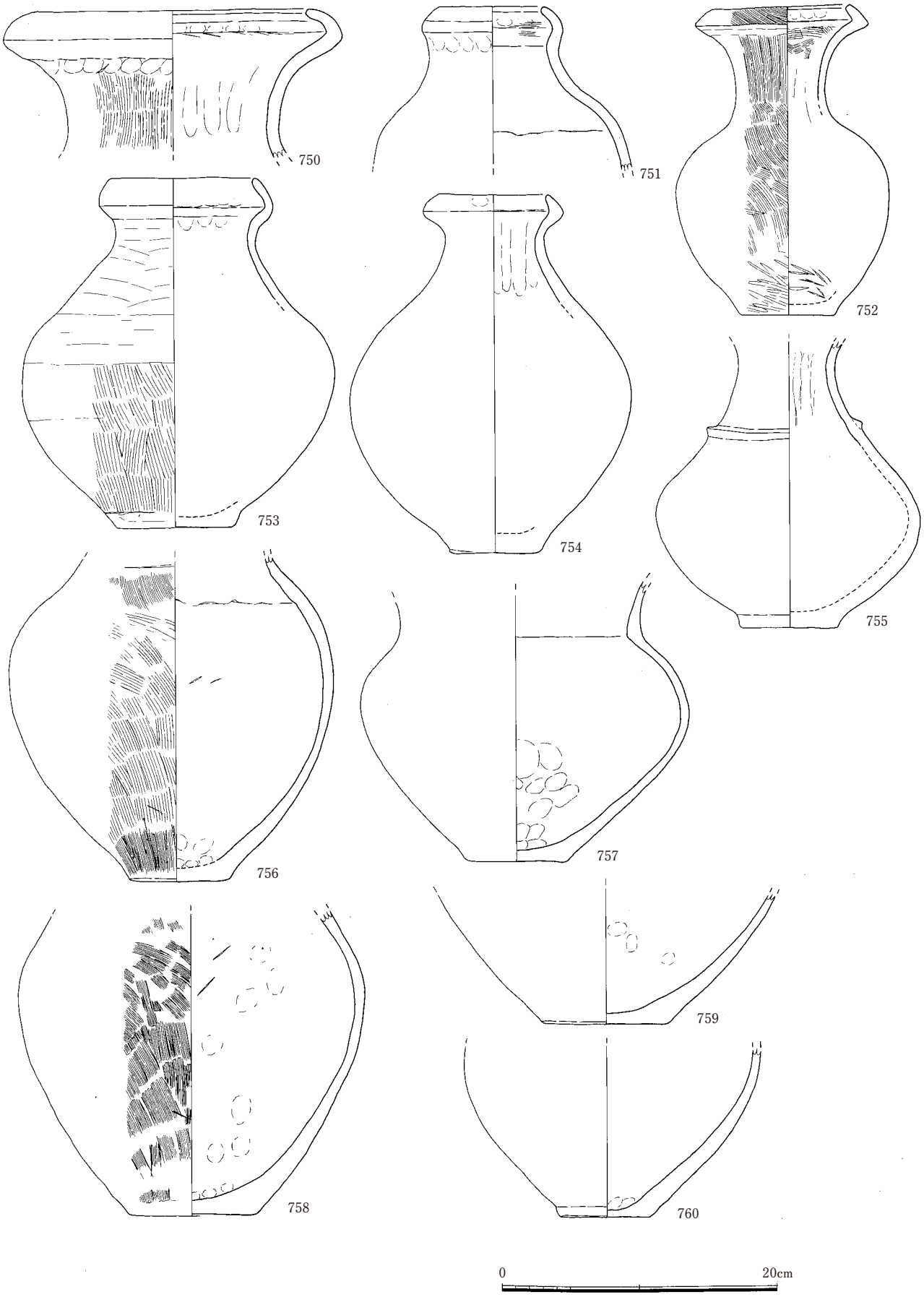


図 88　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図5（1/ 4）

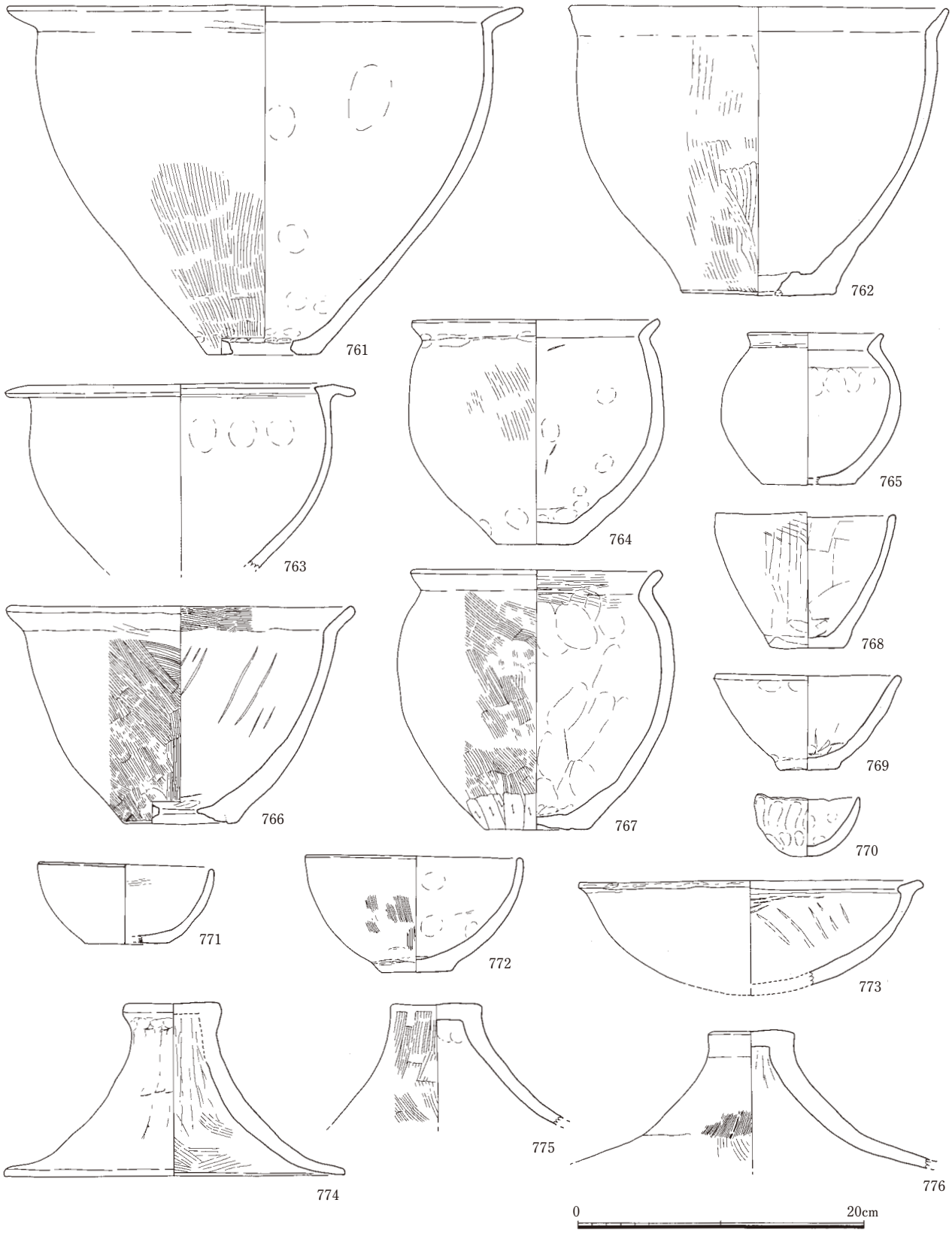


図 89　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図6（1/ 4）

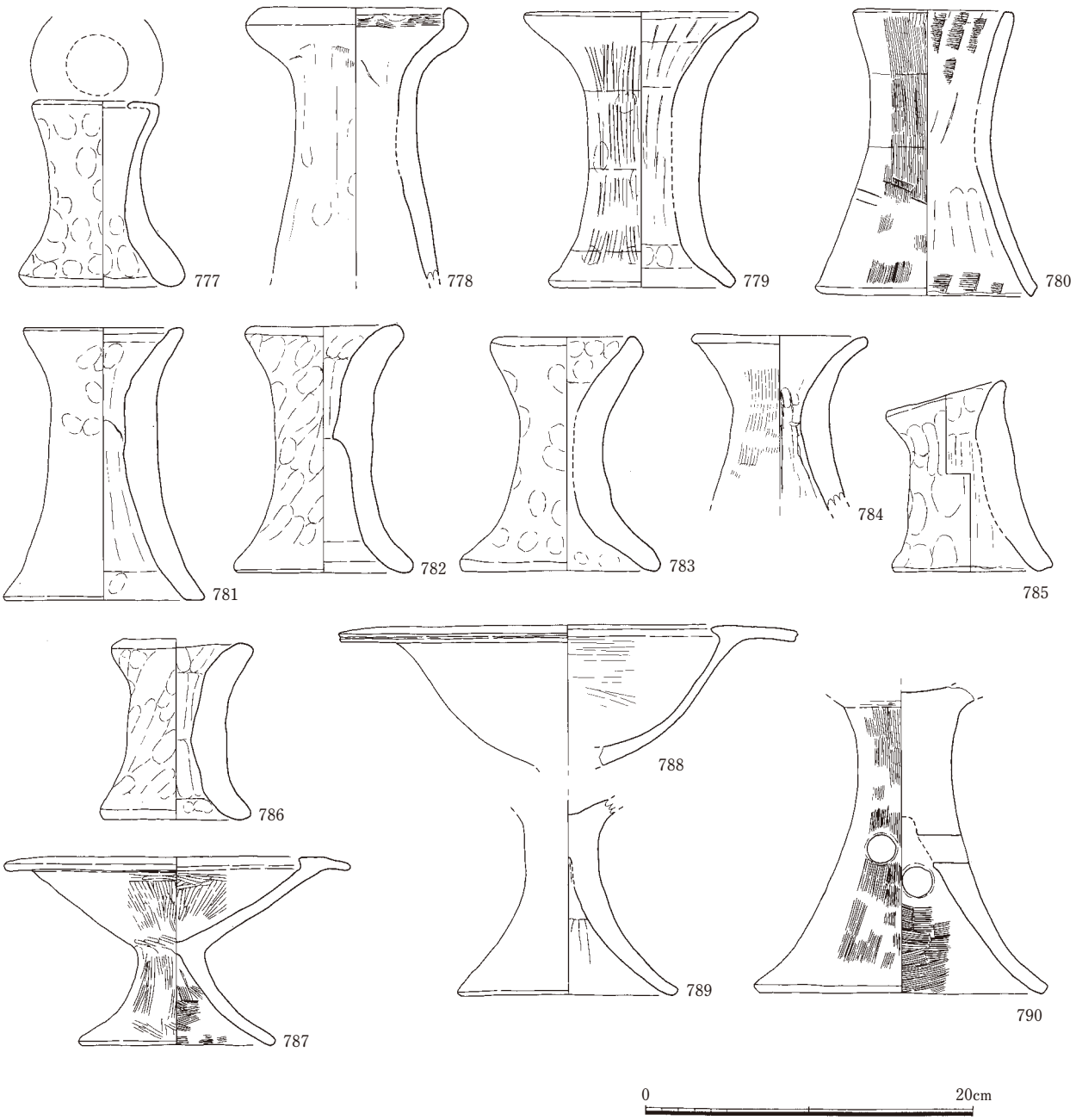


図 90　C・D－6・7区付近土器群9B 出土土器実測図7（1/ 4）

の一部を欠いているだけで完形に近い。鉢は形態・大きさともに多種多様なものが出土している。761 の鉢は口径 36. 5㎝、器高 24. 3㎝を測る大形の鉢で、底部中央に焼成後の穿孔が施されている。また 762・766 も同様に底部中央に穿孔を施している。器台は９Ａに比して量が少ない。777 は口縁部が鋭角に内面に折れ曲がり、口縁部の器壁が薄くなっている。778 はやや袋状を呈している。785 は全体がかなり歪んでおり、器台として使えるだろうか。高坏も量的に少ない。787 は器高 11. 6㎝と短い。坏部はほぼ直線的な体部を成している。

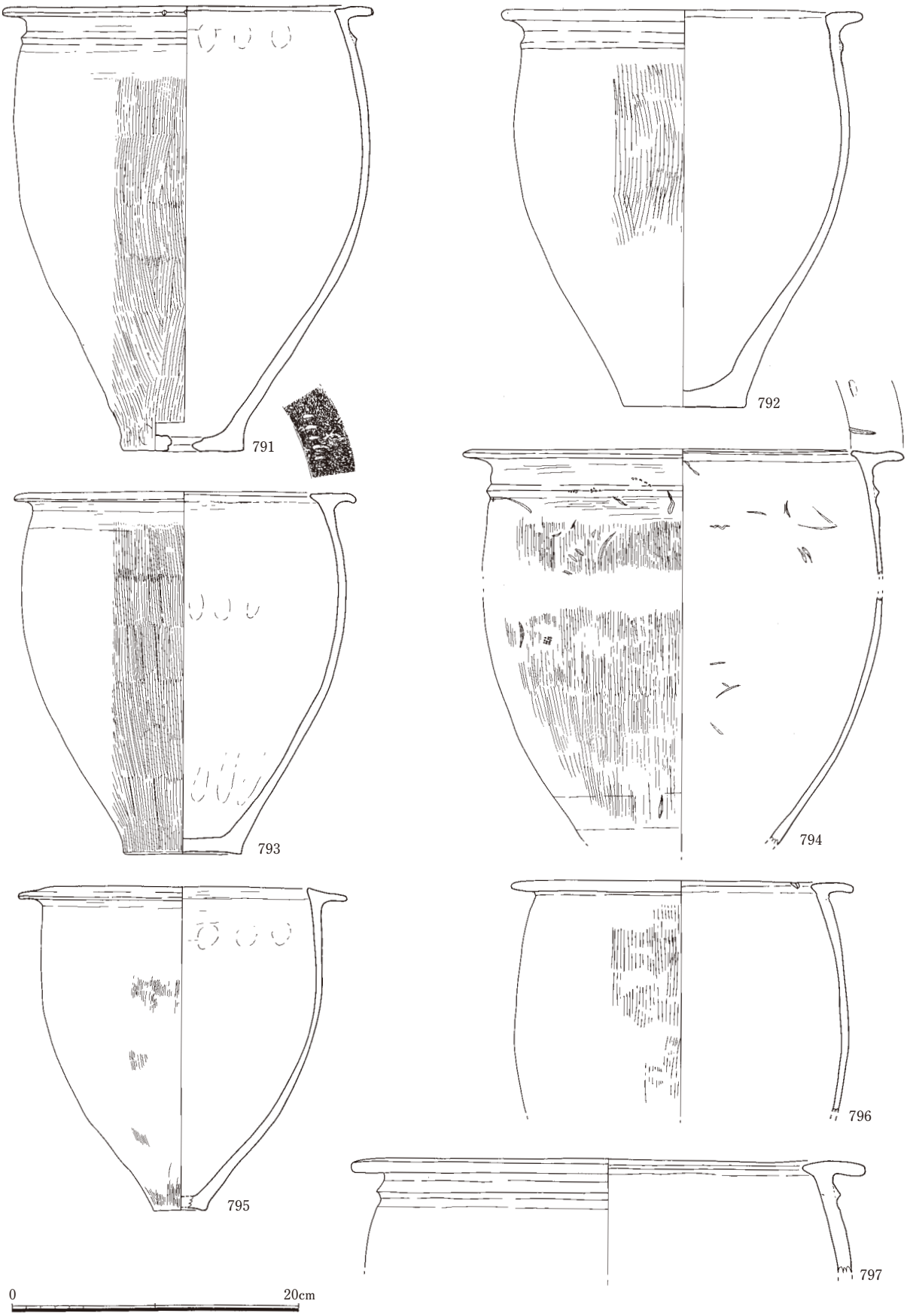


図 91　C・D－6・7区付近土器群9C 出土土器実測図1（1/ 4）

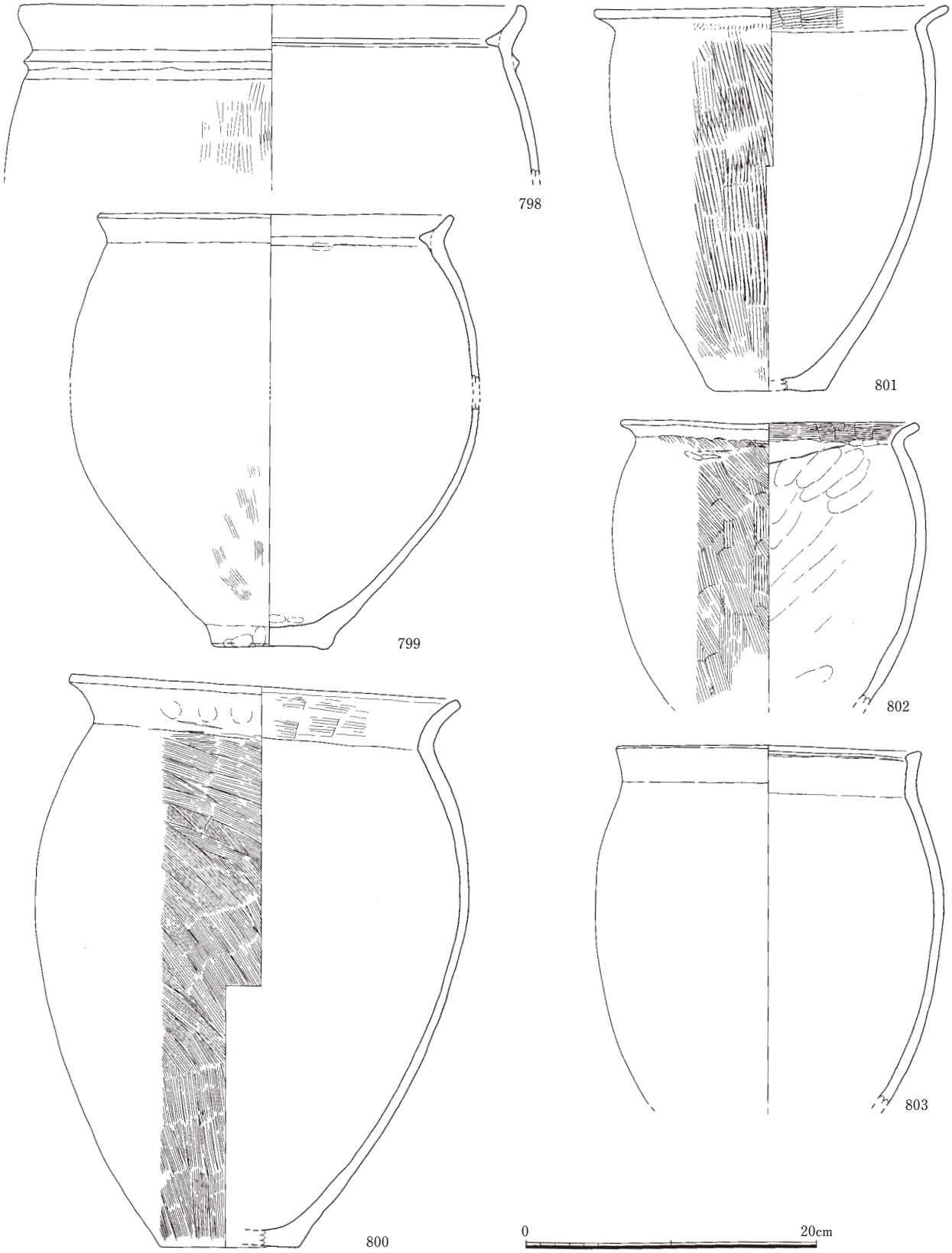


図 92　C・D－6・7区付近土器群9C 出土土器実測図2（1/ 4）

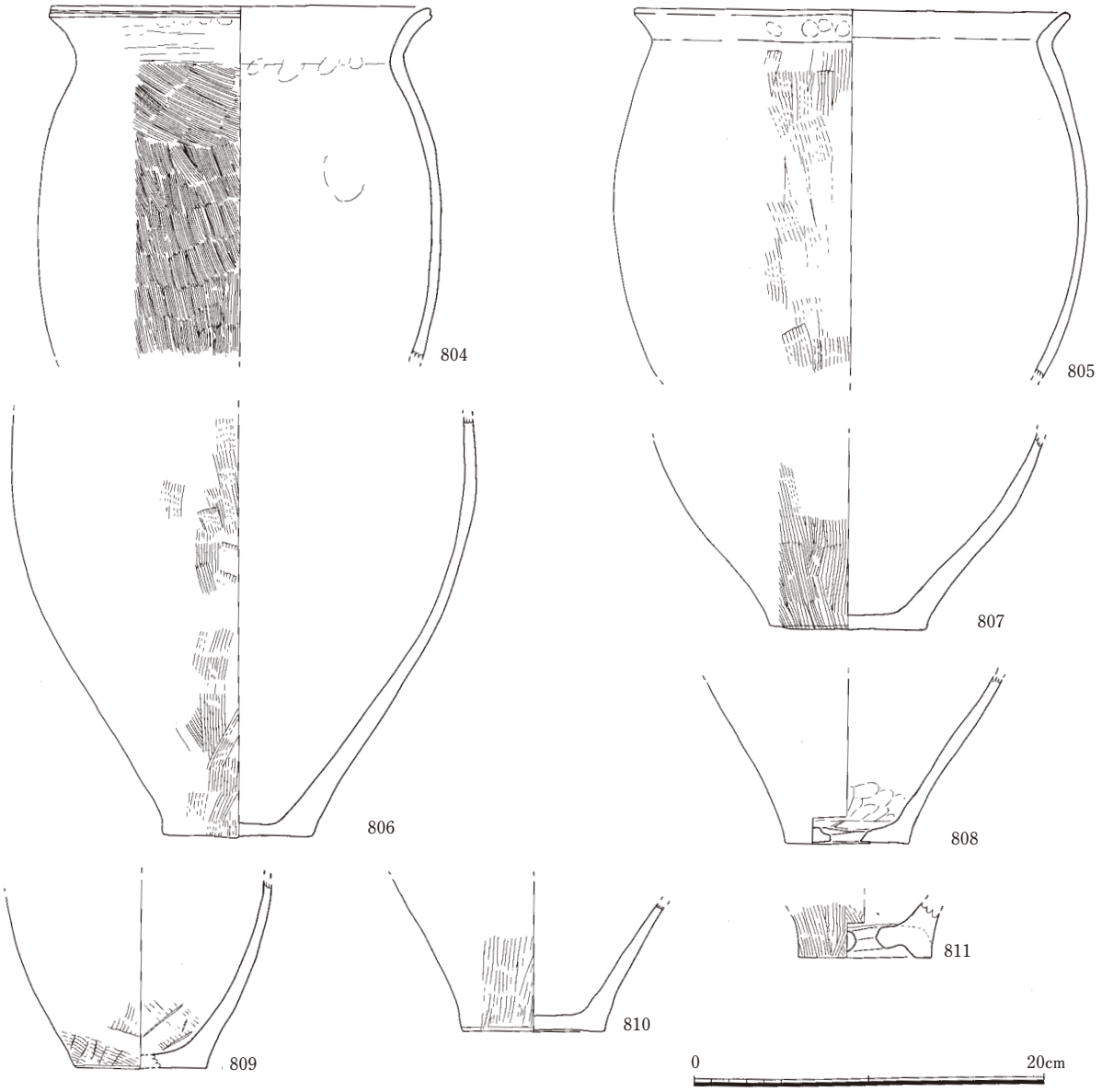


図 93　C・D－6・7区付近土器群9C 出土土器実測図3（1/ 4）

（4）C・D－6・7区付近土器群９C出土土器（図 91 ～図 96）

土器群９Cも中期と後期が混在するが、A・Bに比べ中期土器の量的割合が増えている。また大型の破片や完形近くに復元できるものが多い。特に甕は復元完形に近いものが多い。791・808・811 は底部に穿孔を施している。793 は口唇部に５つの列点が刻まれている。794 には沈線状のものがある。壺は量的に少ない。812･813 は完形近くに復元でき、812 は器高 46. 4 ㎝、口径は 22. 5 ㎝を測る。鉢･蓋も量的に少ない。821・827 は器壁が 1.5 ～２㎝と厚い。825 の鉢は丸底で外面をヘラケズリ状に近いヘラナデ調整を施している。高坏はA・Bに比べて量が多い。いずれも鋤先口縁を持つ。直線的な坏部を持つもの（836・837）と丸みを帯びた坏部を持つもの（835 など）がある。器台は上下対称の中期的なものが多い。857 は口縁部・脚部ともに内面に折り返している。

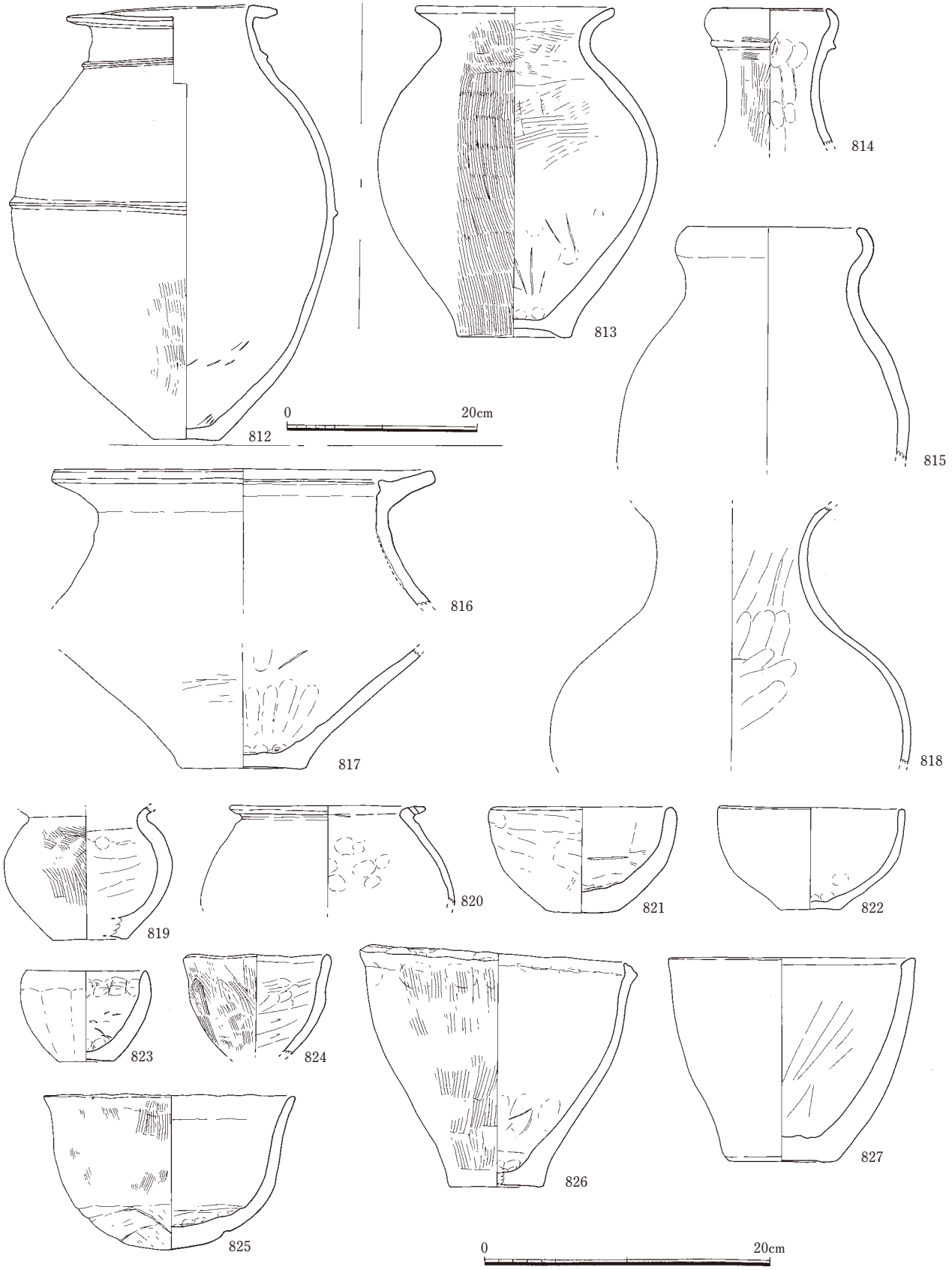


図 94　C・D－6・7区付近土器群9C 出土土器実測図4（1/ 4・1/ 6）

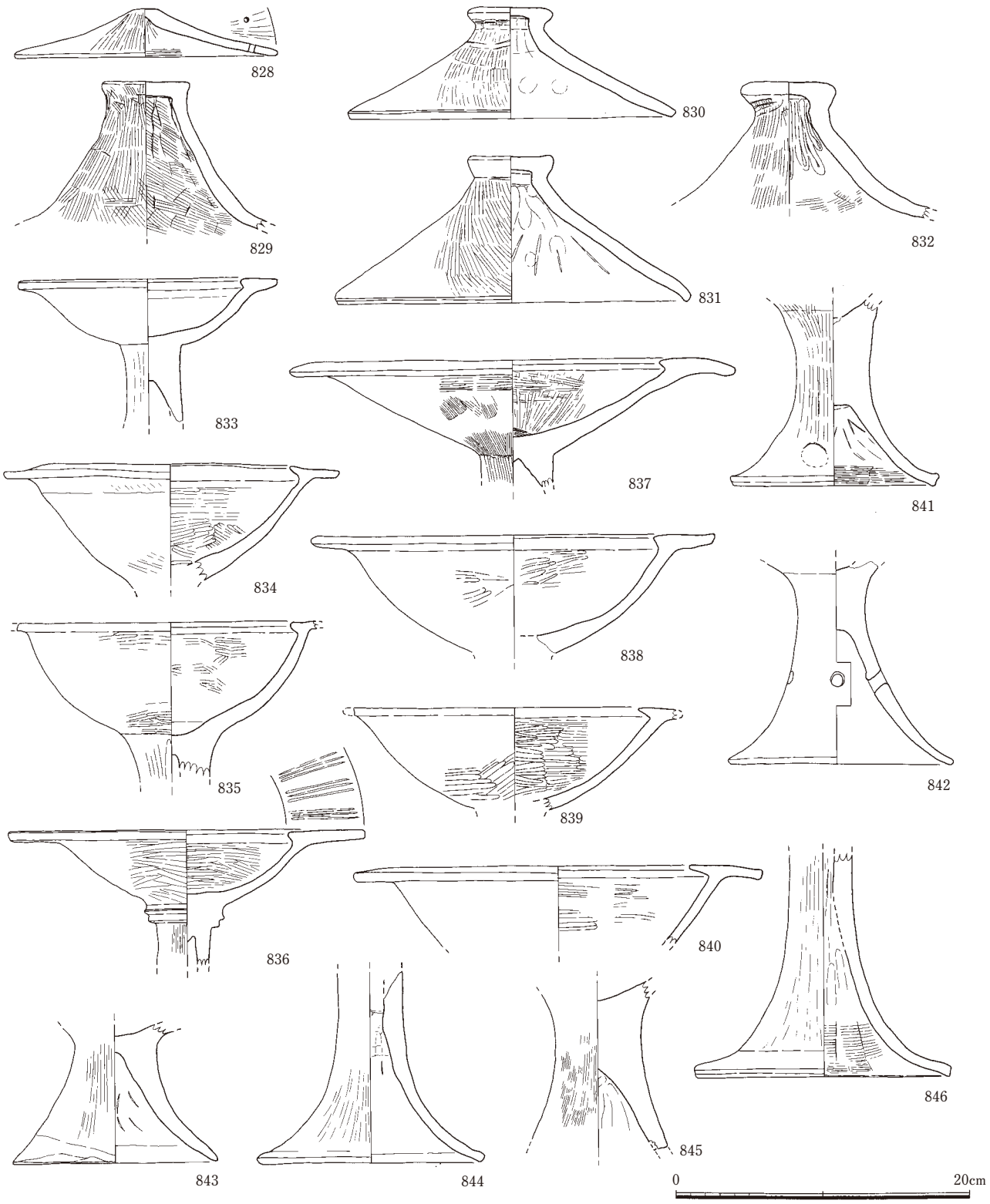


図 95　C・D－6・7区付近土器群9C 出土土器実測図5（1/ 4）

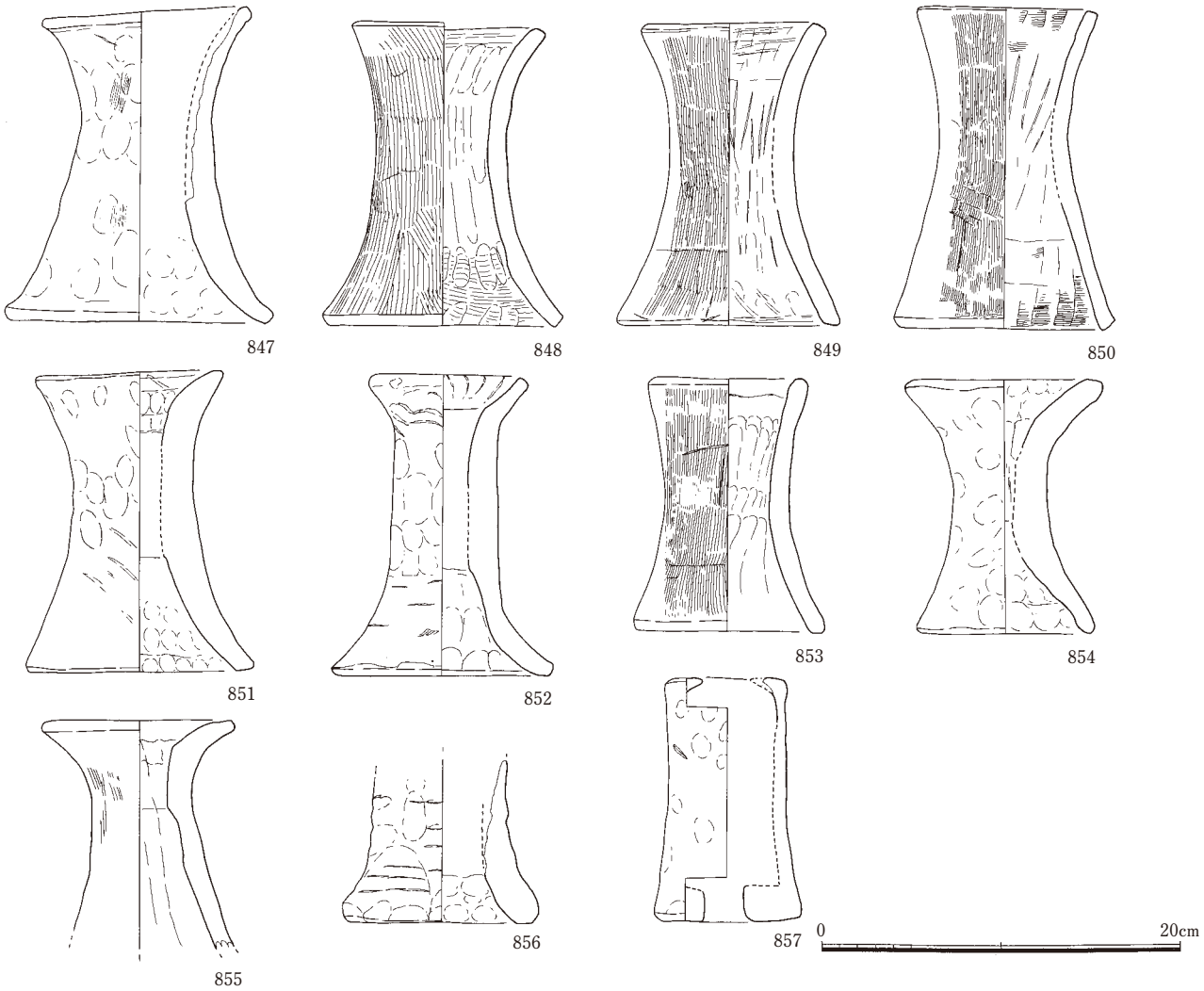


図 96　C・D－6・7区付近土器群9C 出土土器実測図6（1/ 4）

（5）C・D－6・7区付近土器群９D出土土器（図 97 ～図 100）

６区の北側から７区にかけて９Ｃとほぼ同じ範囲内に土器が分布しているが、量的にはずいぶん少なくなっている。ほぼ中期の土器が占めている。859 は器高 29. 5 ㎝、口径 25.0㎝を測る。底部中央に穿孔を施している。868 はやや丸みを帯びた胴部である。869 は頸部内面と外面に突帯を有し、直立気味の口縁部である。880 は大型の壺で、器高 74. 7 ㎝、口径 51.0㎝を測る。鉢はいずれも完形に復元でき、883 は無頸の胴長な形状である。高坏は２点しか図化できていない。888 は馬上坏形の高坏で器高 18. 9 ㎝、口径 15. 4 ㎝を測る。外面は全面ミガキ調整で仕上げ、両面赤色顔料を塗布している。器台も少ない。893 は１㎝を超える器壁である。

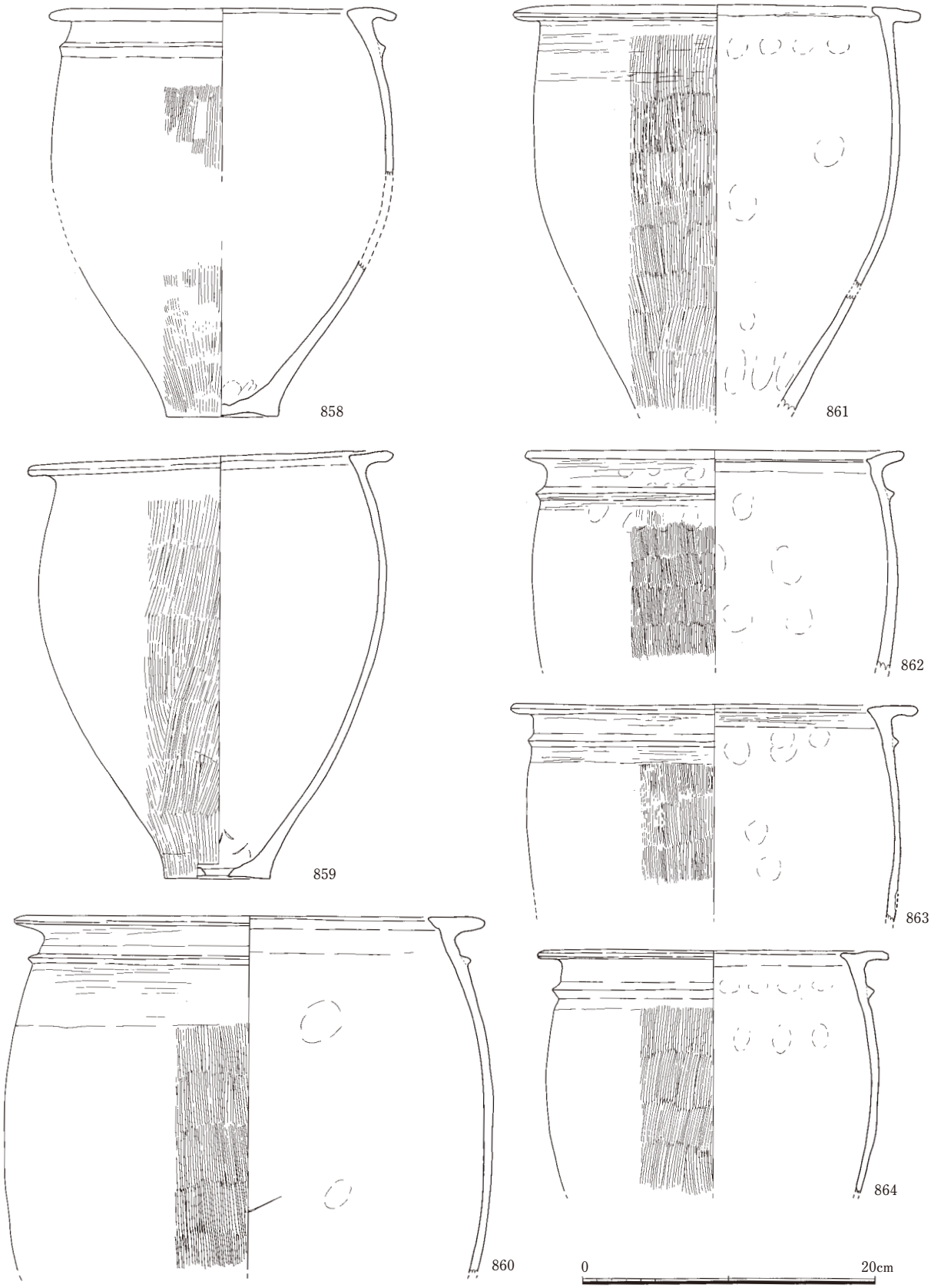


図 97　C・D－6・7区付近土器群9D 出土土器実測図1（1/ 4）

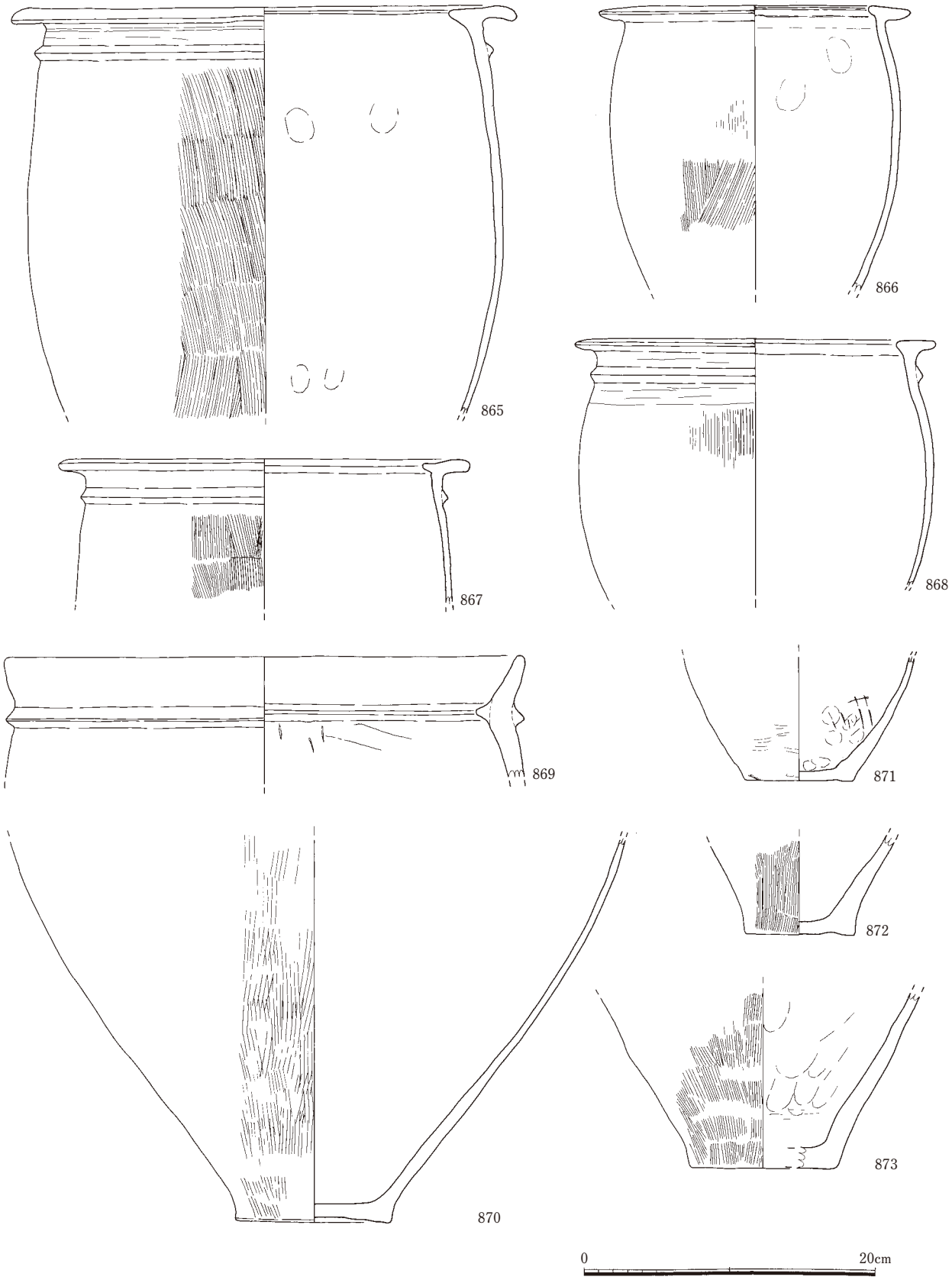


図 98　C・D－6・7区付近土器群9D 出土土器実測図2（1/ 4）

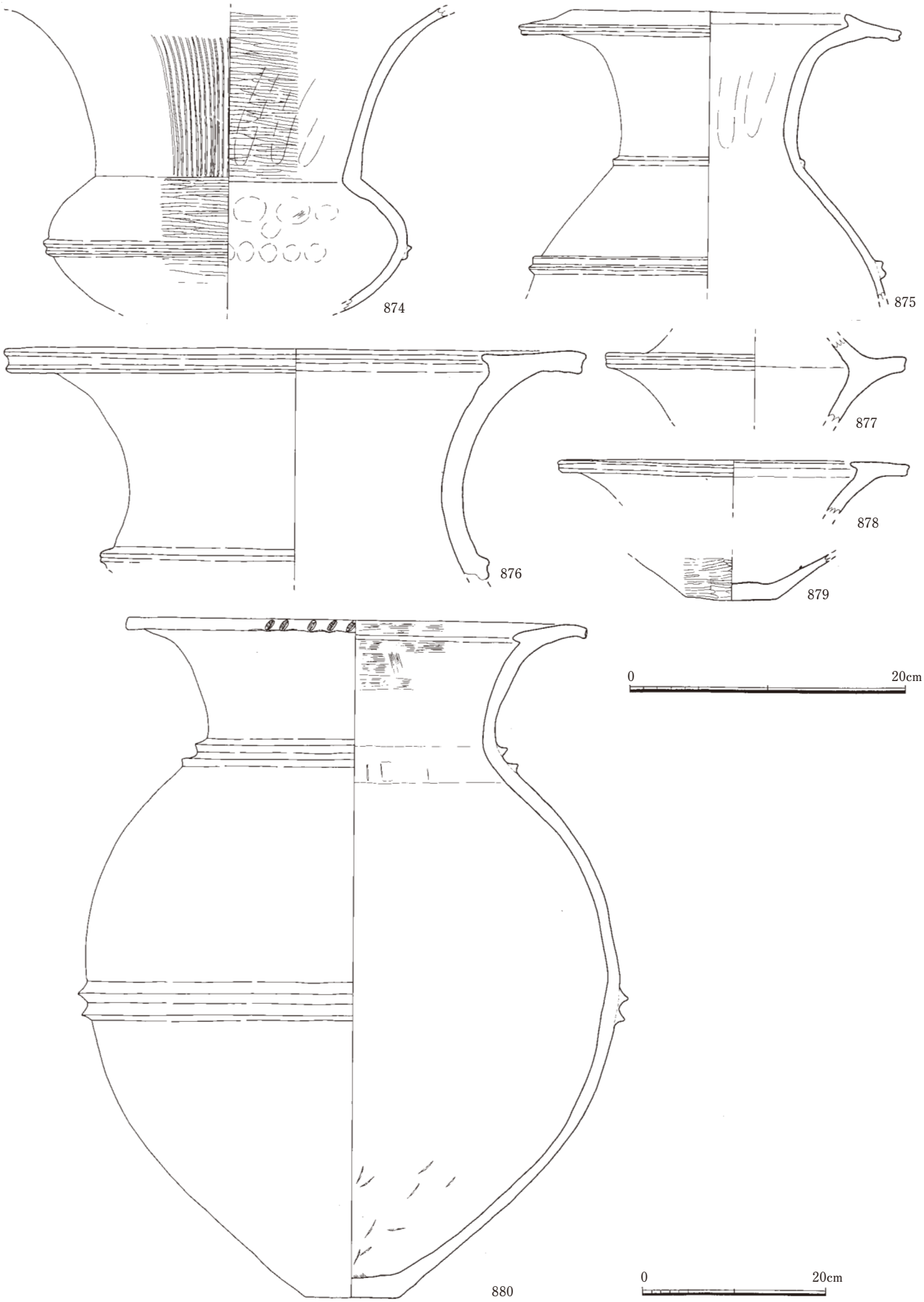


図 99　C・D－6・7区付近土器群9D 出土土器実測図3（1/ 4・1/ 6）

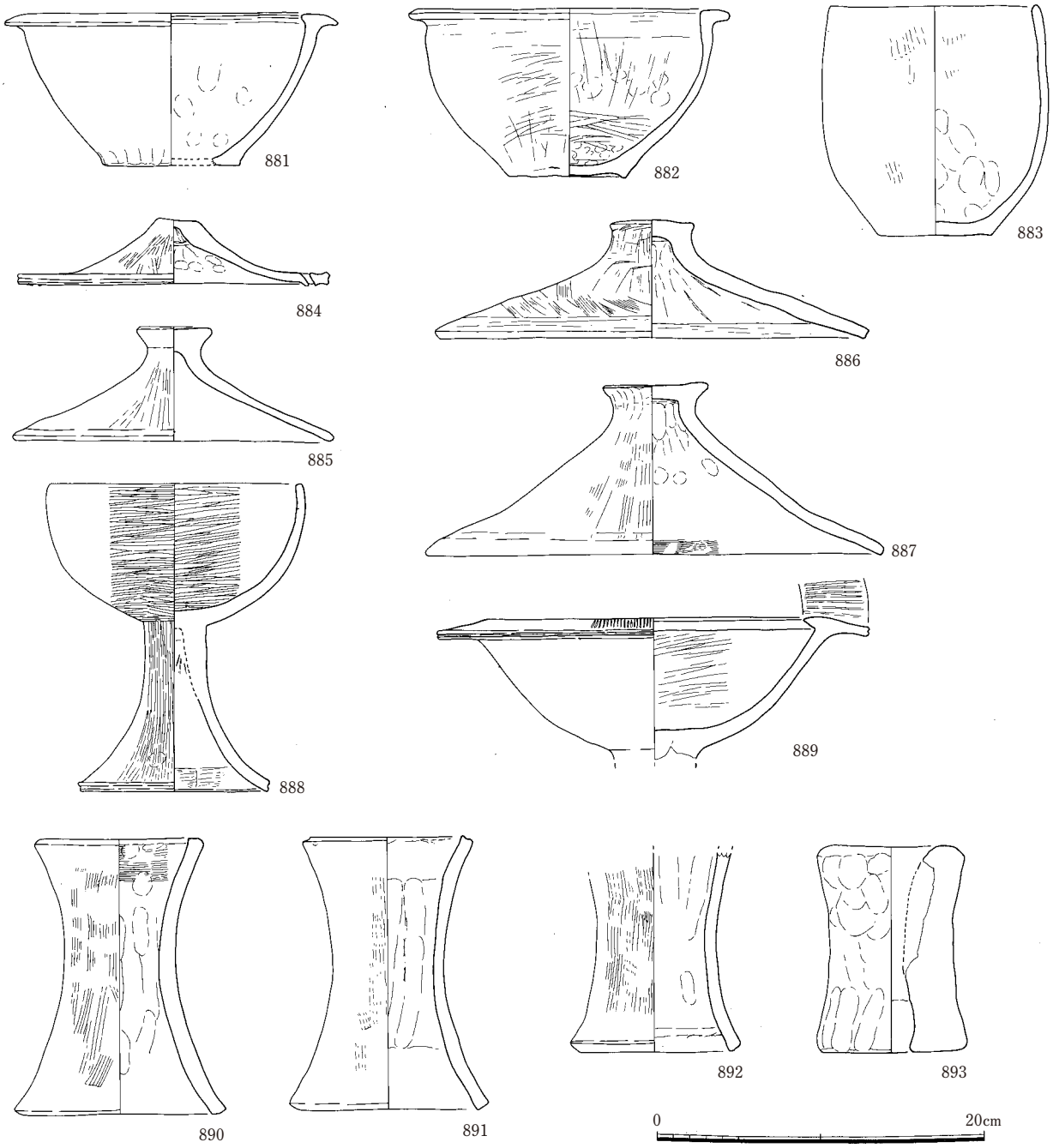


図 100　C・D－6・7区付近土器群9D 出土土器実測図4（1/ 4）

（6）C・D－6・7区付近土器群９E出土土器（図 101 ～図 104）

分布範囲は７区近くに限られた狭い範囲であるが、比較的大きな破片が多い。すべて中期の土器である。896 は大型の甕で、推定器高 50cm弱を測る。903 ～ 905 は広口壺である。外面ミガキで仕上げ、赤色顔料を塗布している。906 は口縁部を欠いているが、打ち欠きの可能性がある。鉢・蓋・高坏・器台は量的に少ないが、完形に復元できたものが多い。

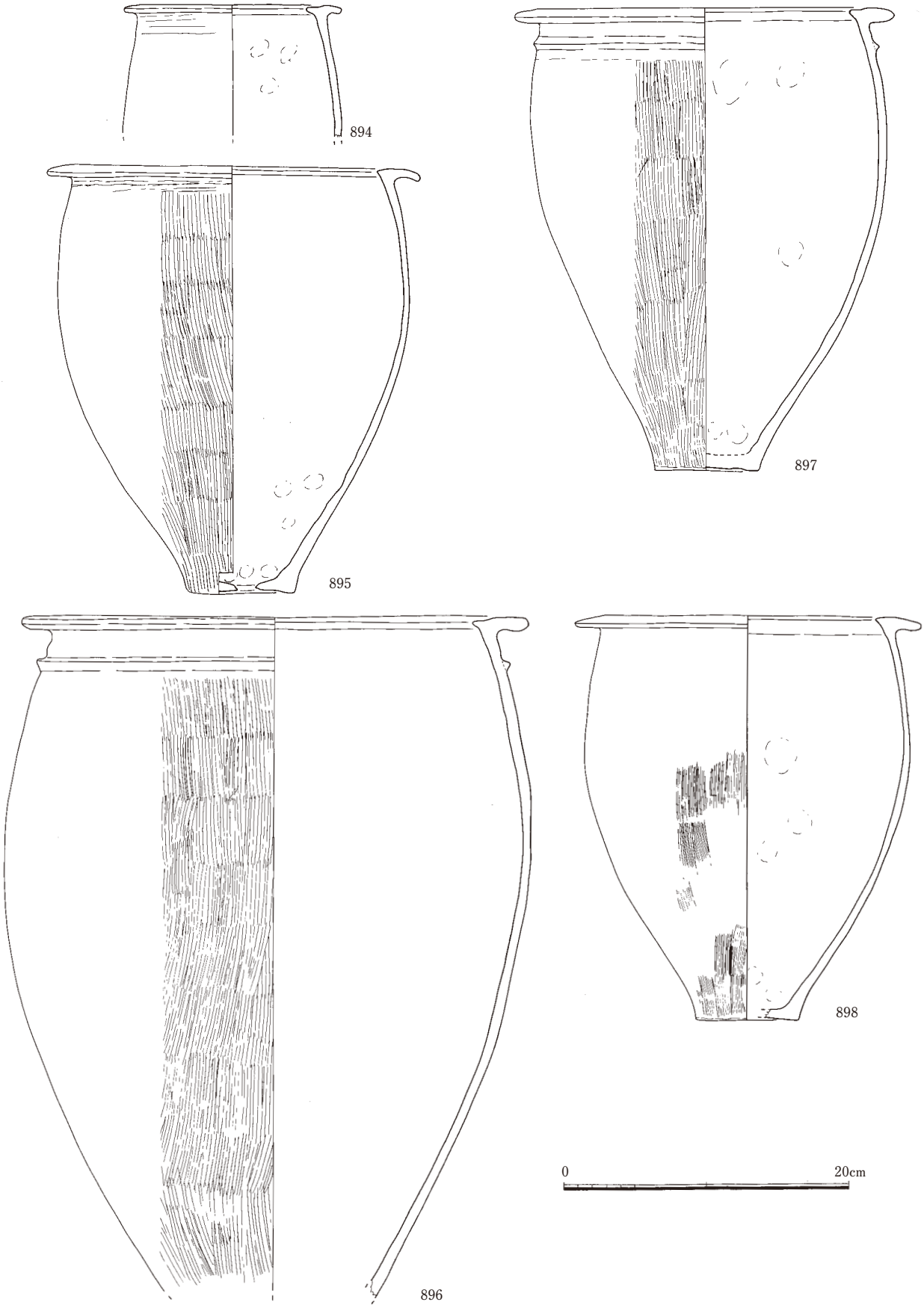


図 101　C・D－6・7区付近土器群9E 出土土器実測図1（1/ 4）

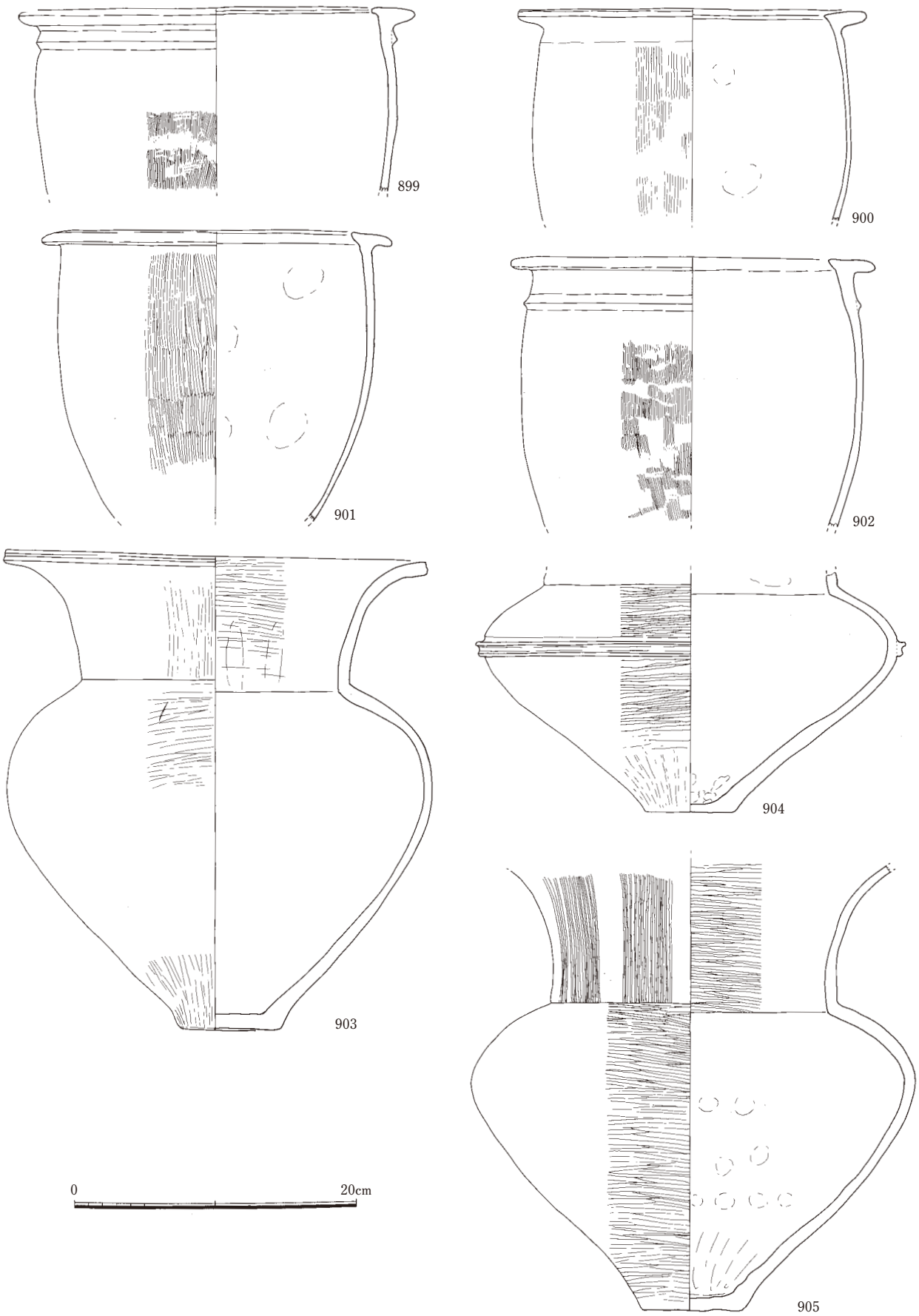


図 102　C・D－6・7区付近土器群9E 出土土器実測図2（1/ 4）

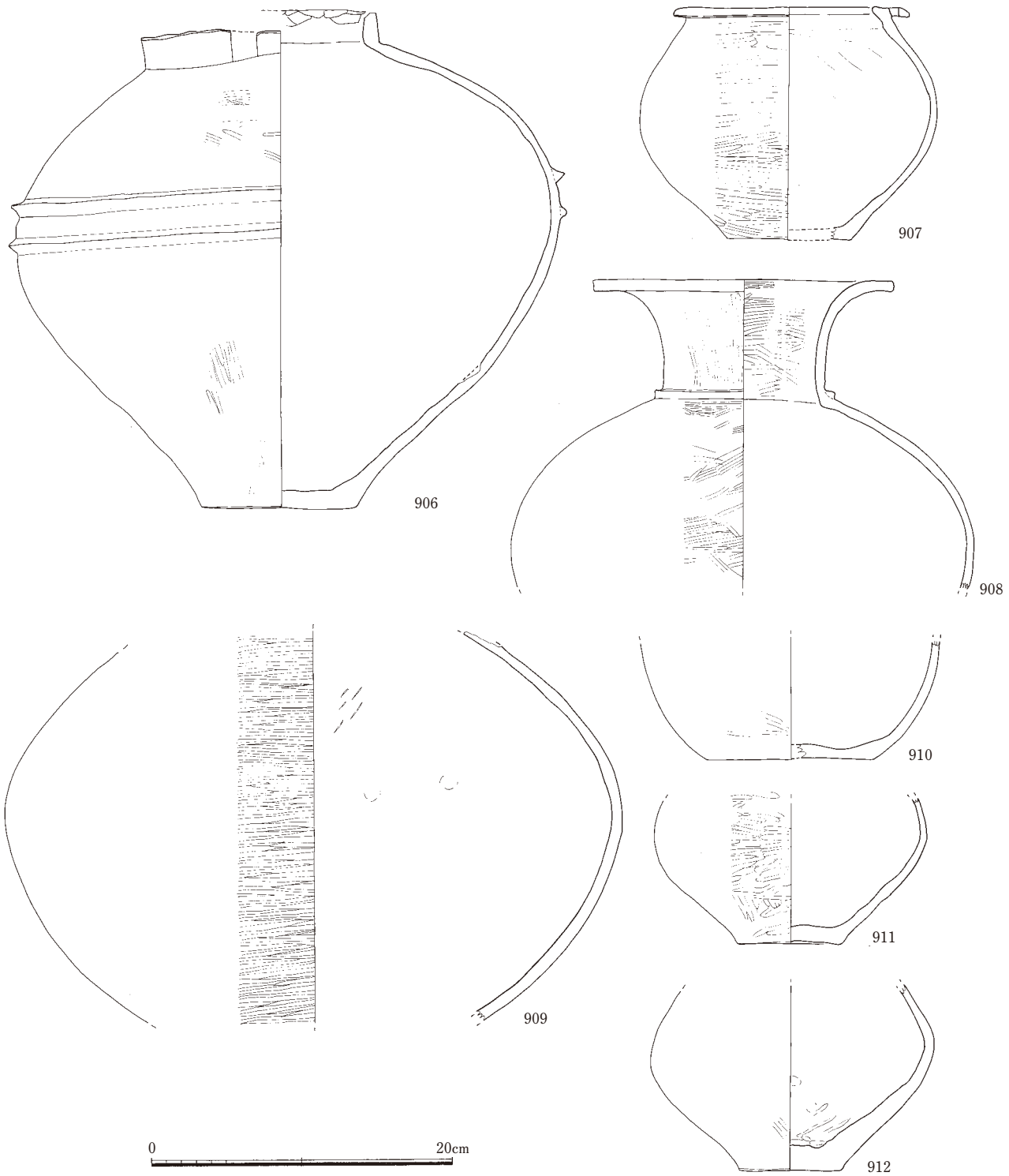


図 103　C・D－6・7区付近土器群9E 出土土器実測図3（1/ 4）

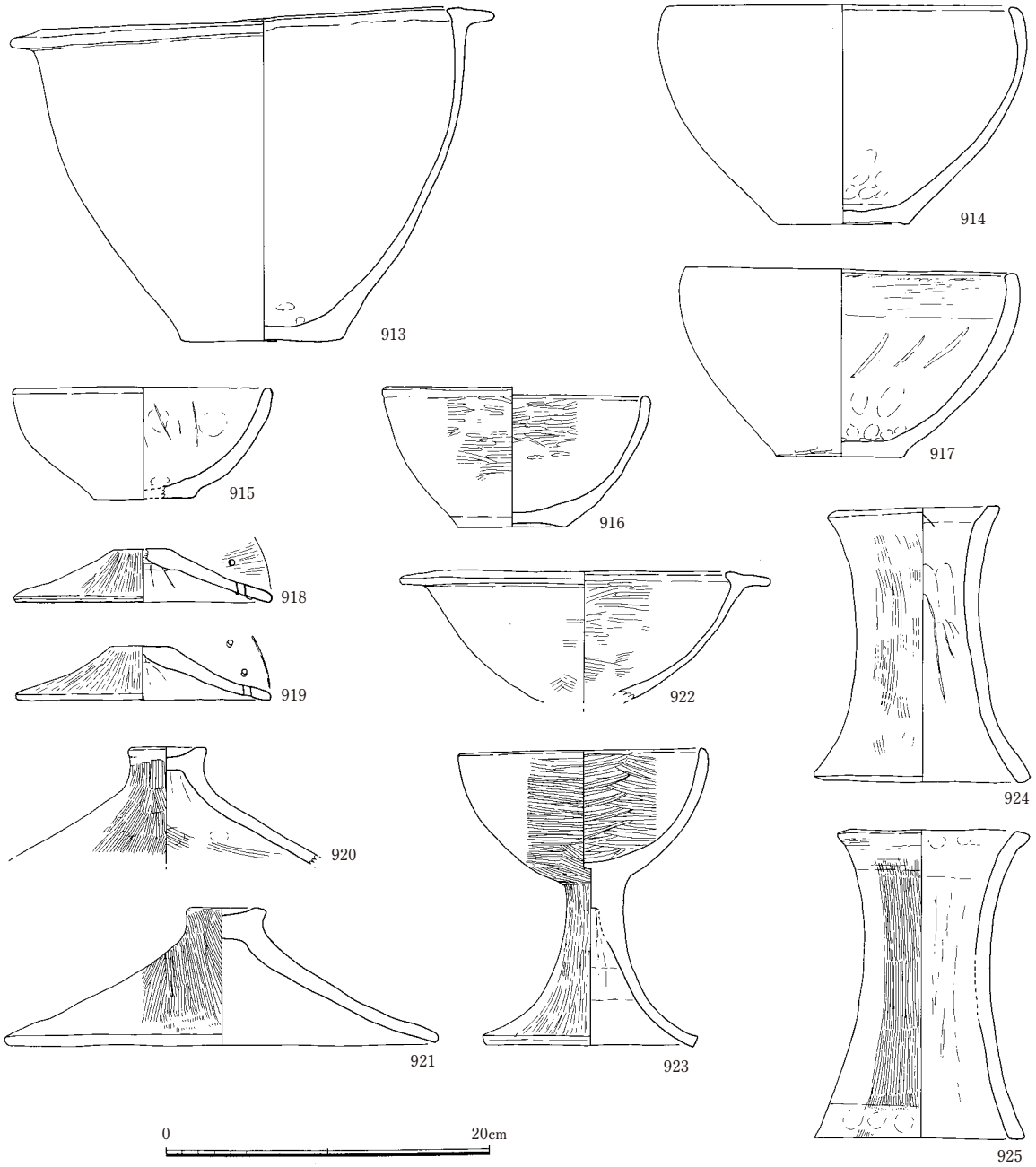


図 104　C・D－6・7区付近土器群9E 出土土器実測図4（1/ 4）

（７）Ｂ－６区付近土器群 15 出土土器（図 106）

土器群 15 は土器群９の西側にあり、ＳＤ０１の西側立ち上がり付近から、ＳＤ０１の西外にかけて分布している。土器群のすぐ下は、地山である青灰色シルト層である。土器群は緩斜面の傾斜に沿って分布し、土器群の厚みはほとんど無い。また土器片は多くが細片でローリングを受けたものが多い。弥生時代中期の土器から古墳時代の須恵器まで層を成さずに混在して出土した。以上の状況から、古墳時代後期以降に雨水等の流れによって溜まった土器群と判断される。

土器群 15 には２点の金属器が含まれており、既に前報告書（「元岡・桑原遺跡群 23」）で報告しているが、再録する（図 105）。１点は貨泉で、もう１点は直径４㎝の小形仿製鏡である。いずれも土器の細片群の中から出土した。

図 106 は土器群 15 出土土器である。いずれも大きな破片は少ない。弥生時代中期の土器片が多いが、古墳時代の遺物も含んでいる。931・932 は弥生土器の底部片で、焼成後に穿孔を施している。942 は復元完形で、器高 17.2㎝、口径 12.4㎝を測る。943 は沓形の支脚である。945 は須恵器の甕で、外面は格子目タタキ、内面は同心円の当て具である。

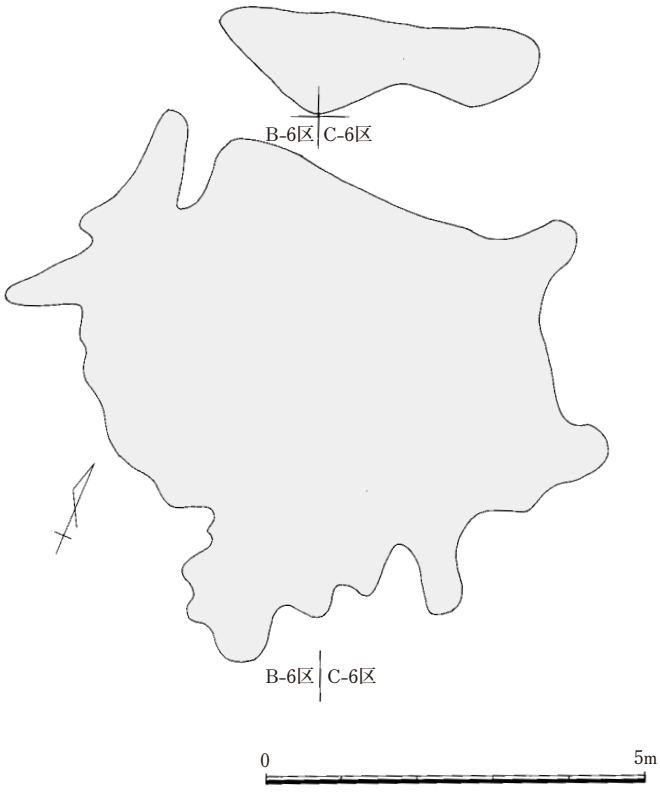
（８）Ｃ・Ｄ－６・７区ＳＤ０１出土土器（図 107）

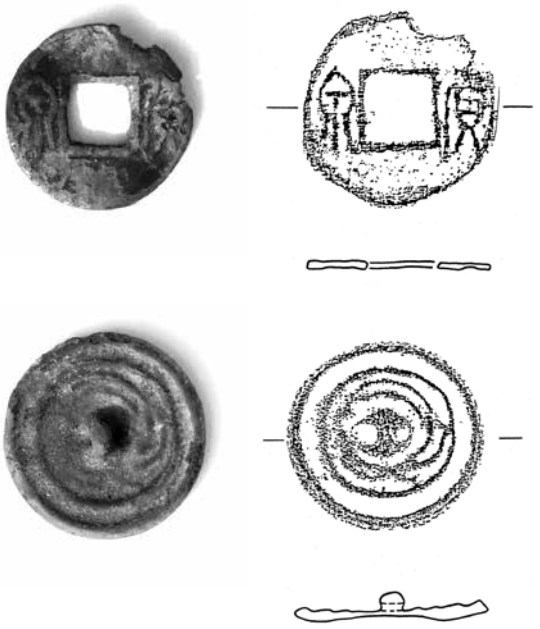
土器群以外のＳＤ０１出土土器である。947 は糸切り底の土師器皿で、口径 12.8㎝、器高 2.2㎝を測る。最上層の出土。948 は須恵器の坏蓋である。949 は格子目タタキを施した弥生土器で、4 区以北では唯一の出土である。外面には緻密な格子目タタキを施し、内面はハケメ調整で仕上げている。951 は須恵器の甕で、外面格子目タタキ、内面は同心円の当て具である。いずれも１層出土。955 は器高 15.2㎝、口径 13.8㎝を測る。960 は器高 12.5㎝、口径 17.4㎝を測る。溝の立ち上がり付近で出土した。961 は器高 17.3㎝、口径 16.2㎝を測る。全面ミガキ仕上げであるが、赤色顔料は確認できない。下層の出土。

第 42 次調査Ｉ区から出土した約 4000 箱の土器については、前書（１・２区：ＳＤ０１下流）と本書（３～７区：上流）で報告が完結した。１・２区では弥生時代末から古墳時代初頭の土器を大量に含んでいるのに対し、３区以北では、同期の土器量は圧倒的に少ない。またその時期のものである半島系の土器や格子目タタキを施した土器も、下流では相当量出土しているのに対して、上流では数点しか出土していない。一方土器群 14 のような、祭祀と考えられる弥生時代中期の完形土器群や建物などの遺構が３区以北には認められ、１・２区と３区以北では、土器の出土傾向に差がみられる。今後出版予定である、42 次調査のすぐ北側隣接地（上流）である第 52 次調査においても約 3000 箱の土器が出土しており、さらに下流との相違が明らかになるものと思われる。

なお、ＳＤ０１には最下層の一部に縄文時代晩期の包含層があり、包含層以外の縄文時代出土遺物などについてはさらに稿をあらためるとともに、土器を含めた全体についても次冊でまとめたい。

写真 14　土器群 15





土器群 15 出土貨泉（1/ 1）と小型仿製鏡（1/ 2）
（「元岡桑原道跡群 23」で報告済み）

図 105　B・C －6・7区付近土器群 15 分布範囲図（1/100）

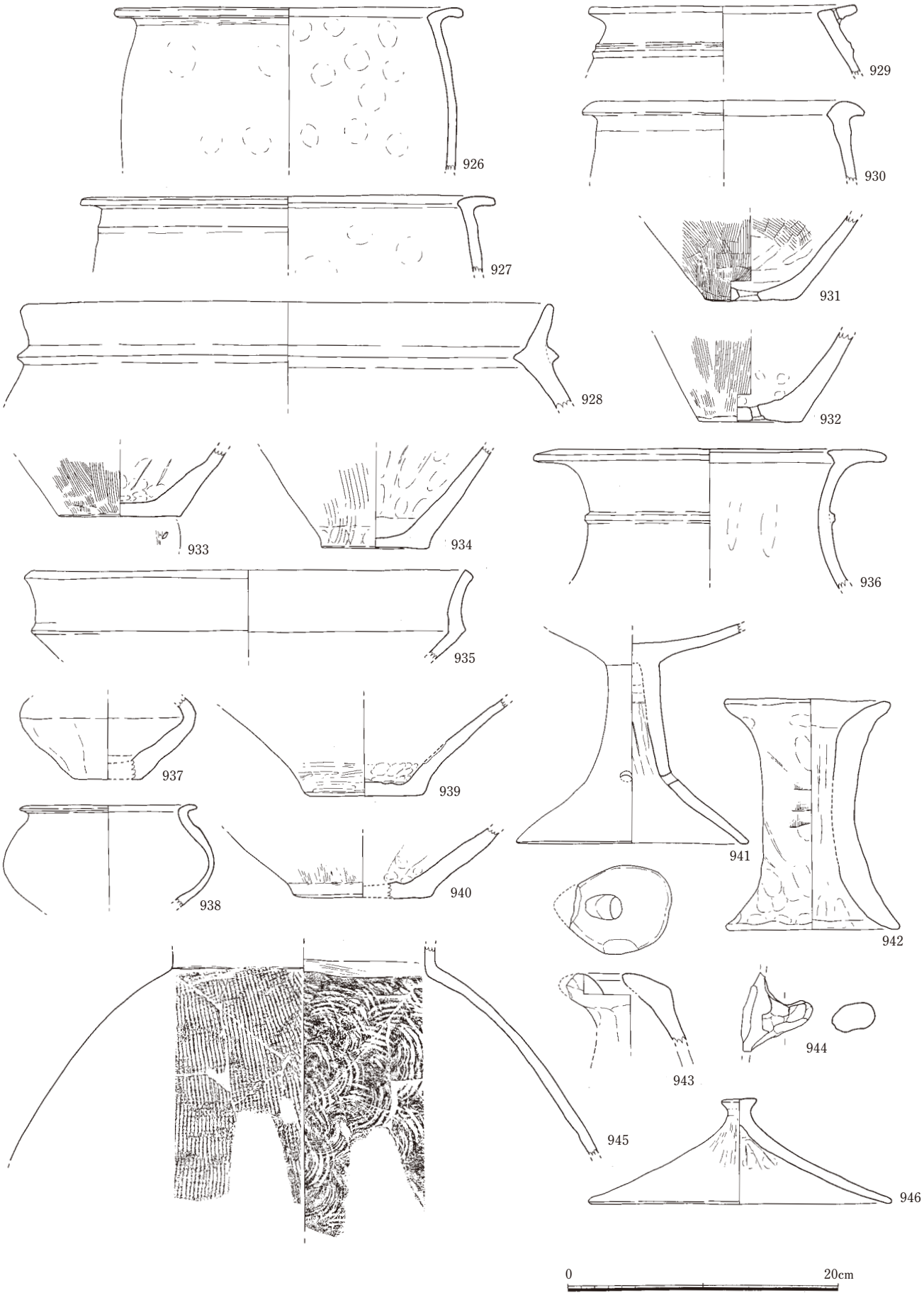


図 106　土器群 15 出土土器実測図（1/ 4）

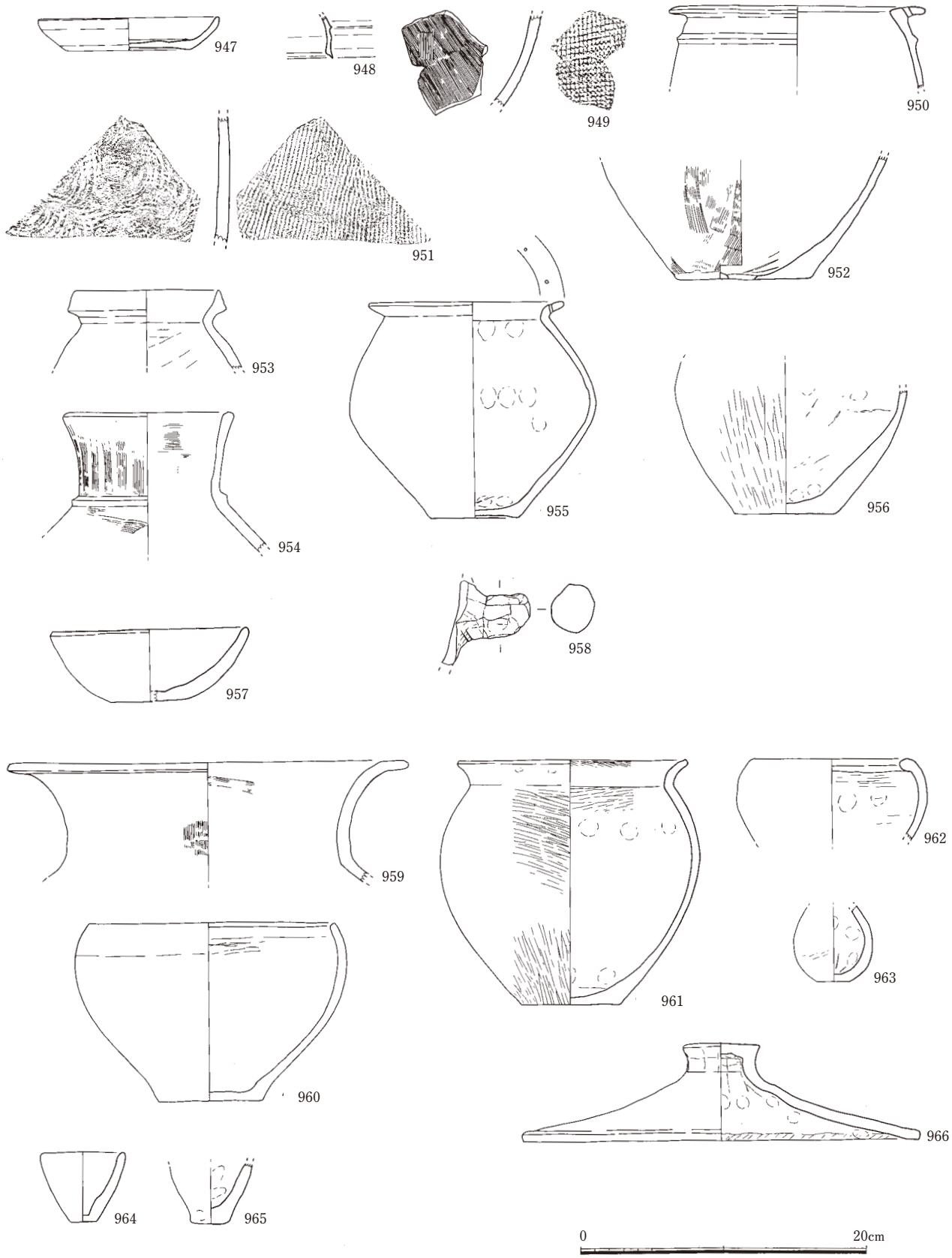


図 107　C ～ E －6・7区 SD 01出土土器実測図1（1/ 4）

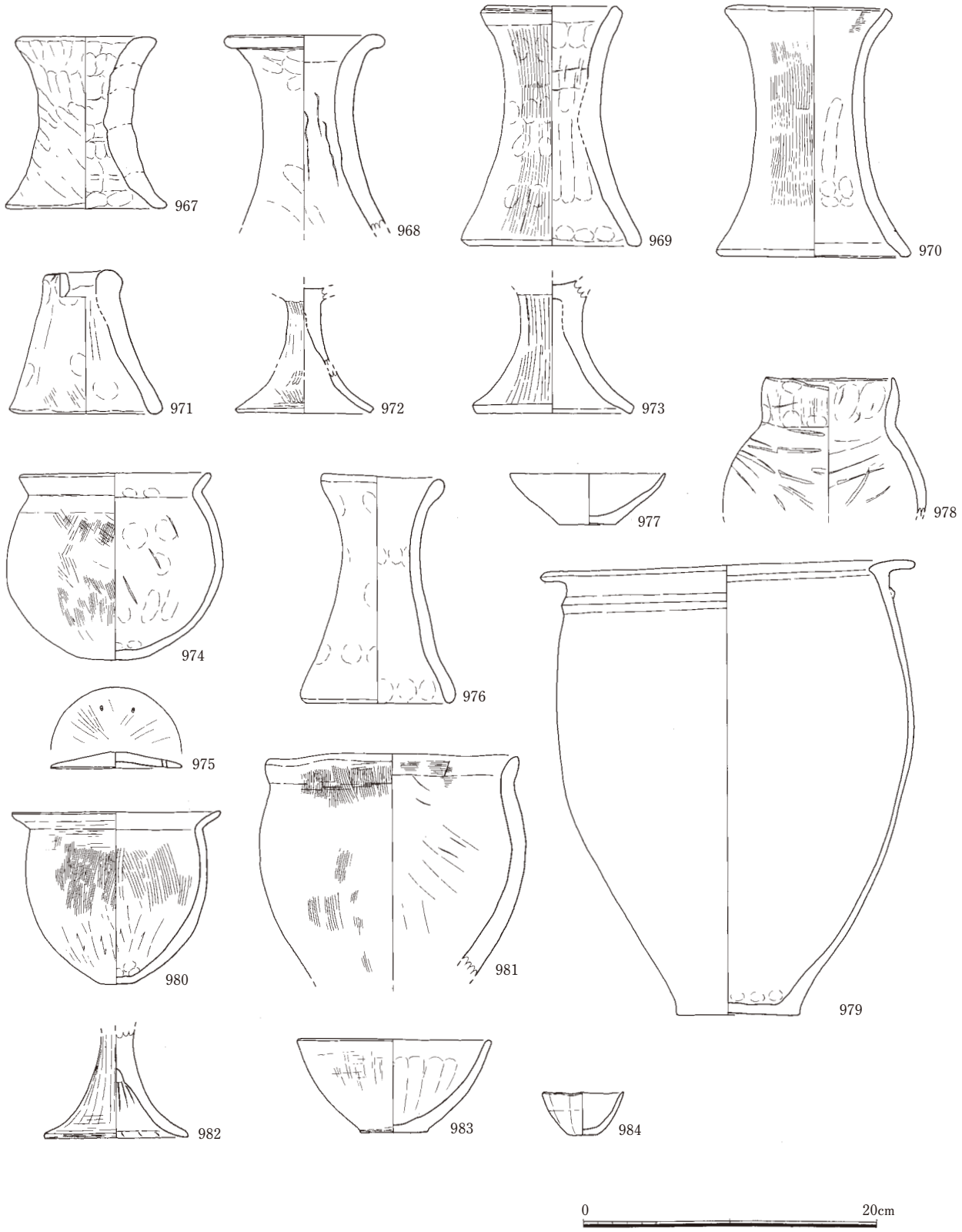


図108　C～E－6・7区SD01出土土器実測図2（1/4）

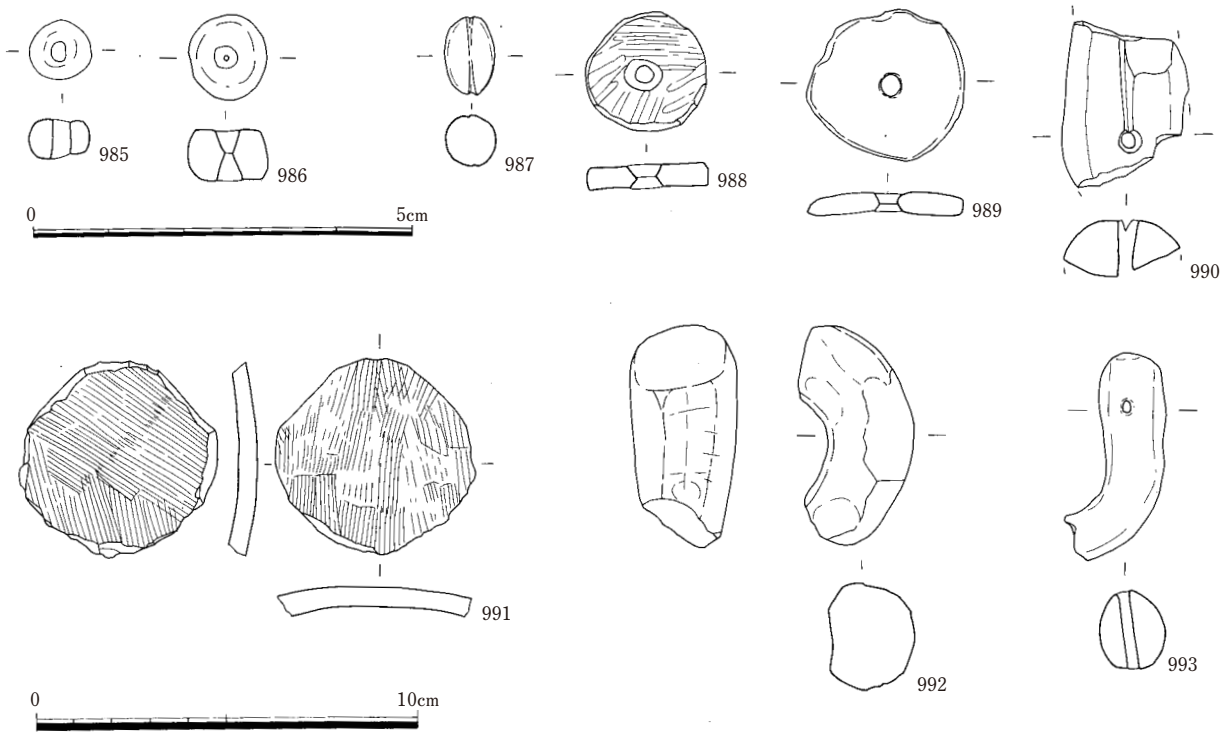


図 109　Ｃ～Ｅ－3～7区出土玉類・土製品実測図1（1/１・1/２）

7　Ａ～Ｅ－３～７区出土玉類・土製品

１・２区から出土した玉類・土製品は前報告書（「元岡・桑原遺跡群」21）で報告しており、ここでは３～７区で出土した玉類・土製品について報告する。

985 はＣ－６区土器群９Ｃ出土の青色のガラス玉で、直径４㎜、厚さ３㎜を測る。ガラス玉はＣ－７区でもう１点出土しているが、粉砕している。986 はヒスイ製の小玉か。全体白色に近く、部分部分が緑色を呈している。Ｄ－３区土器群９Ｃ出土。987 は小型の土錘で、長さ２㎝、幅 1.3㎝を測る。Ｄ－６区ＳＤ０１上層出土。988・989 は土器片を利用した有孔円盤。前者は赤彩土器片を利用している。前者はＣ－６区中層、後者はＤ－６区上層の出土である。991 も土器片を利用した円盤であるが、孔が無い。両面ハケメ調整で仕上げている。Ｅ－３区上層出土。990 は土錘と思われる。いわゆる玄界灘タイプの石錘の形態になるものかと思われる。992・993 は土製の勾玉で、前者はＣ－６区最上層出土。上下の端部を欠失し、器表面は荒れている。後者はＤ－５区土器群９Ｃの出土。表面はていねいにナデ調整を施している。細い棒状のもので穿孔している。

994 ～ 1003 は匙形ないし、ひしゃく形の土製品である。上層～下層まで万遍なく出土している。全形がわかるものが少ないが、概ね急角度の柄がつくものが多い。996・998 はほぼ完形で、やや短めの柄が急角度でついている。999 は急角度でついている柄の端部が折れ曲がっている。1003 は本体部分がヘラ状になっており、いわゆる「お玉」の形態を成していない。

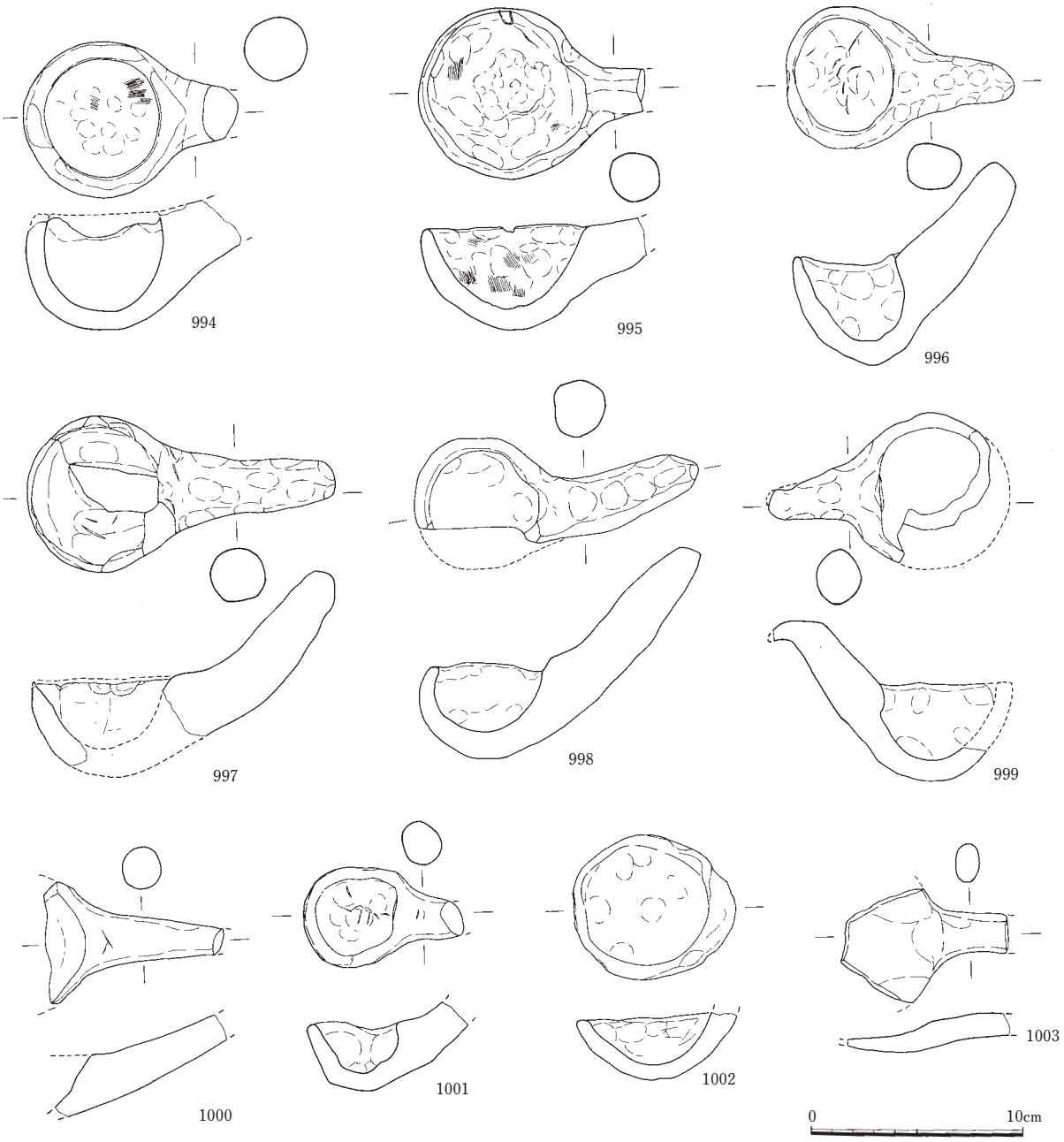


図 110　C ～ E －3～7区出土土製品実測図2（1/ 3）

Ⅲ　Ⅰ区出土木製品

第42次調査では、溜まり状の遺構から多量の土器などの遺物とともに、多種多様な木製品が多量出土した。ここでは、図化されたⅠ区出土の木製品89点と昨年報告された木製品382点（※）について、近年刊行された『木の考古学』の「日本列島出土木製品分類表」に合わせた形で分類群ごとにみていく。なお、本地域独特の呼称などがあれば併記する。また、第42次調査他区出土の木製品については別冊の報告書が刊行されることになっており、遺構でみていくと第52次調査も連続する本報告と同じ遺構であり多量の木製品が出土していることから機会があれば第42次調査・第52次調査出土の木製品についてまとめた形で報告できれば良いと考えている。

１．工具（図111・125・※第15・27・28・35・43・44図）

斧柄、楔、槌、杓子形・篦状品、作業台、発火具が出土している。斧柄はⅠ区で２点、報告済みが10点あり、いずれも広葉樹の枝分かれ部を用いた曲柄である。１は台部先端が欠失し、台部が幅狭であることから鋳造鉄斧を組合せる伐採斧と考えられる。ただし、台部が長いことから未製品の可能性もある。※６・７は鋳造鉄斧と組合せた伐採斧、※３・11は鍛造鉄製袋斧を組合せた伐採斧と考えられる。２は台部先端近くから屈曲部にかけてやや幅狭となっており鍛造鉄製袋斧を組合せた加工斧といえる。※９も同種の加工斧で、※10は小形の袋斧を組合わせた加工斧、※５は鋳造鉄斧を組合せた加工斧か。※12は板状鉄斧または弥生時代中期前半までのもので扁平片刃石斧が装着されたか。※８は斧柄の未製品。※216は後述するが青銅製鋤先を組合せた撥ね鋤柄と考えられる。鉄製袋斧に鈍角の柄を組合せ鑿状に使用する工具が存在する可能性も否定できない。

６は芯近くの角材の上下端に斜めに表裏から加工を加えている。８．９cmと短いが楔か。７はスギの柾目取り材の片方に表裏から加工を加え尖らせて楔状に仕上げている。組合せ部材の可能性もある。

８～10、※104～111・115・117は横槌である。８は広葉樹の芯持ち材を用い、端部は平坦で短い搗部横断面は使用により楕円形をなしている。９はカシの割材を用い、搗端部も使用により磨かれた凸レンズ状をなし、搗部中央付近は使用により大きく抉れている。10は広葉樹割材を用い、先端は平坦で、搗部横断面は円形をなし、握部との境は不明瞭であるが、一面に粗い階段状の削り痕が残っており未製品か。※104・110はカシの割材を用い、搗部先端は平坦で搗部と握部の境は不明瞭に仕上げている。９・※105・106・111は搗部と握部は径を変えて作っており、握部は柄と呼ぶ方が良い。※115は搗部径も4.15cmと細く仕上げている。

３～５・※300は杓文字形をした製品で、※300はカシの柾目取り材を用いており大形でもあり櫂の可能性もあるが、こちらのグループに入れた。３・５は柾目取り材を用い、４は板目取り材で製作し、３は幅広の抄い部を表から加工を加えて造り出し、４は表面が平坦になるようにし、５は表裏から加工を加え先端が薄くなるように仕上げている。何かを掻き混ぜる用途を持つと考えられる。

82（図125）・※141は、作業台である。※141はカシの割材を素材とし、平面形長方形で横断面形方形にし、片方木口に鉤形の把手を造り出している。このような作業台は、弥生時代後期から終末期にかけて西北九州でよくみられ、表裏とも使用により刃物傷がよくみられるが、本製品は、表裏とも作業面に刃物傷はなく、表裏とも比較的きれいな状態である。82は広葉樹芯持ち材の枝分かれ部を用いた施設・器具材で下方に組合せ部を造り出している。枝分かれ部の平坦面（図左端）に不規則な細い刃線痕が多数みられることから最終的に作業台として使用されたと考えた。組合せ部材の傷や滑り止めの役目を果たした可能性もある。

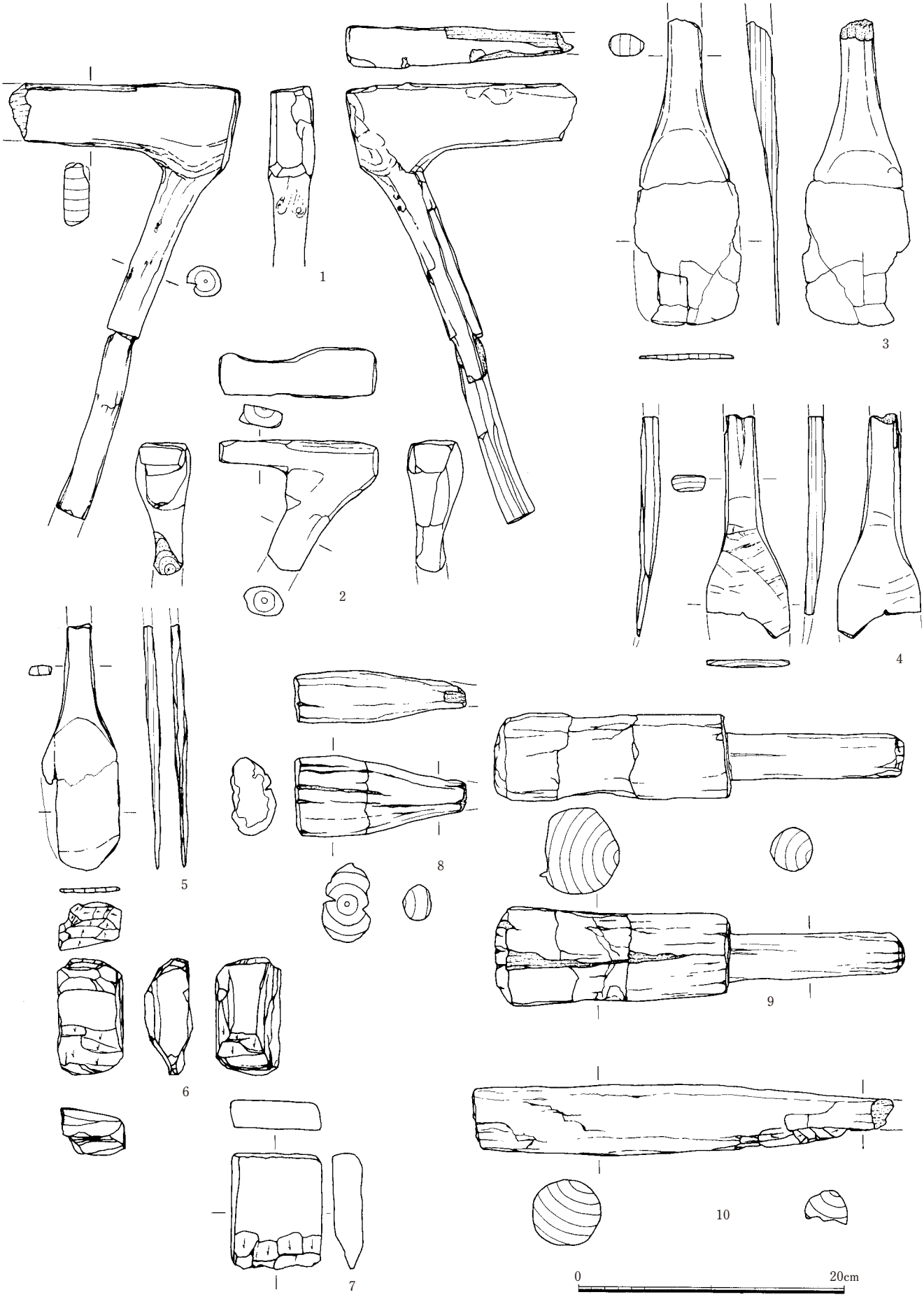


図 111　I区出土木製工具実測図

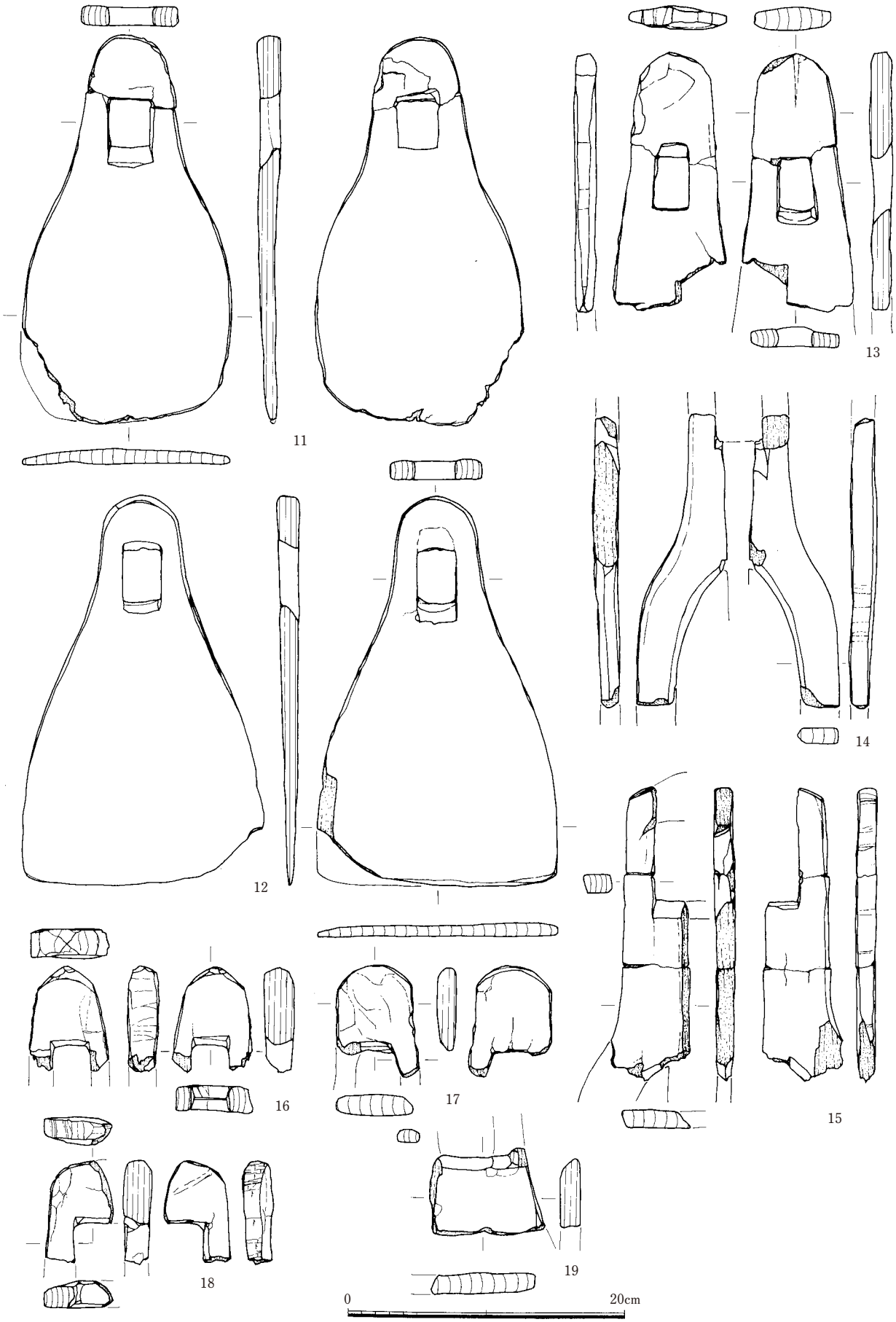


図 112　I区出土木製農具実測図1

その他工具としては、発火具がある。※ 230・231 の２点は火きり臼で、※ 231 は片方縁辺の６ヶ所と他の中央１ヶ所の臼が使用により炭化している。※ 230 は片方縁辺に少なくとも５ヶ所の火きりのための臼を造り出しているが、炭化は無く未使用か。

２．農具（図 112 ～ 116・123・※第 16 図～第 26 図・第 28 図～第 30 図・第 44 図・第 47 図・第 60 図）

木製品のなかで最も出土量が多いのが農具で、起耕具の鍬類・鋤類が多く、脱穀具の杵類や臼、補助具の田下駄がある。

鍬類は、直柄を使う直柄鍬類と曲柄を使う曲柄鍬類、横鍬、直柄鍬類と組合わせる直柄鍬柄・泥除け・鍬類着装組合せ具（以下固定具とする）、曲柄鍬柄などに大別できる。まず、直柄鍬類の鍬身からみていく。直柄鍬類の鍬身は、大半はカシの柾目取り材を用いており、平鍬・又鍬・三又鍬を含む多又鍬がある。平鍬は図 112-11・12、※第 16 図 13 ～ 19、※第 20 図 46 ～ 51、※第 22 図 63 ～ 66・68 ～ 70 の 22 点と未製品図 123-71 の１点がある。11・12 は方形の着柄孔を持ち、撫で肩で、刃は 12 が直線的で、11 はやや丸みを持ち器形はやや異なるが幅広の平鍬である。※ 13･16 が同じ形状を持ち、※ 19 は肩に段を持っている。幅広の平鍬は、ほぼ方形の平面形を持つ※ 46 を典型とするものがある。同じ着柄孔を持ちながら、外側の着柄孔付近が肥厚し、刃近くに段をつけ、厚く仕上げている。また、着柄孔の左右に泥除け組合せのためと考えられる小孔を穿っている。※ 47 ～ 51 は同じ形態を持つといえる。なお、※ 48 の刃部左側の小片は別個体であり、鍬の破片ではない。※ 69・70 も同じ形態の着柄孔付近の破片か。※ 17･18 は肩に段を持ち、肩から刃にかけてほぼ同じ幅を持ち、刃は直線的で、幅が 10cm 前後とやや幅狭のものである。方形着柄孔を持つ平鍬のなかで、幅狭なものとして頭部からやや広がって丸みを持つ刃となる※ 14・15 がある。この２点はイスノキの柾目取り材を用いている。直柄の平鍬としたものに、※ 64･68 を典型とするもう一つ異なった形態を持つものがある。64 は、着柄孔はこれまで紹介した平鍬と同じであるが、鍬本来の用途である振り下ろして掘削するための刃が造りだされていない。平面形は方形をなし、横断面形はレンズ状をなし両側縁に使用した痕跡がみられる。※ 63・66 も同形状をなす。68 は頭部幅が刃相当部位よりやや広く長い台形状をなし、横断面は台形をなしている。これまで紹介した平鍬と異なり、平ら方が外側で凸面が内側となり、鈍角に直柄が着装された可能性が高い製品で※ 65 は同形状を持つものといえる。71 はカシの柾目取り材を用い、頭部と肩を造り出している。※ 17 のような平鍬か又鍬の未製品であろう。

直柄又鍬は、※第 17 図 21 ～ 26・※第 19 図 39 ～ 41 の９点があり、いずれもカシの柾目取り材を用いている。平鍬と同じように方形の着柄孔を持ち、又部は表裏から削り込みＶ字状をなす。※ 21 は頭部端は平坦で、広がりながら横断面五角形の刃となっている。※ 22 は尖りぎみの頭部を持ち、肩が張り段をなし、すぼまりながら尖った刃先となり、刃の横断面はレンズ状をなす。※ 23 は肩の段は明瞭でないが※ 22 と同形状をなす。※ 25・26 は同形状をなし、丸みのある頭部を持ち、撫で肩で横断面五角形の長い幅広の刃を持ち、全体的に丸みがある。弥生時代後期から古墳時代にかけて最も典型的な直柄又鍬である。※ 24 は丸みのある頭部を持ち、横断面五角形の細長い刃を持っている。※ 40 も※ 24 と同形状をなしている。※ 41 は頭部幅とほぼ同じ幅で薄くて細長い刃を持ち、又の隙間が極端に狭い形状を持つ又鍬である。

直柄三又鍬を含む多又鍬は、図 112-14・15、※第 18 図 27 ～ 32、※第 19 図 35・38・42 ～ 45 の 14 点あり、すべてカシの柾目取り材を用いている。いずれも平鍬と同じ方形の着柄孔を持ち、又部は表裏から削り込みＶ字状をなし、中央刃の横断面は六角形をなすものが大半を占め、方形をなすものも希にみられる。両側の端刃の横断面は五角形からレンズ状をなしている。頭部は三角状に尖るものが

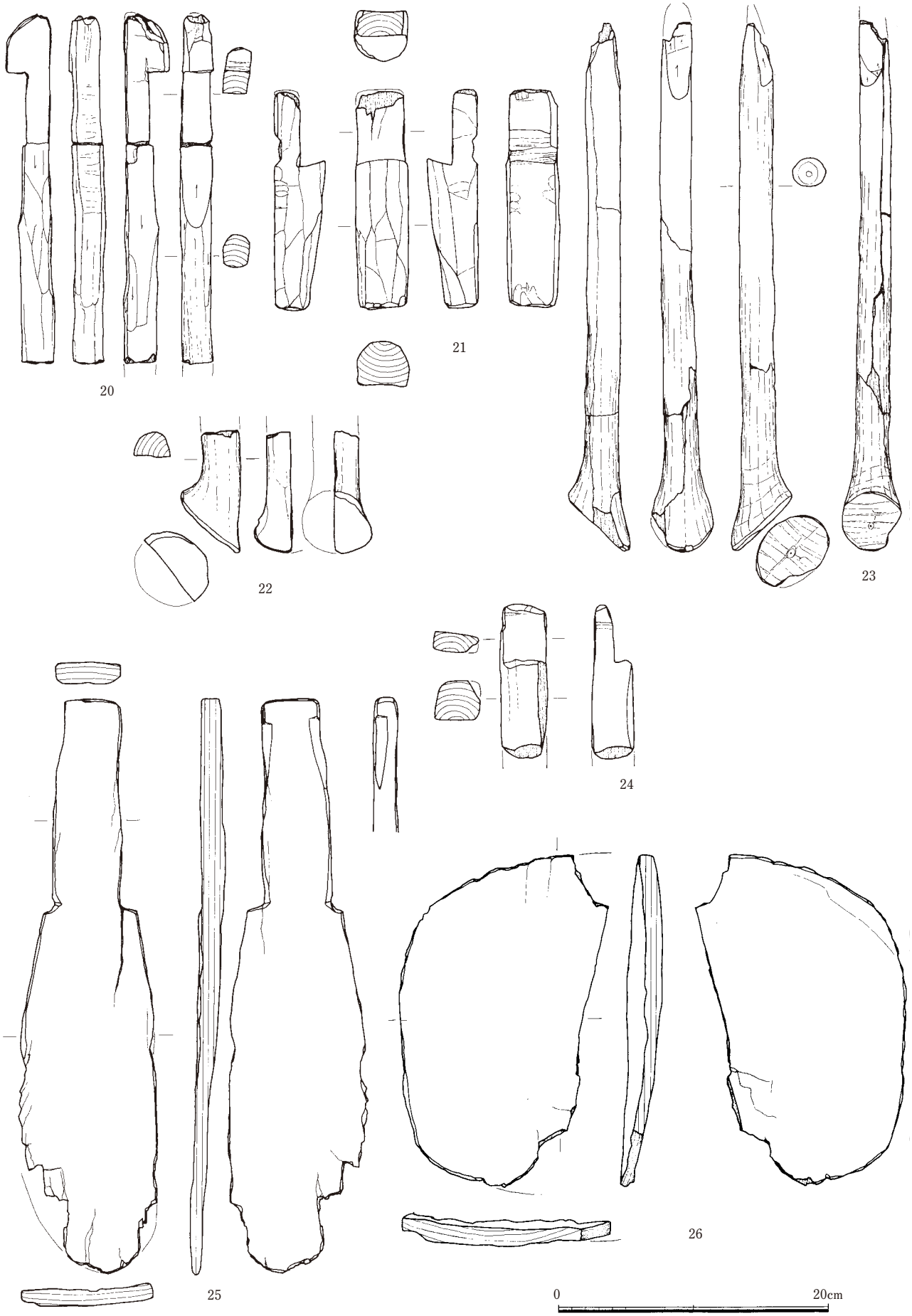


図 113　I区出土木製農具実測図2

多い。※ 27 ～ 29・31 が弥生時代中期後半から古墳時代にかけて最も多い典型的な例といえ、15 も同形状をなすと考えられる。※ 30 の頭部端は平坦で方形状をなし、※ 32 は頭部は丸みを持っている。※ 35 は丸みのある頭部を持ち、広がりながら刃となる着柄孔方形の四又鍬か。端刃の横断面は台形に近く、中央の刃の横断面は方形で多又鍬としたが多又鋤の可能性もある。※ 36 は多又鍬として報告されているが確認できなかった。他の器種の可能性が高い。

他に方形の着柄孔を持つ直柄鍬身と判断できるが、鍬の器種が分からないもの図 112-13・16 ～ 19、※第 19 図 33・34・37 の 8 点があり、いずれもカシの柾目取り材を用いている。13・※ 34 は頭部の形や着柄孔の位置から三又鍬か。19 は平鍬の可能性が高く、他は判断根拠がない。

直柄鍬と組合せ着装する直柄鍬柄からみていくことにする。図 113-20・22・23、※第 23 図 78・79・81・82 の 7 点がある。20 はカシの割材を用い、先端に方形着柄孔を持つ鍬と組合せる掛かり部を造り出しており、裏面も固定具を合わせるため平坦にし、裏面の平坦面が約 20cm 前後あることから泥除けも組合せる直柄であることがわかる。22・23 は※ 78・79・81・82 は持ち手の手掛かりを造り出しているが、鍬組合せ部は欠損しており、形状は分からない。23 は直柄破損後、欠損部を杭状に尖らせ転用されている。組合せ式鋤の柄としたか。

泥除けは、直柄平鍬や直柄又鍬と 20 のような直柄と組合せて使用するもので、※第 22 図 67 の 1 点と未製品の可能性がある 26（図 113）の 1 点が出土している。※ 67 はカシの柾目取り材を用い、着柄孔は方形であるが直柄鍬や横鍬の着柄孔と比較すると幅があり、泥除けとした。横鍬の可能性もある。26 はクスノキの板目取り材を用いていること、建築部材の鼠返しにしては小さいことから泥除けの未製品としたが、鼠返しの可能性もある。

固定具は、直柄平鍬や直柄又鍬と直柄の組合せをより強固にするためと掘削使用時の柄と鍬の角度を調整するために用いられている。図 113-21・24、※第 23 図 71 ～ 73・75 ～ 77、※第 60 図 331 の 9 点が出土している。鍬と泥除けに直柄を組合せる※ 331 と鍬と直柄を組合せる 21 や※ 72・73 の二形態がある。前者の典型は※ 331 で、長さが 25cm 強あり、表の先端から 4 cm ほどの所に鍬と組合せる掛かり部を、裏に 9 cm 前後の泥除けを挟み込む抉りを造り出している。※ 75 も同じ型か。21 は長さが 16cm 強と短く、先端から 5 cm ほどに鍬と組合せる掛かり部を造り出しているが、裏には鍬組合せ近くに固定を強固にする目釘用の切り込みがあるだけである。二者は長さ 25cm 前後のものと長さ 15cm 前後で大別できるが、※ 71 は長さが 21cm 弱と二者の中間の長さを持ち、先端から 4 cm 強に鍬掛かり部を他端近くに縄縛り固定用の切り込みを造り出し、裏の先端近くに固定強化の目釘用の切り込みがある。21 の型は鍬と直柄の固定に目釘を使用することがある程度であるが、※ 331 は泥除けを組合せるため固定用として目釘のほか縄や紐で縛り固定が行われることになる。※ 71 も泥除けを組合せたものといえる。

西北部九州地域では、主な掘削具としての使用はないが、枝分かれ部を用いた曲柄を組合せる平鍬が、図 113-25、※第 21 図 56・57・59 ～ 61、※第 25 図 94 の 7 点出土している。25 はクスノキの板目取り材を用い、15cm 強の曲柄組合せ部を、外側端部付近の両側縁に縄縛固定用の切り込みを造り出し、組合せ部と段を持って胴張り長方形の体部となり、刃は丸く仕上げている。※ 60 も同型で縄縛固定用として端部に紐掛かりを造り出している。※ 59 が別型で、長さ 23cm 強で幅 4 cm 弱の曲柄組合せ部の先端 5 cm を薄く仕上げている。体部は組合せ部から肩を造り出し、長くやや広がりながら丸みを持つ刃となっている。※ 57・61 も同型か。※ 56 は鋤の可能性もあるがクスノキの板目取り材を用いており、曲柄鍬とした。※ 94 の内側はほぼ平坦で、蒲鉾形をなす組合せ部の先端は細くなっているが欠損している。全体の形状は羽子板状をなす。※第 15 図 2 は枝分かれ部を用いた膝柄である。

斧柄など工具柄の可能性があるものの組合せ部（台部）が平らで現状で15cmあり、先端が欠損しているが25のような曲柄鍬を組合せると収まりがよい。

起耕具より整地具として主に使用されることが多い鍬類があり、平刃のものを朳（エブリ）、鋸歯のものを把（サラエまたはサライ）と呼ばれているものがあり、これを横鍬とした。※第23図74が平刃、※第20図52～54が鋸歯である。※74は泥除けとして報告されているが、カシの柾目取り材を横に用い、右に鋭角に直柄と組合う方形着柄孔を持ち、頭部と少し丸みを持つ刃部が意図的に作られていることから横鍬とした。※53・54もカシの柾目取り材を横に用い、片寄った方向で直柄と組合う着柄孔を造り出し、歯は※53が6歯、※54が7歯で、前者の又部はV字状をなし、後者の又部はコ字状に仕上げられている。※52は未確認であるが鋸歯の横鍬と考えられる。

鋤類は一木ですべてを作る一木鋤と抄い部と柄を別々に作る組合せ式鋤に大別でき、さらに、刃の形で平鋤、又鋤、三又を含む多又鋤に分ける。まず、一木平鋤からみていく。図114-27、図115-30～32、※第21図58、※第24図83・89、※第25図91～93・95、※第26図103の11点と可能性が

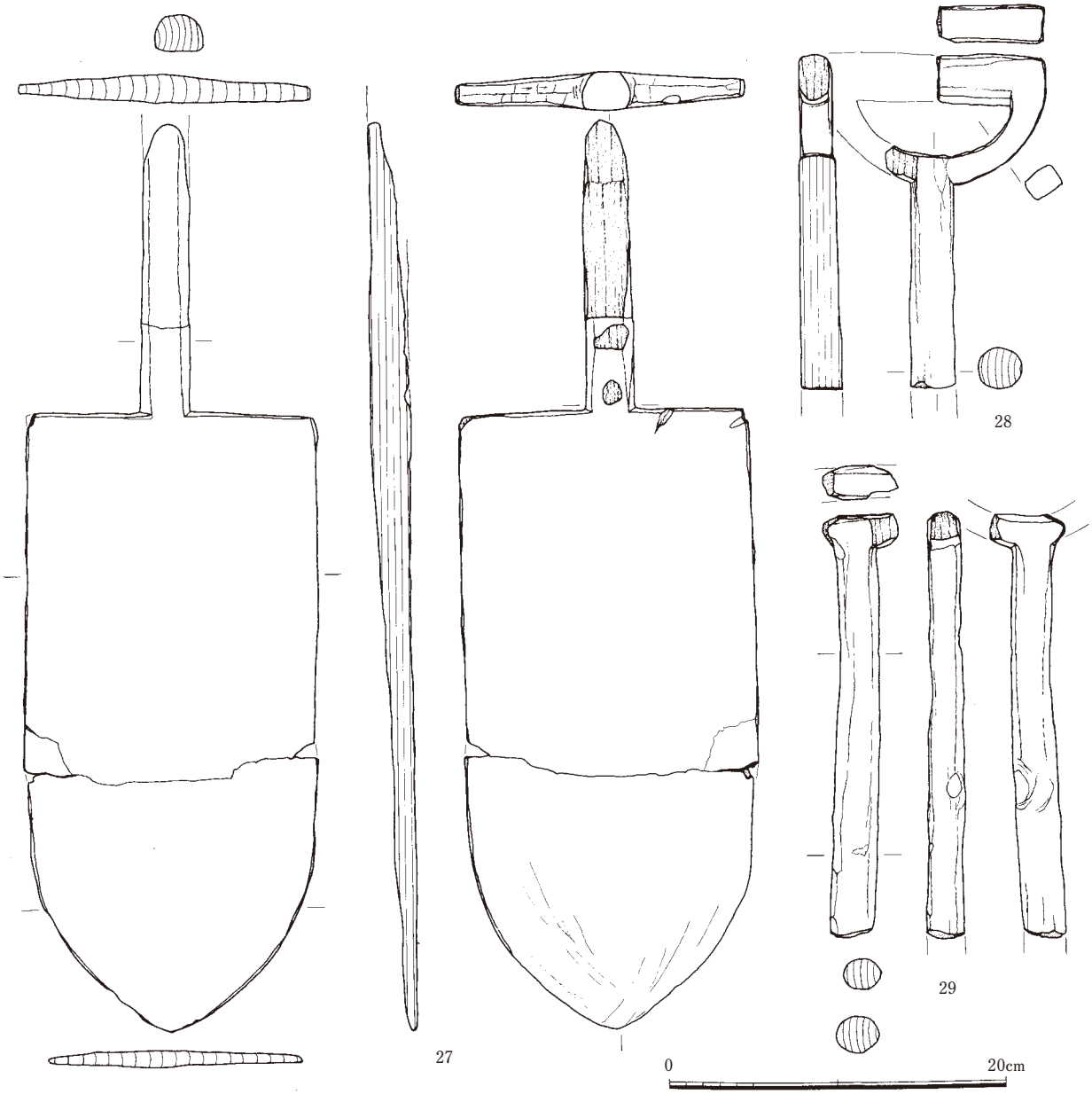


図114　I区出土木製農具実測図3

高い図 115-34、※第 26 図 99 がある。いずれもカシの柾目取り材を用いている。36 は抄い部の一部を欠失するも全体形状を知ることができる。柄端部に半月形に刳り貫いた握部を造り出し、柄は横断面円形にし、抄い部は長さ 14cm 弱の丸刃スコップ状をなし、抄い部表は平坦になるように仕上げている。30・34 は同型のものといえる。27・32 は 31 に近いものの抄い部が剣先形スコップ状をなし、27 の抄い部は長さ 37cm を測り、32 は 25cm 前後となると考えられる。※ 89 も 27 と同型。※ 92 は使い減りにより幅狭となっているが 32 と同型のものといえる。※ 83・95 は西北部九州地域の弥生時代中期によくみられる形状で、抄い部の肩に足掛かりをコ字状に造り出している。※ 103 は※ 83 の変形で抄い部を抉る形でフライパン状をなしている。※ 91 は抄い部肩の造り出しはないが、抄い部を強調した製品といえる。

※ 90 はカシの柾目取り材を用いた又部がコの字状をなし、刃が長い一木又鋤である。刃部のみの遺存である※第 26 図 98・100・102 の 3 点は、カシの柾目取り材を用いており、弥生時代中期から終末期の他遺跡の出土例の形状から一木又鋤で、※第 26 図 101 は一木三又鋤といえる。※ 100 は肩からすぼまりながら両刃となり、又部はＶ字状をなす。※ 98・101 は又・三又の違いはあるものの平鋤※ 95 と同様に肩にコ字状の足掛かりを造り出している。※ 102 は平鋤で※ 103 の又鋤版といえる。抄い部・刃部肩に足掛かりを造り出す一木鋤類は、弥生時代中期から後期初頭にかけてのものといえる。

※第 26 図 96・97 は、短い組合せ部を持つことから組合せ式鋤と考えられる。※ 96 は抄い部が撫で肩で凹む平鋤で、※ 97 は断面形がＶ字状をなし、又間の隙間が狭い又鋤である。図 115-33 は端部に面取り加工で拳状に手掛かりを造り出し他端は杭状に尖らせており、組合せ式鋤柄と考えられる。

図 114-28・29、※第 24 図 84 ～ 88、第 44 図 233・234 はいずれもカシの柾目取り材を用いており鋤柄である。※ 85 の握部がＴ字状をなす他は、いずれも半月形状または三角形状に刳り貫いた握部を持っている。28・29、※ 84・87・234 は半月形に、※ 233 は半月形の変形版で、※ 86・88 は三角形状に刳り貫いた握部の破片である。※ 85 は組合せ式鋤柄の可能性が高いが、他は一木鋤の柄部の可能性が高い。

収穫・脱穀具としては、脱穀具の杵類と臼がある。杵類は竪杵と横杵がある。図 116-36・37、※第 28 図 112 ～ 114・116 の 6 点が竪杵である。いずれも芯持ち材を用いており、36・37 は同一材で、搗部の長さがほぼ同じであり、握部の境が不明瞭な製品であることから接合はしないものの同一個体といえ、36 の搗部端はレンズ状をなし、37 は凸レンズ状をなしている。※ 114 も同型か。※ 112・113 は 36 などに対して搗部・握部とも長く、搗部端は凸レンズ状から尖りぎみで、握部中央に算盤玉状の造り出しを造り出し、搗部と握部の境は比較的明瞭である。他遺跡の出土例から※ 112 などは弥生時代中期前半頃のものといえよう。※ 116 は槌の破片の可能性もあるが、竪杵であろう。図 123-72・73 はカシの割材を用いている。片方端部がすぼまり、接点がないため杭としたが、同一材であり、割材を用いていることや縦方向の丁寧な削り加工を考えると竪杵の未製品の可能性が高いといえる。図 116-35 は、芯持ち材の枝分かれ部を用いた一木造りの一木横杵である。搗部端は凸レンズ状をなしている。西北部九州地域では、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて一木横杵が製作使用されている。

臼は図 116-38、※第 29 図 118、※第 30 図 119 ～ 121・123 の 6 点があり、いずれもクスノキの芯持ち材を用いている。※ 118・119 が全体の形状が分かる製品である。最大径は※ 118 は口縁にあるが※ 119 は底部にあるものの、共通する特徴は最大径の約 1.2 倍が器高となり、ほぼ平底から高さ約 1/3 の所にすぼまりがあり最小径となり、臼部の深さは高さの約 1/2 に達している。このような形状を持つ臼は、西北部九州地域の後期によくみられるものである。38 も同型の臼の底で、火を受け全体的

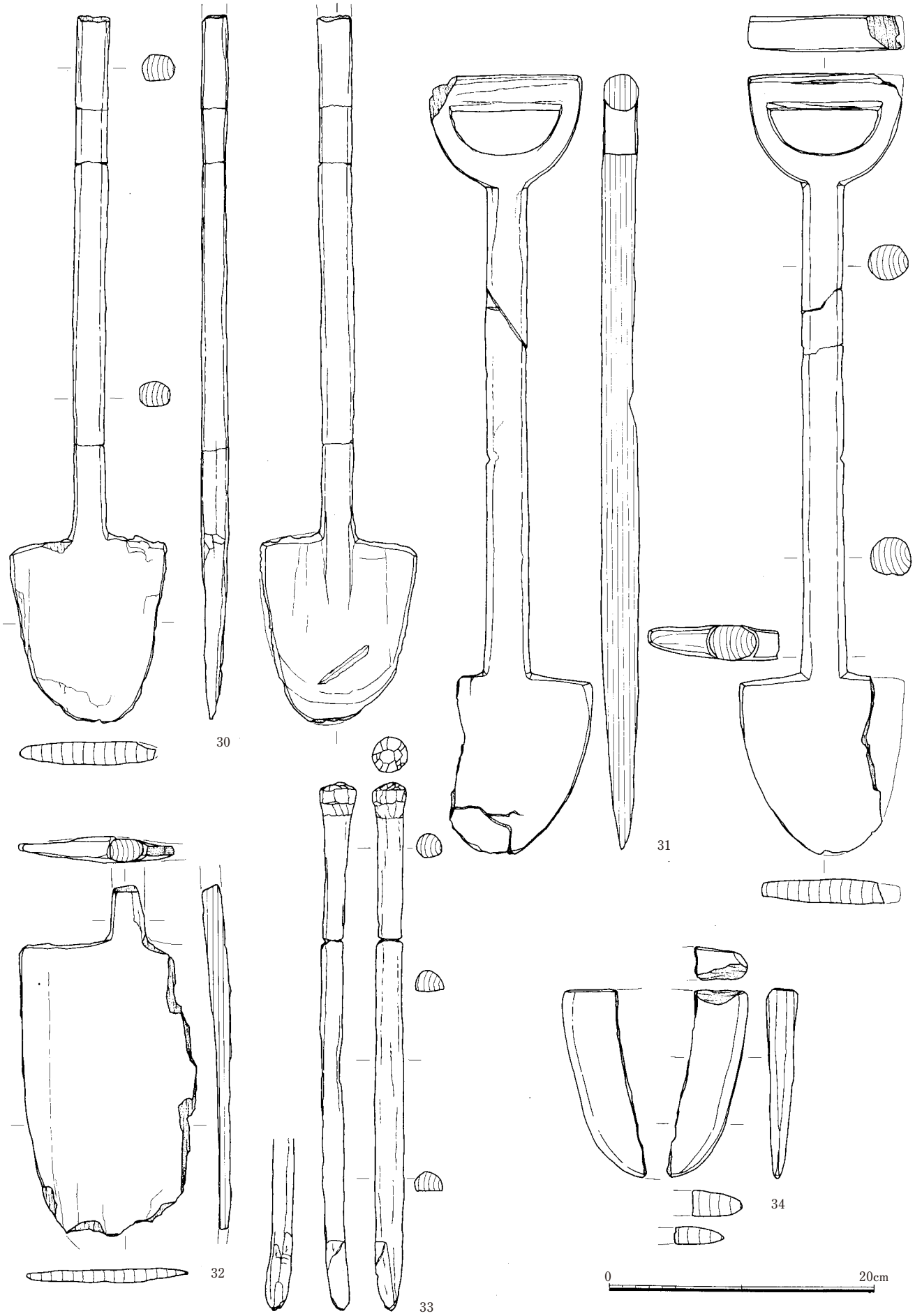


図 115　I区出土木製農具実測図4

に炭化している。※120は臼部の破片であるが、器壁がやや薄く、臼部の深さが浅く、※121（報告実測図は上下逆転）と対応しそうであり、元の形状は、口径と底径と器高の比率が1：1：2の関係にあり、くびれは高さのほぼ真ん中付近にあり、臼部深度分の上げ底となると考えられる。※120は、※118などより後出の弥生時代終末期のものといえる。※123も※120と同様に臼芯部である。

他に農具として田下駄の角枠（※257）の可能性があるもが出土しているが、現物未確認である。

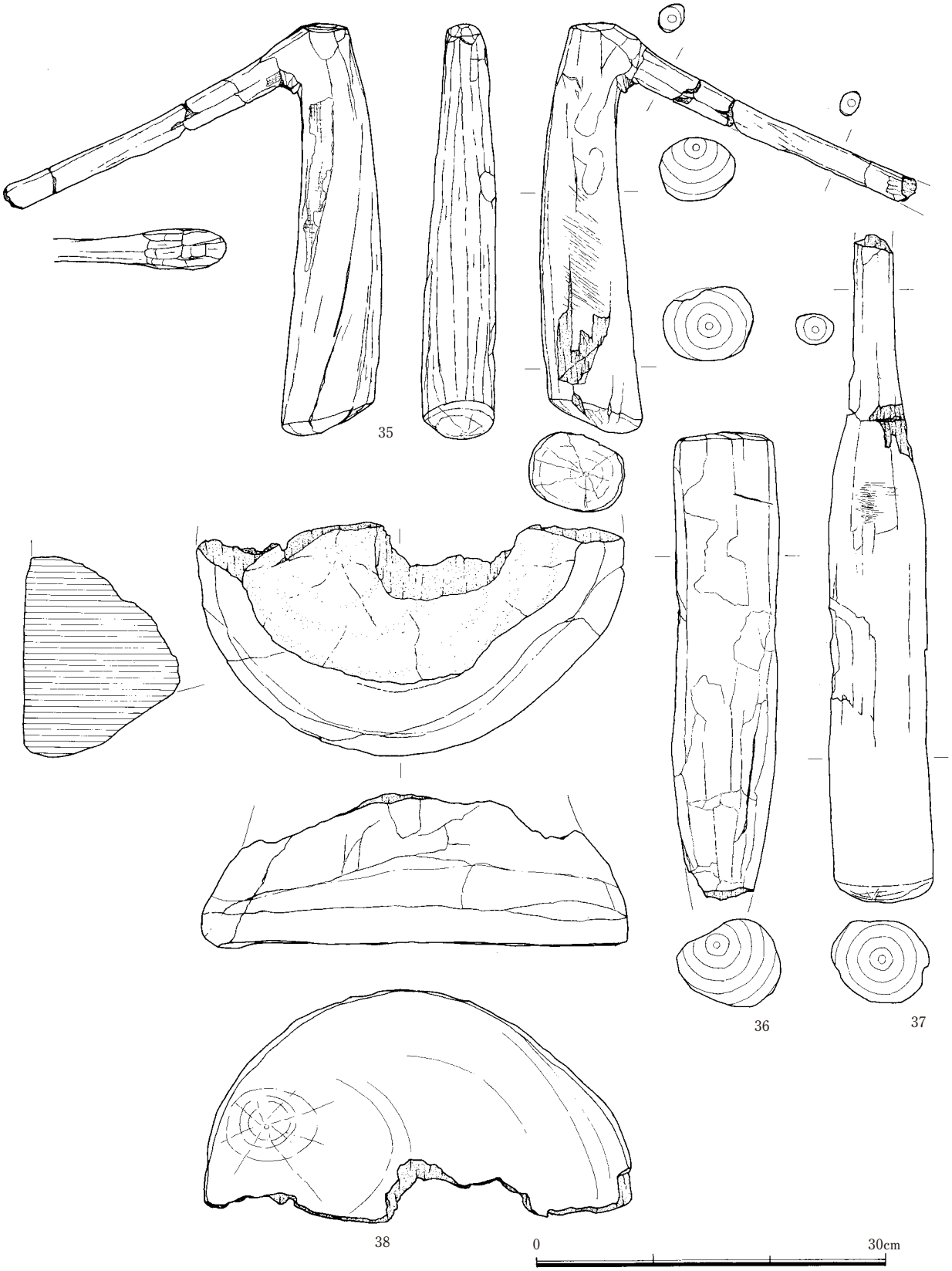


図116　I区出土木製農具実測図5

２．編み具・紡織具（※第 44 図・第 47 図）

編台と紡錘車が出土している。編台は、※ 255・256 の目盛り板２点と錘※ 226 の１点がある。※ 255 は、シイ属の柾目取り材の厚さ 1.5cm 前後で幅５cm の板の片側縁に 3.5cm・5cm・7.3cm・13cm・1.6cm・2.4cm の中心間隔でＶ字の切り込みを入れ、他縁に 31cm 間隔でコ字の切り込みがあり、両側が使用されたと考えられる。両側に方形の枘孔を持っているが、編台脚組合せに関連するか否かは不明である。※ 256 は未確認であるが、Ｖ字の切り込みが図化されており目盛り板であろう。※ 226 は芯持ち材を用い長さ８cm ほどで両端を切断し、切断面には面取り加工を加え、表皮を剥ぐ形で断面円形に近くなるよう削り加工を加え、中央にコ字状の切り込みを巡らし仕上げている。時期限定できる製品として西北部九州地域最古のものか。

※ 221 ～ 223 の３点は紡錘車の紡輪で、※ 221･223 は軸である紡茎も遺存している。※ 223 は円盤形、※ 221 は片面が笠状に少し盛り上がっている。※ 224 は笠形の円盤であるが、西北部九州地域は紡輪にイスノキをよく使用していることから紡錘車の紡輪未製品とした。

３．運搬具（図 117、※第 15 図・第 21 図・第 49 図・第 51 図・第 56 図・第 57 図）

背負子、舟・船部材、櫂、碇？などが出土している。背負子は※１・４・272 の３点あり、いずれも爪あり型背負子の縦木で、※１は着地近くの片側に幅１cm、長さ２cm の溝を挟み大小の枘孔を穿っている。この枘孔は、両端にコ字状に切り込んだ横木を渡すためのものと思われる。※４も同型か。※ 272 は爪より上位に横木を渡すための枘孔を穿っている。

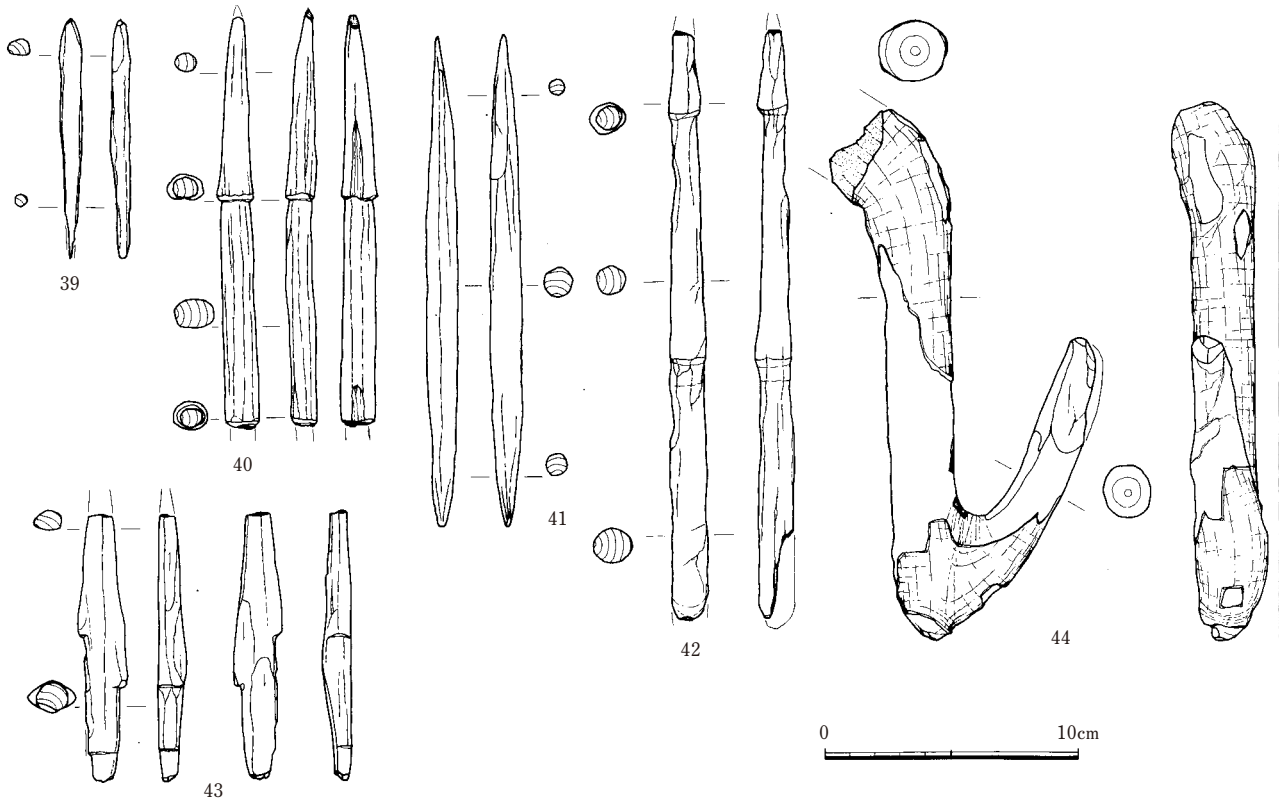


図 117　I区出土木製漁労具実測図

※ 264 はクスノキの板目取り材を、※ 297・298 もクスノキを用いている。※ 264 は背の高い台形状をなし、底辺近くの端に目釘孔が穿たれている。※ 297・298 は半月形状をなし、※ 297 は直線的な縁の中央付近に楕円形の小孔を穿ち、※ 298 は弧に沿って長方形孔を三孔穿っている。この３点は準構造船の部材で※ 264 は波切り板、後者は竪板か。

※ 296 はカシの柾目取り材を、※ 301 は広葉樹の板目取り材を、※ 62 はイスノキの柾目取り材を用いた櫂と考えられる製品である。※ 62 は舵の可能性もある。また、※ 296 は大形の篦状製品の可能性もある。44 は表皮が残る広葉樹の芯持ち材の枝分かれ部を用い、枝を切り落として尖りぎみにし、鉤状に仕上げている。自在鉤の可能性もあるも又部が擦れていること、又部周辺の表皮が遺存していないこと、又部と相対する先端の切断面にも擦傷痕が顕著であることから又部に大形の石錘を抱かせた碇と考えた。

４．漁労具（図 117、※第 23 図・第 57 図・第 59 図・第 60 図）

※ 299 は小枝を切除した枝を用い大きく湾曲させ、片方端部を削り加工により尖らせている。紐通しの小孔や紐を縛った痕跡はないが一木造りの網枠であろう。

39 ～ 43、※ 312 ～ 321・337・343 の 17 点はヤスと考えられる。40・42 はイスノキの柾目取り材を用い先端を尖らせ、途中で径を変えて段を付け、返しを造り出している。43 は違い棚を作ることで返しとし、基部に柄組合せ部を造り出している。39・41 は両端を尖らせ胴丸に仕上げており、木鏃の可能性もあるが細身で長いことからヤスとした。※ 318・319・321 も 41 などと同型か。※ 312 は先端を尖らせ、基部は片方を削り落とし組合せ部を造り出しており端刃と考えられる。※ 313・337 も※ 312 と同型で、いずれもイスノキの柾目取り材を用いている。※ 314 ～ 317・320 もイスノキを用いており、ヤスとして使用されたといえ、※ 343 大形であり、ヤス柄または銛の可能性もある。今後、図化時に基部の形状に注意する必要がある。

※ 334 はイスノキの柾目取り材を用い、一端部は切断面に面取り加工を加え、側面も丁寧な削り加工で丸く仕上げ、他端は板状に薄くしており、鮑おこしとして使用したと考えられる。※ 333 もイスノキの柾目取り材を板状に仕上げており、鮑おこしといえよう。

※ 302 はシイ属の割材を用いたアカトリで、長さ 14cm 以上の柄を造り出し、塵取り状に仕上げている。※ 80 はアカトリとしたが、刳物容器の可能性がある。現物未確認。

５．武具（※第 36 図・第 44 図）・服飾具（図 118）・調度（図 118、※第 45 図～第 47 図）

武具は甲と楯がある。※ 152 ～ 156 の５点で破片 20 片は板物綴合わせの甲で、厚さ 0.25cm ～ 0.5cm と薄く、片面に黒漆を塗布し、※ 152 などの破片には 1.8cm ～ 2 cm の間隔で綴合わせのための小孔がみられるものがある。※ 232 はスギの板目取り材を用いた楯で、ほぼ 5 cm の間隔で紐通し孔が並んでおり、赤漆を塗布している。

服飾具は履物の沓と髪飾りの簪がある。48 は刳物で模造船とも考えたが、片方を尖らせ、他方は丸く収め、底が平らで深みがないことから沓とした。側縁近くは傷みがあるため紐結びのための小孔などはみあたらない。※ 225 は先端を尖りぎみにし、他端は切断後、削り加工で整え、側面は丁寧な縦方向の削り加工で優美に仕上げている。簪として使用されたと考えられる。

調度は机と腰掛がある。45、※ 242 ～ 246・249 ～ 251 が机である。机は、天板・脚・天板挟み板からなる部材と脚止めの栓からなる指物である。45 はカシの柾目取り材を用いた天板で、他側縁側は破損し欠失している。両木口に沿って 4 cm・3.4cm 幅の天板挟み板の圧痕が残り、木口の角近く

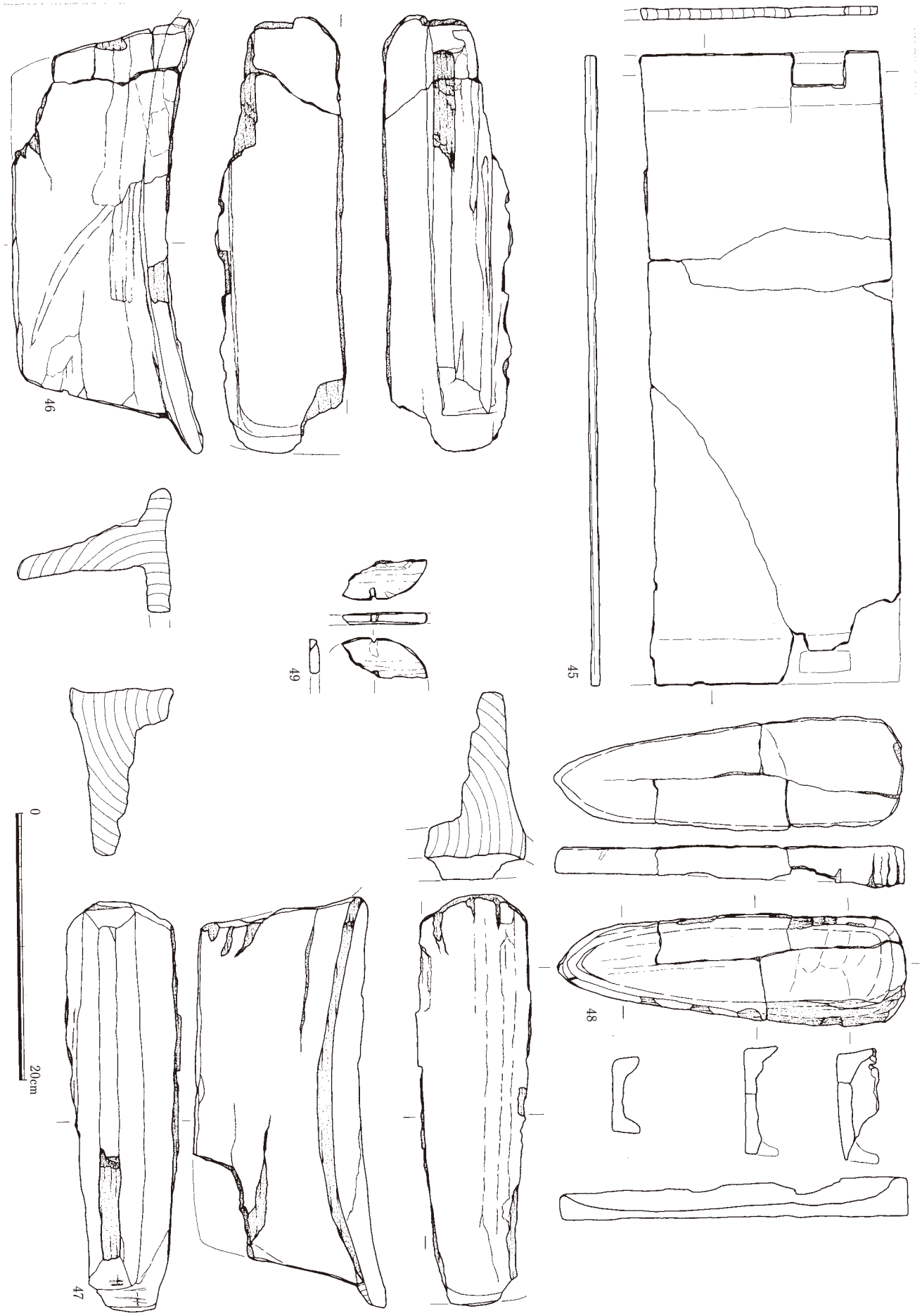


図 118　I区出土木製調度等実測図

に脚組合せの長方形孔を造り出している。※ 242 は現物未確認であるが、両木口に沿って幅 3.2cm ～ 3.6cm（天板挟み板相当）を厚さ 1 cm と他の面より 3 mm ほど厚くしており、挟み板を用いない天板と考えられる。なお、厚くした両側を除く他の面は、これまで他遺跡で出土している机の天板と同様に表裏とも多数の刃線痕がみられる。※ 243・244 はスギの柾目取り材を用いた板であるが刃線痕がみられることから机の天板と考えられる。※ 251 は片側縁を孤状に削り込み、片方木口は平坦で、他端側は丸みを持ち、棚を造り出しており、机の脚と考えられる。通常の脚と異なり、天板挟み板で天板を挟み固定するための鼻栓（または専用の栓）を組合せる長方形孔がなく、未製品の可能性もある。※ 245 はスギを用いた机で、片方の二脚と天板挟み板が目釘 4 点で固定された状態で出土した。脚は片側縁に孤状の削り込みがあり、上部に天板受けの棚と天板などを固定するための目釘孔二孔を設けている。天板受け棚と目釘の間は、遊びが大きく、天板と天板挟み板一枚が欠損していると考えられる。あまりにも小形であり、雛形の可能性もある。※ 246 はスギの板目取り材を用いた天板挟み板で、脚組合せのための長方形孔がみられる。※ 249・250 も天板挟み板か。※ 247・248 も机と報告されているが、カシの柾目取り材を用いており、机以外の組合せ部品の可能性がより高いか。

46・47 は広葉樹割材の同一材を用いており、腐食して接点があいまいであるため、個別に図化されていたが、同一製品であり、長軸方向に並行する脚を造り出した一木の腰掛である。※ 253 は広葉樹の板目取り材を用いた盤状をなす製品で、長軸線上に相対する脚組合せのための方形孔を持っていることから腰掛の座板とした。裏面に長軸方向の並行する低い脚状の造り出しがあり、刳物容器の盤として製作されたものの転用で、容器の脚台の可能性もある。※ 259 は未確認であるが、両木口付近に脚を組合せる方形孔を持つ指物の腰掛座板である。

6．食事具（図 119）・**調理加工具**（図 119・120・122、※第 33 図・第 40 図～第 43 図）

食事具は、カヤ？を用いた匙（80）が出土している。丁寧な削り加工でスプーン状に仕上げ、抄い部の内外面は黒変している。

調理加工具は、多量の杓子が出土している。杓子は未製品を含む縦柄杓子、横柄杓子、斜柄杓子と柄でなく短い把手がある程度の抄い具である杓子に分けられる。51 は芯持ち材を用い、比較的丁寧な削り加工で、抄い部を作り、浅く上げてきた所に短い把手状のつまみを造り出し杓子として仕上げている。※ 189 も同型で、表裏とも丁寧な削り加工痕が顕著に残っており、内面もまだ浅く未製品か。55 は柄頭と抄い部の大半が欠失しているが、芯持ち材を用い、木の葉状の柄頭を作り、丁寧な削り加工を加えた後、磨きを加え長い縦長の柄を作り、先端に深みのある抄い部を造り出した縦柄杓子である。

56 は縦柄杓子の未製品で、切断した丸太材の片木口に削り加工を加え平面形楕円形に整形して柄頭を作り、他木口に斜めの抄い部を削り出し、柄頭と抄い部間の木芯を抉り取り除去して柄を造り出し放棄している。66 は柄頭、抄い部が欠失した縦柄杓子であり、※ 212・213・215・218 ～ 220 も抄い部と柄頭の大半が欠失した同型のものである。※ 214 は削り加工が顕著でまだ磨きが施されていない縦柄杓子未製品である。※ 205 ～ 211 は、大小はあるもののいずれも平面形を木の葉形に整形した縦柄杓子の柄頭で、一番厚みを持つ柄頭の付け根が遺存したものである。※ 131 は大形で刳物の椀の可能性もあるが、直の立ち上がりと開きぎみに立ち上がる所があり、抄い部が大きい杓子もあること、抄い部から柄付け根部が遺存することが多いことなどから縦柄杓子の抄い部と考えた。※ 190 は、縦柄杓子の抄い部から柄付け根が遺存したものである。

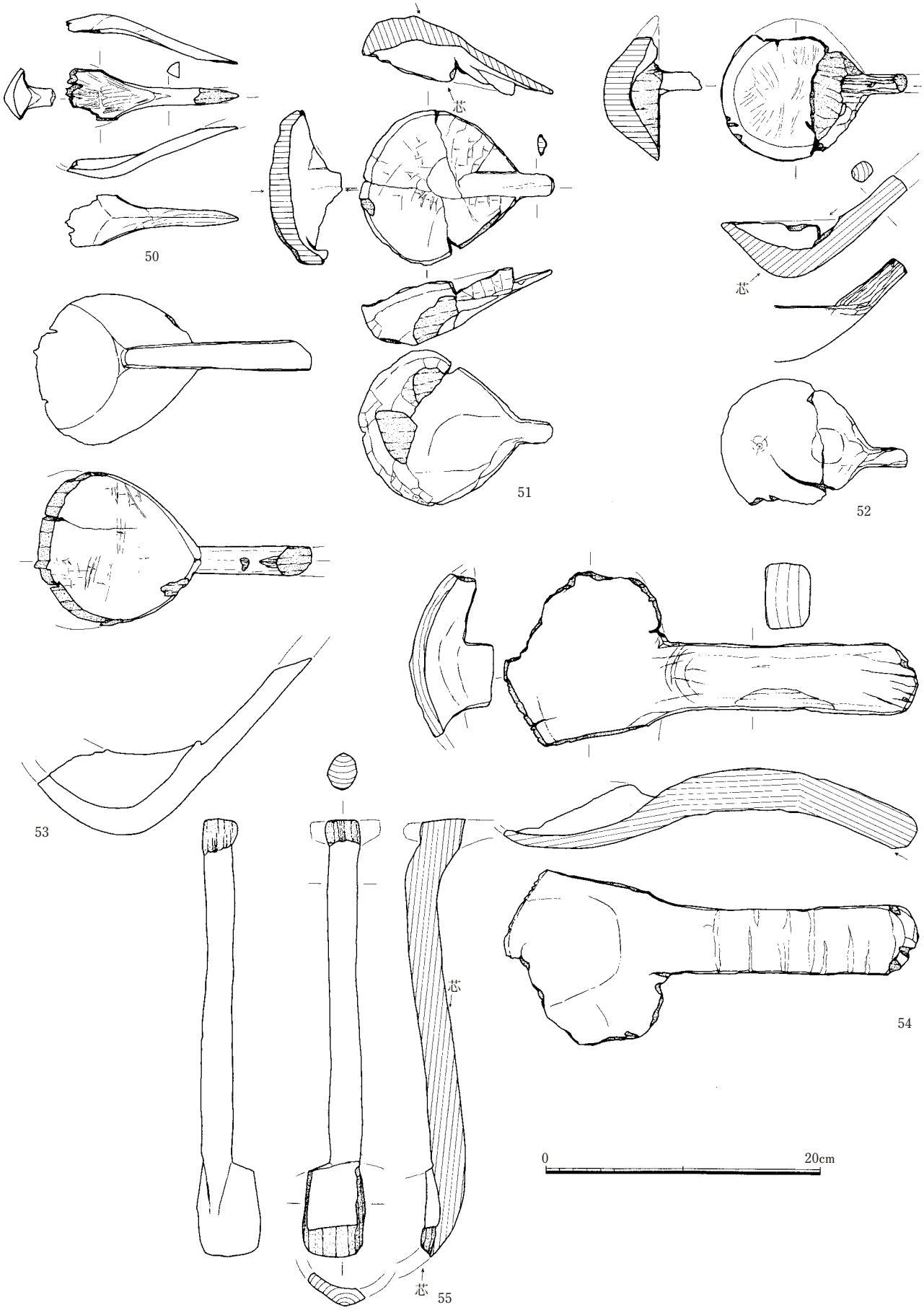


図 119　I区出土木製調理加工具等実測図 1

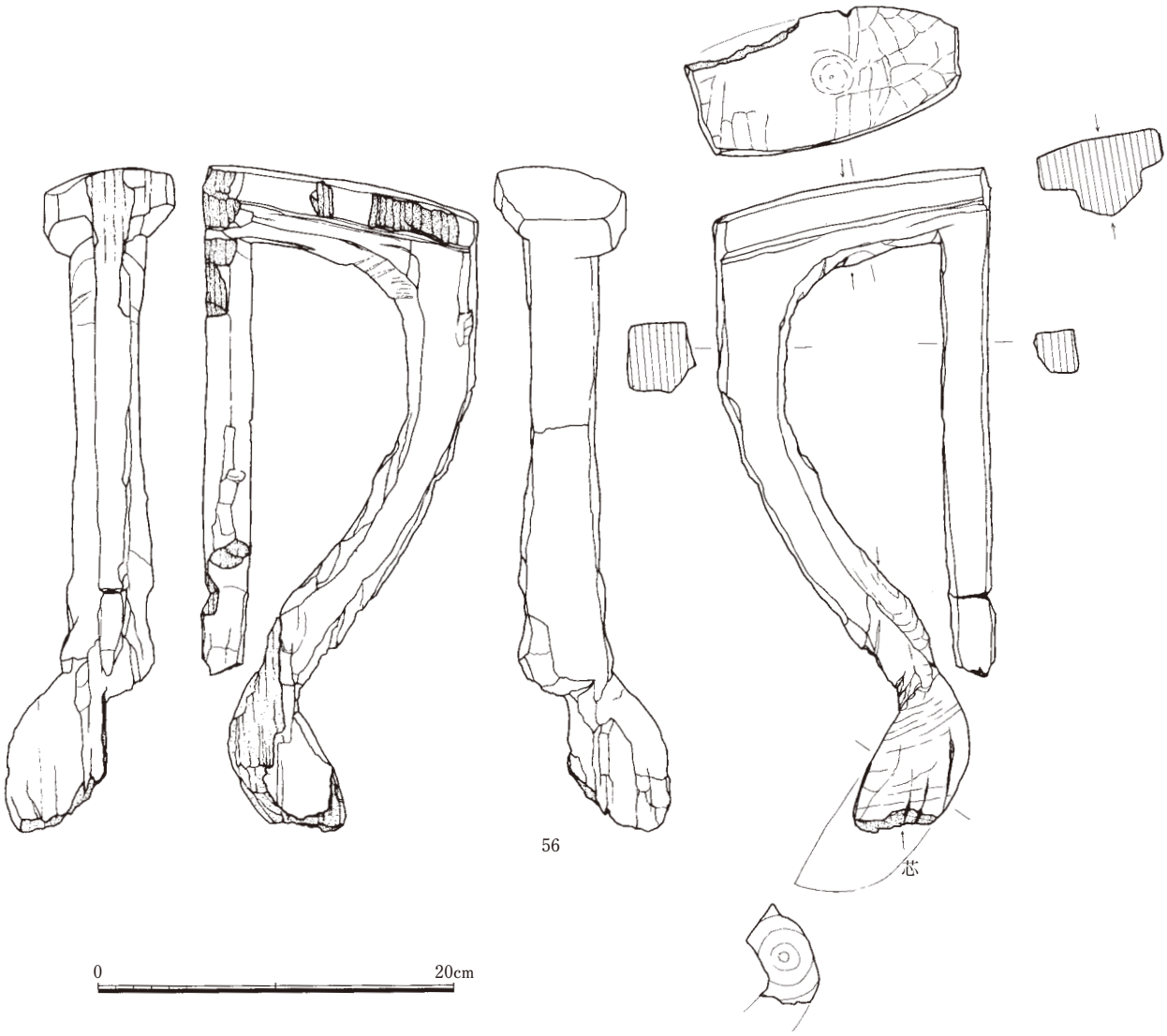


図 120　I区出土木製調理加工具等実測図2

54 はクスノキの割材を用い、丁寧な削り加工で片方端部に浅い抄い部を造り出し、少し反りのある柄を連続させ磨きを加え優美な横柄杓子に仕上げている。※ 217 は芯持ち材を用いており、柄頭は少し径を大きくしてグリップエンド状に、端部は丁寧な面取り加工で仕上げ磨きを加えている。横柄杓子の柄部である。※ 199 は短い横柄を持つ杓子で、※ 202 も横柄がつくと思われるが、51 に近い杓子の可能性もある。

52 は芯持ち材を用い、丁寧な削り加工で大きめの杯形をなす抄い部に斜柄を削り出した斜柄杓子であるが、柄端は欠失している。表裏とも削り加工痕が顕著に残っており未製品か。53 も同型で表面は磨きが加えられ優美に仕上がっている。斜柄杓子は、柄が長くて抄い部が大きいものと、柄が短く抄い部が浅いものに大別できる。52・53 とも比較的、柄は短いか。※ 195 ～ 198 が典型例で、柄端はＴ字状をなしている。※ 200 が柄が長い典型例で、大きい抄い部は欠失しているが板状をなす柄は長く、先端は舌状をなしている。※ 204 は抄い部が大きく、柄端は丸く収めている。※ 183・184・187・203 は、大きくて安定の良い平底の抄い部を持ち、抄い部と柄の境に段を設けて斜柄が取り付くように仕上げている。また、※ 193・194 などは、抄い部と柄の境には段を持つが、抄い部は丸く仕上げ安定は悪い。※ 182・185・186・188・191 も杓子の抄い部で、大半は縦柄杓子と考えられるが、遺存状態が悪く、判断できない。

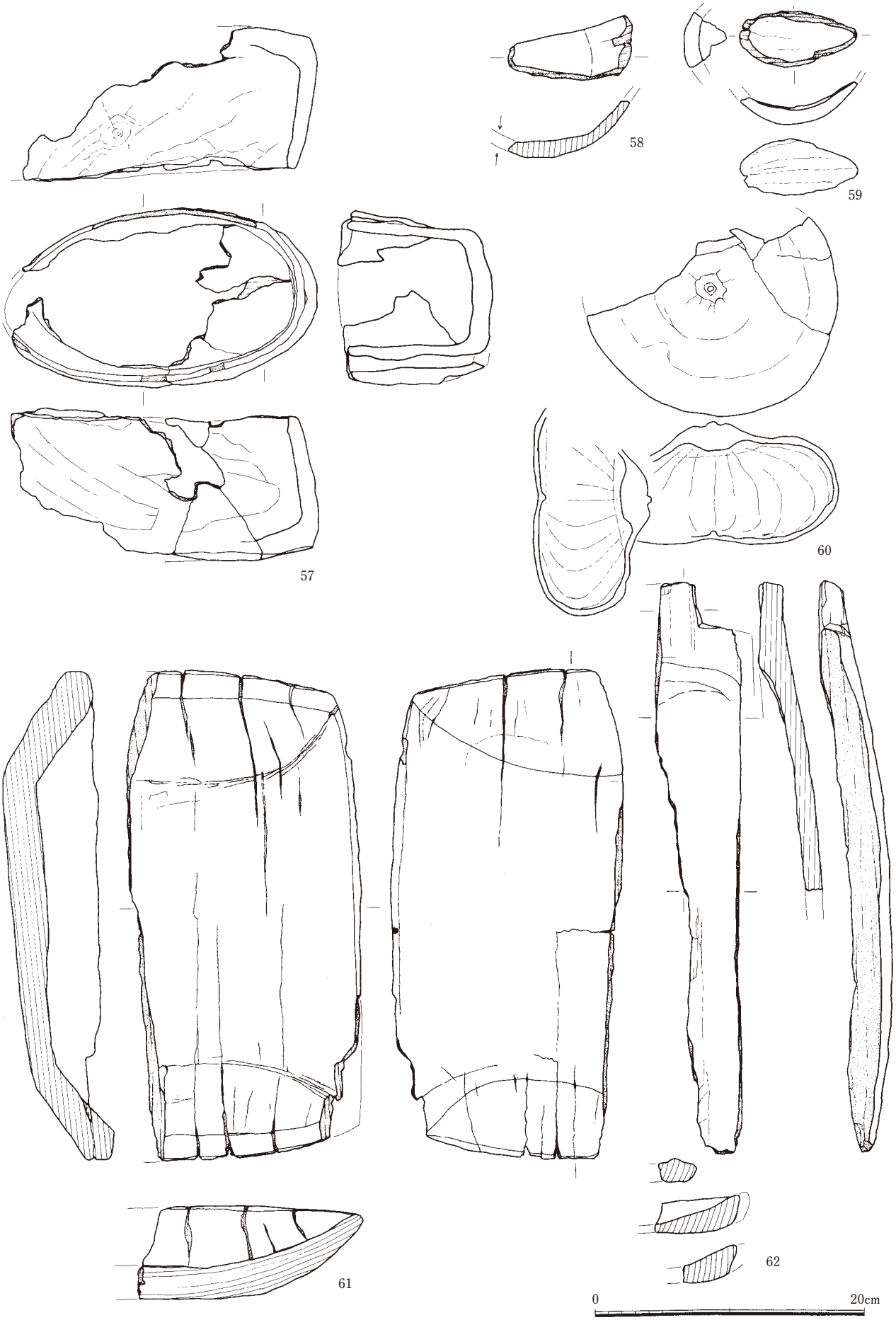


図 121　I区出土木製容器実測図1

7．容器（図 121・122、第 31 図～第 39 図・第 42 図・第 44 図・第 65 図・第 68 図）

本遺跡では、弥生時代から古代にかけての各時期の木製容器が出土しているが、本調査においては、弥生時代後期の各種の木製容器が出土している。容器は、刳物が大半を占め、板組物など板物が少量出土している。また、素木造りが大半を占めるが少量の漆器も出土している。出土容器は、椀・皿・鉢・壺・高杯・槽・盤・箱・蓋・樽・ジョッキ・付属品と多種出土している。

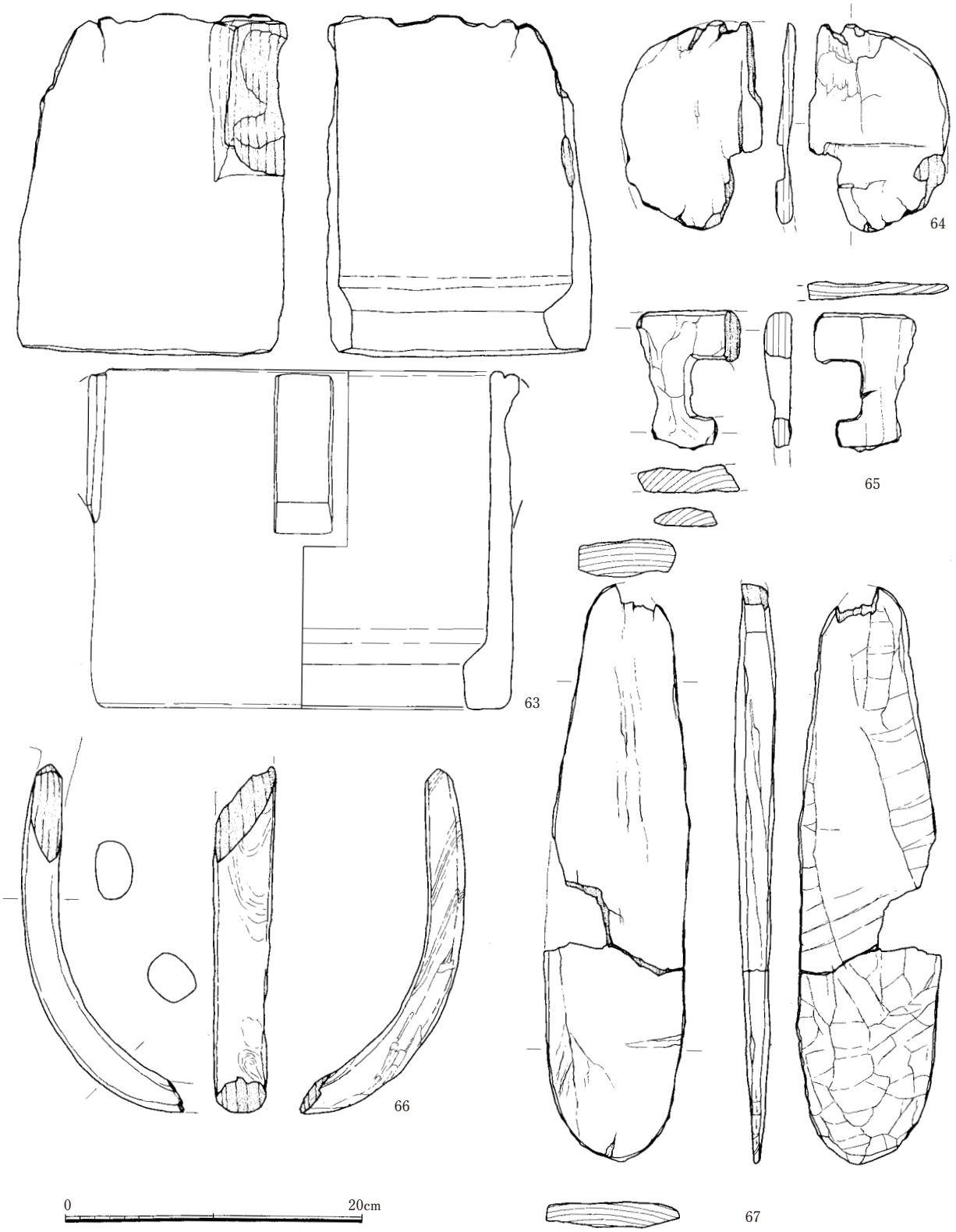


図 122　Ⅰ区出土木製容器実測図2

59 は小片であるが、丁寧な削り加工で整形し、表面処理後、黒漆を表裏に塗布しており、椀か。※ 158・161 ～ 165 が刳物の椀および椀の未製品で、※ 158 はクスノキの柾目取り材を用い、丁寧な削り加工で上げ底に整形し、研磨を加え仕上げている。※ 163 も表裏に削り加工を加え、上げ底の椀を意図していると考えられるが、器壁は凸凹しており、厚さも均一でなく、内面に削り痕が顕著に残り底も未処理であることから未製品である。※ 165 はもう数段階前の椀？の未製品で、材を切断後、削り加工により外形を整形している。※ 162 は丁寧な削り加工で整形後、研磨を加えた口縁部の破片である。杓子によく使われる材を用いており、杓子の抄い部の可能性もある。※ 161 は厚めの平底で、やや斜めに立ち上がり口縁は丸く収まるよう削り加工で整形し、研磨を加え仕上げている。※ 164 も平底でやや開きぎみに立ち上がり、口縁は薄く仕上げ杯に近い。

※ 126 ～ 130・132・382 が刳物の皿で、143 が皿未製品と考えられる。※ 132 は平底で平面形楕円形を呈し、開きぎみに短く立ち上がり、口縁は薄く仕上げている。※ 129 も器形は同型で、クスノキの柾目取り材を用い、長軸に平行する低い脚を造り出している。※ 126 は平底で平面形隅丸長方形を呈し、両木口に鍔を造り出している。※ 130 は平底で平面形隅丸長方形を呈し、口縁はコ字状をなし、中央に仕切り壁を設け、片方木口に底から延ばした短い引き手を造り出している。※ 382 は平底で平面形は長方形を呈し、片方木口に棒状をなす引き手を造り出している。蓋の可能性もある。※ 127 はやや胴張りの隅丸方形を呈し、平らな底から開きぎみに立ちあがり、コ字状をなす口縁まで均一の厚さに仕上げ、逆円錐状の独立四脚を粗い削り出しで造り出している。※ 128 は平面形隅丸方形を呈し、口縁は薄くし、中央に低い仕切りを持ち、底には各辺に長いコ字状の切り込みを持つ平面形方形の比較的高い脚を丁寧な削り加工で作り、磨きを加え優美な器形に仕上げている。※ 143 は平面形長方形に整形した板目取り材を用い平底を造り出している。盤の可能性もある。

鉢もすべて刳物で、57 はクスノキの割材を用い、底は安定の悪い平底で、直から内傾ぎみに立ち上がりコ字状の口縁となり、平面形楕円形で器壁は薄く仕上げている鉢である。※ 136 もほぼ同じ器形を持つか。58 は芯持ち材を用いている鉢の小片で、器面は丁寧な削り加工後磨きを施している。杓子の可能性もある。※ 125 は長方形を呈する底から開きながら立ち上がり、口縁コ字状をなす胴張り長方形にし、独立の四脚を削り出して仕上げている。※ 124 も同型か。※ 133 は、口縁近くから削り出しの方形に刳貫いた把手を造り出している。※ 148・149 は横断面台形をなし、器面には黒漆塗布後、赤漆の線描きによる彩色がある容器の脚と考えられる。鉢か。

※ 135 は丁寧な削り加工で、不安定な底から直に立ち上がり、くびれて開き徳利形に仕上げている壺である。※ 201 は、丁寧な削り加工で丸みある底から胴張りぎみに立ち上がり卵形をなしている。表裏には器面調整後、黒漆を塗布している。内面にも黒漆が塗布されており、コップ形か。※ 147 は安定の良い平底で、胴張りの器形を持ち、底部近くから口縁にかけ刳貫いた把手を造り出しているジョッキである。内面には赤漆を塗布し、外面は器面調整後、赤漆に黒漆を重ね塗布し、赤漆をさらに重ね赤漆を掻き取り黒斜線を出し彩色している。

※ 145・146・159・160 は刳物の高杯である。※ 146 は丁寧な削り加工でワイングラス状に整形し、器面調整後、内側は赤漆を、外側は黒漆を塗布し、赤漆で３本組の線描きし、彩色している。軸部近くは黒漆に赤漆を重ね巡らせている。韓国の古村遺跡に類例がある。※ 145 は丁寧な削り加工で、丸みを持つ底から開きながら立ち上がり、端がやや垂れ気味の逆Ｌ字口縁もつ優美な杯部に五脚の独立円柱状の脚を造り出している。脚着地部は円環状の脚台となる高杯としたが、今宿五郎江遺跡や佐賀県吉野ヶ里遺跡などでは五脚が杯部外底とほぼ同じ高さの脚となる脚付き鉢の出土例がみられる。※ 159・160 が同一個体ではないが、透かしを持つ円柱状の脚台を持つものである。

61 はクスノキの割材を用い、芯側を刳貫き割竹形に仕上げた槽である。※ 139 もクスノキを用いており同型か。※ 144 も同型の未製品か。62 はスギの柾目取り材を用いた槽で舟形をなす底の一部が遺存在している。※ 138 も槽で、丁寧な削り加工後、磨きも施され器面は美しく仕上げられている。※ 140 は着地部が狭く不安定な底を持ち、ずんぐりした舟形に仕上げられている槽と考えたが、鉢とすべきか。※ 137 はシイ属の板目取り材を用い、薄く仕上げた盤であるが全体形は分からない。

本調査地では、刳物の優美な箱のセットと板組物の箱が出土している。※ 379・380 が同一材と考えられる針葉樹の割材を用いた箱のセットで、※ 379 は丁寧な削り加工で、外形を屋根形とし、内側は浅く内天井がほぼ平坦になるように長方形に掘り窪め、両木口に身と固定するための目釘を留めるための半円状の造り出しを設けている箱蓋である。外に比べ内は削り痕跡がみられる。※ 380 は箱身で丁寧な削り加工で、平面形・側面形を長方形、木口を方形にし、長方形の低い四脚を外底に削り出し、両木口に蓋と相対する位置に目釘留めの半円状の造り出しを設けている箱身である。身も蓋同様外面は優美であるが、内面の仕上げは雑で削り痕が顕著にみられる。なお、このセットは蓋に目釘が遺存している。※ 381 も同型であるが、広葉樹の柾目取り材を用い、※ 380 より小形である。遺存状態は良く、口縁には長方形の蓋受けを造り出している。※ 366 はスギの柾目取り材を用い、台形に整形した板と考えられるが約 2/3 が欠失している。縁辺の角などに紐縛のための小孔を穿っており、板組物の箱で、ころび箱の板部品か。※ 258 もスギの柾目取り材を用いた方形の板で、一側縁に斜めに紐縛のための小孔が穿たれており、板組物箱の蓋か。

蓋は刳物 1 点と板物 10 点が出土している。※ 181 は丁寧な削り加工で仕上げた刳物で笠形をなし、口縁の内側にＬ字形に切り込みを巡らし身との組合せ部を造り出している。※ 174 は三辺が膨らみを持つ方形の板で、直線的な辺に沿って二つの紐通し小孔が穿たれている。※ 167 はスギのナナメ取り材を用いているが同型か。※ 166 は平行する二辺が膨らみ、他の二辺が直線的な方形の板で中央に直線的な辺に並行する短いつまみを造り出している。つまみ付け根の両側が凹でおり、使用頻度が高かったといえる。※ 168 も同型。※ 170 は膨らみを持った方形の板で一辺に撥形の把手を造り出し団扇形に仕上げている。※ 171 も同型といえる。※ 178 は縁を厚く仕上げており、中央は破損しているが別材などでつまみを組合せる孔を穿っていたか。以上板物の蓋は※ 166、※ 171、※ 174、※ 178 の四タイプに分けることができる。

63 はスギの割材を用いた樽で、丁寧な削り加工で器面を整え、内側の底に厚みのある底板受け部を削り出し、口縁には蓋受けを造り出している。また、外側の口縁から長方形の傷みがあるが、この傷みは蓋固定または肩に掛ける帯などを結ぶための孔を穿った造り出しが欠失したものと考えられる。破片が小片であるため壁が直に立ち上がり円形に復元したが、原型は胴に膨らみを持ち、平面形は楕円形を呈している可能性が高いといえる。※ 157 もスギを用い、丁寧な削り加工で整形したあと磨きを施した精製品の樽である。内面の底近くに上げ底となる底板受けを造り出している。

本調査では曲物の出土はないが、樽の底と考えられる底板が出土している。※ 172 はシイ属の板目取り材を用いた板で、円形で縁に側受けが造り出されている。蓋の可能性もある。※ 180 は厚みはほぼ均一で円形に仕上げ、コ字状をなす縁に二つの目釘孔がみられる。※ 179 は円形、※ 169 は長軸の辺がやや直線的となる楕円形をていしている。図 118-49 は未確認であるが、円盤状をなし、一つの目釘が刺さったような痕跡が図化されており、底板または威儀具である蓋の鏡板か。図 122-64 は円形を呈する板で、一面に長方形の切り込みがあり、底または蓋の可能性が高いといえる。

※ 227・228 は、丁寧な削り加工で円柱状に整形し、器面は摩耗している樽などの栓か。

60 は食用もしくは容器や食事具の素材として保管されていたヒョウタンの堅皮である。

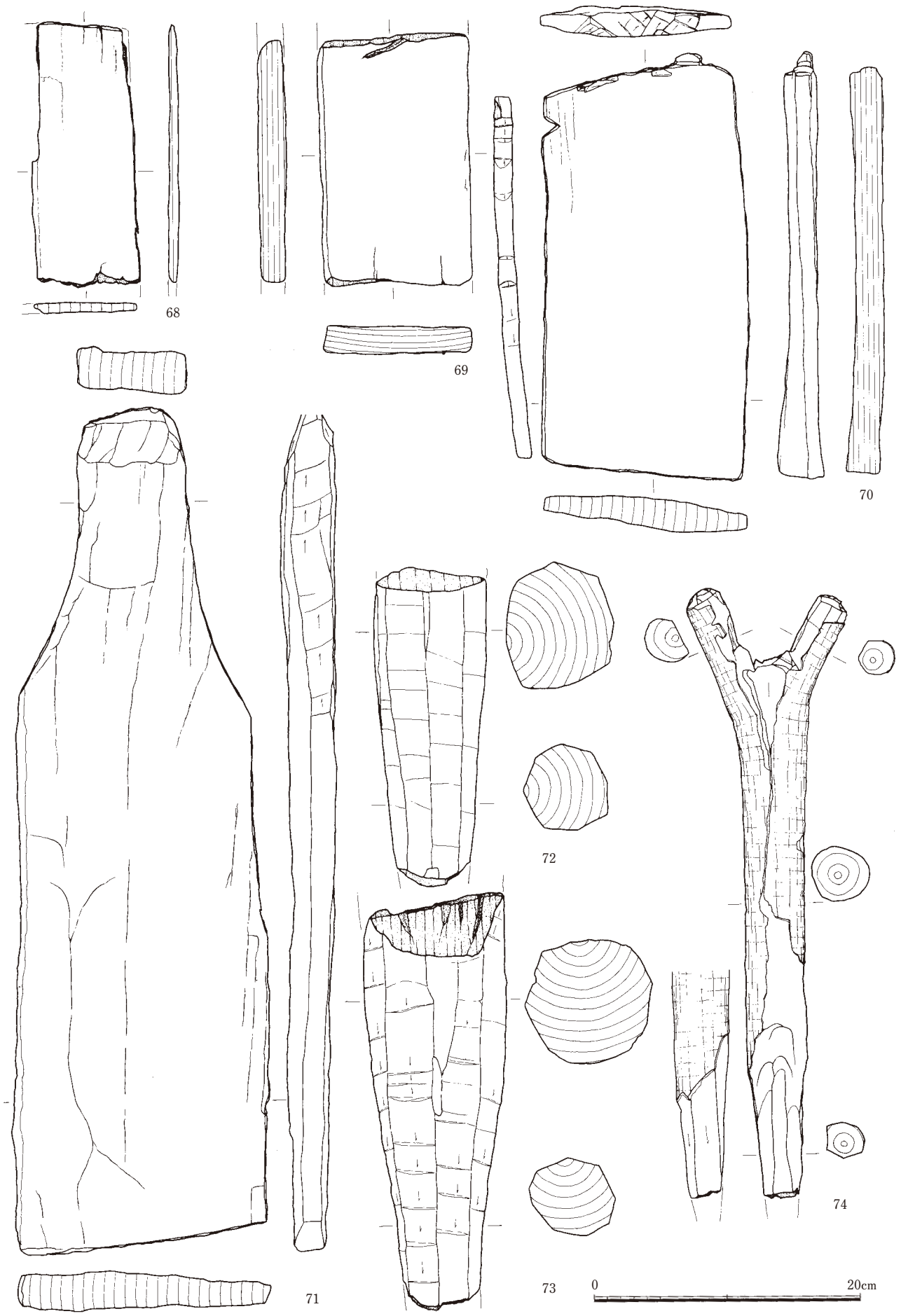


図 123　I区出土木製品実測図

８．祭祀具・威儀具（※第 33 図・第 46 図・第 58 図・第 66 図・第 67 図）

祭祀具は、木偶・鳥形・陽物形・舟形などの形代がある。※ 374 は長めの顔と尖りぎみの顎を意図した平らな一面に、目・鼻・口を削り加工によって彫り込み、人頭を作り、長い頸までを表現し、その下は何かに組合せる枘を造り出している人頭の木偶である。※ 377 は針葉樹を用いた鳥形で、丁寧な削り加工で頭・頸・胴体を整形し、胴に切り込みを一条巡らせている。この切り込みは羽根を組合せると同時に紐などで縛り固定するためのものといえる。※ 376・378 も鳥形で、※ 378 は尾羽根も表現している。※ 375 は丁寧な削り加工で整形し、器面に磨きを加え仕上げ、亀頭をリアルに表現した陽物形である。付け根には鉤形の他部材との組合せ部を造り出している。※ 374・375 は必ずしも同一の祭祀行為に使われたとはいえないが、人体の部分を個別に作り、組合せて使用した部品だと考えられる。※ 254 はスギのナナメ取り材を用いた板で、片縁は半円が連結した瘤形にし、左側の割れた面の中間に枘孔と考えられる長方形孔が設けられている。飛ぶ鳥を表現した板組物の鳥形か。※ 305 は針葉樹の板目取り材を用いた厚めの板で、片方端は切断後、面取り加工を加え有頭状に整形し、その下は各面に削り痕が顕著にみられ、比較的平らな面には刃線痕がみられ何らかの形代といえる。

威儀具は、蓋・さしば？などがある。※ 310・311 は芯持ち材の枝分かれを用いた蓋の軸で、幹切断面に面取り加工を加え、有頭状にし、他端の又間も丁寧に削り取り、枝は同じ長さに切断した後笠骨組合せのための枘を造り出している。※ 371 は中央に円形の透かしを持ち、その周りに表裏とも沈線群を彫り巡らし、さらに複合鋸歯文・沈線群・複合鋸歯文を彫り巡らし、外周に小孔列を３条巡らせている。器面には赤漆を塗布している。翳（さしば）か。※ 372 は長方形の板に、二段の棚を作り､先端は薄く仕上げているが基部は欠失しており全体像は分からない。※ 373 もほぼ同形状をなし、段を有する面の棚間の両側縁に場所は上下にずれるが４ヶ所づつのＶ字の切り込みがみられる。※ 371・372 は近い所で出土しており※ 372 は柄になるなど組合せて使用された可能性がある。

９．楽器・日用品（※第 58 図・第 62 図～第 64 図）

楽器は、箱形琴が出土している。※ 348 はスギの柾目取り材を用いた箱形琴の天板で、右側の弦掛けの３突起から集弦部にかけての側縁部が遺存し、側縁に沿って共鳴槽と桜皮縛固定する楕円形孔が４ヶ所穿たれており、２孔に桜皮が詰まっている。また、裏面の突起の付け根近くに共鳴槽の木口板を組合せた溝が彫り込まれ、目釘１本も残る。※ 350 はシイ属のナナメ取り材を用いており、※ 348 に類似しているが、用材などから板状琴の可能性は残るものの組合せ部材の板か。※ 349・351 はいずれもスギのナナメ取り材を用いた共鳴槽で、いずれも側板と考えられる。※ 351 は目釘孔を穿った木口板のあたり痕跡があり、一側縁は底板と組合せるため薄くし、木口のあたりから内側は薄く仕上げている。※ 349 も同型であり、※ 348・349・351 はセットの可能性が高い。※ 352 もスギのナナメ取り材を用いた共鳴槽の側板と考えられる。木口板を咬ませる溝が片方端近くにあり、一側縁に天板と組合せる３ヶ所の紐縛痕が残っている。※ 353 もスギの板目取り材を用いている共鳴槽の木口板か。※ 347 はスギの柾目取り材を用いた板で、ほぼ中央に円形孔を穿ち、表面に線刻で、鹿・鳥・家を描いている。一側縁に６ヶ所目釘孔があり、底板から目釘を打ち固定したものといえる。なお、他側縁は欠失。両木口から 5㎝前後の所に、木口板組合せのための長方形孔を穿ち、裏面には木口板を咬ませる溝を彫り込み、さらに、外側から目釘を打ち木口板を固定強化している。線刻画があること、形状から箱形琴の共鳴槽側板といえる。※ 355 もスギの板目取り材を用いた板で、共鳴槽部材か。

※ 306 はサカキの芯持ち材を用い、上の切断面面取り加工を加え、有頭状にし紐掛かりを作り、枝を１本残し鉤とし、下の切断面は両側から切り落とした状態であることから自在鉤といえる。

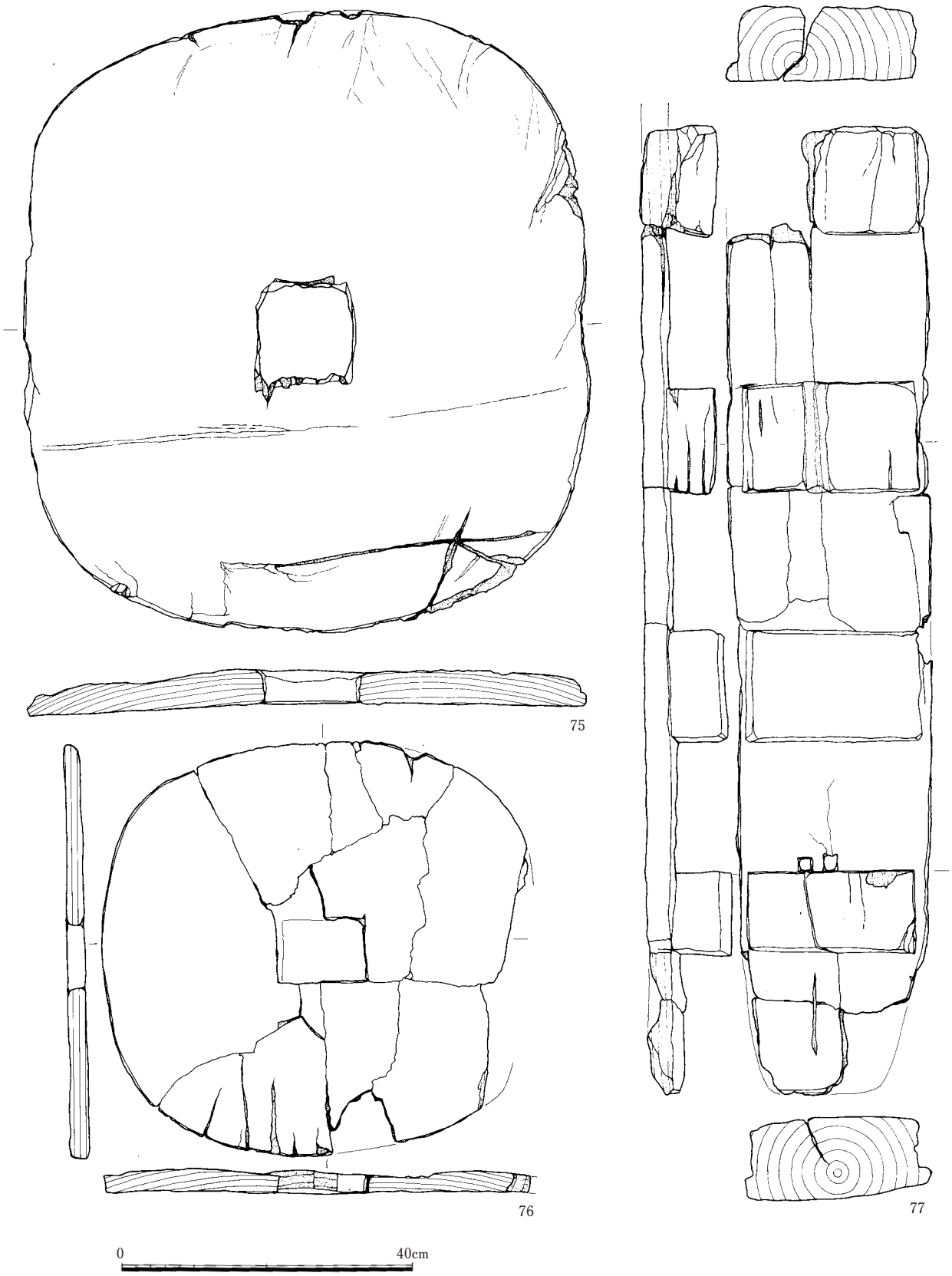


図 124　I区出土建築部材実測図

10. 建築部材（図 124・126、※第 44 図・第 48 図～第 55 図）

建築部材は、柱・梁・床・垂木・梯子・鼠返し・結合補助材などが出土している。柱は掘立柱建物と竪穴建物に使用されたものがあり、※ 280 ～ 283 などは掘立柱建物に使われた円柱で、上に鼠返しを組合せる方形台を造り出し、さらに桁や梁を受ける枘を造り出している。※ 270・276 は竪穴建物に主柱として使用された又柱で、上は横架材を受けるためL字や又状に整形している。86 は竪穴建物に、85 は掘立柱建物に使用された円柱の基部か。※ 267 はカシの板目取り材を用いた柱と咬む枘孔や木舞受けがみられ、梁か。※ 266・277 は床、※ 289 ～ 291 は桁受けの抉りがみられ、垂木と考えられる。

77 は広葉樹の芯持ち材を用いた梯子で、上から 4 段の足掛かりが遺存し、最上段下に建物と縄縛固定用と考えられる方形孔を穿っている。※ 287・288 も梯子で、※ 287 は基底部が遺存。

図 125　I区出土木製品実測図2

75・76 はクスノキの板目取り材を用いた鼠返しで、辺が膨らむ方形で、中央に柱の枘と咬む方形の枘孔を穿っている。※ 261 ～ 263・265 は鼠返し、※ 236・240・241 は結合補助材の栓。

11. その他の木製品（図 122・123・125・126、※第 16 図・第 21 図・第 35 図・第 44 図～第 47 図・第 51 図・第 58 図～第 60 図・第 64 図・第 65 図）

ここまでみてきた木製品は、物や用途が特定できるが、板や棒までは特定できるが部品であるため用途不明な物を器具材、井戸や井堰などの構築部材を施設材として施設材・器具材とする。また、基礎や土台・杭・根絡みなどを土木材、出土例が多いにもかかわらず用途不明の物を用途不明品、加工材・樹皮材・非加工材・立木・根株などをその他とする。

施設材・器具材の板からみていく。67 はクスノキの板目を用いた長楕円形の板で、片面や薄く幅広の端部近くの側面には削り痕が顕著に残り、片方端は厚く仕上げている。本調査では 25 などの曲柄平鍬の用材と同じであり、曲柄平鍬未製品の可能性が高い。※ 20 は未確認であるが平鍬未製品か。70 はカシの柾目取り材を用いた板で、略台形に整形し、上辺の端近くにV字の切り込みがある。厚さを均一にしていることと用材から横鍬未製品の可能性が高い。65 は広葉樹の板目取り材を用いた板で方形孔が穿たれている。68・69 はスギの柾目・板目取り材を用いた板である。※ 252 は広葉樹の柾目取り材を用いた平面形長方形の板で、中央に略台形孔を穿ち、上側面には繋ぎ組合せのために長方形の枘受け

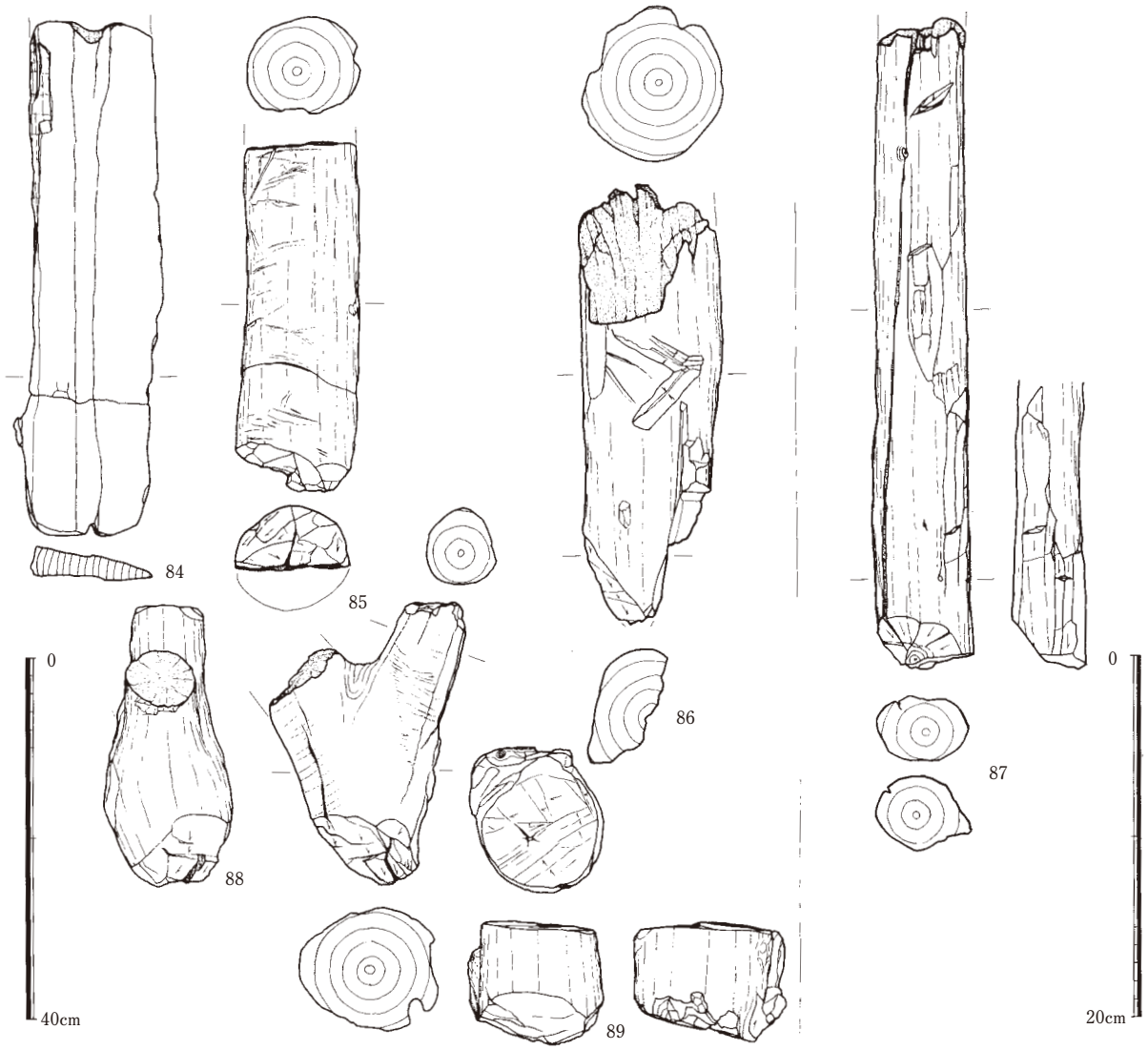


図 126　I区出土木製品実測図3

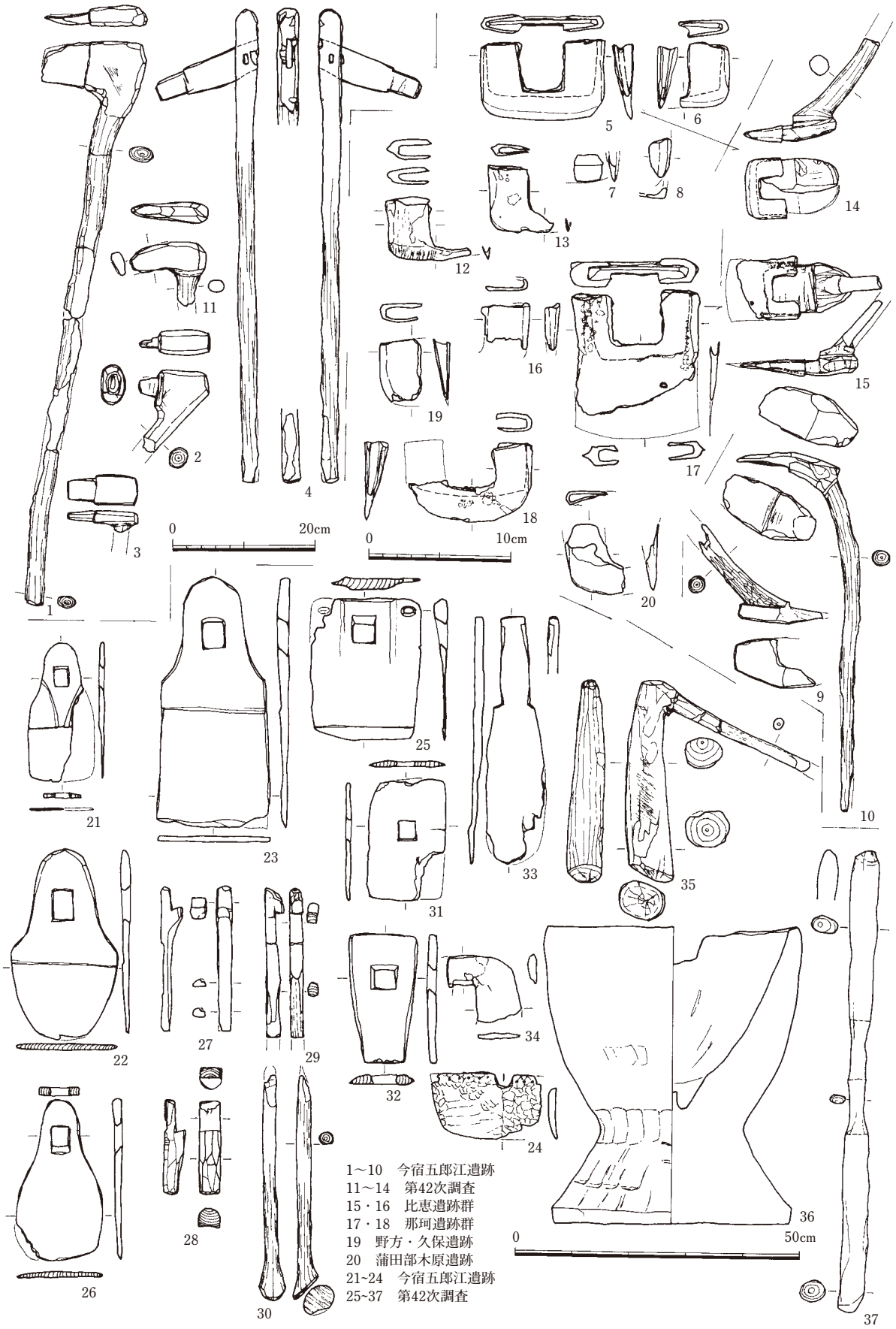


図 127　福岡市内出土青銅鋤先および木製工具・農具実測図

孔が彫り込まれ、両側縁、下側縁は組合せのため細く仕上げている。丁寧な加工で仕上げた組合せ部材である。※ 247・248 はカシの柾目取り材を用いた長方形孔を持つ板で机部材か。

74 はシイ属の芯持ち材を用いた棒で、下部は杭状に尖らせ、上部は二叉に分かれの枝を同じ長さで切断し、切断面は面取り加工を加え、又部を利用するために粗い削り加工で整形しているが表皮が多く残っている。編台の脚、土木具や縄張りなどの測量具など多種多様な用途を想定することができる。※ 268・269・274 も同型のもの。79 はスギの板目取り材を用いた角材の棒で、片方端部は杭状をなしている。楔か。81 は広葉樹の芯持ち材を用いた棒で、片方を薄く削ぎ落としている。楔か。83 は広葉樹の芯持ち柾目取り材を用いた角材の棒で、片方端部を薄く仕上げている。78 はカシの芯持ち材を用いた棒で、片方切断面には粗い面取り加工をくわえている。87 も同型。

※ 55 はシイ属の柾目取り材を用いた鋤状製品で、身が長く肩近くの紐結びのための孔がないことから一木と思われる。鋤状製品は一木のほか組合せ製品もあり、全国的に出土しているが用途は不明である。

84 はカシのミカン割り材で、表皮を部分的に残している。心材部が多く約半分が部材として利用できるか。88 は広葉樹の芯持ち枝分かれ部で残材か。下、切断面には粗い削り痕が顕著に残る。89 は広葉樹の芯持ち材の両端を切断した残材で、切断面は比較的丁寧な削り加工が加えられており、刳物容器の素材か。80 は残材である。

12. 第 42 次調査出土木製品から（図 127）

以上、見てきたように第 42 次調査では、弥生時代後期を主体とし、弥生時代中期後半から弥生時代終末期（以下、弥生時代は略す）の各種多用な多くの木製品が出土し、多大な成果を得ているが、前でも述べたように、未報告分が沢山あり、第 52 次調査の出土木製品が紹介報告された段階で全体像が多少はみえてくると考えている。ここでは、第 42 次調査とほぼ同時期の木製品が多量に出土している今宿五郎江遺跡などの調査成果を踏まえ、現時点での知見から工具の斧柄・農具の鍬類・杵類に視点をあて整理しておく。また、農具の掘削具について、若干の課題提起を試みることにする。

斧は、鋳造鉄斧と鍛造鉄斧があり、斧柄はすべて曲柄であるが柄との組合せから伐採斧（1・11 など）と加工斧（2・3など）に分けることができる。鋳造鉄斧は、大きさ、形は規格的であり、伐採斧として使用されたといえる。鍛造鉄斧は形態は同じであるものの大きさは大小あり、斧柄も大小あるとともに、台部の形状が幅広くなるもの、台部を棒状に仕上げるものがあり、台部が幅広のものは加工斧となるが、棒状になるものは柄と組合せないと加工斧と限定できない。これまで、中期後半から終末期の西北部九州地域では、曲柄のみで雇柄はないと考えていたが、佐賀県吉野ヶ里遺跡でアカガシ亜属の柾目取り材を用いた台と握りからなる鋳造鉄斧を組合せ伐採斧とした雇柄が出土した。単品の移入品と考えていたが、福岡県柳川市蒲船津江頭遺跡で、終末期のアカガシ亜属の柾目取り材を用いた台と握りからなる雇柄が出土したことなどから、終末期に他地域から雇柄を使う技術が移入されたと考えざるをえなくなった。さらに、今宿五郎江遺跡でアカガシ亜属を用いた台と握りからなる雇柄が出土する（4）にいたり、雇柄の存在は疑いないものとなった。この斧柄は、吉野ヶ里遺跡出土のものと比較すると貧弱で実用品か疑わざるを得ない。また、雇柄の斧柄は点的な出土であり、古墳時代前期以降は本地域で見られないことから使用時期や分布範囲を把握する必要があるといえる。曲柄斧柄は、中期まではアカガシ亜属がよく用いられているが、後期からはサカキが多用されている。クヌギ節・複維管束亜属（マツ）も時代を通して用いられている。

鍬類は、平鍬・又鍬・多又鍬の直柄鍬（21 ～ 23・25・31・32）と直柄鍬柄（29・30）、直柄鍬組合せ使用の泥除け（24･34）･固定具（27･28）、曲柄の平鍬（33）、整地具として使用される杁（エブリ）･

把（サラエ）と呼ばれてきた平刃・鋸歯の横鍬がある。I区出土の 26（本文中 11）は、西北部九州地域で中期後半から一般的にみられる直柄平鍬であるが、本調査では別形態を持つ直柄平鍬 25（※ 46）が 7 点出土している。25 は着柄孔を肥厚部に持つことで、今宿五郎江遺跡第２次調査出土の 21 と共通し、刃部近くを段をつけて肥厚させていることは、今宿五郎江遺跡第 11 次調査出土の 22・23 と共通している。25 を報告者は糸島型としている。25 をはじめ本調査地出土品は平面形方形であるが、平面形が方形ではなく楕円形などとなるが、同型のものは、今宿五郎江遺跡第２次調査と比恵遺跡群第６・７次調査で出土している。刃が直線的・丸みを持つ、肩に段を持つ・撫で肩、肥厚部が長い・短いなどと組合せは 12 通り以上と形は異なるが 22・23 と同型といえるものが、今宿五郎江遺跡第２・９・10・12・13 次調査や糸島市上罐子遺跡で出土している。26 のような方形着柄孔を持つ鍬類は九州型と呼ばれ、佐賀平野西部の土生遺跡などでは中期中頃から、中期末には福岡平野でも使われるようになり、古墳時代終末期まで主たる農具の掘削具として製作使用されている。段をつけた肥厚部を持ち方形着柄孔の鍬類は、比恵遺跡群の出土例はあるものの今宿平野周辺の狭い範囲に分布していることから糸島型と呼称し、肥厚する着柄孔部を持つものを糸島 a 型、肥厚する着柄孔部を持たないものを糸島 b 型としたい。糸島型は、中期後半から中期末に製作使用されたと考えられるが、時間幅・分布については類例の増加を待ちたい。29（20）と 30（23）は直柄鍬柄で、29 が鍬類組合せ部の破片であるが、組合せ部が長いことから泥除け（24）も組合せたことがわかる。また、27（※ 331）は裏面に泥除け組合せ部を造り出しており、平鍬か又鍬＋泥除け＋直柄＋箭と組合せて使用する固定具である。28（21）は、鍬類と直柄の組合せ角度を調整する固定具である。31（※ 64）・32（※ 68）は、方形着柄孔を持つ直柄平鍬であるが、先端に刃がなく両側縁が刃となり、直柄は鈍角に組合せたと考えられ、掃い鍬とするか、集土の道具とするか用途の検討が必要である。西北部九州地域では直柄鍬類・曲柄鍬類は、カシの柾目取り材を用いているものが 99％を占めているが、本調査ではイスノキを用いた直柄鍬類、クスノキの板目取り材を用いた曲柄平鍬 33（25）がある。

37（※ 112）は中期前半の竪杵で、中期後半からは搗部と握部の境が不明瞭で、握部の造り出しを持たない竪杵が製作使用される。後期に入ると一木横杵（35）が出現し、臼は臼部が深みをます。

14（※ 216）は、鍛造鉄斧を組合せる可能性もあるが、振り下ろすには不便な角度となる。同型の柄は土生遺跡、比恵遺跡群（15）、今宿五郎江遺跡（9）などで出土例があり、土生遺跡の出土例がほぼ完形で 50cm 弱の柄を持っている。金属の刃を組合せて、前に撥ねる鏟と呼ばれる撥ね鋤としての使用が可能である。土生遺跡は鉄器はないが、青銅器生産は行われていることから、これまで、柄が不明である青銅製鋤先を組合せてみた。土生遺跡は、方形着柄孔を持つ直柄鍬類とともに又の踏み鋤（タビ）が出土しており、金属刃を組合せた撥ね鋤とすると、中国を源とする水稲耕作用の直柄鍬類、土木工事用の鋤類、伐根畑作用の踏み鋤、整形整地用の撥ね鋤の掘削具の製作使用技術が伝来し、定着し、使い分けされた可能性が高いのではないだろうか。この件については、別途まとめたいと考えている。

（山口譲治）

参考引用文献

伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学』海青社　福岡市教育委員会 2014『元岡・桑原遺跡群 23』　同 1991『福岡市今宿五郎江遺跡Ⅱ』　同 2010『今宿五郎江８』　同 2011『今宿五郎江９』　同 2011『今宿五郎江 10』　同 2014『今宿五郎江 16』　同 1986『比恵遺跡』　三日月町教育委員会 2005『赤司 土生 戊 深川南 赤司東』

表1　元岡・桑原遺跡群第 42 次調査出土木製品一覧表

挿図	遺物No.	分類群	器種名	器種細分名	樹種	木取り	法量	備考
図 111	1 (045100005)	工具	斧柄	曲柄	カシ	枝分かれ 柾目	残存長 32.9cm　台部長 17.35cm + α cm　台部幅 1.7 ～ 3.1cm　台部厚 4.4 ～ 6.7cm　柄長 27cm + α cm　柄径 2 × 3cm	伐採斧柄。 鋳造鉄斧柄未製品？
	2 (045100093)				広葉樹	枝分かれ 柾目	残存長 9.9cm　台部長 12cm　台部幅 3.1 ～ 3.9cm　台部厚 1.7cm　柄長 7 + α cm	加工斧柄。鍛造鉄製袋斧柄。
	3 (045100018)		杓子形・篦状品		広葉樹	柾目	残存長 23.2cm　最大幅 (8.1cm)　最大厚 (1.7cm)	杓文字状をなす。
	4 (045100017)					板目	残存長 16.9cm　最大幅 (6.3cm)　最大厚 (1.25cm)	
	5 (045100036)				広葉樹	柾目	残存長 18.4cm　最大幅 (5.9cm)　最大厚 (0.9cm)	
	6 (045100046)		楔		広葉樹	芯持ち	器長 8.9cm　最大幅 4.9cm　最大厚 3.3cm	
	7 (045100091)	施設材・ 器具材	板	段有り	スギ	柾目	器長 8.75cm　最大幅 6.9cm　最大厚 2.25cm	楔の可能性あり。
	8 (045100020)	工具	槌	横槌	広葉樹	芯持ち	器長 13 + α cm　最大径 3.85 × 6.1cm	
	9 (045100007)				カシ	割材	器長 31cm　槌部長 18cm　槌部最大径 6.6 × 7.5cm　柄長 13cm　柄径 3 × 3.6cm	槌搗端は手杵としての使用により凸レンズ状をなす。枘状の柄。
	10 (045100058)				広葉樹	割材	器長 31.8 + α cm　最大径 5 × 5.2cm	
※第 15 図	3		斧柄	曲柄		枝分かれ	※法量参照	伐採斧柄。鍛造鉄製袋斧柄。
	5					枝分かれ		加工斧柄。鋳造鉄斧柄。
	6				広葉樹	枝分かれ芯持ち		伐採斧柄。 鋳造鉄斧柄。
	7				広葉樹	枝分かれ柾目		
	8				広葉樹	枝分かれ芯持ち		未製品。
	9					枝分かれ		加工斧柄。鍛造鉄製袋斧柄。
	10					枝分かれ		加工斧柄。小形鍛造鉄製袋斧柄。
								伐採斧柄。鍛造鉄製袋斧柄。
	11					枝分かれ柾目		伐採斧柄。鍛造鉄製袋斧柄。
	12				広葉樹	枝分かれ板目		加工斧柄。扁平石斧柄又は板状鉄製斧柄。
※第 43 図	216				カシ	枝分かれ板目		金属製斧柄か。　青銅製鋤先柄（撥ね鋤柄）。
※第 27 図	104		槌	横槌	カシ	割材		
	105				ー	芯持ち		搗部と枘状の柄の径を変える。
	106				クヌギ節？	芯持ち		
	107							
	108				ー	割材		
	109				広葉樹	割材		火を受け一部炭化。
	110				カシ	割材		
	111				ー	芯持ち		枘状の柄。
※第 28 図	115				広葉樹	割材		火を受け一部炭化。
	117							
※第 35 図	141		作業台		カシ	割材		
※第 44 図	230		発火具	火きり臼				未使用？
	231					芯持ち		
図 112	11 (045100001)	農耕土木具	鍬	直柄鍬身	カシ	柾目	器長 28.1cm　最大幅 15.2cm　最大厚 1.75cm　着柄孔長 5.1cm(内側)　着柄孔幅 3cm	方形着柄孔を持つ九州型平鍬で、刃部は丸みを持ち、左端一部欠損。
	12 (045100002)			平鍬	カシ	柾目	器長 28.3cm　最大幅 17.5cm　最大厚 1.7cm　着柄孔長 5.2cm(内側)　着柄孔幅 2.8cm	九州型平鍬。 刃部は直線的で左端欠損。
	13 (045100076)			ー	カシ	柾目	残存長 18.5cm　残存最大幅 8.1cm　最大厚 (1.65cm)　着柄孔長 4.7cm(内側)　着柄孔幅 2.3 ～ 2.75cm	刃部欠損。頭の形状から三又鍬と考えられる。
	14 (045100003)			三又鍬	カシ	柾目	残存長 21.2cm　残存最大幅 6.65cm　残存最大厚 1.7cm 残存着柄長 4cm(内側)	着柄孔から右端刃が遺存している。
	15 (045100038)				カシ	柾目	残存長 21.4cm　残存最大幅 5.7cm　残存最大厚 1.4cm　着柄孔長 6cm(内側)	着柄孔から左端刃の付け根が遺存している。
	16 (045100026)			ー	カシ	柾目	残存長 7.6cm　残存最大幅 5.8cm　最大厚 2.1cm　着柄孔長 2 + α cm　着柄孔幅 (2.75cm)	頭部から着柄孔の一部が遺存している。
	17 (045100035)				カシ	柾目	残存長 8cm　残存最大幅 6cm　最大厚 (1.5cm)　着柄孔長 1.8 + α cm(内側)　着柄孔幅 (3.4cm)	
	18 (045100037)				カシ	柾目	残存長 7.4cm　残存最大幅 5.05cm　最大厚 2.1cm　着柄孔長 2.85 + α cm　着柄孔幅 2.9 + α cm	
	19 (045100040)			平鍬	カシ	柾目	残存長 6.25cm　残存最大幅 8.25cm　残存最大厚 1.45cm 着柄孔幅 (3.6cm)	九州型平鍬。 着柄孔の一部が遺存している。
※第 16 図	13				カシ	柾目	※法量参照	直線的な刃部持つと考えられる。九州型平鍬。
	14				イスノキ	柾目		左から右の斜刃で火を受け炭化している。九州型平鍬。
	15				イスノキ	柾目		幅狭で刃部左欠損。火を受け炭化している。九州型平鍬。
	16				カシ	柾目		刃部を欠損。九州型平鍬。
	17				カシ	柾目		羽子板状をなし、刃部左欠損。九州型平鍬。
	18				カシ	柾目		やや尖りぎみの曲刃で、着柄孔左欠損。九州型平鍬。
	19				カシ	柾目		刃部右及び着柄孔左から頭部欠損。九州型平鍬。
※第 20 図	46				カシ	柾目		外側の着柄孔部と刃部近くが肥厚する糸島 a 型で、頭部両端に泥除け組合せ用の小孔を持ち、泥除けを組合わせたと考えられる。50 は中央部、48・49 は左側、51 は右側が遺存する。46 がほぼ完形で全体の形態を知ることができる。48 の中央刃部は別個体でシイ属を用材とした柾目板である。
	47				カシ	柾目		
	48				カシ	柾目		
	49				カシ	柾目		
	50				カシ	柾目		
	51				カシ	柾目		

挿図	遺物No.	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量		備考
※第22図	63	農耕土木具	鍬	直柄鍬身	平鍬	カシ	柾目	※法量参照	先端に刃の造り出しがなく、鈍角に直柄を着装し側縁を使用したか。	
	64					カシ	柾目			
	65					カシ	柾目			
	66					カシ	柾目		図天地逆。刃部欠損。平鍬であろう。	
	68					カシ	柾目		65などと同形態。	
	69					カシ	柾目		外側の着柄孔部が肥厚しており糸島a型か。	
	70					カシ	柾目		図天地逆。糸島a型か。	
※第17図	21				又鍬	カシ	柾目		方形着柄孔を持つ九州型又鍬で、両刃欠損。	
	22					カシ	柾目		大きく肩が張る又鍬で、一部乾燥変形している。	
	23					カシ	柾目		刃部が短い。	
	24					カシ	柾目		刃部が長い又鍬で、北部九州でよくみられる。	
	25					カシ	柾目	※法量参照	北部九州で最も多い又鍬、頭部・刃部右側欠損。	
	26					カシ	柾目		25と同形態。乾燥のため圧縮変形している。	
※第19図	39					カシ	柾目		着柄孔から左刃部の遺存で、三又鍬の可能性あり。	
	40					カシ	柾目		頭部から左刃部の遺存で、三又鍬の可能性あり。	
	41					カシ	柾目		頭部から左刃部が遺存している。	
※第18図	27				三又鍬	カシ	柾目		頭部から左刃部が遺存している。	
	28					カシ	柾目			
	29					カシ	柾目		方形着柄孔を持つ九州型三又鍬で、左刃部欠損。	
	30					カシ	柾目		全体の形状が分かる三又鍬で、頭部端が欠損。	
	31					カシ	柾目		三又の刃部先端が欠損。	
	32					カシ	柾目		中央刃部・右刃部が欠損。頭部は乾燥で圧縮変形。	
※第19図	35				多又鍬	カシ	柾目		着柄孔を欠損しているが四又鍬か。	
	38				三又鍬	カシ	柾目		刃部の大部分を欠損。	
	42					カシ	柾目		片刃部のみの遺存。曲柄鍬・又鋤の可能性あり。	
	43					カシ	柾目		頭部から右刃部を欠損。	
	44					カシ	柾目		片刃部のみの遺存。曲柄鍬・又鋤の可能性あり。	
	45					カシ	柾目		片刃部の遺存。	
	36				多又鍬				現物当たれず。	
	33				―	カシ	柾目		頭部から着柄孔が遺存。	
	34					カシ	柾目		頭部から着柄孔の一部が遺存。三又鍬か。	
	37					カシ	柾目		頭部から着柄孔の左側が遺存。	
図113	20 (045100023)			直柄鍬柄		カシ	割材	残存長25.9cm　残存径2.3×2.5cm　組合せ部最小幅2cm 組合せ部最大厚3.4cm		九州型平鍬・又鍬によく使われる直柄。
	21 (045100088)			固定具		広葉樹	芯持ち	器長(16.2cm)　最大幅3.9cm　最大厚3.8cm　組合せ部最小厚1.4cm		九州型平鍬・又鍬と直柄の着装に使用。
	22 (045100028)			直柄鍬柄		カシ	割材	残存長9.1cm　端部幅(5cm)		直柄端部のみの遺存。
	23 (045100073)					広葉樹	芯持ち	残存長39.3cm　端部幅(4.5cm)　端部厚3.9cm		組合せ部破損後、破損部を表裏から削り、組合せ式鋤柄等として使用したか。
	24 (045100095)			固定具		広葉樹	板目	残存長11.5cm　最大幅(3.4cm)　最大厚2.9cm　組合せ部厚1.3cm		一部欠損。
	25 (045100011)			曲柄鍬身	平鍬	クスノキ	板目	器長42.7cm　最大幅(10.6cm)　最大厚1.8cm　組合せ部長15.2cm　組合せ部幅5.3cm		頭部近くに縄縛固定のための削り込みがあり、丸みの刃部を持つ。
	26 (045100008)			泥除け	未製品	クスノキ	板目	残存長24.6cm　最大幅15.5cm　最大厚1.35cm		小形のため、泥除け未製品としたが鼠返しの可能性も高い。
※第23図	78			直柄鍬柄		広葉樹	割材	※法量参照	持ち手端部が遺存。	
	79					カシ	柾目			
	81					カシ	柾目			
	82									
※第21図	56			曲柄鍬身	平鍬	クスノキ	板目		刃部は丸みを持つ。	
	57								鍬身はやや幅狭で、曲柄組合せ部も長く、先端を縄縛固定のため薄くしている。	
	59					カシ	柾目			
	60					クスノキ	板目		縄縛固定のため頭部端に造り出しあり。	
	61					カシ	柾目		曲柄組合せ部が幅広であり、未製品か。	
※第25図	94					広葉樹	板目		頭部端を縄縛固定のため薄くしている。	
※第15図	2			曲柄鍬柄	膝柄	―	枝分かれ芯持ち		鍬組合せ部が長い。57等を組合せるか。	
※第22図	67			泥除け		カシ	柾目		直柄平鍬か又鍬と組合せ使用。	
※第23図	74			横鍬	平刃	カシ	柾目		直柄は右側が鋭角になるように着装。エブリ。	
※第20図	52				鋸歯	カシ	柾目		現物未確認。未製品か。	
	53					カシ	柾目		直柄は左側が鋭角になるように着装。サラエ。	
	54					カシ	柾目		サラエ。	
※第23図	71			固定具		広葉樹	板目		直柄鍬と直柄を組合せ、横ピンで固定。泥除け使用？	
	72								直柄鍬と直柄を組合せ、泥除けは未使用。	
	73					カシ	板目			
	75					カシ	板目		直柄鍬と泥除けを組合せ、直柄着装固定。	
	76					広葉樹	板目		直柄鍬と直柄を組合せ、泥除けは未使用か。	
	77					カシ	板目		直柄平・又鍬と泥除けを組合せ、直柄着装固定。	
※第60図	331					広葉樹	芯持ち			

挿図	遺物№	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量		備考
図 114	27 (045100014)	農耕土木具	鋤	一木鋤	平鋤	カシ	柾目	残存長 54.3cm　抄部長 37.6cm　最大厚 2.45cm　抄部幅 17.6cm		剣先スコップ型で柄は抄部近くが遺存。
	28 (045100041)				鋤柄	カシ	柾目	残存長 19.6cm　残存握部幅 9.5cm　握部内幅 (9cm)　握部内長 3.2cm　最大厚 2.4cm		半月状をなす刳り貫き握部が遺存。
	29 (045100016)					カシ	柾目	残存長 25.3cm　残存握部幅 4.5cm　残存最大厚 2.25cm		
図 115	30 (045100009)		鋤	一木鋤	平鋤	カシ	柾目	残存長 53.5cm　抄部長 14.2cm　抄部幅 11.8cm　残存柄長 39.3cm　最大厚 2cm 強		握部が欠損。比較的長い柄を持ち、抄部は短い。
	31 (045100012)					カシ	柾目	器長 59.1cm　抄部長 13.8cm　抄部幅 10.7 + α cm　柄長 45.3cm　握部最大幅 (11.5cm)　握部内最大幅 8.1cm　握部内最大長 3.35cm　最大厚 2.8cm		半月状をなす刳り貫き握部から抄部まで遺存。抄部は比較的短い。
	32 (045100039)					カシ	柾目	残存長 26.6cm　抄部長 22.3 + α cm　抄部幅 13.4 + α cm　残存柄長 4.3cm　最大厚 1.7cm		比較的長めの抄部が遺存。
	33 (045100019)			組合せ鋤	鋤柄	カシ	柾目	器長 40.05cm　最大径 2.5 × 2.8cm		頭部端は面取り加工で丸く仕上げている。
	34 (045100043)			一木鋤	平鋤	カシ	柾目	残存抄部長 14cm　残存抄部幅 6.75cm　最大厚 (2.4cm)		抄部が遺存。
※第 24 図	83					カシ	柾目	※法量参照	握部が欠損。抄部肩に足掛かりを造り出す。	
	89					カシ	柾目	※法量参照	握部は欠損。抄部は比較的長め。	
	84				鋤柄	カシ	柾目		半月状の刳り貫き握部が遺存。	
	85					カシ	柾目		T 字形の握手を造り出す。	
	86					カシ	柾目		刳り貫き三角握部が遺存。84・87 も同形で一木鋤と考える。87 は半月状の刳り貫き握部。	
	87					カシ	柾目			
	88					カシ	柾目			
※第 25 図	91				平鋤	カシ	柾目		長い柄を持ち、握部は欠損。	
	92					カシ	柾目		握部は欠損。抄部は幅狭。	
	93					カシ	柾目		柄付け根と抄部の一部が遺存。	
	95					カシ	柾目		抄部肩に足掛かりを持ち、柄の一部が遺存。	
※第 21 図	58					カシ	柾目		抄部は幅狭。	
※第 26 図	96			組合せ鋤		カシ	柾目		抄部から直柄組合せ部が遺存。	
	99			一木鋤		カシ	柾目		幅狭で長い抄部が遺存。	
	103					カシ	柾目		抄部肩に足掛かりを持ち、両縁を肥厚させている。	
※第 26 図	97			組合せ鋤	又鋤	カシ	柾目		右刃部から直柄組合せ部が遺存。	
	98			一木鋤		カシ	柾目		右刃部肩に足掛かりを造り出す。	
	100					カシ	柾目		柄を欠損。	
	102					カシ	柾目		左刃部肩に足掛かりを持ち縁を肥厚させている。	
	101				三又鋤	カシ	柾目		柄を欠損。肩に足掛かりを造り出す。	
※第 24 図	90				又鋤	カシ	柾目		左刃部から柄が遺存。握部は欠損。	
※第 44 図	233				鋤柄	カシ	柾目		半月状の刳り貫き握部の一部が遺存。	
	234								刳り貫き握部の一部か。	
図 116	35 (045100029)		杵	横杵	一木横杵	広葉樹	枝分かれ 芯持ち	搗部長 35cm　搗部最大径 6.3 × 7.7cm　残存柄長 28.2cm　柄径 1.7 × 2.5cm		搗端は凸レンズ状をなしている。
	36 (045100068)			竪杵		広葉樹	芯持ち	残存長 40cm　最大径 7.5 × 8.7cm		搗端は、36 はレンズ状、37 は凸レンズ状をなす。同一材であり同一個体か。
	37 (045100067)					広葉樹	芯持ち	残存長 57cm　最大径 7 × 8.6cm　握部最小径 (2.7 × 3.35cm)		
	38 (045100047)		臼	臼		広葉樹	芯持ち	残存高 30cm　底径 36.5cm		大半は火を受け、焼失し、残存部も炭化している。
※第 28 図	112		杵	竪杵		広葉樹	芯持ち	※法量参照	弥生時代中期。搗端は凸レンズ状をなす。	
	113					広葉樹	芯持ち		弥生時代中期。遺存の搗端は凸レンズ状をなす。	
	114					広葉樹	芯持ち		遺存の搗端は凸レンズ状をなす。	
	116					広葉樹	割材			
※第 29 図	118		臼	臼		クスノキ	芯持ち		臼部が深く、胴下半にくびれあり。平底。119・120 は臼中央の底が抜けている。	
※第 30 図	119					クスノキ	芯持ち			
	120					クスノキ	芯持ち			
	121					クスノキ	芯持ち		いずれも臼中央の抜けたものが遺存したものか？ 121 は図逆転。上げ底。	
	123					クスノキ	芯持ち			
※第 47 図	257		田下駄	角枠型田下駄	枠				現物未確認。	
	255	編み具・紡織具	編台	目盛り板		シイ属	柾目		上下を利用したと考えられる。	
	256			目盛り板					一辺に V 字の切り込みあり。現物未確認。	
	226			錘		広葉樹	芯持ち		半分遺存。	
※第 44 図	221		紡錘車	紡輪						
	222								現物未確認。221・223 は軸が残る。	
	223									
	224					イスノキ	柾目		用材から紡輪の未製品と考えられる。	
	221			軸					それぞれ紡輪中央に遺存している。	
	223									
※第 57 図	300	工具	杓子形・篦状品			カシ	柾目		櫂 の可能性あり。	
※第 15 図	1	運搬具	背負子	背負梯子爪あり型	縦木	広葉樹	芯持ち			

挿図	遺物No.	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量	備考
※第15図	4	運搬具	背負子	背負梯子 爪あり型	縦木	広葉樹	芯持ち	※法量参照	未製品。
※第51図	272					広葉樹	芯持ち		
※第49図	264		舟・船	準構造船	波切板	クスノキ	板目		
※第56図	297				竪板	クスノキ			
	298					クスノキ			
	296		櫂			カシ	柾目		柄が長く櫂としたが工具の箆状品の可能性あり。
※第21図	62					イスノキ	柾目		舵か。施設器具材の板とすべきかも。
※第57図	301					広葉樹	板目		
図117	39 (045100045)	漁労具	ヤス	ヤス		広葉樹	柾目	器長9.5cm　最大幅0.8cm　最大厚0.7cm	木鏃の可能性もあるが丸みがなくヤスか？
	40 (045100032)					イスノキ	柾目	器長16.2 + α cm　最大幅1.55cm　最大厚1.1cm	径を変えた二段の返しがある。
	41 (045100004)					イスノキ	柾目	器長19.3cm　最大径1.2 × 1.3cm	
	42 (045100077)					イスノキ	柾目	器長23.2 + α cm　最大径1.35 × 1.5cm	径を変えた二段の返しがある。
	43 (045100078)					広葉樹	柾目	器長10.6 + α cm　最大幅2cm　最大厚1.3cm	基部に着柄のための造り出しあるほか、違い返しをもつ。
	44 (045100053)	運搬具	碇			広葉樹	芯持ち 枝分かれ	残存長21.4cm　最大径3.3cm	自在鉤の可能性あり。 表皮を持ち、切り落とした底が摩耗しており碇とした。
※第57図	299	漁労具	網枠	一木U形		―	芯持ち	※法量参照	
※第59図	312		ヤス	ヤス		イスノキ	柾目		組ヤスの左端か。
	317								
	318								
	319					イスノキ	柾目		
	321								
※第60図	337					イスノキ	柾目		
	343			刺突具		イスノキ	板目		大形で銛の可能性もある。
※第59図	313					イスノキ	柾目		
	314					イスノキ	柾目		いずれもイスノキを用材としており漁労具でヤスやヤスの軸・銛などとして使用されたと考えられる。
	315					イスノキ	柾目		
	316					イスノキ	柾目		
	320					イスノキ	柾目		
※第60図	333		鮑おこし			イスノキ	柾目		片方端部を平たく仕上げており、334の他端は握り手を意識している。
	334					イスノキ	柾目		
※第23図	80		アカトリ						刳物の容器の可能性あり。
※第57図	302					シイ属	割材		
図118	45 (045100049)	調度	机	天板		カシ	柾目	器長47.4cm　残存幅18.8cm　最大厚0.95cm　脚組合せ部3.8 × (1.6)cm	天板挟み板は痕跡から幅4cm、3.4cmとみられる。
	46 (045100055)		腰掛	一木		広葉樹	割材	座部長32.6 + α cm　座部幅9.6 + α cm　座部厚(1.9cm)　器高(14.1cm)　脚底長(23cm)	腐食のため接点はあまいが、同一個体と考えられる。
	47 (045100054)					広葉樹	割材	座部長30.9 + α cm　座部幅8.7cm + α cm　座部厚(2.1cm)　器高(14.2cm)　脚底長(23.5cm)	
	48 (045100048)	服飾具	履物	沓		広葉樹	―	器長26.3cm　最大幅8.5cm　内底長22.5cm　内底幅6.7cm　底最小厚0.5cm	模造船や容器の可能性もあるが、平底で沓とした。
	49 (045100079)	施設材・器具材	板	孔段有り				残存長6.3cm　残存幅3cm　最大厚0.8cm	現物未確認。樽の底板や衣笠の鏡板の可能性有り。
※第36図	152	武器・武具・馬具	甲	板物				※法量参照	表裏とも黒漆塗布、同一綴り合せ製品の部材か。
	153								
	154								
	155								
	156								
※第44図	232		楯			スギ	板目		赤漆塗布。
	225	服飾具	髪飾り	簪					
図119	50 (045100015)	食事具	匙			カヤ？		残存長12.8cm　抄部幅3.8 + α cm　抄部最大厚0.7cm 抄部最大内高0.8cm	抄部内外面は黒変している。
	51 (045100050)	調理加工具	杓子	杓子		広葉樹	芯持ち	器長14.3cm　抄部幅11.3cm　抄部最大厚2.05cm　抄部最大内高2.6cm　柄長2.8cm	柄が短い抄具。
	52 (045100042)			斜柄杓子		広葉樹	芯持ち	残存長13.8cm　抄部口径10.5cm　抄部高4.1cm　抄部最大厚2.1cm　抄部最大内高2cm　柄径1.4 × 1.5cm	柄には削り痕が明瞭に残る。
	53 (045100081)							残存長22.1cm　抄部幅11 + α cm　抄部残存高5.9cm 抄部最大厚2.2cm　抄部最大内高4.1cm	
	54 (045100013)			横柄杓子		クスノキ	割材	残存長30.35cm　残存抄部幅12.8cm　抄部最大高4.7cm　抄部内高2.8cm　抄部最大厚1.2cm　柄長19cm　柄幅5.1cm　柄厚3.1cm	
	55 (045100089)			縦柄杓子		広葉樹	芯持ち	器長32.1 + α cm　柄長(25.5cm)　柄径2.5 × 2.8cm 抄部高5.9 + α cm　残存抄部幅4.6cm　柄頭残存長3.4cm　柄頭残存幅2.5cm	
図120	56 (045100024)			縦柄杓子	未製品	広葉樹	芯持ち	残存長36cm　柄長30cm　抄部相当残存厚5cm　柄頭相当長15.7cm　柄頭相当幅7.2cm　柄頭相当厚2cm 強柄幅2.2cm 前後　柄厚1.8cm	
※第33図	131			縦柄杓子				※法量参照	抄部のみ遺存。
※第41図	190					広葉樹	芯持ち		抄部から柄の一部が遺存。
※第43図	205								木の葉状をなす柄頭のみ遺存。
	206								
	207			縦柄杓子		広葉樹	―		
	208					広葉樹	―		

挿図	遺物No.	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量	備考
※第43図	209	調理加工具	杓子	縦柄杓子		広葉樹	芯持ち	※法量参照	木の葉状をなす柄頭のみ遺存。
	210								木の葉状をなす柄頭から柄の一部が遺存している。
	211					広葉樹	芯持ち		
	212								柄上部から木の葉状をなすと思われる柄頭遺存。
	213					広葉樹			
	214			縦柄杓子	未製品	広葉樹	―		削り痕が明瞭に残る。
	215			縦柄杓子					柄上部から柄頭遺存。
	218					広葉樹	芯持ち		抄部が欠損。
	219					広葉樹	芯持ち		柄のみ遺存。
	220					広葉樹	―		柄から抄部一部が遺存。
	217			横柄杓子		広葉樹	芯持ち		柄端部は丸く面取り加工し、抄部が欠損。
※第42図	199					広葉樹	―		抄部から柄の一部が遺存。火を受け一部炭化。
	202								抄部のみ遺存。
	195			斜柄杓子					抄部から短い柄が遺存。柄端はT字状をなす。
	196					広葉樹	―		柄は短いか。
	197					広葉樹	―		195と同型で、柄は短く、柄端はT字状をなす。
	198								195と同型で、短い柄が遺存。
	200								折れた箆状をなす柄から抄部の一部が遺存。
	203								抄部から柄の一部が遺存。
	204					広葉樹	―		抄部の一部から柄が遺存。
※第40図	183								抄部から柄の一部が遺存。
	184					広葉樹	芯持ち		
	187					広葉樹	―		抄部から柄が遺存するも柄端欠損。
※第41図	192					広葉樹	芯持ち		抄部から柄の一部が遺存。縦柄の可能性あり。
	193								抄部から柄の付け根が遺存。
	194								
※第40図	185			杓子					抄部のみが遺存。縦柄か斜柄。
	186								
	182			杓子	未製品				抄部の一部が遺存。縦柄か斜柄。
※第41図	189								抄部に突起を造り出した抄い具。
	188			杓子		広葉樹			抄部の一部が遺存。斜柄か。
	191					広葉樹			抄部の一部が遺存。縦柄か斜柄
図121	57 (045100031)	容器	鉢	刳物		クスノキ	―	口径長軸 (22.4cm)　口径短軸 12.4cm　器高 (10.7cm)　最大内高 (8.9cm)　最大厚 (1.5cm)	やや内傾する口縁を持ち、平面形楕円形に仕上げている。
	58 (045100096)					広葉樹	芯持ち	残存長 9.25cm　残存幅 4.8cm　残存最大厚 1.3cm	杓子や椀の可能性有り。
	59 (045100052)		椀			―	―	残存長 8.7cm　残存幅 4.3cm　残存最大厚 1.1cm	表裏とも黒漆塗布。
	60 (045100074)		堅皮	ヒョウタン		ヒョウタン	堅皮	最大径 18.8cm　最大高 9cm　皮厚 0.2 ～ 0.5cm　蕚付けね最大厚 2.3cm	未加工？
	61 (045100021)		槽	刳物		クスノキ	芯刳り	器長 (36.6cm)　残存幅 17.3cm　器高 (6.1 ～ 7.1cm)　内高 (4.2 ～ 4.6cm)　内底長 (21.1cm)　底最大厚 2.7cm　木口最大厚 (3cm)	約半分遺存しており、舟形をなす。
	62 (045100034)					スギ	柾目	残存長 42.8cm　残存幅 6.5cm　残存高 5.2cm	舟形をなす底の一部が遺存。
図122	63 (045100006)		樽			スギ	割材	口径 (26.6cm)　器高 23cm　底径 (27.2cm)　底板受け最小径 (21.8cm)	口縁に蓋受け、上げ底となる底受けを造り出し、把手欠損。
※第37図	158		椀			クスノキ	柾目	※法量参照	高台付き。
	161								平底か。
	162					広葉樹	―		口縁の一部が遺存。杓子の可能性あり。
	163			刳物	未製品				内面は粗い加工痕が残り、高台は未完成。
	164			刳物		広葉樹	―		平底か。
	165			刳物	未製品				台付きや高杯を意識しているか。
※第31図	126		皿	刳物		シイ属	割材		並行する低くて長い脚台を造り出す。
	127								隅丸方形で四つの低い脚を持つ。
※第32図	128								隅丸方形で、各辺にコの字の切り込みを持つ高台を巡らし、十字の仕切りを持つか。
	129					クスノキ	柾目		長軸平行の低い脚台を持つ。枕の可能性あり。
	130								隅丸長方形で中央に仕切りを持ち、木口に引手。
※第33図	132					クスノキ	―		平面形楕円形をなす。
※第35図	143			刳物	未製品	広葉樹	板目		部分的に刳り貫きを始めている。盤の可能性あり。
※第68図	382			刳物					長方形をなし、握り手を造り出している。
※第31図	124		鉢			クスノキ	柾目		独立の横断面方形の四脚を持つ。
※第31図	125					広葉樹	割材		平面形長方形で、独立の四脚を持つ。
※第33図	133								木口に方形に刳り貫いた把手を持つ。
	136					広葉樹	―		
※第36図	148			刳物	脚				黒漆を塗布し、赤色顔料で彩色。
	149								黒漆塗布後赤色顔料で彩色。高杯脚台可能性あり。
※第33図	135		壺	刳物		広葉樹	―		短頸壺。
※第42図	201		コップ形			広葉樹			柄杓の可能性あり。内外とも黒漆塗布。
※第36図	145	容器	高杯			広葉樹		※法量参照	円柱状の五脚か。短い独立脚ならば鉢で今宿五郎江遺跡に類例あり。
	146					広葉樹			黒漆塗布後、赤色顔料による線描彩色あり。韓国古村遺跡で類例あり。
※第37図	159					広葉樹			逆L字状をなす口縁を持つ杯部遺存。
	160					広葉樹			脚のみで、長い長方形透かしを四箇所以上持つ。
※第34図	139		槽			クスノキ	板目		長方形。
	140								ずんぐりした模造船状をなす。
※第35図	144			刳物	未製品	広葉樹	板目		把手を造り出している。作業台の可能性あり。
※第33図	138			刳物		広葉樹	―		丁寧な削り加工を施す。模造船の可能性あり。
	137		盤			シイ属	板目		底が遺存。
※第68図	379		箱	刳物	蓋	針葉樹	割材		平面形長方形で、外面は屋根状をなし、丁寧な削り加工で優美に仕上げ、内面はNo.380を覆う形にし、しかも、両木口に留めピンを指す造り出しを設けている。

挿図	遺物No.	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量	備考
※第65図	380	容器	箱	刳物	身	針葉樹	芯持ち 割材	※法量参照	平面形長方形で、外底の木口近くに低い長方形の独立脚を持ち、蓋と固定するためのピンを指す造り出しを木口に設けている。外面に比べ内面は削り加工痕が残り仕上げが雑である。
	381					広葉樹	割材 (柾目)		№380と同一形状を持つがやや長さを短く仕上げている。口縁に蓋受けを造り出している。
	366			板組物		スギ	柾目		転び箱の部材。
※第39図	181		蓋	刳物		広葉樹			笠形で、身(樽？)を覆う口縁を造り出している。
	173			板組物		シイ属	柾目		小孔は植生痕。底板の可能性あり。
	174								紐通しの二個の小孔あり。
	176					コナラ節	柾目		隅丸方形で、底板の可能性あり。
	177					カシ	柾目		不正隅丸方形で、底板未製品の可能性あり。
	178					カシ	柾目		縁を厚く仕上げている。
※第38図	166								両側が膨らむ方形で、中央につまみあり。
	167					スギ	ナナメ		紐通しを持つか。
	168								両側が膨らむ方形で、中央につまみあり。
	170								把手を持ち、団扇状をなしている。
	171								
※第37図	157		樽	刳物		スギ	ー		精製品で、上げ底の底受けを造り出している。筒形容器？
※第36図	147		ジョッキ						表面は黒漆塗布後、赤色顔料の漆を塗布し、線の掻き取りで黒線をだし彩色、内面は赤色顔料漆を塗布している。把手付き。
						広葉樹	ー		
※第38図	169		底板	板組物					両側が膨らみを持つ。樽の底板。
※第39図	172					シイ属	板目		円形で樽の底板。蓋の可能性あり。
	175								
	179								円形で中央部がやや厚みを持つ。
	180								円形で側縁に固定用の小孔あり。
※第44図	227		付属品	栓					円柱に仕上げている。
	228								
図122	64 (045100092)	器具材	板	段有り		広葉樹	板目	残存長14.1cm　残存幅9.5cm　最大厚1.3cm	幅2.2cm、長さ6cmの切り込みあり、容器の底または蓋か。
	65 (045100025)			孔段有り		広葉樹	板目	残存長9.4cm　残存幅7.05cm　最大厚1.9cm　穿孔3.9×(2.5)cm	方形枘孔あり。
	66 (045100022)	調理加工具	杓子	縦柄杓子		広葉樹	割材	残存長25.2cm　残存幅4cm　残存最大厚2.7cm	抄部と柄頭を欠損。
	67 (045100030)	器具材	板	段有り		クスノキ	板目	器長39.2cm　幅9.6cm　最大厚2.5cm	曲柄平鍬の未製品か。
図123	68 (045100057)			孔段無し		スギ	柾目	残存長19.8cm　残存幅8cm　最大厚0.8cm	
	69 (045100094)					スギ	板目	残存長19cm　幅11.4cm　最大厚2.1cm	
	70 (045100060)			段有り		カシ	柾目	器長15.9cm　幅31.6cm　最大厚2.5cm	机や把の未製品か。
	71 (045100070)	農耕土木具	鍬	直柄鍬身	平鍬未製品	カシ	柾目	器長63.7cm　幅19.4cm　最大厚3.2cm	九州型平鍬未製品
	72 (045100066)	土木具	杭			カシ	割材	残存長24cm　残存最大径8.5×9.5cm　残存最小径5.5cm	接点はないが、同一材であり、削り加工が丁寧であり、竪杵の未製品か
	73 (045100065)					カシ	割材	残存長31.3cm　残存最大径10.6×11.5cm　残存最小径3.3cm	
	74 45100051	施設材・器具材	棒	段有り		シイ属	枝分かれ 芯持ち	器長46.75＋α cm　幅12cm　最大径4.8cm	表皮を残すも切断面は丁寧に面取り加工し、又部の加工も丁寧であり、編台の脚の可能性がある。
図124	75 (045100075)	建築部材	鼠返し			クスノキ	板目	長軸85.6cm　短軸76.6cm　組合せ孔12.4×12.8cm　最大厚4.8cm	
	76 (045100056)					クスノキ	板目	長軸59＋α cm　短軸58cm　組合せ孔8.5×(11.4)cm　最大厚3.15cm	
	77 (045100071)		梯子			広葉樹	芯持ち	残存長133.8cm　幅(39.6cm)　最大厚11.6cm　足掛け幅：最上段29.6cm　次段34.4cm　三段35.6cm	最上段下に縄縛固定用と考えられる小孔あり。
図125	78 (045100033)	施設材・器具材	棒	孔段無し		カシ	芯持ち	残存長16.9cm　最大径3.6cm	端部は面取り加工、節を落とすも表皮あり。
	79 (045100044)			段有り		スギ	板目	器長17cm　幅2.3cm　最大厚1.7cm	横断面方形で、杭状をなす。楔か。
	80 (045100059)	その他	加工材	残材		スギ	板目	器長9.5cm　幅10.3cm　最大厚6.9cm　段高3.3cm	
	81 (045100027)	施設材・器具材	棒	段有り		広葉樹	芯持ち	残存長10.9cm　残存幅2.2cm　残存最大厚1.7cm	先端は一方向から削りを入れる。楔か。
	82 (045100010)	工具	作業台			広葉樹	枝分かれ 芯持ち	器長(31.4cm)　残存最大幅11.6cm　最大厚5.2cm	下方は組合せ部を造り出し、図正面の又下の平坦面には使用による刃物痕があり、転用か。
	83 (045100072)	施設材・器具材	板	孔段無し		広葉樹	芯持ち 柾目	器長50.6cm　器幅14.65cm　最大厚6.5cm	ほぼ上下とも同じ幅で横断面は長方形、下方を薄く仕上げている。
図126	84 (045100090)	その他	加工材	分割材		カシ	柾目	残存長57.3cm　器幅16.6cm　最大厚3.4cm	表皮が一部残るミカン割材。
	85 (045100062)	施設材・器具材	棒	段有り		広葉樹	芯持ち	残存長38.7cm　最大径(11)×12.5cm	一端は粗い面取り加工、堀立柱建物柱か。
	86 (045100064)	建築部材	柱			広葉樹	芯持ち	残存長48.5cm　最大径15.5×17cm	下方に段を造り出しており、竪穴建物のものか。
	87 (045100080)	施設材・器具材	棒	孔段無し		ー	芯持ち	残存長36.2cm　最大径4.1×5.3cm	一端は面取り加工。
	88 (045100061)	その他	加工材	残材		広葉樹	枝分かれ 芯持ち	残存長31.3cm　残存幅21.65cm　最大径(11cm)	碇の可能性あり。
	89 (45100063)					広葉樹	芯持ち	器長13cm　径12.9×16.5cm	椀など小形の容器は製作可能、容器未製品か。

挿図	遺物No.	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量	備考
※第45図	242	調度	机	天板				※法量参照	両木口を厚く仕上げており、表裏に刃物痕あり。
	243					スギ	柾目		図表面に刃物痕あり。
	244					スギ	柾目		
	245			脚		スギ	柾目		小形品で片方の左右二脚有り、天板挟み板一枚を固定する目釘四個とともに遺存。脚上部に目釘を留める二小孔あり。挟み板の木取りは未確認。
	251								脚上部に固定のための孔無し。
	246			天板挟み板					
	249								
	250					スギ	ナナメ		
※第46図	253		腰掛	指物	座板	広葉樹	板目		薄く仕上げており、容器の脚台の可能性あり。
※第47図	259								両側に脚を組合わせる方形孔あり。
※第67図	374	祭祀具	形代	木偶					組合せて使用か。
	376			鳥形					頭・胴を立体的に表現。
	377					針葉樹			頭・胴を削り加工により立体的に表現し、胴に羽根などを組合せのためか沈線を彫り込んでいる。
	378								頭・胴・尾羽根を立体的に表現している。
	375			陽物形					削り加工の後、陽物部位は研磨。組合せ部持つ。
※第33図	134			舟形					準構造船を模したか。
※第46図	254			―		スギ	ナナメ		組合せ鳥形の部材か。
※第58図	305					針葉樹	板目		
	310	威儀具	衣笠	軸					
	311								
※第66図	371		さしば			針葉樹	板目		赤色顔料を塗布。
	372		―						二枚でなにかを挟み込むか。371と組み合うか。
	373					広葉樹	柾目		
※第63図	348	楽器	琴	箱形琴	上板	スギ	柾目		
※第64図	350					シイ属	ナナメ		弦かけの三突起があるものの用材が異なる。
	349				共鳴槽	スギ	ナナメ		板組物の箱。用材などから共鳴槽とした。側板か。
	351					スギ	ナナメ		
	352					スギ	ナナメ		
	353					スギ	ナナメ		共鳴槽の部品か。
	355					スギ	板目		
※第62図	347					スギ	柾目		鹿・鳥・家の線刻画あり。側板。
※第58図	306	遊技具・日用品	自在鉤			サカキ	芯持ち		枝一本を残し、縄縛り用の造り出しがある。
※第51図	270	建築部材	柱	竪穴建物			芯持ち		枝分かれ利用、横架材受部を造り出している。
	273			―			芯持ち		
※第52図	276			竪穴建物			芯持ち		
	278			―					
	279			掘立柱建物					表面に面取り加工痕が残る。
※第53図	280						芯持ち		上に横断面方形の枘を造り出している。
	281						芯持ち		上に横断面長方形の枘を造り出している。
	282						芯持ち		280と同形で、上に横断面方形の枘と枘付け根に鼠返し組合せ部を造り出している。
	283						芯持ち		
※第54図	284								上に方形の枘を造り出している。
	285						芯持ち		
	286			掘立柱建物？					
※第50図	267		梁			カシ	板目		柱枘組合せ部他端を欠損。裏に木舞組合せ用桟あり。表に妻板受けの長い長方形の切り込みあり。
	266		床			広葉樹	板目		右側面に木舞受けの切り込みあり。平地建物か。
※第52図	277								
※第55図	289		垂木			広葉樹	芯持ち		表皮を残す。
	290					広葉樹	芯持ち		表皮を残す。先端は火を受け炭化。
	291					広葉樹	芯持ち		表皮を残す。火を受け炭化。
※第54図	287		梯子			広葉樹	割材		
	288					広葉樹	割材		高床建物用で下部が遺存している。
※第48図	261		鼠返し			クスノキ	板目		
	262								中央に柱枘受けの方形孔あり。
※第49図	263								
	265					クスノキ	板目		船の竪板の可能性あり。
※第44図	236		結合補助材	栓		広葉樹	芯持ち		頭は円形。断面方形の枘に長方形孔を穿つ。
	240								頭は方形台で、断面長方形の枘に円形孔を穿つ。
	241								

挿図	遺物No.	分類群	器種名		器種細分名	樹種	木取り	法量	備考
※第60図	335	施設材・器具材	板	孔段無し		スギ	柾目	※法量参照	
	336					スギ	柾目		
※第65図	358								未確認
	359					カシ	柾目		小孔は植生痕
	367					スギ	板目		
※第45図	247			孔段有り		カシ	柾目		遺存木口近くに長方形孔あり。机天板の可能性あり。
	248					カシ	柾目		机天板挟み板の可能性あり。
※第46図	252					広葉樹	柾目		平面に台形の孔、一側面に長方形の組合せ孔あり。
※第47図	258	容器	箱	板組物	蓋	スギ	柾目		
	260	施設材・器具材	板	孔段有り					長方形枘孔あり。
※第64図	356					スギ	柾目		
※第65図	357					スギ	板目		長辺縁近くに二小孔あり。
	361					広葉樹	板目		二孔組四孔あり。
	369								相対する木口近くに小孔あり。
	370								二孔組小孔あり。
※第16図	20			段有り					現物未確認。鍬の可能性あり。
※第21図	62					イスノキ	柾目		漁具・舵・形代の武器形の可能性あり。
※第35図	142								現物未確認。
※第44図	235								現物未確認。
※第60図	332					スギ	柾目		形代か。
	340					コナラ節	柾目		
※第64図	354					針葉樹	柾目		鋭い刃物痕あり。
※第65図	360					スギ	柾目		一部火を受け炭化。
	362								現物未確認。
※第65図	363	施設材・器具材	板	段有り		スギ	柾目		同一固体。
	364					スギ	柾目		
	365					スギ	ナナメ		机部材か。
	368								現物未確認
※第44図	229		棒	段有り		広葉樹	割材		鎌の柄か。
※第51図	268					広葉樹	芯持ち		枝分かれを利用し、横木受けを造り出し、下は杭状をなしており、井堰などの施設材や器具材の編台の脚などとして使用可能である。
	269					広葉樹	芯持ち		
	274					広葉樹	芯持ち		
※第58図	303								削り加工により、頭部を造り出している。
	304					広葉樹	芯持ち		
	307					シイ属	柾目		面取り加工により横断面方形に仕上げている。
※第59図	322						芯持ち		現物未確認。
	323						割材		現物未確認。
	324					広葉樹	芯持ち		ほぼ同じ長さに揃えている。
	325						芯持ち		
	326					シイ属	芯持ち		一端は杭状をなす。
	327					ー	芯持ち		表面は面取り加工を施すも先端は炭化している。
	328					広葉樹	芯持ち		棍棒か。
	329					広葉樹	芯持ち		横槌の柄か。
	330					広葉樹	芯持ち		324・325と同じものか。
※第60図	341								現物未確認。漁労具のヤスや刺突具か。
	342								
※第51図	271	土木材	杭			シイ属	芯持ち		表皮あり。
	275						芯持ち		
※第55図	292					広葉樹	芯持ち		表皮あり。垂木の転用か。
	294					ー	芯持ち		
	295					ー	芯持ち		垂木の転用か。
※第60図	345					広葉樹	芯持ち		
※第21図	55	用途不明品	鋤状製品		ー	シイ属	柾目		威儀具の可能性あり。一木か。
※第55図	293	その他	加工材	芯持ち		広葉樹	芯持ち		枝分かれの両枝を切断している。 枝分かれの直下を切断している。 枝わかれ部。衣笠の可能性あるも遺存状態が悪い。
※第58図	308					広葉樹	芯持ち		
	309					広葉樹	芯持ち		
※第44図	237			残材		広葉樹	芯持ち		現物未確認
	238					広葉樹	板目		
	239								
※第60図	338					スギ	板目		
	346					広葉樹	芯持ち		
※第60図	339		非加工材			スギ	芯		節そのもの。
	344								現物未確認

☆分類は『本の考古学』による。
※は『元岡・桑原遺跡群23』の図番号

表2　掲載土器一覧表

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
8	1	22289	D-3	9A	か⑨ 7			土師器	甕		30.0		ハケメ・平行タタキ	ハケメ			
8	2	22196	D-3	9A	こ③ 2			弥生土器？	甕				ナデ	ナデ			底部焼成前穿孔多数
8	3	22007	D-3	9A				弥生土器	甕	32.6	25.8	7.4	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
8	4	22259	D-3	9A	き① 2	右上		弥生土器	甕	28.1	21.3	9.1	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
8	5	21943	D-3	9A	き⑥ 6,7			弥生土器	甕	26.6	23.2	9.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
8	6	21835	D-3	9A	き⑥ 1			弥生土器	甕		25.2		ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
8	7	21942	D-3	9A	く⑥ 2			弥生土器	甕	23.2	20.6	8.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
8	8	21941	D-3	9A	こ① 4			弥生土器	甕	14.9	13.4		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
8	9	22024	D-3	9A	き⑤ 2 か⑤ 1			弥生土器	甕								
8	10	22022	D-3	9A	え⑩ 4			弥生土器	甕		24.2		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
9	11	22021	D-3	9A	く① 3			弥生土器	甕		29.5		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
9	12	22200	D-3	9A	要写真？	右下	1 層	弥生土器	甕		28.1		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
9	13	22277	D-3	9A		右下		弥生土器	甕		30.5		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
9	14	22011	D-3	9A		右下	1 層	弥生土器	甕	39.5	25.8	8.5	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
9	15	22003	D-3	9A	き③ 13,11			弥生土器	甕	29.4	24.9	7.6	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			底部焼成後穿孔
9	16	22257	D-3	9A	く① 3			弥生土器	甕	26.2	22.3	8.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
9	17	22028	D-3	9A	け② 4			弥生土器	甕			9.4	ハケメ	ナデ・指押			
9	18	22199	D-3	9A	く⑦ 4			弥生土器	甕				ハケメ	ナデ			線刻状のものあり
9	19	22031	D-3	9A	き⑧ 2			弥生土器	甕			7.9	ハケメ	ナデ・指押			
9	20	21836	D-3	9A	え① 4			弥生土器	甕			8.9	ハケメ	ナデ・指押			
10	21	22010	D-3	9A	く⑦ 5			弥生土器	壺		29.6		ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			
10	22	21928	D-3	9A	お⑩ 24			弥生土器	壺	35.2	36.5	9.7	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ・指押	○		
10	23	21982	D-3	9A	く⑥ 5 他			弥生土器	壺	28.5	23.4	8.9	ハケメ	ナデ・指押			
10	24	21993	D-3	9A	か③ 5			弥生土器	壺			7.0	ミガキ	ミガキ・ナデ・指押	○	△	
10	25	21927	D-3	9A	お⑩ 7			弥生土器	壺	32.1	29.7	9.0	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押	○	△	
11	26	22187	D-3	9A	き⑤ 10 他			弥生土器	壺			9.1	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押			
11	27	22051	D-3	9A	け⑥ 1			弥生土器	壺		21.7	8.1	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押	○		
11	28	21983	D-3	9A	き⑤ 2			弥生土器	壺			6.8	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	ナデ・指押	○		
11	29	22284	D-3	9A	き⑦ 7 他			弥生土器	壺	19.6	18.0	6.9	ヨコナデ・ハケメ・指押	ヨコナデ・ナデ・指押			
11	30	22000	D-3	9A	き⑧ 5			弥生土器	壺			8.6	ハケメ	ナデ・指押			
11	31	22182	D-3	9A	き④ 14			弥生土器	壺		22.9		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	?		
11	32	21985	D-3	9A	こ① 6			弥生土器	壺		34.6		磨滅	磨滅			
12	33	22037	D-3	9A				弥生土器	壺		12.8		ミガキ	ナデ	○		
12	34	22036	D-3	9A	き② 1			弥生土器	壺		15.8		ミガキ	ナデ・指押	○		
12	35	22035	D-3	9A	か③ 9			弥生土器	壺		21.0		ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
12	36	22178	D-3	9A	く④ 1			弥生土器	壺		40.8		ヨコナデ・ミガキ	磨滅	○		
12	37	22281	D-3	9A	か③ 2			弥生土器	壺		36.0		ミガキ	ミガキ	○	△	
12	38	22286	D-3	9A	く③ 2			弥生土器	壺		21.4		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押	○		
12	39	22002	D-3	9A	か③ 2			弥生土器	壺		28.2		ミガキ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
12	40	21992	D-3	9A	お① 1			弥生土器	壺	23.0	9.6	8.2	ミガキ	ナデ・指押	○	△	
12	41	21997	D-3	9A	く① 4			弥生土器	壺	16.1	9.6	6.0	ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	○		
13	42	20665	D-3	9A	く⑩ 4			弥生土器	鉢	約 30	32.0		摩滅	ナデ			
13	43	22001	D-3	9A	く⑥ 5			弥生土器	鉢		25.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
13	44	21998	D-3	9A	く⑩ 3			弥生土器	鉢	15.6	19.5	7.8	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			底部焼成前穿孔
13	45	21930	D-3	9A	き⑥ 2			弥生土器	鉢	13.2	23.8	8.2	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			焼成前穿孔
13	46	21995	D-3	9A	く⑤ 6			弥生土器	鉢	10.7	15.8	6.2	磨滅	ナデ？			
13	47	22181	D-3	9A	き⑨ 5			弥生土器	鉢	17.5	15.1	7.2	ナデ	ナデ			未貫通の孔あり
13	48	21938	D-3	9A	く⑧ 2			弥生土器	鉢	9.1	18.0	6.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
13	49	21999	D-3	9A	き⑨ 1			弥生土器	鉢	11.4	19.6	7.6	ナデ	ハケメ・ナデ			
13	50	21932	D-3	9A	く⑦ 2			弥生土器	鉢	7.3	8.3		磨滅	ナデ・指押			
13	51	21934	D-3	9A	お⑩ 1			弥生土器	鉢	5.7	11.0	5.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	○	○	

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
13	52	21937	D-3	9A	お⑨5			弥生土器	鉢	4.7	11.4	4.6	ナデ	ナデ			
14	53	21949	D-3	9A	け②5			弥生土器	蓋	10.5	30.4		ハケメ・ヨコナデ	ナデ・指押			
14	54	21939	D-3	9A	か②3			弥生土器	蓋	8.3	23.0		ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
14	55	21940	D-3	9A	か④3			弥生土器	蓋	10.7	30.0		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
14	56	21946	D-3	9A	く①1			弥生土器	蓋	10.4	26.4		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
14	57	21952	D-3	9A	か⑥4			弥生土器	蓋	9.2	29.0		ハケメ・ヨコナデ	ナデ・指押			
14	58	21948	D-3	9A	く④2			弥生土器	蓋	10.0	26.4		ハケメ？	ハケメ・ナデ・指押			
14	59	21951	D-3	9A	く①3			弥生土器	蓋	11.9	27.6		ハケメ・ヨコナデ	ナデ・指押			
14	60	21947	D-3	9A	け⑥2			弥生土器	蓋	10.4	24.0		ナデ・ハケメ	ナデ			
14	61	21950	D-3	9A	き③1			弥生土器	蓋	9.8	26.2		ハケメ・ヨコナデ	ナデ・指押			
14	62	22195	D-3	9A	く①3			弥生土器	蓋		9.6		ミガキ	ナデ	○		
15	63	21929	D-3	9A	き②8			弥生土器	高坏	24.0	24.0	15.0	ミガキ？	ミガキ・ナデ・シボリ	○	○	
15	64	21834	D-3	9C	け⑩2			弥生土器	高坏	23 前後		17.8	ミガキ	ミガキ・シボリ・指押	○	○	
15	65	21944	D-3	9A	く⑨2			弥生土器	高坏		29.6		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	磨滅	○	○	
15	66	21945	D-3	9A	か⑤1			弥生土器	高坏		27.6		ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	○	○	
15	67	21935	D-3	9A	き⑦4			弥生土器	高坏		27.0		磨滅	磨滅	○	○	
15	68	22044	D-3	9A	か①5			弥生土器	高坏		29.4		ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ			
15	69	22295	D-3	9A	こ③2			弥生土器	高坏				ハケメ？	ナデ			
15	70	22039	D-3	9A	く⑥3			弥生土器	高坏			16.2	ハケメ	ハケメ・ナデ			脚打ち欠き？
15	71	22047	D-3	9A				弥生土器	高坏			17.2	磨滅	ハケメ・ナデ・シボリ	○	？	
15	72	22299	D-3	9A	か②			弥生土器	高坏				磨滅	シボリ・ナデ			
15	73	21936	D-3	9A	き④1			弥生土器	高坏			17.0	ミガキ	ヨコナデ・ナデ・シボリ	○		
15	74	22043	D-3	9A	か③1			弥生土器	高坏			20.0	ミガキ	ナデ・シボリ	○		
15	75	22040	D-3	9A	く③1			弥生土器	高坏			17.8	ミガキ	ナデ・シボリ	○		
16	76	21921	D-3	9A	き⑩3			弥生土器	器台	20.3	9.2	12.2	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・シボリ			
16	77	21922	D-3	9A	き⑩1			弥生土器	器台	17.6	12.9	13.9	ナデ	ハケメ・ナデ・指押			
16	78	21918	D-3	9A	く⑧1			弥生土器	器台	17.3	12.2	12.5	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・シボリ			
16	79	21920	D-3	9A	き①3			弥生土器	器台	17.5	10.5	16.0	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ			
16	80	21924	D-3	9A	?②7			弥生土器	器台	15.6	9.2	11.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
16	81	21923	D-3	9A	き⑩6			弥生土器	器台	12.3	9.8	10.9	ヨコナデ・ナデ・指押	ヨコナデ・ナデ・指押			
16	82	21919	D-3	9A	く⑦7			弥生土器	器台	11.2	10.3	10.9	ナデ	ナデ			
16	83	21931	D-3	9A	く③2			弥生土器	器台	約 9.5		6.6	ナデ・指押	ナデ・指押			
16	84	22026	D-3	9B				弥生土器	甕		27.4		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
16	85	21980	D-3	9B	き⑨1			弥生土器	壺	24.9	10.2	5.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
17	86	21981	D-3	9C	け③4			弥生土器	甕	24.4	19.8	7.8	ヨコナデ・ミガキ	ミガキ・ナデ	○	△	
17	87	21831	D-3	9C	き⑥4			弥生土器	甕	30.9	29.5	9.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
17	88	21994	D-3	9C	き⑥5			弥生土器	甕	27.8	25.5	8.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
17	89	21963	D-3	9C	こ②1			弥生土器	甕	30.2	30.9		ミガキ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	○	△	
17	90	22192	D-3	9C	く⑤5			弥生土器	甕	31.4	26.3	8.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			底部焼成後穿孔
18	91	22005	D-3	9C	19.2		最下層	弥生土器	甕	31.0	25.8	8.9	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
18	92	22008	D-3	9C	く⑤2			弥生土器	甕	23.0	20.2	7.0	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
18	93	22025	D-3	9C				弥生土器	甕		25.8		ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
18	94	22053	D-3	9C	く⑤11			弥生土器	甕		23.8		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			煤
18	95	22275	D-3	9C	20		最下層	弥生土器	甕			7.8	ハケメ	ナデ・指押			底に植物痕
18	96	22030	D-3	9C				弥生土器	甕			8.5	ハケメ	ナデ、底はミガキ状			焼成後穿孔
19	97	22191	D-3	9B	か①7他			弥生土器	壺	33 前後	31.4		ミガキ	ミガキ・ナデ・指押	○	△	
19	98	22279	D-3	9B	4,18		最下層	弥生土器	壺				ミガキ	ミガキ・ナデ	○		
19	99	22273	D-3	9C	き③3			弥生土器	壺		28.0		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・指押	○		
19	100	22285	D-3	9C	き④3			弥生土器	壺		29.3		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
19	101	22186	D-3	9C	け⑨1			弥生土器	壺		29.0		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	○	△	
19	102	22278	D-3	9C	き①1			弥生土器	壺		32.2		ミガキ	ミガキ・ナデ	○	△	
20	103	22282	D-3	9C	き③3			弥生土器	壺		35.0		ミガキ	ミガキ・ナデ	○	△	
20	104	22183	D-3	9C	く⑤11			弥生土器	壺				ナデ・ミガキ	ナデ	○		瓢形
20	105	22288	D-3	9C	こ⑩1			弥生土器			29.4		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
20	106	22188	D-3	9C	く⑦1			弥生土器	壺	47.1	31.8	10.7	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
20	107	22012	D-3	9C	13.19		最下層	弥生土器	壺	24.7	18.0	11.4	ミガキ？	ヨコナデ・ナデ・指押	○		
20	108	22185	D-3	9C	く①3他			弥生土器	壺		27.1	19.1	ミガキ	ナデ	○		110番と同一個体か
20	109	22038	D-3	9C	か③2			弥生土器	壺		25.0		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
21	111	22009	D-3	9C	き⑧1他			弥生土器	壺		24.4		ミガキ？	ナデ・指押	○	△	
21	112	22019	D-3	9C	き④8他			弥生土器	壺				ヨコナデ・ミガキ	シボリ・ナデ・指押	○		
21	113	22201	D-3	9C	く⑤5他			弥生土器	壺	20.0	8.7	6.1	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	?		
21	114	21967	D-3	9C	か⑥2他			弥生土器	壺		15.8		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
21	115	22050	D-3	9C				弥生土器	壺		19.8		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
21	116	22193	D-3	9C	け①5他			弥生土器		28前後		6.4	ヨコナデ・ミガキ	ナデ・指押	○		
21	117	22049	D-3	9C				弥生土器	壺			7.0	ミガキ	ナデ	○		
21	118	22184	D-3	9C	く⑤11			弥生土器	壺			7.5	ミガキ	ナデ			
22	119	22004	D-3	9C			最下層	弥生土器	鉢	16.8	26.8	8.6	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
22	120	21988	D-3	9C				弥生土器	鉢	15.1	26.0	9.0	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
22	121	22276	D-3	9C	け⑤1			弥生土器	鉢		18.8		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・指押			
22	122	21909	D-3	9C	か③1			弥生土器	鉢	13.1	19.5	7.3	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	○		
22	123	22256	D-3	9C	き⑥1			弥生土器	鉢	約17	約16	6.8	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
22	124	21989	D-3	9C				弥生土器	鉢	12.8	18.2	8.0	磨滅・ハケメ？	ヨコナデ・ナデ			
22	125	21968	D-3	9C				弥生土器	鉢	9.4	17.0	5.0	ミガキ	ミガキ？指押	○	○	
22	126	21961	D-3	9C	き⑥5			弥生土器	蓋	7.4	15.0		ミガキ	ミガキ	○	○	
22	127	21910	D-3	9C	き⑥2			弥生土器	鉢	7.7	15.7	5.8	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	?		
22	128	21996	D-3	9C				弥生土器	鉢	7.7	13.4	7.7	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押	○	○	
22	129	21933	D-3	9C	か⑩1			弥生土器	鉢	6.4	10.4	5.8	ナデ・指押	ナデ・指押			
23	130	21955	D-3	9C	き⑤7			弥生土器	蓋	12.0	37.2		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	131	21959	D-3	9C	く⑤4			弥生土器	蓋	11.4	32.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	132	21958	D-3	9C	け③6			弥生土器	蓋	11.7	32.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	133	21954	D-3	9C	き⑤6			弥生土器	蓋	11.3	31.9		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	134	22020	D-3	9C	4		最下層	弥生土器	蓋	11.7	33.0		ハケメ	ナデ・指押			
23	135	21960	D-3	9C	き④8他			弥生土器	蓋	12.1	28.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	136	21957	D-3	9C	き⑤6			弥生土器	蓋	8.9	25.4		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	137	21956	D-3	9C	き④1			弥生土器	蓋	7.9	27.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
23	138	21953	D-3	9C	き⑥1			弥生土器	蓋	7.7	27.0		ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
23	139	21986	D-3	9C	3		最下層	弥生土器	蓋	9.1	24.4		ハケメ	ナデ・指押			
23	140	21964	D-3	9C	く⑤9			弥生土器	蓋	9.0	27.0		ナデ	ナデ・指押			
23	141	21965	D-3	9C	く⑥6			弥生土器	蓋	6.6	23.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押・ハケメ			
23	142	21966	D-3	9C	き⑥4			弥生土器	蓋	2.3	16.4		ミガキ	ナデ・指押	○		
24	143	22274	D-3	9C	く⑤7			弥生土器	高坏		30.7		ミガキ	ミガキ	○	○	
24	144	22006	D-3	9C	25		最下層	弥生土器	高坏		26.8		ミガキ	ミガキ・シボリ	○	○	
24	145	21833	D-3	9C9	け①1			弥生土器	高坏	31.6			ヨコナデ・磨滅	ミガキ・シボリ・指押	○	○	
24	146	22048	D-3	9C	く⑥5他			弥生土器	高坏		34.6		ヨコナデ・ナデ	ナデ・シボリ	○	○	
24	147	22045	D-3	9C	か③2			弥生土器	高坏				ミガキ？	ミガキ	○	○	
24	148	22046	D-3	9C	け②1			弥生土器	高坏		30.4		ミガキ？	ミガキ	○	○	
24	149	21962	D-3	9C	か②4			弥生土器	高坏		29.6		ミガキ・ヨコナデ	ミガキ・ヨコナデ	○	○	
24	150	22300	D-3	9C	き⑥7			弥生土器	高坏				磨滅	ナデ	?	?	
24	151	22042	D-3	9C	か⑥3			弥生土器	高坏				ミガキ	ミガキ・ナデ・シボリ	○	○	
24	152	21911	D-3	9C	き⑥6			弥生土器	高坏	17.9	15.3	13.5	ミガキ・暗文	ミガキ・ナデ・シボリ	○	○	
24	153	22180	D-3	9C	き⑥3			弥生土器	高坏			20.6	ミガキ	シボリ・磨滅	○		
24	154	22283	D-3	9C	25.26		最下層	弥生土器	高坏			37.0	ミガキ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	○		
25	155	21971	D-3	9C	こ⑩1他			弥生土器	器台	45以上	10.6		ヨコナデ・ミガキ	ナデ・指押	○	△	
25	156	21991	D-3	9C	6		最下層	弥生土器	器台	16.8	9.6	12.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
25	157	21990	D-3	9C	6		最下層	弥生土器	器台	16.6	9.6	13.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
25	158	21984	D-3	9C	5		最下層	弥生土器	器台	17.0	9.7	12.8	磨滅	ハケメ・ナデ			
25	159	21914	D-3	9C	く⑥1			弥生土器	器台	16.1	11.0	11.6	ナデ	ナデ			
25	160	21987	D-3	9C	27		最下層	弥生土器	器台		9.4		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
25	161	21912	D-3	9C	く⑥2			弥生土器	器台	11.9	10.3	11.0	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
25	162	21915	D-3	9C	か②3			弥生土器	器台	15.1	8.5	11.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
25	163	21913	D-3	9C	か②1			弥生土器	器台	15.1	8.7	10.0	ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
26	164	22290	C-3			小溝	1層？	須恵器	坏身		11.9		回転ヨコナデ・ケズリ	回転ヨコナデ			
26	165	21219	B-3			北東側		土師器	皿	2.0	8.8		回転ナデ・ナデ	回転ナデ			
26	166	21222	B-3			北東側		土師器	高台椀			7.0	ナデ	ナデ			
26	167	22261	D-3			右上	1層	弥生土器	手づくね	2.8	4.2	2.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
26	168	22260	D-3			右上	黒粘	弥生土器	手づくね	4.5	6.1	4.5	ナデ・指押	ナデ・指押			
26	169	22287	D-3			右上	2層	弥生土器	甕		14.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			
26	170	22252	D-3			右上	1層	弥生土器	鉢	5.0	12.4	5.8	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
26	171	22296	D-3	9C			最下層	弥生土器	高坏				ミガキ	ナデ・指押	○		
26	172	22258	D-3			右上	1層2層	弥生土器	器台	16.9	15.0	16.8	ハケメ	ナデ・ハケメ			
26	173	22297	D-3	9C				弥生土器					磨滅	ミガキ	○	○	
26	174	22292	D-3				最下層	弥生土器	高坏				ミガキ	シボリ・ナデ・指押	○		
26	175	22291	E-3			右下	1層	土師器	甕		21.2		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラケズリ			4状の沈線
26	176	22014	E-3			下	砂層	弥生土器	甕	16.5	16.0	8.0	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
26	177	22015	E-3				中層	弥生土器	甕				ハケメ	ハケメ・指押			
26	178	22013	E-3			上	1層	弥生土器	甕			9.5	ナデ・指押	ナデ・指押			
26	179	21812	E-3				砂下層	弥生土器	甕			6.6	ハケメ	ハケメ・ナデ			
26	180	21815	E-3			右下	砂	弥生土器	鉢	6.4	11.8	5.0	ミガキ	ミガキ	○	○	底部穿孔
26	181	22016	E-3				砂上層	弥生土器	甕			2.0	ハケメ	ナデ・指押			
26	182	21823	E-3			下	1層	弥生土器	甕				格子目タタキ	ナデ			
27	183	22018	E-3				砂中層	弥生土器	高坏			37.0	ミガキ	シボリ・ナデ	○		
27	184	21819	E-3			左上	砂上層	弥生土器・土師器	高坏				ミガキ	ナデ・シボリ	○		
27	185	21820	E-3				流土	弥生土器・土師器	高坏				磨滅	ナデ・シボリ			
27	186	21818	E-3				流土	弥生土器・土師器	高坏			15.0	ミガキ・ハケメ	ハケメ			
27	187	22298	E-3				2層黒粘	弥生土器	高坏				ミガキ	ミガキ・シボリ	○	?	
27	188	22293	E-3			左上	砂上層	弥生土器	高坏				ミガキ	ナデ・シボリ	○	○	
27	189	22294	E-3			右上	地山直上	弥生土器				11.2	ミガキ	ナデ	?	?	
27	190	22017	E-3			右下	2層	弥生土器	器台	17.5	14.2	14.5	ハケメ	ハケメ・ナデ			
27	191	21814	E-3			左上	砂下層	弥生土器・土師器	器台	18.8	12.9	14.0	ナデ・指押	ナデ・指押・シボリ			
27	192	20015	E-3			左上	砂下層	弥生土器	器台	18.5	10.6	13.5	ハケメ	指押・ナデ・一部板ナデ			
27	193	20007	E-3			左上	砂層下部	弥生土器？	支脚	10.9	6.5	10.2	指押・ナデ	指押・板ナデ			器表面の剥落多い
29	194	21972	D-3・4	9A	き①7	ベルト		弥生土器	甕	29.0	18.0	7.9	ヨコナデ・ナデ	ハケメ・ナデ			窓あき
29	195	21632	D-3・4		お①9	ベルト		弥生土器・土師器	甕		27.2		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			煤多量
29	196	22262	D-3・4			ベルト	下層	弥生土器	甕	19.8	20.2	7.7	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
29	197	22179	D-3・4	9A	か①14			弥生土器	甕	25.7	21.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			
29	198	22029	D-3・4	9A	か①9	ベルト		弥生土器	甕			9.5	ハケメ	ナデ			
29	199	22023	D-3・4	9A	き①11	ベルト		弥生土器	壺		22.6		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	?		
29	200	21979	D-3・4	9A	き①6	ベルト		弥生土器	鉢	14.9	20.5	8.2	ヨコナデ・ナデ	ハケメ・ナデ			底部焼成前穿孔・胴下部焼成後穿孔
29	201	21977	D-3・4	9A	き①4	ベルト		弥生土器	甕			6.2	ハケメ	ハケメ？ナデ？			
29	202	21969	D-3・4	9A	か①4	ベルト		弥生土器	鉢			5.9	ハケメ	ナデ			
30	203	22032	D-3・4	9A	く①1	ベルト		弥生土器	鉢	16.6	22.6	9.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			焼成前穿孔
30	204	21926	D-3・4	9A	か①1	ベルト		弥生土器	鉢	17.8	21.7	9.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			焼成前穿孔
30	205	21978	D-3・4	9A	え①5	ベルト		弥生土器	鉢		18.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
30	206	21970	D-3・4	10A	か①5	ベルト		弥生土器	鉢	10.0	14.3	6.4	ハケメ？	ナデ			
30	207	21974	D-3・4	9A	お①4,5	ベルト		弥生土器	鉢	10.0	14.9	6.0	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
30	208	21973	D-3・4	9A	お①7	ベルト		弥生土器	鉢	9.7	12.0	6.0	磨滅	磨滅			
30	209	21975	D-3・4	9A	お①1	ベルト		弥生土器	鉢	8.3	10.0	4.2	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
30	210	21925	D-3・4	9A	お①2	ベルト		弥生土器	器台	9.7	7.5	9.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
30	211	22198	D-3・4	9A	き①7	ベルト		弥生土器？	鉢		9.6		ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
30	212	21976	D-3・4	9A	お①3	ベルト		弥生土器	蓋	8.4	21.0		ナデ	ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
32	213	21772	D-4	9A	き⑩ 2	左上		土師器	甕		19.6		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラケズリ			
32	214	21771	D-4	9A	く⑤ 1			弥生土器	甕		24.8		ハケメ	ハケメ			
32	215	21734	D-4	9A	き⑤ 1 他			弥生土器	甕	28.8	25.2	10.0	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			
32	216	21750	D-4	9A	か⑦ 3			弥生土器	甕	28.4	21.8	8.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			煤付着
32	217	21776	D-4	9A	か⑥ 3			弥生土器	甕	35.3	26.2	9.4	ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
32	218	21749	D-4	9A	お③ 5 他			弥生土器	壺	36.4	17.8	10.4	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
33	219	22253	D-4	9A	お③ 4			弥生土器	甕	24.8	20.9	8.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
33	220	21689	D-4	9A	お⑤ 3			弥生土器	甕		27.6		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			煤多量
33	221	22306	D-4	9A	え② 6			弥生土器	甕	27.8	27.8	7.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
33	222	21756	D-4	9A	え⑦ 4			弥生土器	甕	29.3	21.4	9.6	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
33	223	21686	D-4	9A	え④ 1			弥生土器	甕	32.8	25.2	9.8	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ・指押			
33	224	21832	D-4	9A	お③ 4			弥生土器	甕	33.9	28.4	8.4	ハケメ	ナデ・指押			
34	225	21763	D-4	9A	か⑨ 3			弥生土器	甕	34 前後		8.2	ハケメ	ナデ・指押			
34	226	21627	D-4	9A	え③ 7			弥生土器	甕		20.4		ヨコナデ・ハケメ	ナデ	?		
34	227	22114	D-4	9A	き④ 1			弥生土器	甕		33.2		ヨコナデ・磨滅	ヨコナデ・ナデ			
34	228	21767	D-4	9A	か⑧ 3			弥生土器	甕		24.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
34	229	22254	D-4	9A	お③ 7			弥生土器	甕	26.2	22.4	8.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
34	230	21730	D-4	9A	お④ 2			弥生土器	甕		22.8		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			
34	231	21731	D-4	9A	お⑧ 1 他			弥生土器	甕		21.2		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			煤付着
35	232	21744	D-4	9A	え⑨ 1,2			弥生土器	壺	28 前後	22.3		ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
35	233	21775	D-4	9A	お② 2			弥生土器	甕	22.6	21.4	84.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
35	234	21688	D-4	9A	お② 3 他			弥生土器	甕			8.8	ハケメ	ナデ			
35	235	21792	D-4	9A	え⑦ 1,2			弥生土器	甕		25.6		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
35	236	21648	D-4	9A	え② 6			弥生土器	甕		31.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
35	237	21626	D-4	9A	か⑥ 1			弥生土器	甕		25.8	7.7	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
36	238	21628	D-4	9A	く⑧ 2			弥生土器	甕	20.5	15.4	7.6	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ			
36	239	21735	D-4	9A	き③ 9			弥生土器	甕	19.3	19.8	0.8	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			
36	240	21625	D-4	9A	お⑤ 3			弥生土器	甕	24.2	14.8	7.7	ハケメ	ハケメ・ナデ			
36	241	21774	D-4	9A	お② 4			弥生土器	甕	19.5	18.3	7.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
36	242	21777	D-4	9A	か⑦ 5			弥生土器	甕	19.3	12.0	8.2	ハケメ	ナデ・指押			
36	243	21716	D-4	9A	お⑦ 9			弥生土器	甕		19.0		ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
36	244	21631	D-4	9A	お⑧ 3			弥生土器	甕		18.9		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
36	245	21708	D-4	9A	き⑦ 3			弥生土器	甕	19.5	13.8	5.0	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
36	246	21647	D-4	9A	右下			弥生土器	甕		16.8		ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
36	247	21757	D-4	9A	き⑧ 2,3			弥生土器	甕		14.8		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
36	248	21652	D-4	9A	け② 1			弥生土器	甕	約 17		5.8	磨滅	ナデ・ヘラナデ			
36	249	21732	D-4	9A	お② 2			弥生土器	甕	約 20	21.2	10.1	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			
37	250	21685	D-4	9A	き⑨ 2			弥生土器	甕		18.2		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
37	251	21649	D-4	9A	え⑥ 1・3			弥生土器	甕		22.7		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
37	252	21743	D-4	9C	う⑩ 1			弥生土器	甕		20.7		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
37	253	21249	D-4	9A	お⑥			弥生土器	甕				ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			
37	254	21633	D-4	9A	か⑤ 3			弥生土器	甕			7.5	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
37	255	21760	D-4	9A		左下		弥生土器	甕		24.6		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
37	256	21640	D-4	9A	く⑧ 3			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ・指押			
37	257	21257	D-4	9A	き② 1			弥生土器	甕			9.6	ハケメ	ナデ			
37	258	21698	D-4	9A	え③ 8			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ			
38	259	21672	D-4	9A	く⑩ 4			弥生土器	甕			7.2	ハケメ	ナデ・指押			底部焼成後穿孔
38	260	21644	D-4	9A		右下		弥生土器	甕			8.4	ハケメ	ナデ・指押			
38	261	21642	D-4	9A	か② 3			弥生土器	甕			5.5	ハケメ	ナデ・指押			
38	262	21729	D-4	9A	お⑨ 1			弥生土器	甕			8.5	ハケメ	ナデ・指押			
38	263	21705	D-4	9A	お⑧ 2			弥生土器	甕？			7.0	ハケメ・ナデ	ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
38	264	21715	D-4	9A	き⑥6			弥生土器	甕			8.4	ハケメ・ナデ	ナデ			
38	265	21737	D-4	9A	お③5			弥生土器	甕			8.0	ハケメ	ナデ			煤付着
38	266	21650	D-4	9A	か②3			弥生土器	甕			6.7	ハケメ	ナデ・指押			
38	267	21794	D-4	9A	お⑦6			弥生土器	甕			8.7	ハケメ	ナデ・指押			
38	268	21827	D-4	9B・9	く⑨2き⑧1			弥生土器	甕			9.6	ナデ	ナデ			
38	269	21712	D-4	9A	え⑨2他			弥生土器	甕			9.6	ハケメ	ナデ・指押			
38	270	21753	D-4	9C	く⑦4			弥生土器	甕				磨滅	ナデ・指押			
38	271	21713	D-4	9A	え⑦2			弥生土器	甕			8.9	ハケメ	ナデ・指押			
39	272	20734	D,E4	9A	き-8-1他	右上	1層	土師器	壺		19.8		ハケメ	ハケメ			
39	273	21684	D-4	9A	お⑦4	左上肩	地山上	弥生土器	壺		21.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
39	274	21691	D-4	9A	く⑦4			弥生土器	壺		25.0		ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
39	275	21791	D-4	9A	お③5②7			弥生土器	壺		18.6		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
39	276	21728	D-4	9A	か④1			弥生土器	壺		20.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
39	277	21733	D-4	9A	お③5			弥生土器	壺	32.3	18.5	9.2	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			
39	278	21639	D-4	9A	お③2他			弥生土器	壺	約26		8.6	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
39	279	21651	D-4	9A	く⑨1			弥生土器	壺		29.0		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
40	280	21773	D-4	9A	か⑥2き③1			弥生土器	壺	34.7	34.0	9.5	ハケメ	ナデ	○	△	
40	281	21692	D-4	9A	き⑤1，4他			弥生土器	壺		22.4		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	○		
40	282	20729	D,E4	9A	か②3他			弥生土器	壺	57.4	46.0	9.5	摩滅	摩滅			口唇部に刻目
40	283	21778	D-4	9A	き②1			弥生土器	壺		17.4		ハケメ	ハケメ・ナデ	○	△	
40	284	21659	D-4	9A	え③4			弥生土器	壺	28 α		7.6	ハケメ	ハケメ			
40	285	21690	D-4	9A		左下		弥生土器	壺		23.0		ハケメ	ナデ・指押			
40	286	21549	D-4	9A	か⑦1			弥生土器	壺				(摩滅)	(摩滅)			口唇部に刻目
41	287	22119	D-4	9A	こ⑤1			弥生土器	壺		53.0		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
41	288	22120	D-4	9A	こ③5			弥生土器	壺		51.2		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			口唇部に刻目
41	289	22116	D-4	9A	こ③5			弥生土器	甕		49.8		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			
41	290	20732	D-4	9	く③5他			弥生土器	壺		35.0		摩滅	摩滅			
41	291	21764	D-4	9A	え⑩2			弥生土器	壺		22.2		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	△		
41	292	21796	D-4	9A	け⑩1			弥生土器	壺		26.0		ナデ	ナデ・指押			
41	294	21714	D-4	9A	く⑩5			弥生土器	壺		13.0		ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
41	295	21740	D-4	9A	き③3			弥生土器	壺				ナデ	ナデ・指押			
41	296	22118	D-4	9A	く②1			弥生土器	壺				ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
41	297	21704	D-4	9A	く⑤1			弥生土器	壺			7.0	ナデ	ナデ・ハケメ			
41	298	21769	D-4	9A		左上	上部	弥生土器	壺			9.0	ミガキ	ナデ・指押	○		
42	299	21755	D-4	9A	か②3			弥生土器	壺	26.3	21.3	9.6	ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
42	300	21681	D-4	9A	お⑤3お⑨3			弥生土器	鉢	18.1	24.0	9.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			底部穿孔
42	301	21739	D-4	9A	き③1お②7			弥生土器	甕	11.6	13.0	5.0	磨滅	ナデ・指押	?	○	
42	302	21824	D-4	9A	お②7③7			弥生土器	鉢	15.8	15.8	6.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
42	303	21703	D-4	9A	え⑧3			弥生土器	壺	18.9	17.4	7.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
42	304	21630	D-4	9A	き⑧3			弥生土器	壺		10.6		ナデ	ハケメ・ナデ			
42	305	21699	D-4	9A	う⑦1下層			弥生土器	壺	10.8	9.2	6.0	ミガキ	ナデ	○		
42	306	21687	D-4	9A	き①4			弥生土器	壺	11.3	13.6	7.0	ミガキ	ナデ	○		
42	307	21700	D-4	9A	お③5			弥生土器	壺	8.8	11.6	5.4	ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
42	308	21736	D-4	9A	か③3②6			弥生土器	鉢	9.8	16.4	6.1	ナデ・指押	ナデ・指押			
42	309	21664	D-4	9A	き⑤1			弥生土器	鉢	11.7	16.8	6.8	ナデ	ナデ・指押			
42	310	21616	D-4	9A	え②2			弥生土器	甕	17.5	17.7	7.3	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
42	311	21693	D-4	9A	え⑩1			弥生土器	鉢	14.5	28.6	8.4	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
42	312	21710	D-4	9A	お⑦4			弥生土器	壺		11.0		ナデ	ナデ	?	?	
42	313	21676	D-4	9A	き②3			弥生土器	鉢	約13	24.0	7.4	ハケメ	ナデ			
43	314	21645	D-4	9A		右下		弥生土器	鉢	8.0	22.4	0.5	磨滅・ハケメ	ハケメ			
43	315	21683	D-4	9A	き⑦2			弥生土器	甕			6.0	ナデ	ハケメ			
43	316	21677	D-4	9A	こ⑤1			弥生土器	鉢		18.0		ナデ	ハケメ			
43	317	21668	D-4	9A	お⑧3			弥生土器	鉢	9.6	24.6	8.4	ハケメ	ミガキ状	?	○	内外底
43	318	21675	D-4	9A	き④1			弥生土器	鉢	8.9	25.0	8.0	ミガキ	ミガキ	△	○	
43	319	21643	D-4	9A		右下		弥生土器	鉢	10.3	14.8	6.6	ハケメ	ナデ・指押			
43	320	21629	D-4	9A	き⑥1			弥生土器	鉢	10.0	14.0	6.0	ナデ	ナデ・指押			
43	321	21641	D-4	9A	け⑤2			弥生土器	鉢	7.7	14.7	5.3	ハケメ	ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
43	322	21617	D-4	9A	お②2			弥生土器	鉢	10.8	14.8	5.2	ハケメ	ナデ・指押			
43	323	21825	D-4	9A	え③2			弥生土器	鉢	7.0	14.0	6.8	ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
43	324	21738	D-4	9A	か③3			弥生土器	鉢	7.8	13.0	5.7	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
43	325	21702	D-4	9A	お⑥3			弥生土器	鉢	6.9	12.6	5.5	ハケメ	ヨコナデ			
43	326	21762	D-4	9A	く⑩2か⑩1			弥生土器	鉢		12.2		ナデ	ナデ			
43	327	21663	D-4	9A	く②3			弥生土器	鉢	5.4	9.8	4.4	ナデ	ナデ			
43	328	21709	D-4	9A	く⑦2			弥生土器	鉢	6.2	8.6	4.0	ハケメ	ハケメ・ナデ			
43	329	21701	D-4	9A	お②5			弥生土器	鉢	5.7	9.0	5.0	ハケメ	ナデ			
43	330	21830	D-4	9A	お③7			弥生土器	鉢	4.9	4.5	2.5	ナデ・指押	ナデ・指押			
43	331	21795	D-4	9A	え⑧2お⑨4			弥生土器	蓋	9.2	15.2		ナデ・ハケメ	ナデ			
43	332	21646	D-4	9A	お③6			弥生土器	蓋	8.3	28.4		ヘラナデ	ヘラナデ			
43	333	21711	D-4	9A	く②2			弥生土器	蓋	3.3	10.0		磨滅	ナデ			
44	334	21660	D-4	9A				弥生土器	高坏		32.2		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
44	335	21678	D-4	9A	く③5，4，2			弥生土器	高坏		31.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
44	336	21259	D-4	9A	き③9			弥生土器	高坏		33.3		(摩滅)	ミガキ・ナデ・シボリ	?	△	
44	337	21665	D-4	9A	か⑤4き⑤4			弥生土器	高坏		33.0		ヨコナデ・ハケメ	ミガキ	○	○	
44	338	21258	D-4	9A	き⑥5			弥生土器	高坏	18.3	19.3	13.9	(摩滅)	ミガキ・ナデ・シボリ	?	△	
44	339	21682	D-4	9A	く⑩2か⑩1			弥生土器	脚			21.0	磨滅・ハケメ	シボリ・ナデ			孔9つあり
44	340	21204	D-4	9A	お④1			弥生土器	高坏				ハケメ	ナデ			
44	341	21770	D-4	9A	け⑥1			弥生土器	器台				ミガキ	シボリ	○		
44	342	22213	D-4	9A		右下	砂上層	弥生土器	高坏			15.9	ハケメ	ナデ			
44	343	21872	D-4	9A	く⑧1			弥生土器	高坏			16.0	ハケメ	ハケメ・ナデ・シボリ			穿孔上下二段6か所
45	344	21661	D-4	9A	き⑧2			弥生土器	器台	15.5	10.8	12.2	ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
45	345	21706	D-4	9A	お⑦3			弥生土器	器台	15.0	10.0	11.0	ヨコナデ・ナデ・指押	ヨコナデ・ナデ・シボリ			
45	346	21727	D-4	9A	お②6			弥生土器	器台	15.4	9.0	12.5	ナデ・指押	ナデ・指押			
45	347	21917	D-4	9A	く⑤4			弥生土器	器台	16.8	10.7	12.7	ナデ	ナデ			
45	348	21619	D-4	9A	お②1			弥生土器	器台	19.5	10.0	11.2	ナデ・指押	ナデ・指押			
45	349	21654	D-4	9A	く⑦1			弥生土器	器台	18.0	12.1	13.6	ナデ	ナデ・指押			
45	350	21618	D-4	9A	か②2			弥生土器	器台	20.2	9.4	12.3	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
45	351	21793	D-4	9A	く⑩3			弥生土器	器台	21.7	13.2	15.0	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
45	352	21707	D-4	9A	お⑦2		中層	弥生土器	器台	10.6	9.3	10.9	ヨコナデ・ナデ・指押	ヨコナデ・ナデ・シボリ			
45	353	20785	D-4	9A	き⑨3			土師器	支脚	約9	5.8		平行タタキ・ナデ	摩滅			
46	354	22033	D-4	9B				弥生土器	甕	26.5	22.0	10.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			窓あきか？
46	355	22212	D-4	9B	き⑨2			弥生土器	器台			14.7	磨滅	ナデ・指押			
46	356	21829	D-4	9B	き⑩3			弥生土器	高坏	27.8			ハケメ・ミガキ	ミガキ	○	○	
46	357	21826	D-4	9B	か⑩1お⑨2			弥生土器	鉢	12.9	18.0	7.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	?	?	
46	358	21758	D-4	9C	お⑦8			弥生土器	甕		29.8		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
46	359	22303	D-4	9B	く⑩2			弥生土器	鉢	35.0	31.8	8.5	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			底部内面に炭化物
46	360	22302	D-4	9B	く⑧1			弥生土器	甕	34.0	25.6	8.8	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
46	361	21748	D-4	9C	き⑦4			弥生土器	甕		33.0		ハケメ・ナデ	ナデ・指押			煤付着
47	362	21636	D-4	9C	き⑤1他			弥生土器	甕	24.8	21.4	9.2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
47	363	21635	D-4	9C	き⑧6他			弥生土器	甕		19.5		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			煤多量
47	364	21624	D-4	9C	か⑦2			弥生土器	壺		24.8		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
47	365	21696	D-4	9C	お⑦3，4，7			弥生土器	甕	25.5	22.4	8.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			煤付着
47	366	21720	D-4	9C	か⑧3			弥生土器	甕		22.4		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			煤付着
47	367	21623	D-4	9C	お⑦6			弥生土器	甕	24.6	21.4	8.2	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
47	368	21718	D-4	9C	か⑧4			弥生土器	甕		23.2		ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ナデ			
48	369	21611	D-4	9C	か⑩4			弥生土器	甕	17.0	18.5	7.2	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
48	370	21614	D-4	9C	き⑩5			弥生土器	鉢	14.8	13.6	6.3	ハケメ	ナデ・指押			
48	371	21782	D-4	9C	き⑨4			弥生土器	甕	12.8	10.6	6.0	ハケメ	ナデ			
48	372	21742	D-4	9C	お⑩1			弥生土器	甕	30前後	26.0	7.2	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
48	373	21768	D-4	9C	う⑩1お⑩2			弥生土器	甕		17.0		ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
48	374	21717	D-4	9C	え①2⑩1,3			弥生土器	甕		31.8		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
48	375	21721	D-4	9C	か⑧ 9			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ			煤付着
48	376	21697	D-4	9C	お⑦ 3，7			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ・指押			
48	377	21741	D-4	9D			最下層	弥生土器	甕			8.7	ハケメ	ナデ			
49	378	21752	D-4	9C	き⑧ 1 他			弥生土器	壺		32.1		ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	○	△	
49	379	22305	D-4	9C	き⑨ 1			弥生土器	壺	32.7	19.5	9.9	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・指押			胴部に焼成後穿孔
49	380	21638	D-4	9C	き⑨ 2 他			弥生土器	壺		20.0		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
49	381	21637	D-4	9C	か⑦ 7			弥生土器	壺		19.0		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	?	△	
49	382	21695	D-4	9C	か⑦ 7，8 他			弥生土器	壺	25 前後	12.6	8.8	ミガキ	ミガキ・シボリ・ナデ	○	△	底部に焼成後穿孔
49	383	22304	D-4	9C	き⑦ 1			弥生土器	壺		26.2	10.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
49	384	21786	D-4	9C	え⑨ 2			弥生土器	壺	16.0			ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
49	385	21206	D-4	9C		流土内		弥生土器	壺			7.0	ミガキ	ナデ	?		
50	386	22255	D-4	9C	え③ 2			弥生土器	壺	60 強	27.4	9.6	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			
50	387	22117	D-4	9C	く⑨ 3			弥生土器	壺			9.5	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
50	388	20731	D-4	9C	い⑨ 1 他			弥生土器	壺			82.4	ナデ・横ナデ	ナデ・板ナデ			
51	389	21745	D-4	9C	う⑨ 4			弥生土器	壺		30.0		ミガキ	ミガキ・ナデ	○	△	
51	390	21205	D-4	9C		流土内		弥生土器	壺		30.0	6.2	ミガキ	ミガキ・ナデ	○	△	
51	391	21754	D-4	9C	う⑨え			弥生土器	壺				磨滅	ミガキ・ナデ	○	△	
51	392	21747	D-4	9C	お⑤ 1			弥生土器	壺		38.0		ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
52	393	21657	D-4	9C	か⑧ 4			弥生土器	甕	16.4	17.2	6.0	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
52	394	21612	D-4	9C	く⑨ 1			弥生土器	甕	15.4	14.7	6.2	磨滅	ナデ・指押			
52	395	21787	D-4	9C	お⑨ 1			弥生土器	壺	14 前後	14.0		ハケメ	ナデ	○	○	
52	396	21785	D-4	9C	き⑧ 2			弥生土器	甕			6.0	ハケメ	ナデ・指押			
52	397	21615	D-4	9C	か⑦ 3			弥生土器	鉢	12.1	13.0	7.8	ハケメ・ケズリ状ナデ	ナデ・指押			
52	398	21694	D-4	9C	か⑧ 3			弥生土器	壺	15 前後		7.0	ミガキ	ミガキ			
52	399	21622	D-4	9C	か⑩ 7			弥生土器	鉢	5.3	8.9	6.1	ナデ・指押	ナデ・指押			
52	400	21780	D-4	9A	こ③ 2			弥生土器	脚部			15.0	ハケメ	ハケメ			
52	401	21783	D-4	9C	く③ 2			弥生土器	壺	8.5	10.8	4.8	ハケメ・ナデ	ナデ			
52	402	20779	D-4	9C	き⑤ 2			土師器	手づくね	2.6	5.2		指押	指押			
52	403	21784	D-4	9C	き⑤ 1 他			弥生土器	鉢	4.1	7.8	1.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
52	404	21680	D-4	9C	え⑨ 2 他			弥生土器	蓋	3.4	17.2		ミガキ	ナデ		○	
52	405	21655	D-4	9C	お⑦ 7			弥生土器	蓋	10.1	24.1		ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
52	406	21722	D-4	9C	か⑦ 5			弥生土器	蓋	10.1	26.4		ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
52	407	21656	D-4	9C	か⑨ 1			弥生土器	高坏		29.6		ヨコナデ・ハケメ	ミガキ	○	○	
52	408	21197	D-4	9C	え⑨ 3			弥生土器	高坏			17.5	ミガキ	シボリ・ナデ			
52	409	21759	D-4	9C	き⑥ 3			弥生土器	高坏	11.1	12.2	8.3	ミガキ	ミガキ	○	○	
52	410	21761	D-4	9C	き⑦ 1			弥生土器	高坏	16.9	20.1	13.0	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
52	411	21781	D-4	9C	く⑩ 1			弥生土器	器台	17.5	10.6	12.0	ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
52	412	21620	D-4	9C	き⑧ 4			弥生土器	器台	16.8	10.6	12.8	ナデ・指押	ナデ・指押			
52	413	21719	D-4	9C	か⑩ 8			弥生土器	器台	16.4	11.3	12.2	ナデ・指押	剥離			
52	414	21779	D-4	9C	う⑨ 5			弥生土器	器台	14.9	7.7	9.5	ナデ・指押	ナデ・指押			
52	415	21621	D-4	9C	か⑩ 2			弥生土器	器台		8.7		ナデ・指押	ナデ・指押			
53	416	21184	D-4	9D	19			弥生土器	壺		34.4		ミガキ	ミガキ	○	○	
53	417	21751	D-4	9D			最下層	弥生土器	甕	16 前後	14.0	9.0	磨滅	ナデ・指押			
53	418	21255	D-4	9D	3			弥生土器	鉢	15.0	21.6	5.5	ハケメ	ナデ			
53	419	21613	D-4	9D	3			弥生土器	甕	12.0	12.8	6.8	ナデ・指押	ナデ・指押			
53	420	21671	D-4	9D	R10		最下層	弥生土器	鉢	9.7	17.0	7.0	ナデ	ヨコナデ・ナデ			
53	421	21670	D-4	9D	R11		最下層	弥生土器	鉢	5.9	10.6	3.9	ナデ・指押・ハケメ	ナデ・指押			
53	422	21669	D-4	9D	R12		最下層	弥生土器	鉢		16.6		ミガキ	ミガキ	○	△	
53	423	21726	D-4	9D	R15		最下層	弥生土器	高坏		24.9		ミガキ	ミガキ	○	○	
53	424	21828	D-4	9D	R11		最下層	弥生土器	高坏			18.2	磨滅（ハケメ？）	ナデ・指押・シボリ	?		
53	425	21674	D-4	9D	R13		最下層	弥生土器	器台	14.0	7.4	9.2	ナデ・指押	ナデ・指押			
53	426	21658	D-4	9D			最下層	弥生土器	器台	15.0	7.8	8.9	ナデ	ナデ・指押			
53	427	21723	D-4	9D			最下層	弥生土器	支脚			10.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
53	428	20730	D-4	9D	く⑤ 1			弥生土器	壺		31.2		ハケメ	横ナデ・ナデ			
55	429	20904	D-4	14	4			弥生土器	甕		26.0		ハケメ	ナデ	?	?	
55	430	20791	D-4	14	10			弥生土器	壺	12.6	14.1	6.6	ミガキ	ナデ	○	△	内面は口縁のみ赤彩
55	431	20010	D-4	14	2			弥生土器	鉢	18.0	29.2	9.2	ハケメ後ナデ	指押・ナデ			底部端近くに径約２㎝の穿孔
55	432	20003	D-4	14	9			弥生土器	鉢	11.8	22.7	8.0	摩滅 (ナデ？)	指押・ナデ			両面とも赤彩痕

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
55	433	20009	D-4	14	3			弥生土器	蓋	8.5	26.0	6.0	摩滅（わずかにハケメ）	ナデ・指押			
55	434	20905	D-4	14	6			弥生土器	高坏		27.0		ミガキ	ミガキ	○	○	
55	435	21190	D-4	14	11			弥生土器	高坏				ミガキ	シボリ・ナデ	○		
55	436	20002	D-4	14	8			弥生土器	高坏	17.4	16.0	11.0	ヘラミガキ	坏部：ミガキ・筒部：シボリ・ナデ			外面及び坏部内面赤彩
55	437	20008	D-4	14	1			弥生土器	高坏	29.1	23.8	16.1	ヘラミガキ	坏部：ミガキ・筒部：シボリ・ナデ	○	坏部	外面及び坏部内面赤彩
56	438	21765	D-4			左肩	1層	弥生土器	甕		29.2		ハケメ	ハケメ・ナデ			
56	439	21666	D-4			左下	黒粘下部	弥生土器	鉢？			4.2	ナデ	ナデ			
56	440	21789	D-4			右上	上層	弥生土器	支脚	7.6		7.0	ナデ	ナデ			
56	441	21189	D-4			右上	腐葉土	弥生土器	高坏				ハケメ	シボリ・ナデ			
56	442	21634	D-4			右上	下層	弥生土器	甕	15.2	19.6	7.2	磨滅	ナデ			
56	443	20789	D-4	9		右下	最下層	弥生土器	鉢		17.4		ナデ	ナデ・指押			
56	444	21788	D-4			右上	下層	弥生土器	壺			6.6	ミガキ	ナデ			
56	445	21667	D-4			右下	砂下層	弥生土器	甕			7.5	ハケメ	ナデ			
56	446	21790	D-4			左上肩	地山上	弥生土器	蓋	2.4	10.8		ミガキ	ナデ	○		
56	447	20910	E-4			左上	1層	土師器	壺	15.5	10.7		ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ハケメ・ナデ			
56	448	20909	E-4		右上			弥生土器	壺			6.2	ナデ	しぼり・ナデ	？		
56	449	21007	E-4			右下	腐葉土	土師器？	ミニチュア	5.5	6.8	4.3	摩滅	摩滅			
56	450	20914	E-4			右上	2層腐葉土・砂	弥生土器	壺			7.4	ナデ？	ナデ			
56	451	20916	E-4			右下	1層黒粘	弥生土器	脚			14.5	ナデ	ケズリ			
56	452	20915	E-4			右上	2層腐葉土・砂	弥生土器	甕	15.1	16.8	7.4	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
56	453	20913	E-4			右上	2層腐葉土・砂	弥生土器	壺			3.7	ナデ	ナデ			
56	454	20912	E-4			右上	砂上層	弥生土器	壺		19.2		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・指押			
56	455	20885	B-4			凹凸内		黒色土器	碗？			6.4	ナデ	摩滅			
56	456	20884	B-4			凹凸内		瓦器	皿	1.9	10.2		回転ナデ・板状圧痕あり	ナデ			
56	457	20886	B-4			凹凸内		白磁	碗			8.0	外底部露胎				
56	458	20744	C-4			右上	1層	瓦質土器	壺				回転ナデ	回転ナデ			半島系
56	459	20745	C-4			右上	上層	瓦質土器	壺				摩滅	摩滅			半島系
59	460	21857	D-5	9A	あ⑤1			弥生土器	甕		36.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			
59	461	21597	D-5	9A	え⑩2			弥生土器	甕		35.8		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
59	462	22167	D-5	9A	う④7他			弥生土器	甕	28.6	22.8	9.5	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			
59	463	22317	D-5	9A	か⑦5			弥生土器	甕		24.6		磨滅	ナデ・指押			
59	464	22142	D-5	9A	か⑥4			弥生土器	甕	21.7	18.5	7.8	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
59	465	22137	D-5	9A	こ⑥3			弥生土器	甕		20.4		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
59	466	21850	D-5	9A	き⑥10			弥生土器	甕	24.8	24.3	8.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
59	467	22325	D-5	9A	う⑥4			弥生土器	甕		27.0		磨滅	ナデ・指押			
59	468	22324	D-5	9A	え⑤2			弥生土器	甕		29.0		磨滅	ナデ			
60	469	22326	D-5	9A	う⑥4			弥生土器	甕		28.0		磨滅	ナデ・指押			
60	470	22310	D-5	9A	こ②1			弥生土器	甕		24.5		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			煤
60	471	21839	D-5	9A	け⑨1			弥生土器	甕		28.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
60	472	21848	D-5	9A	け⑨1			弥生土器	甕		25.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
60	473	22316	D-5	9A	お⑤2			弥生土器	甕		25.0		磨滅	ナデ・指押			
60	474	22327	D-5	9A	う⑥4			弥生土器	甕		26.8		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
60	475	22314	D-5	9A	い③3			弥生土器	甕		32.2		ヨコナデ・ハケメ？	ヨコナデ・ナデ			
60	476	21891	D-5	9	き⑧2			弥生土器	甕		23.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
60	477	21864	D-5	9A	お⑥1			弥生土器	甕		20.6		ナデ	ナデ	？		
60	478	22312	D-5	9A	え⑤2			弥生土器	甕		26.4	9.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			煤
60	479	22318	D-5	9A	け⑤8			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ・指押			
60	480	21589	D-5	9A	け③3			弥生土器	甕			7.0	ハケメ	ナデ・指押			
60	481	21599	D-5	9A	う④9			弥生土器	甕			11.5	ハケメ	ナデ・指押			
60	482	22147	D-5	9A	う⑤3			弥生土器	甕			9.8	ハケメ・ナデ	ナデ			底部焼成後穿孔
61	483	22173	D-5	9A	い⑥4			弥生土器	壺		60.0		ナデ・磨滅	ハケメ・ナデ			
61	484	21607	D-5	9A	あ⑧3			弥生土器	壺		54.2		ハケメ・磨滅	ハケメ・ナデ			
61	485	22172	D-5	9A	け④1			弥生土器	壺		46.2		磨滅	磨滅			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
61	486	22335	D-5	9A	い⑧4			弥生土器	壺	52.0	36.2	11.4	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			
61	487	22127	D-5	9A	く⑤3			弥生土器	壺			9.8	ナデ	ナデ・指押			
61	488	22124	D-5	9A	い⑥4			弥生土器	壺			11.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
62	489	21606	D-5	9A	あ⑧2	右下	1層	弥生土器	壺		28.0		ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ			
62	490	21610	D-5	9A	け④3，5，6			弥生土器	壺	38.2	16.8	9.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ			
62	491	21200	D-5	9A	い④1			弥生土器	壺		13.6		ミガキ・暗文	ヨコナデ・ナデ	○	△	
62	492	22155	D-5	9A	さ⑥10			弥生土器	壺		18.6		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	磨滅			
62	493	21893	D-5	9A	け⑧2こ⑦2	右上	2層	弥生土器	壺				ハケメ	ナデ・指押			
62	494	22143	D-5	9A	あ⑨2			弥生土器	壺	31.7	24.0	8.8	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
62	495	22122	D-5	9A	え③1			弥生土器	壺			8.6	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			胴部に焼成後穿孔
63	496	22144	D-5	9A	け⑤2			弥生土器	壺		23.9		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押	?	?	
63	497	22301	D-5	9A	け⑧1			弥生土器	壺		23.0		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
63	498	22135	D-5	9A	け④5			弥生土器	壺		23.4		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			
63	499	22096	D-5	9A	5			弥生土器	壺				ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			口に黒塗り？
63	500	22154	D-5	9A	け⑦1			弥生土器	壺		23.3		磨滅	磨滅			
63	501	21844	D-5	9A	け④6			弥生土器	壺			7.7	磨滅	ナデ			
63	502	22034	D-5	9A	お③			弥生土器	壺			7.8	ミガキ	ナデ・指押	○		
63	503	21201	D-5	9A				弥生土器	壺			7.4	ミガキ	ナデ	○		
63	504	21588	D-5	9A	い⑥1			弥生土器	壺			8.1	ナデ	ナデ・指押			
63	505	21863	D-5	9A	あ⑨1			弥生土器	壺			7.0	ナデ	ナデ			
64	506	21598	D-5	9A	く⑩1			弥生土器	鉢	12.6	24.0	8.8	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
64	507	22309	D-5	9A	か⑨1			弥生土器	鉢	12.9	23.2	6.9	ナデ・ハケメ	磨滅			
64	508	21860	D-5	9A	い⑧1			弥生土器	甕		22.0	7.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
64	509	21847	D-5	9A	け④3			弥生土器	甕	13.2	19.4	7.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
64	510	22157	D-5	9A	け④8			弥生土器	鉢	12.3	14.8	4.6	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			底部焼成前穿孔
64	511	22175	D-5	9A				弥生土器	鉢	14.3	15.6	7.6	磨滅	ヨコナデ・ナデ			
64	512	22319	D-5	9A	い⑥1			弥生土器	鉢		19.8		磨滅	磨滅			
64	513	22270	D-5	9A	え④1			弥生土器	鉢		18.0		ナデ	ナデ			
64	514	22146	D-5	9A	い④7			弥生土器	鉢	2.7	5.0	3.8	ナデ・指押	ナデ・指押			
64	515	22129	D-5	9A		右上		弥生土器	鉢	3.9	6.8	1.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
64	516	22128	D-5	9A		右上		弥生土器	鉢	5.4	8.1	1.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
64	517	22145	D-5	9A	い④3			弥生土器	鉢	5.6	11.9	5.7	ナデ	ナデ			
64	518	21840	D-5	9A		左上		弥生土器	鉢	8.7	13.2	6.0	磨滅	ナデ			
64	519	22333	D-5	9A	か⑤6			弥生土器	鉢			8.0	ハケメ・ナデ	剥離			
64	520	22269	D-5	9A	え④1	天地逆か		弥生土器	蓋			7.9	ハケメ	ナデ・指押			
64	521	22123	D-5	9A	え⑩2			弥生土器	鉢	6.7	4.5		ナデ	シボリ・ナデ			
64	522	22156	D-5	9A	お⑦5			弥生土器	鉢	10.7	25.5		ヨコナデ・ナデ・指押	ナデ・ハケメ			
64	523	21256	D-5	9A	え⑤5			弥生土器	蓋	8.4	27.6		ハケメ	ハケメ・ナデ・シボリ			
64	524	21865	D-5	9A	こ⑤1			弥生土器	蓋	9.0	23.1		ハケメ・ナデ	ナデ			
65	525	21841	D-5	9A	い④6			弥生土器	高坏		22.8		磨滅	磨滅	?	?	ヘラによる横方向の沈線数本
65	526	22176	D-5	9A				弥生土器	高坏		21.0		ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
65	527	22161	D-5	9A	け⑤4			弥生土器	器台				磨滅	シボリ・磨滅			
65	528	21596	D-5	9A	け④2			弥生土器	高坏			15.0	ナデ・ハケメ	シボリ・ナデ			
65	529	21199	D-5	9A	お②1			弥生土器	高坏				ミガキ	シボリ・ナデ	○		
65	530	22133	D-5	9A	え⑦2			弥生土器	高坏			13.8	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
65	531	21595	D-5	9A	か⑥1			弥生土器	高坏			19.0	磨滅	シボリ・ナデ			
65	532	22171	D-5	9A	え⑧1			弥生土器	高坏				磨滅	シボリ・ナデ			
65	533	22315	D-6	9A	か⑤2			弥生土器	高坏			17.6	ミガキ	シボリ・ナデ	○		
65	534	21866	D-5	9A	こ④3の下			弥生土器	器台	9.1	7.4	6.2	ナデ	ナデ・指押			
65	535	22159	D-5	9A	く⑧2			弥生土器	器台	9.4	9.6	1.2	ナデ・指押	ナデ・指押			
65	536	22158	D-5	9A	お⑦2			弥生土器	器台	12.3	9.9	11.6	ハケメ・磨滅	ナデ・指押			
65	537	22320	D-5	9A	お⑦2			弥生土器	器台	12.3	9.8	10.6	ヨコナデ・ハケメ	磨滅			
65	538	22321	D-5	9A	う⑩1			弥生土器	器台	12.8	8.0	11.0	指押・ナデ・ハケメ	ナデ・シボリ			
65	539	21843	D-5	9D	え⑩3		最下層	弥生土器	器台	17.7	11.5	12.3	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
65	540	22151	D-5	9A	え⑥2			弥生土器	高坏	16.9	約10	10.0	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押			
65	541	21250	D-5	9A	い⑨5			弥生土器	器台	15.4	7.6	9.7	ナデ・指押	ナデ・指押			
65	542	22160	D-5	9A	け⑧3			弥生土器	器台		9.9		磨滅	ナデ・指押			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
65	543	21868	D-5	9A	こ⑧5			弥生土器	器台		10.9		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
65	544	21894	D-5	9A	き⑤5			弥生土器	器台	19.5	11.7	14.0	ハケメ・ナデ・指押	ナデ・指押			
65	545	22153	D-5	9A	天地逆			弥生土器	高坏	16.2	8.1	12.2	ナデ・指押	剥離			
65	546	22152	D-5	9A	き⑩1			弥生土器	高坏		10.6		磨滅	ヨコナデ・ナデ			
65	547	21593	D-5	9A	お⑥2			弥生土器	器台		11.6		ナデ・指押	剥落			
66	548	22331	D-5	9B	か②4			弥生土器	甕		23.8		ヨコナデ・ハケメ	ナデ？			
66	549	21845	D-5	9CB	か②4他			弥生土器	甕		26.5	10.7	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
66	550	22322	D-5	9B	お①2			弥生土器	壺	33.6			ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
66	551	21846	D-5	9B	お①1他	左下	下層	弥生土器	壺				ヨコナデ・ミガキ	ナデ	○		突帯５条
66	552	22330	D-5	9B	く①1			弥生土器	壺				ミガキ？	ナデ・指押			
66	553	22131	D-5	9B	お①2			弥生土器	甕			7.9	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
66	554	21251	D-5	9B				弥生土器	鉢	8.4	15.1	6.5	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			
66	555	22132	D-5	9B	お②2			弥生土器	鉢			9.8	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
66	556	22332	D-5	9B	く②1			弥生土器	器台			11.5	ナデ・指押	ナデ・指押			
66	557	22311	D-5	9B	か②2			弥生土器	器台	13.8	10.7	13.3	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	指押・シボリ・ハケメ			
66	558	21849	D-5	9B	か①2			弥生土器	器台	17.5	11.9	10.3	ナデ	ナデ・指押			
67	559	21861	D-5	9C	う②1			弥生土器	甕		31.6		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
67	560	21862	D-5	9C	お①1			弥生土器	鉢		35.8		ヨコナデ	磨滅			
67	561	22328	D-5	9C	う①1			弥生土器	壺	約30	32.2	6.6	ミガキ？	ナデ？・指押			
67	562	22271	D-5	9C	お①1			弥生土器	壺			7.1	ミガキ	ナデ・指押	○		
67	563	21870	D-5	9C	え①1			弥生土器	鉢			11.7	ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
67	564	22267	D-5	9C	い①1			弥生土器	壺？			8.4	ミガキ	ナデ・指押	○		
67	565	20786	D-5	9B・C	お①2他			弥生土器	壺				ナデ	ナデ・指押指押			外面に鉤状文２つ
67	566	21890	D-5	9C	い①1			弥生土器	高坏		32.6		ヨコナデ・磨滅	ナデ・磨滅	○	○	
67	567	21859	D-5	9D	あ②2			弥生土器	甕	27.0	22.0	8.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
67	568	21587	D-5	9D	お⑨2			弥生土器	鉢	8.4	15.7	8.4	ナデ・指押	ナデ・指押			
67	569	21592	D-5	9D	お⑨3			弥生土器	器台		9.7		ハケメ	ナデ・指押			
67	570	22134	D-5	9D	け⑤5			弥生土器	壺			10.2	ナデ	ナデ・指押			
68	571	20783	C-5			右下肩		弥生土器	鉢	9.5	7.8	4.0	ヘラナデ	横ナデ			天地逆か
68	572	20898	D-5			左下１層		須恵器	坏身		9.0		回転ナデ	回転ナデ			
68	573	20897	D-5			左下１層		須恵器	坏蓋		12.5		回転ナデ	回転ナデ			
68	574	20738	D-5			右下	１層	楽浪系	鉢		18.2		回転ナデ	回転ナデ			楽浪系
68	575	21892	D-5			右下	１層	弥生土器	甕		16.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ？			
68	576	22174	D-5	9A		左上		弥生土器	鉢	11.0	22.4	7.0	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
68	577	22266	D-5			右上		弥生土器	碗		11.0		ナデ	ナデ			
68	578	22177	D-5			右下	１層	弥生土器	甕	14.0	13.7	2.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			
68	579	22323	D-5			右下	１層	弥生土器	甕		25.4		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
68	580	20787	D-5			よめない	２層	土師器	壺				ナデ	ナデ・指押指押			外面に鉤状文１つ
68	581	21842	D-5			左上	１層	弥生土器	高坏		24.0		ハケメ・ミガキ	ミガキ？			
68	582	22136	D-5			右上肩	地山上	弥生土器	壺				磨滅	ヨコナデ・ナデ	？	△	
68	583	21895	D-5			右上	砂上部	弥生土器	壺		17.0		ナデ？	ヨコナデ・ナデ・指押			
69	584	21218	E-5			東肩	１層	土師器	碗			7.0	ナデ	回転ナデ			
69	585	21221	E-5			東肩	１層	土師器	皿			8.6	ナデ・糸切り	回転ナデ・ナデ			
69	586	22139	E-5			左下	１層	弥生土器	鉢	11.9	12.2	11.9	ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
69	587	22141	E-5				１層	弥生土器	壺		21.7		ミガキ	ヨコナデ	○		
69	588	20083	E-5					弥生土器	高脚の脚部？				摩滅	摩滅	○	○	透かしが○と□
69	589	21254	E-5			右上	青灰色粘土	弥生土器	鉢	12.3	16.9	5.5	ハケメ	ナデ			
69	590	22150	E-5			左上	砂中上層	弥生土器	甕			6.2	ナデ・ハケメ	ナデ・指押			
69	591	22148	E-5			左上	砂下	弥生土器	器台	18.3	13.2	13.1	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
69	592	22149	E-5			左上	砂上	弥生土器	器台	10.3	7.6	11.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
69	593	22140	E-5			左上	砂上	弥生土器	甕			8.5	ハケメ	ナデ			
69	594	22138	E-5			左上	砂上	弥生土器	鉢	5.8	11.0	3.9	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
69	595	20780	E-5			右上	腐葉土・砂	弥生土器	高坏の脚	5.0		5.6	ヘラナデ	ナデ			
71	596	21603	D-5・6		24	D-5・6間ベルト		弥生土器	甕	28.5	26.5	8.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
71	597	21875	D-5・6		14,24、	東西ベルト	下層	弥生土器	甕		29.0		ヨコナデ・ハケメ	ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
71	598	22126	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	甕	37.5	28.2	9.0	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			
71	599	22307	D-5・6	9A	6.11	ベルト		弥生土器	甕	30.5	19.1	8.2	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ナデ			
71	600	22094	D-5・6	9 A	10			弥生土器	甕		27.9		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			煤
71	601	21578	D-5・6		4	ベルト		弥生土器	甕	23.3	14.5	7.5	ハケメ・ナデ	ナデ			
72	602	21591	D-5・6			ベルト		弥生土器	甕		24.4		ハケメ	ハケメ・ナデ			
72	603	21604	D-5・6		34	ベルト		弥生土器	甕			10.2	ナデ・磨滅	ナデ・指押			
72	604	21897	D-5・6		35	ベルト		弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ・指押			
72	605	22093	D-5・6	9 A	24	ベルト		弥生土器	甕			10.6	ハケメ・ナデ	ナデ			
72	606	21858	D-5・6			ベルト		弥生土器	壺	35.0	31.0	9.5	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
72	607	21873	D-5・6		3	ベルト		弥生土器	壺			8.8	ハケメ	ナデ・指押			
73	608	21609	D-5・6		34	ベルト		弥生土器	壺		42.4		ナデ	ナデ			
73	609	21305	D-5・6	9 A	19	ベルト		弥生土器	壺			8.0	ハケメ→ミガキ	シボリ・ナデ・指押	○		
73	610	21581	D-5・6		23	ベルト		弥生土器	甕				ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
73	611	22095	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	壺				ミガキ	ナデ・指押	○		
73	612	21876	D-5・6		14	ベルト		弥生土器	甑	13.5	20.6	7.2	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			底部焼成前穿孔
73	613	21874	D-5・6		11	ベルト		弥生土器	甕			7.0	ハケメ	ナデ・指押			
73	614	21576	D-5・6		14.28	ベルト		弥生土器	鉢	12.8	13.3	6.5	ナデ・ハケメ	ナデ			
73	615	21566	D-5・6		27	ベルト		弥生土器	鉢		21.6		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
73	616	22164	D-5・6	9A	22	ベルト		弥生土器	鉢	9.9	15.7	6.1	ハケメ・ナデ	ナデ4			
73	617	21565	D-5・6		35	ベルト		弥生土器	鉢		20.6		ハケメ	ハケメ・ナデ			
73	618	21570	D-5・6		14	ベルト		弥生土器	鉢	8.4	12.0	4.9	ナデ・指押	ナデ・指押			
74	619	21573	D-5・6		17	ベルト		弥生土器	高坏				ナデ	ナデ			
74	620	22264	D-5・6	9A	8	ベルト		弥生土器	器台		9.8		ナデ・指押	ナデ・指押			
74	621	21571	D-5・6		29	ベルト		弥生土器	器台	10.6	9.6	11.2	ナデ・指押	ナデ・指押			
74	622	22163	D-5・6	9A	15	ベルト		弥生土器	器台	11.4	8.7	10.5	磨滅	ナデ・指押			
74	623	21582	D-5・6		33	ベルト		弥生土器	器台	19.0	15.6	14.8	ハケメ	ハケメ			
74	624	22165	D-5・6	9A	16	ベルト		弥生土器	器台	18.9	11.4	14.5	ヨコナデ・ナデ・指押	ナデ・シボリ・指押			
74	625	22166	D-5・6	9A	2	ベルト		弥生土器	器台	18.0	11.2	12.6	ヨコナデ・ナデ	ナデ・シボリ・指押			
74	626	20941	D-5・6			ベルト	最上層	土師器	甕	25.4	17.8		ハケメ	ケズリ			
74	627	20939	D-5・6			ベルト	上層・最上層	土師器	甕				ハケメ・ケズリ	ケズリ			
74	628	21000	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	鉢		13.8		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	○	○	
74	629	21569	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	壺			5.9	ミガキ	ナデ			
74	630	21585	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	甕		35.2		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			煤多量
74	631	21574	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	蓋				ミガキ	ナデ	○		
74	632	21575	D-5・6			ベルト	下層	弥生土器	蓋				ミガキ	ナデ	○		
75	633	22308	D-5・6	9A		ベルト		弥生土器	甕		33.2		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
75	634	21579	D-5・6			ベルト		弥生土器	甕		25.0		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
75	635	21605	D-5・6			ベルト		弥生土器	甕		30.6		磨滅	ハケメ・ナデ			
75	636	21586	D-5・6			ベルト		弥生土器	甕		23.8		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
75	637	20074	D-5・6			ベルト		土師器	壺		13.4		ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ	?		
75	638	21567	D-5・6			ベルト		弥生土器	甕		18.8		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
75	639	21568	D-5・6			ベルト		弥生土器			19.0		ミガキ	ナデ	○	△	
75	640	21302	D-5・6	9 A	1	ベルト		弥生土器	壺		18.4		ハケメ	ハケメ・指押	?	?	
75	641	21901	D-5・6			ベルト		弥生土器	壺		25.0		ヨコナデ	ヨコナデ			
75	642	21896	D-5・6		6	ベルト		弥生土器	壺	31.0	14.7	9.5	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ			
75	643	21580	D-5・6			ベルト		弥生土器	壺			7.7	ハケメ	ハケメ			
75	644	21584	D-5・6			ベルト		弥生土器	壷			8.0	ナデ	ナデ			
75	645	22168	D-5・6			ベルト		弥生土器	壺			4.7	ナデ・指押	ナデ・指押			
76	646	20998	D-5・6			ベルト		弥生土器	蓋	3.5	14.4	1.5	ミガキ	ナデ	○		
76	647	21577	D-5・6			ベルト		弥生土器	鉢		22.4		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			
76	648	21303	D-5・6	9 A	35	ベルト		弥生土器	鉢	9.9	18.4	6.0	ヨコナデ・ナデ	ナデ			
76	649	21583	D-5・6			ベルト		弥生土器	器台	18.6	11.0	17.2	ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
76	650	21572	D-5・6			ベルト		弥生土器	器台	10.4	8.6	9.3	ナデ・指押	ナデ・指押			
76	651	22170	D-5・6			ベルト		弥生土器	高坏				ハケメ・ナデ	ナデ			
76	652	22169	D-5・6					弥生土器	坏状		17.0		ナデ	ナデ	○	○	
78	653	20844	C-7	9C	き②7他			弥生土器	甕		30.0		横ナデ・摩滅	摩滅			
78	654	20848	D-6	9A	あ②他			弥生土器	甕		26.0		横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
78	655	22115	C-7	9A	く①5			弥生土器	甕		39.1		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	?	?	
78	656	21908	C-7	9A	け①5			弥生土器	甕		40.0		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
78	657	22068	D-6	9A	あ③1			弥生土器	甕		22.7		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			煤
78	658	21838	D-6	9B	あ④1,2			弥生土器	甕		24.0		ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
78	659	22056	D-6	9A	い③5			弥生土器	甕		27.0		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ			煤
78	660	22097	D-6	9A	こ④			弥生土器	甕		22.0		磨滅	ヨコナデ・ナデ			
78	661	22086	D-6	9A	あ⑧4			弥生土器	甕			8.4	ハケメ	ナデ・指押			
79	662	20961	D-6	9A	い④5，い④6			弥生土器	甕	43.5	31.5	11.0	ヨコナデ・他ハケメ	ナデ（工具痕）			
79	663	20874	C-6	9A		こ⑨2		弥生土器	甕？			8.0	摩滅	ナデ			
79	664	22215	D-6	9A	こ④1			弥生土器	甕			8.5	ハケメ	磨滅			
79	665	21357	C-6	9A	こ⑨3			弥生土器	甕			9.7	ハケメ	ナデ			
79	666	21907	C-6	9A		右		弥生土器	鉢			8.3	磨滅	ナデ			
79	667	20728	C・D-6	9B	あ⑧2他			弥生土器	壺	70 強		9.0	ハケメ	ナデ・板ナデ・ケズリ状			頸部下に三日月状文様
79	668	20726	D-6	9		い-6-2		弥生土器	壺	68.5	46.0	14.0	ハケメ・摩滅	口・横ナデ・ナデ			口唇部に刻目
80	669	20993	D-6	9B	い④6			弥生土器	壺				ハケメ	ハケメ・ナデ			
80	670	20932	C-7・6	9	こ⑨2他			弥生土器	壺		27.0		剥落	摩滅	?		
80	671	20924	C-6	9B	こ⑦4			弥生土器	壺		20.4		ナデ	板ナデ			
80	672	21900	D-6	9A	い④3			弥生土器	壺		19.0		ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ナデ・指押			
80	673	20950	D-6	9	あ③4			弥生土器	壺	33.7	30.2	8.2	ハケメ・ナデ・ミガキ	ハケメ・他：ナデ	○	△	
80	674	22081	C-6	9A	こ⑥2他			弥生土器	壺		45.0		ミガキ？	ヨコナデ・ナデ	?		
81	675	21899	D-6	9A				弥生土器	壺		28.5		ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	?	?	
81	676	21537	D-6	9A	あ③5			弥生土器	壺		22.4		ヨコナデ・ナデ	ハケメ			
81	677	20876	D-6			左上	下部腐葉土	弥生土器	壺		16.0		剥離	ナデ・ハケメ	○		
81	678	20840	D-6	9A		左		弥生土器	鉢		13.6		摩滅	ナデ			
81	679	22059	D-6	9A	あ③4			弥生土器	壺		14.6		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ	○	△	
81	680	20825	D-6	9A		左上	1層黒土下部	弥生土器	壺	約 20		7.0	摩滅	指押・ナデ			
81	681	20894	D-6	9A		左上1層		土師器	壺		10.0		ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ			
81	682	20782	C-6	9A		こ⑤2		弥生土器	小壺	7.9	5.8	3.5	ナデ	横ナデ・ハケメ			
81	683	20871	D-6	9		い⑤2		弥生土器	壺		28.4		横ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ			
81	684	20864	D-6	9		う③2		弥生土器	壺			9.0	ハケメ	ナデ	○		
81	685	20831	D-6	9A		あ③4		弥生土器	壺			7.8	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
81	686	20872	D-6	9		う⑨1		弥生土器	鉢	7.1	11.8	4.0	ハケメ	指押			
81	687	20873	D-6	9		う⑨1		弥生土器	鉢	5.7	10.6	2.5	摩滅	摩滅			
81	688	20875	C-6	9		こ④3		弥生土器	鉢	6.7	13.2	4.8	ハケメ？	摩滅			
81	689	20978	D-6	9A	あ⑤5			弥生土器	手づくね	4.2	8.5	4.0	ハケメ・ナデ	ナデ（工具痕）			
81	690	21552	C-6	9A	く⑦5			弥生土器	甕	13.4	15.5	5.4	（摩滅）	（摩滅）			内面に煤・焦げ付着
81	691	20877	D-6	9		う⑤2		弥生土器	鉢	12.4	16.5	6.4	剥離	板ナデ			
81	692	22064	D-6	9A	あ③5			弥生土器	蓋	7.7	19.7		ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ			
82	693	20991	D-6	9A	う⑧1			弥生土器	器台			12.5	ハケメ・指押さえ	ナデ			
82	694	21851	D-6	9A	あ③2			弥生土器	器台	18.6	11.5	12.6	ナデ・指押	ナデ・指押			
82	695	22106	C-7	9A	く①4			弥生土器	器台	17.8	11.7	15.4	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ			
82	696	22090	C-7	9A	あ⑧3			弥生土器	器台	17.7	11.8	14.5	ナデ	ナデ			
82	697	22225	D-6	9A	あ⑥1			弥生土器	器台	17.5	11.2	13.8	ナデ・指押	ナデ・指押・シボリ			
82	698	22110	D-7	9A	あ①3			弥生土器	器台	16.8	12.0	14.1	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			
82	699	22105	C-7	9A	く①5			弥生土器	器台	16.7	10.9	12.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
82	700	22087	D-6	9A	い⑦3			弥生土器	器台	17.2	12.8	12.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
82	701	22071	D-6	9A	あ③2			弥生土器	器台	17.0	12.4	11.8	ナデ・指押	剥離・磨滅			
82	702	21352	C-6	9A	け⑤5			弥生土器	器台	16.4	11.4	9.8	ヨコナデ	ヨコナデ・シボリ			
82	703	22091	D-6	9A	あ⑦4			弥生土器	器台	15.7	11.4	11.5	ハケメ・磨滅	ナデ・指押			
82	704	20988	D-6	9A	あ⑩2			弥生土器	器台	16.2	10.4	11.5	ハケメ・指押さえ・ナデ	指押さえ・ナデ			
82	705	20990	C-6	9A	こ④3			弥生土器	器台			10.3	指押さえ	指押さえ・ナデ			
82	706	21351	C-6	9A	こ③1			弥生土器	器台	16.5	9.5	12.8	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・シボリ			
82	707	20992	D-6	9A	う②1			弥生土器	器台			13.0	ハケメ・指押さえ	指押さえ・ナデ			
82	708	22069	D-6	9A	あ⑨3			弥生土器	器台			12.8	ナデ・指押	ナデ・指押			
82	709	22092	C-6	9A	く⑦2			弥生土器	器台	14.8	10.7	13.7	ハケメ・ナデ	ナデ・指押			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
82	710	21880	C-6	9A	こ⑦6			弥生土器	器台		12.4		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
82	711	21879	C-6	9A	け⑧3			弥生土器	器台			12.2	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ヨコナデ・シボリ			
82	712	22089	D-6	9A	あ③4			弥生土器	器台			12.9	ナデ・指押	ナデ			
82	713	22223	D-6	9A	あ⑥1			弥生土器	器台			9.8	ナデ	シボリ・ナデ			
83	714	21557	C-6	9A	く⑨4			弥生土器	高坏		28.9		磨滅（ミガキ）	ミガキ他	?	○	
83	715	21877	C-6	9A	く⑩2			弥生土器	高坏			13.6	ハケメ・磨滅	ヨコナデ・ナデ・シボリ			
83	716	22226	D-6	9A		左下		弥生土器	高坏				磨滅	シボリ・ナデ			
83	717	22224	D-6	9A	あ⑥1			弥生土器	高坏				磨滅	シボリ・ナデ			
83	718	22062	D-6	9A	う⑤1			弥生土器	高坏			14.5	磨滅	シボリ・ナデ	○		
83	719	22088	D-6	9A	う⑤3			弥生土器	高坏				ナデ？	ナデ			
83	720	20735	D-6	9A	あ⑨1他		1層	瓦質土器	壺	約20			格子目タタキ・沈線20条	横ナデ・摩滅・当て具			半島系
84	721	20985	C-6	9B	こ⑤3			弥生土器	甕		26.0		ヨコナデ・他ハケメ	ナデ			中部以上スス付着
84	722	20969	C-6	9B	こ⑤3			弥生土器	甕		23.2		ヨコナデ・他ハケメ	ハケメ・他：ナデ			スス付着
84	723	20981	D-6	9B	う⑦1			弥生土器	甕		21.2		ヨコナデ・他ハケメ	ハケメ・他：ナデ			中部以上スス付着
84	724	20951	D-6	9B	あ⑤3			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ			
84	725	20849	D-6	9B		あ④2		弥生土器	甕		27.6		ナデ・ハケメ	ナデ			胴中央部にスス付着
84	726	22070	D-6	9B	あ⑦2			弥生土器	甕		29.6		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			煤
85	727	20841	C-6	9B		こ⑦1		弥生土器	甕		25.2		ナデ・ハケメ	横ナデ・板ナデ			
85	728	20867	D-6	9B		あ⑦2		弥生土器	甕		22.0		ハケメ	ハケメ・板ナデ			スス付着
85	729	20847	C-6	9B		い③3		弥生土器	甕		28.0		横ナデ・ハケメ	ハケメ・横ナデ・ナデ			スス全面付着
85	730	22078	C-6	9B	く⑨4			弥生土器	甕		24.0		ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
85	731	20973	C-6	9B	こ⑨1			弥生土器	甕			7.8	ハケメ	ナデ（工具痕）			
85	732	22076	C-6	9B	く⑨4			弥生土器	甕			8.2	ハケメ	ナデ			
85	733	20965	C-6	9B	こ⑧2			弥生土器	甕			7.7	ハケメ	板ナデ			スス付着
85	734	21536	D-6	9B	い③7			弥生土器	甕				ハケメ	ナデ			内面に爪状圧痕
85	735	20878	C-6	9B		こ⑥2		弥生土器	甕			8.0	ハケメ	指押・ナデ			底部に大きな穿孔（径2.7cm）
85	736	20832	D-6	9B		あ⑤4		弥生土器	甕？			7.7	ハケメ	ナデ			底部穿孔
86	737	21559	C-6	9B	く⑩3			弥生土器	甕		26.4		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
86	738	21562	C-6	9B	け⑦2			弥生土器	甕		22.3		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
86	739	20945	D-6	9B	あ⑦4			弥生土器	甕	27.3	22.1	8.5	ハケメ・摩滅	ハケメ・摩滅			
86	740	22066	D-6	9B	い⑤4			弥生土器	甕		31.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
86	741	22075	D-6	9B	あ③2			弥生土器	甕	32.3	26.9	8.8	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
86	742	22061	D-6	9B	あ⑨4			弥生土器	甕	22.8	19.6	7.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			煤
86	743	20946	D-6	9B	う③3			弥生土器	甕	23.8	15.6	6.5	ハケメ	ナデ			
86	744	22074	D-7	9B	う③1			弥生土器	甕	22.7	19.9	6.6	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・指押			煤
87	745	22218	C-6	9B	く⑩4			弥生土器	壺		24.2		ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
87	746	20958	D-6	9B	あ⑤3			弥生土器	壺		20.2	7.8	ミガキ・他：摩滅	ナデ			
87	747	20949	D-6	9B	い④1, い⑤5			弥生土器	壺	36.3	20.6	9.6	ハケメ・一部ヨコナデ	ハケメ・工具痕あり			
87	748	21551	D-6	9B	い⑤1・4			弥生土器	壺	32前後		9.0	ハケメ	ハケメ・ナデ			
87	749	21550	D-6	9B	い⑤4			弥生土器	壺	32.0	20.7	8.9	ハケメ	ナデ・指押			
88	750	20821	C-6	9・9B		9-け⑥2、け⑦2		弥生土器	壺		19.6		摩滅・ハケメ	横ナデ・指押・摩滅			
88	751	20921	D-6	9B	い④3			弥生土器	壺		10.4		ナデ	ナデ			
88	752	20972	D-6	9B	あ⑧1			弥生土器	壺	22.6	9.8	7.0	ハケメ	ハケメ・ナデ			
88	753	20970	D-6	9B	あ⑤5			弥生土器	壺	25.5	10.5	8.6	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
88	754	20971	D-6	9B	あ⑦1			弥生土器	壺	26.2	7.8	6.6	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
88	755	20980	D-6	9B	い③2			弥生土器	壺			7.2	ナデ	しぼり・ナデ	○		
88	756	20963	D-6	9B	う⑦1			弥生土器	壺			7.4	ハケメ	ナデ			
88	757	21563	C-6	9B	け⑦2			弥生土器	壺			7.4	磨滅	ナデ・指押			
88	758	20964	D-6	9B	い④5，い④6			弥生土器	壺			9.3	ハケメ	ナデ			
88	759	22214	C-6	9B	こ⑦1			弥生土器	壺			9.5	ナデ	ナデ・指押			
88	760	22063	D-6	9B	あ⑤3			弥生土器	壺			7.4	ナデ	ナデ・指押			
89	761	20940	D-6	9B	あ④2			弥生土器	鉢	24.3	36.4	8.0	ハケメ	ナデ			
89	762	21837	D-6	9B	あ④1,2			弥生土器	甑	20.2	26.6	10.9	ヨコナデ・ハケメ	ナデ			底部に焼成前穿孔

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
89	763	20834	C-6	9B		く⑩4		弥生土器	鉢		24.6		ナデ	ナデ			
89	764	20975	D-6	9B	あ④1			弥生土器	鉢	15.7	17.4	5.8	ハケメ	ナデ・指押さえ	○		
89	765	20820	C-6	9B		こ⑨3		弥生土器	壺	10.0	9.6	6.6	剥離	ナデ・指押			
89	766	21558	C-6	9B	こ⑧2			弥生土器	鉢	15.2	24.4	8.0	ハケメ	ハケメ・ナデ			
89	767	21564	C-6	9B	こ⑧4			弥生土器	甕	18.2	17.6	7.3	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
89	768	22057	D-6	9B	い⑤6			弥生土器	鉢	9.5	12.8	5.4	ハケメ・ナデ	ナデ			
89	769	20839	C-6	9B		く⑨4		弥生土器	鉢	6.6	12.8	4.0	摩滅	ナデ			
89	770	20807	C-6	9B		く⑨4		弥生土器	小鉢	4.3	7.3	2.6	指押	指押			
89	771	20838	D-6	9B		う③2		弥生土器	鉢	5.7	12.1	5.6	ナデ	ハケメ・ナデ			
89	772	20809	D-6	9B		い⑤5		弥生土器	鉢	8.3	15.4	5.0	横ナデ・ハケメ	ナデ・指ナデ	○	○	
89	773	20833	C-6	9B		け⑦2		弥生土器	鉢	約8	24.0		摩滅	摩滅	?	○	口縁端打ち欠き？
89	774	20922	D-6	9B	い③6			弥生土器	蓋	12.1	24.0	7.5	ナデ	ハケメ・シボリ			
89	775	22060	D-6	9B	う④2			弥生土器	蓋				ハケメ	ナデ			
89	776	21001	D-6	9B	い④6			弥生土器	蓋			6.0	ハケメ	摩滅			
90	777	20830	C-6	9B		い④3		弥生土器	器台	11.4	7.8	10.2	指押	指押			
90	778	20923	D-6	9B	い⑤2			弥生土器	器台		13.7		ナデ	ナデ			
90	779	20860	C-6	9B		け⑩2		弥生土器	器台	16.8	14.4	11.4	口・底：ナデ・ハケメ	工具痕（ヘラナデ？）	?		天地逆？
90	780	20856	C-6	9B		け⑩2		弥生土器	器台	17.4	10.0	13.6	ハケメ	ハケメ・ナデ			
90	781	22216	C-6	9B	く⑩3			弥生土器	器台	16.7	9.9	12.4	ナデ・指押	ナデ・指押			
90	782	22058	D-6	9B	あ⑥2			弥生土器	器台	15.2	9.8	11.1	ナデ	ナデ			
90	783	20986	D-6	9B	い④6			弥生土器	器台	14.3	9.3	12.3	指押さえ・ナデ	指押さえ・ナデ			
90	784	21878	C-6	9B	く⑩4			弥生土器	器台		10.8		ヨコナデ・ハケメ	ナデ・シボリ			
90	785	20989	D-6	9B	う③3			弥生土器	器台	11.7	7.6	10.2	指押さえ	指押さえ・ナデ			
90	786	22054	D-6	9B	あ⑦2			弥生土器	器台	11.1	8.7	9.3	ナデ・指押	ナデ・指押			
90	787	22067	D-6	9B	う⑦2			弥生土器	高坏	11.6	21.3	12.1	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ			
90	788	20811	C-6	9B		く⑩4		弥生土器	高坏		28.2		摩滅	摩滅	○	○	
90	789	20983	D-6	9B	い⑤7			弥生土器	高坏			13.6	摩滅	ナデ	?		
90	790	20918	D-6	9B	い⑤2			弥生土器	高坏			18.0	ハケメ	ハケメ			
91	791	20948	C-7	9C	き①16			弥生土器	甕	31.3	26.0	8.5	ハケメ	ナデ	△		口唇部に刻み
91	792	22190	C-6	9C	か⑥1			弥生土器	甕	27.8	25.4	8.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
91	793	20947	C-7	9C	く①5			弥生土器	甕	25.4	24.0	8.2	ハケメ	ナデ			口縁上端に５つの列点
91	794	20842	C-7	9C		お①1		弥生土器	甕		31.0		横ナデ・ハケメ	ナデ	?		器面各所に貝殻復縁押圧？
91	795	20966	C-7	9C	き③4			弥生土器	甕	22.8	23.0	3.7	ハケメ	ナデ			スス付着
91	796	22121	C-7	9C	く①5			弥生土器	甕		24.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
91	797	22229	C-7	9C	き①10			弥生土器	甕		36.0		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
92	798	22080	C-6	9C	こ⑧3			弥生土器	甕		35.1		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
92	799	22103	C-7	9C				弥生土器	甕	約30	24.6	8.6	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
92	800	20954	C-7	9C	け②4・5			弥生土器	甕	39.4	27.0	9.6	ナデ・他ハケメ	ハケメ・他：ナデ			
92	801	21898	C-7	9C				弥生土器	甕	26.4	24.5	7.7	ハケメ	ハケメ・ナデ			
92	802	21538	D-6	9c	う③3			弥生土器	甕	25前後	20.6		ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
92	803	22077	C-6	9C	く⑨4			弥生土器	甕		21.1		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
93	804	20845	C-7	9C		き②5		弥生土器	甕		21.8		横ナデ・ハケメ	ナデ			
93	805	22083	C-6	9C	け⑨1			弥生土器	甕		25.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
93	806	22082	C-6	9C	け⑨1			弥生土器	甕			8.9	ハケメ	ナデ			
93	807	22084	C-6	9C	く⑨3			弥生土器	甕			9.1	ハケメ	ナデ			
93	808	21185	C-7	9C				弥生土器	甕			7.2	ナデ	ナデ			底部焼成後穿孔
93	809	21544	C-7	9C	く②6			弥生土器	甕			7.6	ハケメ	ナデ			
93	810	22232	C-7	9C	く①8			弥生土器	甕			8.3	ハケメ	ナデ			
93	811	21186	C-7	9C				弥生土器	甕			7.8	ハケメ	ナデ			底部焼成後穿孔
94	812	22113	D-6	9C	あ③4他			弥生土器	壺	46.4	22.5	7.3	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
94	813	20926	C-7	9C	け②7			弥生土器	壷	23.3	14.0	8.0	ハケメ	ハケメ・ナデ			
94	814	22073	D-6	9C	あ⑥2			弥生土器	壷		9.5		ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○		
94	815	21853	D-6	9C	あ⑤3他			弥生土器	壺		12.2		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
94	816	22230	C-7	9C	き①11			弥生土器	壺		27.0		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
94	817	20868	C-6	9C		あ②1		弥生土器	壺			9.0	ミガキ？	ナデ・指押	○	△	内面は粒状に付着
94	818	21561	C-6	9C	く⑨6			弥生土器	壺				磨滅	ナデ・指押			
94	819	22112	D-7	9C	あ①1			弥生土器	壺			5.4	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
94	820	22280	D- 6 ?	9C	け②1			弥生土器	壺		13.8		磨滅	ナデ・指押			
94	821	20837	C-7	9C		く①6		弥生土器	鉢	7.4	12.2	5.4	ナデ	ナデ			
94	822	20810	C-7	9C		く②6		弥生土器	鉢	8.1	13.2	4.4	ナデ	ナデ	○	○	
94	823	20925	C-7	9C	こ①3			弥生土器	鉢	6.4	8.3	3.8	ナデ	指押			
94	824	21541	C-6	9A	こ③1			弥生土器	鉢	8 前後	10.2		ハケメ	ナデ・指押			
94	825	20928	C-7	9C	け②1			弥生土器	鉢	10.8	18.0	3.0	ハケメ（底はケズリ）	摩滅・			
94	826	20927	C-7	9C	く①5			弥生土器	鉢	17.0	19.6	6.5	ハケメ	ナデ・指押			
94	827	22085	C-7	10C	き⑩4			弥生土器	壺	14.4	17.5	7.6	ナデ	ナデ・指押			
95	828	20881	C-7	9C		き②13		弥生土器	蓋	2.8	18.0	2.0	ミガキ	ハケメ・ナデ・シボリ	○		
95	829	21539	C-6	9b	こ⑦1			弥生土器	蓋	11 前後			ハケメ	ハケメ			
95	830	20929	C-7	9C	こ①3			弥生土器	蓋	7.6	22.0	5.7	ハケメ・ナデ	ナデ			
95	831	20828	C-6	9C		く⑤1 く⑤1下		弥生土器	蓋	10.0	24.0	5.8	ハケメ	指押・ナデ・横ナデ			
95	832	21882	C-6	9C	あ⑦3			弥生土器	蓋				ナデ・ハケメ	ハケメ・シボリ			
95	833	20819	D-6	9C		う⑥2		弥生土器	高坏		17.6		剥離・摩滅	ミガキ？			二次焼成を受けている
95	834	21543	C-6	9c	こ③1			弥生土器	高坏		22.9		ミガキ	ミガキ	?	?	
95	835	22055	D-6	9C	う③2			弥生土器	高坏				ミガキ	ミガキ	○	○	
95	836	20818	C-6	9C		く⑨5		弥生土器	高坏		24.5		ミガキ	ミガキ	○	○	口唇部に暗文・黒いスス状の帯
95	837	21247	D-4					弥生土器	高坏		30.4		ミガキ	ミガキ・シボリ			
95	838	21546	C-7	9c	け①2			弥生土器	高坏		27.6		ミガキ	ミガキ	○	○	
95	839	21248	D-6	9C	え⑦1			弥生土器	高坏		23.0		ミガキ	ミガキ	?	○	
95	840	21852	D-6	9C	い⑦1,2 他			弥生土器	高坏		28.0		ミガキ	ミガキ	○	○	
95	841	21540	C-6	9A	こ⑧4			弥生土器	脚台								
95	842	22231	C-7	9C	く②2			弥生土器	高坏			15.5	磨滅	磨滅			孔は４つ
95	843	22041	D-3	9C	く⑤3			弥生土器	高坏			14.0	ハケメ？	ナデ			
95	844	20869	C-6	9C		く⑨5		弥生土器	高坏			15.6	ミガキ	シボリ・ナデ			
95	845	21881	C-6	9C	い⑩2			弥生土器	高坏				ハケメ	ナデ・シボリ			
95	846	20808	C-6	9C		こ④1		弥生土器	高坏			17.3	ミガキ	シボリ・ナデ・ハケメ	○		
96	847	20968	C-6	9C	こ⑥3			弥生土器	器台	17.7	11.7	15.0	指押さえ・ナデ	指押さえ・ナデ			
96	848	21353	C-7	9C	く①3			弥生土器	器台	16.9	10.8	13.4	ハケメ	ヨコナデ・ナデ・指押			
96	849	20855	C-7	9C		き①8		弥生土器	器台	16.9	10.3	12.5	ハケメ	ヘラナデ・ナデ			
96	850	20857	C-7	9C		く⑨4		弥生土器	器台	17.9	10.2	12.4	ハケメ	ハケメ			
96	851	20854	C-7	9,9C?	く①3			弥生土器	器台	16.9	10.5	12.8	指押・ヘラナデ	ヘラナデ・指押			
96	852	20853	C-7	9C	こ①1			弥生土器	器台	17.0	9.0	12.4	指押・ヘラナデ	ヘラナデ・指押			
96	853	21916	D-3	9C	か②2			弥生土器	器台	14.2	8.9	10.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
96	854	20858	C-7	9C	け②6			弥生土器	器台	14.2	11.0	10.0	指押	指押			
96	855	22228	C-7	9C	き①1			弥生土器	器台		10.9		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・シボリ・ナデ			
96	856	21003	C-7	9C	く①5			弥生土器	器台			11.0	指押さえ・ハケメ？	指押さえ			
96	857	20827	C-7	9C	き②8			弥生土器	器台？	13.6	6.6	8.2	指押・ナデ	指押・ナデ			筒状
97	858	21856	D-6	9D	い③1			弥生土器	甕		23.8	7.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			煤・コゲ付着
97	859	20974	C-6	9D	く⑩6 他			弥生土器	甕	29.5	25.0	7.2	ヨコナデ・他ハケメ	横ナデ・他：ナデ			底部焼成後穿孔
97	860	20850	C-7	9D	く①9			弥生土器	甕		32.4		口・頸下：横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ	?		
97	861	20960	D-6	9D	い③1			弥生土器	甕		28.0		ハケメ	ナデ			スス付着
97	862	20843	C-7	9D	き②8			弥生土器	甕		26.0		横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ			
97	863	20846	C-7	9D	こ⑩2			弥生土器	甕		28.0		横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ			
97	864	20967	D-6	9D	い③1			弥生土器	甕		24.0		ヨコナデ・他ハケメ	ヨコナデ・ナデ			口縁部スス付着
98	865	20953	C-6	9D	く⑩2			弥生土器	甕		35.0		ヨコナデ・他ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
98	866	20959	D-6	9D	い③1			弥生土器	甕		21.5		ハケメ・ナデ	ナデ			
98	867	21560	C-6	9D	こ⑧3			弥生土器	甕		28.4		ヨコナデ・ハケメ	ナデ			
98	868	20851	C-7	9D	く②7			弥生土器	甕		25.0		横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ			スス全面付着
98	869	22079	C-7	9D	き②8			弥生土器	甕		36.0		ヨコナデ・磨滅	ヨコナデ・ナデ			
98	870	22107	C-7	9D	く①2			弥生土器	甕			10.8	ハケメ	ナデ			
98	871	22272	D-6 ?	9D	お⑤4			弥生土器	甕？			7.5	ハケメ・ミガキ	ナデ・指押	黒？		
98	872	21903	C-6	9D				弥生土器	甕			2.8	ナデ	指押			
98	873	21355	C-7	9D	け①4			弥生土器	甕			10.2	ハケメ	ナデ・指押			
99	874	20952	D-7	9C・9D	Ｃい①１Ｄあ①2(川底)			弥生土器	壺				ミガキ	ミガキ・ナデ	○	△	

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
99	875	20823	C-6	9D		く⑧2		弥生土器	壺		20.8		ナデ・摩滅	ナデ			
99	876	22334	C-7	9D	く②4			弥生土器	壺		42.3		ヨコナデ・ミガキ	磨滅			
99	877	22108	C-7	9D	け①5			弥生土器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			
99	878	22111	C-7	9D	か①5			弥生土器	壺		25.7		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ			
99	879	21887	C-6	9D	く⑨2			弥生土器	壺			6.8	ミガキ	ナデ	○		
99	880	20727	C,D6	9D	こ⑦1他			弥生土器	壺	74.7	51.0	11.0	摩滅	横ナデ・ナデ・摩滅			口唇部に刻目
100	881	20817	C-7	9D		き②1他		弥生土器	鉢	9.3	20.6	8.3	ナデ	ナデ・指ナデ	○	○	
100	882	20814	C-7	9D		あ①2		弥生土器	鉢	10.2	19.8	7.0	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	○	○	
100	883	21902	C-6	9D				弥生土器	鉢	14.1	12.9	7.0	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押			
100	884	22065	D-6	9D	う②1			弥生土器	蓋	4.2	19.2		ミガキ	シボリ・ナデ・指押	○		
100	885	20984	C-7	9D	く①4			弥生土器	蓋	7.0	19.6	4.6	ミガキ	ナデ	○		
100	886	20829	C-6	9D		こ⑧5		弥生土器	蓋	7.3	26.2	5.6	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・指押			
100	887	21886	C-6	9D	く⑧1⑨1			弥生土器	蓋	10.5	28.1		ハケメ	ハケメ・ナデ・シボリ	○		
100	888	20976	D-6	9D	あ⑩2			弥生土器	高坏	18.9	15.4	11.5	ミガキ	坏：ミガキ・脚：ナデ	○	△	赤彩内面は坏部全面
100	889	20816	C-7	9D		け②3		弥生土器	高坏		26.6		摩滅	ミガキ	○	○	
100	890	21889	C-6	9D	き⑩6			弥生土器	器台	19.0	10.3	13.0	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ・指押			
100	891	22222	D-6	9D	い③1			弥生土器	器台	16.8	10.5	12.3	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
100	892	22233	C-7	9D	け①2	天地逆か		弥生土器	器台			10.4	ハケメ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ			
100	893	21354	C-7	9D	け⑩4			弥生土器	器台	12.7	9.0	9.2	ナデ・指押	ナデ・指押			
101	894	20815	C-7	9E		き②4	最下層	弥生土器	甕		15.4		横ナデ・ナデ	ナデ	○	△	内面は口縁部のみ
101	895	20955	C-7	9E	き①3		最下層	弥生土器	甕	30.3	26.4	7.2	ヨコナデ・他ハケメ	ナデ			
101	896	20962	C-6	9DE	き⑩3他			弥生土器	甕	50cm弱	35.8		ヨコナデ・他ハケメ	ナデ			
101	897	20956	C-7	9E	き①3		最下層	弥生土器	甕	32.5	27.0	7.4	ヨコナデ・他ハケメ	ナデ			
101	898	20995	C-7	9E	く①6			弥生土器	甕	28.6	24.3	7.3	ハケメ	ナデ			
102	899	21888	C-6	9E	き⑩1		最下層	弥生土器	甕		28.3		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
102	900	20982	C-7	9E	か②2		最下層	弥生土器	甕		25.0		ヨコナデ・他ハケメ	剥離			
102	901	20852	C-7	9E		う？②2		弥生土器	甕		25.0		横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ			スス全面付着
102	902	21885	C-6	9E	く⑩5			弥生土器	甕			7.1	ミガキ	ナデ	○		内面に垂れた顔料が付着
102	903	20931	C-7	9E	き①1他		最下層	弥生土器	壺	34.0	30.0	7.0	ヘラミガキ・摩滅	摩滅	○	△	内面は胴部上面まで
102	904	20957	C-6	9E	く⑩8他		最下層	弥生土器	壺			6.3	ミガキ	ナデ	○	△	
102	905	20944	D-6・7	9E			最下層	弥生土器	壺			7.3	ヘラミガキ	ヘラミガキ・横ナデ	○	△	
103	906	22109	C-6	9E	く⑩4			弥生土器	壺	33.3	15.8	10.5	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
103	907	21253	C-6	9E	く⑩26他			弥生土器	壺	15.5	15.8	8.3	ミガキ	ヨコナデ・ナデ	○	△	
103	908	22104	C-7	9E	き①5			弥生土器	壺		20.1		ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	○	△	
103	909	20994	C-6・7	9E	き⑩7他			弥生土器	壺				みがき	ナデ	○		
103	910	21883	C-6	9E	く⑩11			弥生土器	瓢形？			11.0	ミガキ？	ナデ？	○		
103	911	21884	C-6	9DE	け⑩3他			弥生土器	壺		26.0		ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ			
103	912	22100	C-7	9E	く①7			弥生土器	壺			6.9	ミガキ？	ナデ・指押			
104	913	22099	C-7	9E	か②1			弥生土器	鉢	20.8	29.3	10.2	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
104	914	21356	C-7	9 E	く②1			弥生土器	鉢	13.5	21.8	8.2	ナデ	ナデ			
104	915	20870	D-6	9E			最下層	弥生土器	鉢	5.1	12.0	4.6	ナデ	板ナデ？			
104	916	22101	C-7	9E	く①1			弥生土器	鉢	8.7	16.8	6.7	ミガキ	ミガキ・ナデ			
104	917	20824	C-7	9E 下		き②3		弥生土器	鉢	11.8	20.4	7.6	ナデ	横ナデ・板ナデ・指押	○	○	
104	918	20882	C-6	9E		き⑩7		弥生土器	蓋	3.3	16.0	3.6	ミガキ	ナデ	○		焼成前穿孔1カ所
104	919	20812	C-7	9E		き①2	最下層	弥生土器	蓋	3.4	15.9	4.0	ミガキ	ナデ	○	△	内面は口縁部のみ
104	920	21002	D-7	9E	あ①5			弥生土器	蓋			4.9	ハケメ	ナデ・ハケメ	?		
104	921	21854	C-6	9E			最下層	弥生土器	甕		12.1		ハケメ・ミガキ	ハケメ・ナデ	?	?	
104	922	22102	C-7	9E	け①5			弥生土器	高坏		23.0		ヨコナデ・ミガキ	ミガキ	?	○	
104	923	20930	D-6	9E	あ①4		最下層	弥生土器	高坏	18.5	15.6	13.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ・横ナデ	○	△	内面は坏部と、脚の一部のみ赤彩
104	924	22217	C-6	9E	く⑩10			弥生土器	器台	17.3	10.7	13.5	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ			
104	925	20987	D-6・7	9D・9E	あ①2			弥生土器	器台	19.2	12.0	13.1	ハケメ（一部ナデ消し）	ナデ			
106	926	20799	B-6	15	く⑦　き⑧			弥生土器	甕		25.9		摩滅	摩滅			
106	927	20800	B-6	15	け⑦			弥生土器	甕		31.0		摩滅	摩滅			

図	No.	登録番号	出土地点						器形				調整		赤彩		
			区	土器群	土器群 Rno.	位置	層位	遺物の種類		器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	備考
106	928	20792	B-6	15	け⑦			弥生土器	甕		39.6		横ナデ・摩滅	横ナデ：胴ナデ			
106	929	20796	B-6	15	く⑦			弥生土器	甕		20.0		摩滅	摩滅	○	△	内面は口縁のみ赤彩
106	930	20806	C-6	15	あ⑥			弥生土器	甕		21.0		摩滅	摩滅			
106	931	21553	C-6	15	う⑧			弥生土器	甕			7.0	ハケメ	ハケメ・ナデ			底部穿孔
106	932	20801	C-6	15	え⑨			弥生土器	甕（底）			7.5	ハケメ	指押・ナデ			底部に穿孔
106	933	21547	B-6	15	く⑦			弥生土器	甕			9.0	ハケメ	ナデ・指押			
106	934	20793	B-6	15	け⑦			弥生土器	甕			8.0	ハケメ	指押			
106	935	20794	B-6	15	く⑦			土師器	壺		33.6		摩滅	剥離			
106	936	20795	B-6	15	く⑦			弥生土器	壺		26.4		摩滅	摩滅			
106	937	20804	C-6	15	い⑧			弥生土器	壺			4.8	摩滅	摩滅			
106	938	20802	B-6	15	け⑥			弥生土器	壺		13.2		摩滅	摩滅	○		
106	939	21548	B-6	15	き⑦			弥生土器	壺								
106	940	20798	B-6	15	こ⑧			弥生土器	壺			10.6	摩滅	摩滅			
106	941	21556	C-6	15	あ⑩			弥生土器	高坏			17.2	磨滅	ナデ・シボリ			孔は３つ
106	942	20859	C-7	15	え②			弥生土器	器台	17.2	12.4	12.8	ハケメ・指押	ナデ・指押			
106	943	20805	C-6	15	い⑧			土師器	支脚		8.0		摩滅	摩滅			
106	944	21555	C-6	15	う⑩			土師器	甑				ナデ	ヘラケズリ			
106	945	20901	C-6 他	15		右上・左上	１層	須恵器	甕				平行タタキ	同心円当て具			
106	946	20797	B-6	15	こ⑧			弥生土器	蓋	4.4	22.6	2.6	ナデ	摩滅	○		
107	947	20893	D-6			左上	１層黒	土師器	皿	2.2	12.8	8.6	回転ナデ・回転糸切り	回転ナデ			
107	948	20896	C-6			右下	１層③	須恵器	坏蓋				回転ナデ	回転ナデ			ＩＢ～ⅡＡ期？
107	949	20213	D-6			左上	１層黒色土	弥生土器	甕				格子目タタキ	ハケメ			
107	950	20999	E-6			右下	１層	弥生土器	甕		18.0		摩滅	摩滅	○	△	
107	951	21535	C-6			左上	１層	須恵器	甕				平行タタキ	同心円当具			
107	952	21187	D-6				上層	弥生土器	甕			9.6	ハケメ	ナデ			底部焼成後穿孔
107	953	20788	C-6			右上	１層	土師器	壺		10.0		摩滅	ケズリ			表面落剥目立つ
107	954	21855	D-6			左上	下部腐葉土	弥生土器	壺		25.0		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ			
107	955	20938	E-6			右下	１層黒色粘	弥生土器	鉢	15.2	13.8	6.1	ナデ？	ナデ	△	△	摩滅で一部のみ赤彩残
107	956	20996	D-7			右下	上層（黒土＋砂）	弥生土器	壺			7.4	ミガキ	ナデ	△		
107	957	20866	D-6			左下	黒砂＋土（包上層）	弥生土器	鉢	5.0	13.9	5.6	ナデ	剥離			
107	958	20895	C-6			右上	１層黒	土師器	（把手）				ナデ	ナデ			
107	959	22220	D-6			右上	青灰色粘	弥生土器	壺		28.2		ヨコナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ	？		
107	960	20933	E-6			東端肩	青灰色粘土	弥生土器	鉢	12.5	17.4	7.1	摩滅	摩滅	？		
107	961	20934	E-6			左上	砂上部	弥生土器	壺	17.3	16.2	7.0	ヘラミガキ・摩滅	ナデ・一部ハケメ・ヘラミガキ			
107	962	20813	C-6			右		弥生土器	鉢		10.6		ナデ	横ナデ	○	？	内面に１カ所顔料あり
107	963	20781	E-6			左下	砂上部	弥生土器	小壺			2.4	摩滅	指押・ナデ			
107	964	21906	C-6			左上		弥生土器	鉢	4.9	6.0	1.7	ナデ・指押	ナデ・指押			
107	965	21905	C-6			左上		弥生土器	鉢			8.3	磨滅	ナデ			
107	966	20879	D-6			右上	青黒色粘	弥生土器	蓋	6.8	28.2	5.3	摩滅	指押・シボリ			
108	967	21545	C-7			右下	３層黒	弥生土器	器台	11.8	9.8	11.0	ナデ・指押	ナデ・指押			
108	968	22219	D-6			右上	青灰色粘	弥生土器	器台		11.0		ナデ・指押	ナデ・指押・シボリ			
108	969	20942	E-6			左下	砂上部	弥生土器	器台	16.4	9.7	12.4	ハケメ	ナデ			
108	970	22221	D-6			右下	青灰色シルト	弥生土器	器台	17.3	11.5	13.4	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・指押			
108	971	20936	E-6			左上	砂中下層	弥生土器	支脚	9.8	5.0	10.6	ナデ・ハケメ	ナデ・シボリ			
108	972	21542	C-6			右上	３層	弥生土器	高坏			9.6	ミガキ	ナデ・シボリ	○	△	
108	973	20977	D-7		右下		４層黒灰砂	弥生土器	高坏			11.1	ミガキ	ナデ	○		
108	974	20937	E-6			左下・上	中下層	弥生土器	鉢	12.8	13.1	5.0	ハケメ	ナデ・指押さえ			
108	975	20997	E-6				最下層	弥生土器	蓋	1.1	9.0		摩滅	摩滅	○		
108	976	20935	E-6			右下	最下層	弥生土器	器台	15.8	8.4	10.6	ナデ	ナデ			
108	977	21004	E-6			東肩	２層	弥生土器	小鉢	3.5	10.7	3.8	摩滅	摩滅			
108	978	20822	C-6			左上肩	１層②	土師器？	壺		8.8		板ナデ・板ナデ	指押：ナデ・板ナデ・ケズリ			
108	979	20943	E-6			東肩	２層青灰色粘土	弥生土器	甕	31.3	25.7	8.6	摩滅	摩滅			ほぼ全面すす？
108	980	20826	D-7			右下		土師器	甕	11.8	14.4	2.2	横ナデ・ハケメ・底：ケズリ	横ナデ・ハケメ・底：ケズリ			
108	981	20835	C-6			右上	１層②	土師器	甕		17.2		ハケメ	横ナデ・ケズリ			
108	982	20865	D-6			右上	青黒色粘	弥生土器	高坏			9.9	ミガキ	シボリ・ナデ	○		
108	983	20836	C-6			右		弥生土器	鉢	6.4	13.1	4.5	横ナデ・ナデ	横ナデ・板ナデ			
108	984	20979	D-7		左下			弥生土器	手捏	2.9	5.6	1.8	ナデ	ナデ			

元岡・桑原遺跡群全景（西から）

第 42 次調査区遠景（南から）

図版２

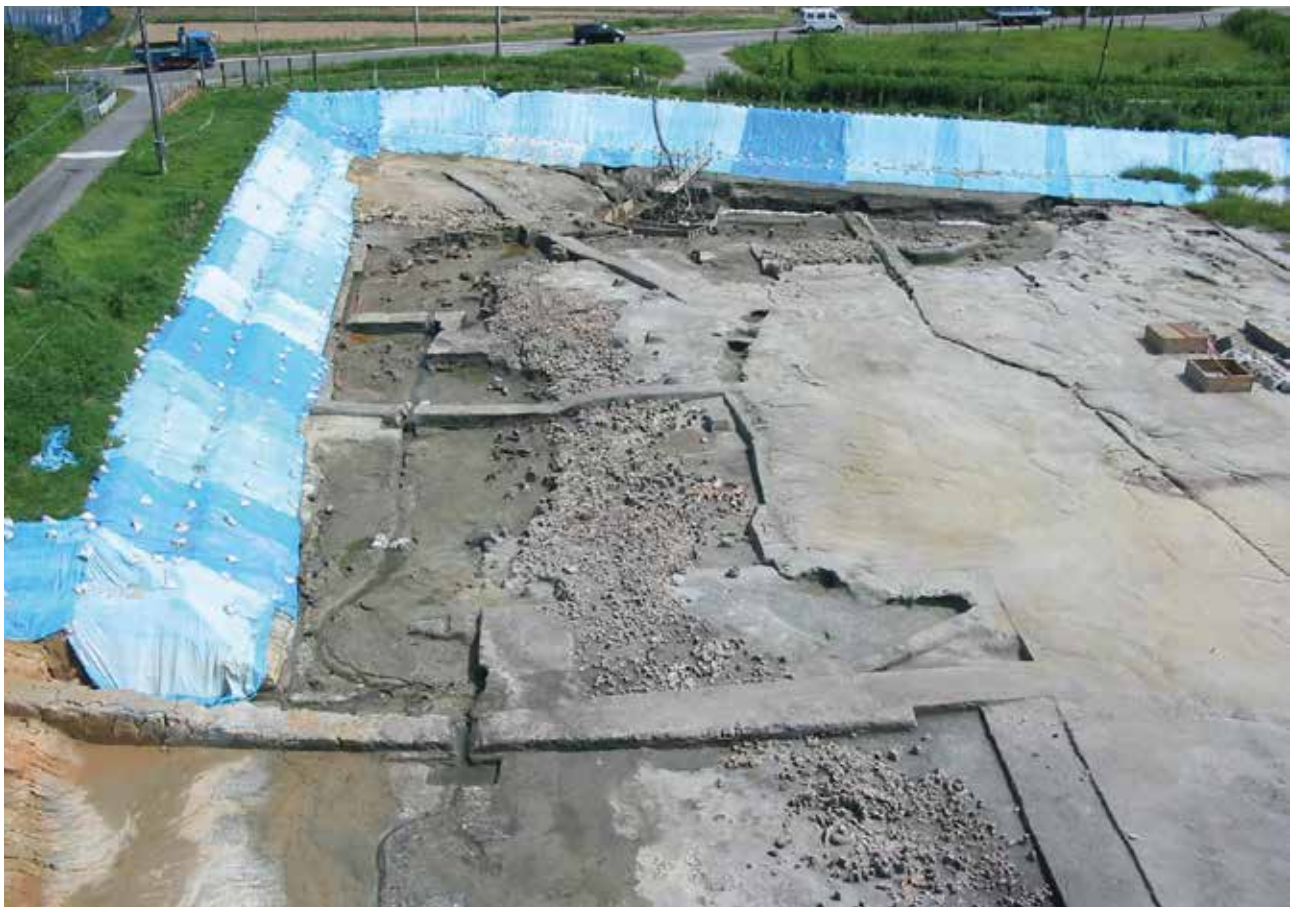
第 42 次調査区全景（北東から）

第 42 次調査区全景（北から）

第 42 次調査区全景（南東から）

第 42 次調査区Ⅱ区（南から）

図版４



SD 01全景（北から）

SD 01コーナー部（東から）

Ｂ－1区上層

Ｃ－1区上層

Ｃ－1区上層

Ｃ－1区上層

Ｄ－1区上層

Ｄ－1区上層

Ｄ－1区上層

Ｄ－1区上層

木製品出土状況1

図版６

Ｄ－2区上層

Ｄ－2区上層

Ｂ－3区地山直上

Ｅ－1区土器群4

Ｅ－1区土器群4

Ｅ－2区上層

Ｅ－1区下層

Ｅ－3区ベルト中層

木製品出土状況2

出土土器1

図版８

430

431

432

433

436

437

565

720

出土土器２

5

7

14

23

25

31

55

57

63

64

77

82

85

86

89

出土土器3

図版 10

90

97

106

116

119

140

145

161

162

174

182

193

197

204

210

出土土器4

212

213

216

218

219

227

232

240

242

272

277

278

282

291

305

出土土器5

図版 12

318

322

330

333

338

339

343

345

352

363

365

370

379

386

388

出土土器6

406

409

410

419

428

447

455

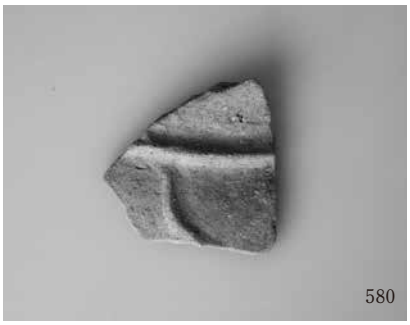
486

494

539

551

568


580

597

601

出土土器7

図版 14

606

626

642

662

667

668

673

682

714

739

747

748

749

752

762

出土土器8

787

792

800

812

815

834

853

859

880

887

888

903

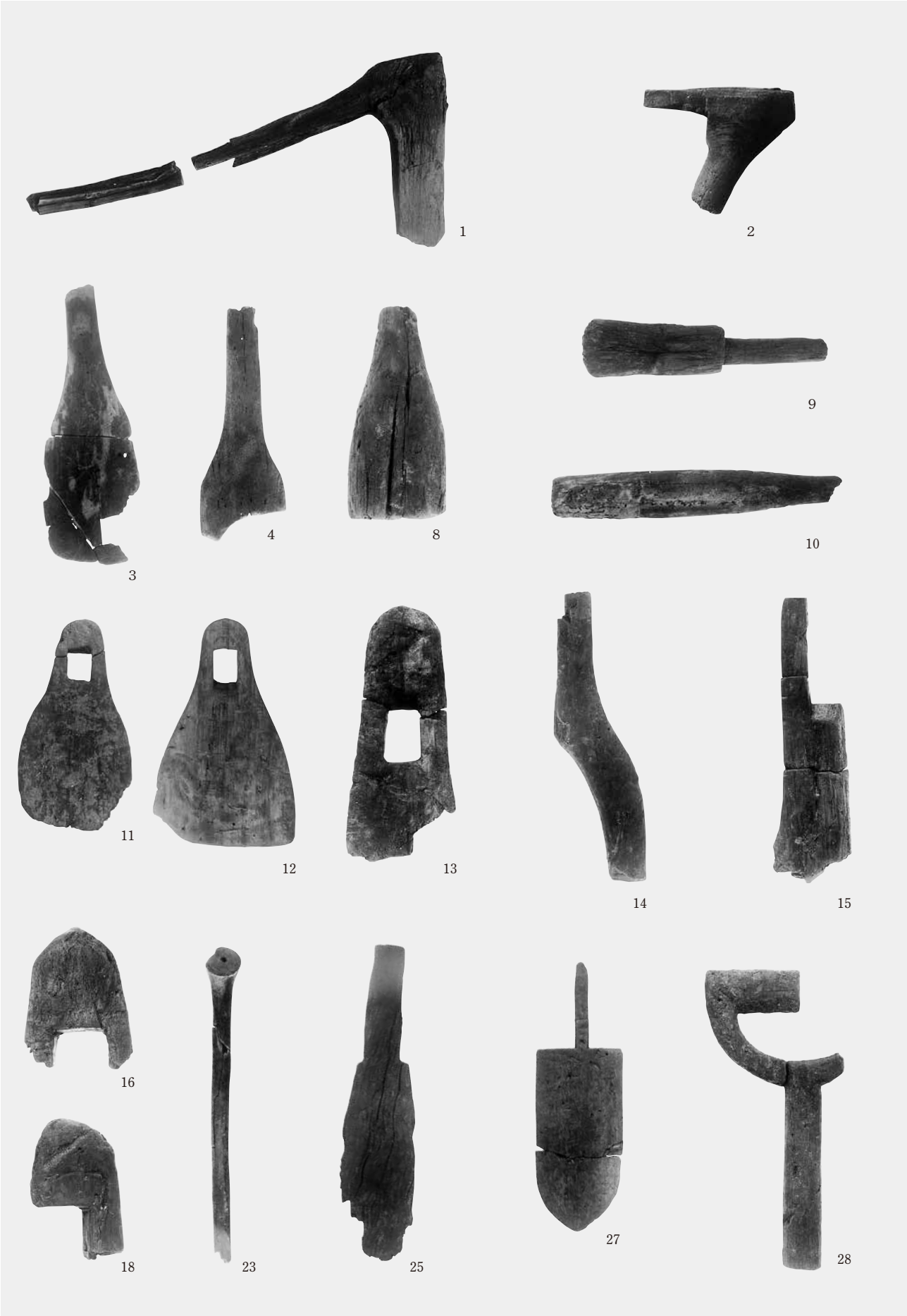
906

923

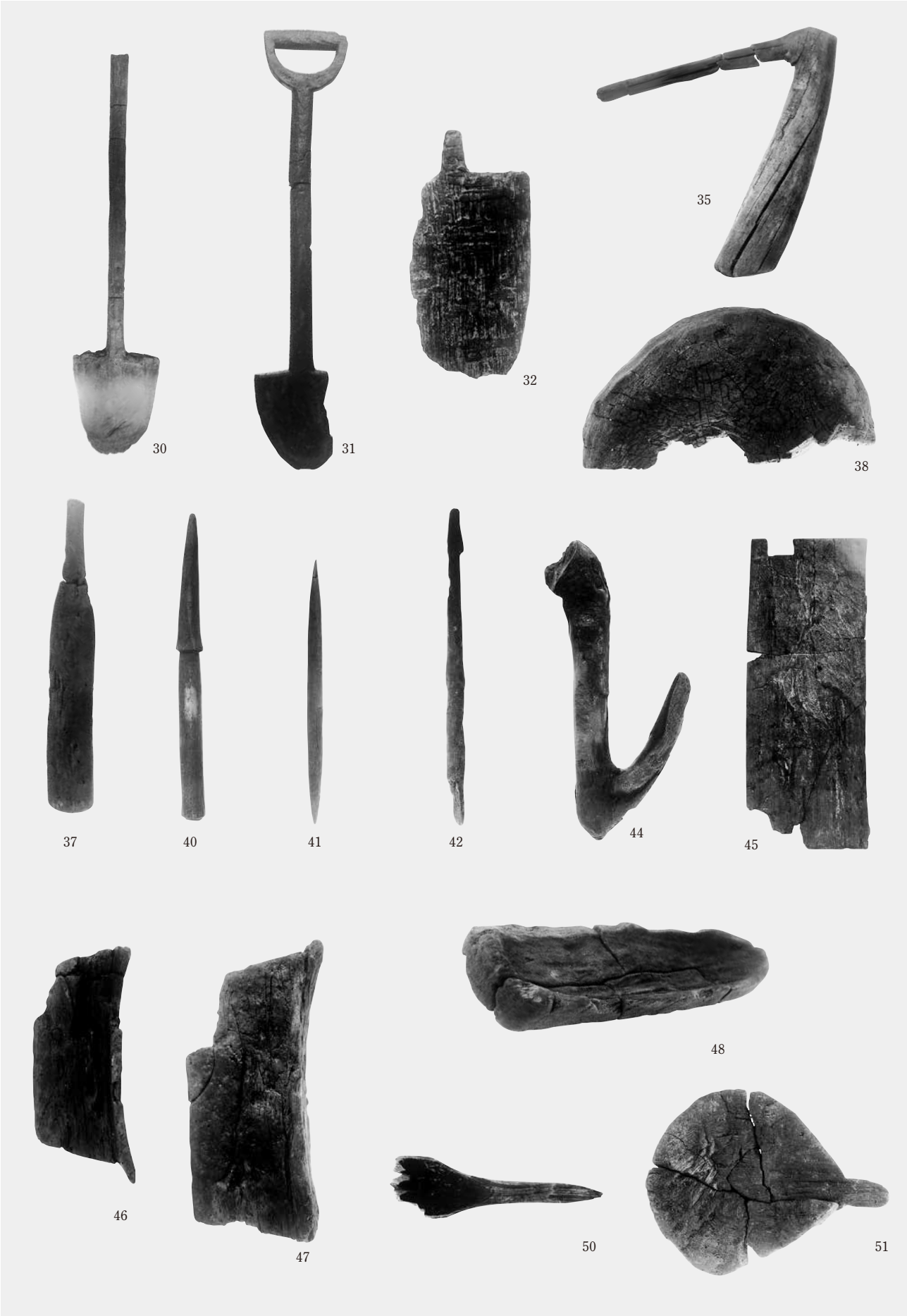
941

出土土器9

図版 16



出土木製品1



出土木製品2

出土木製品3

元岡・桑原遺跡群第 61 次調査の報告

Ⅲ　第 61 次調査の記録

１．はじめに

（１）調査に至る経緯

平成６（1994）年、九州大学は福岡市内の箱崎・六本松キャンパスから福岡市西区元岡・桑原地区を含む伊都キャンパスに統合移転することを決定した。統合移転用地の取得については、福岡市土地開発公社が全域を先行取得した後、新キャンパス建設のための造成工事を行った後、九州大学が再取得することとなった。

これに伴い、平成７年２月に九州大学から福岡市に対して事業用地内埋蔵文化財の事前調査の依頼があった。これを受け福岡市教育委員会は、平成７年に踏査を行った。以後、平成８年秋から福岡市土地開発公社と福岡市の間で受託契約を締結する形で、順次移転用地内での埋蔵文化財発掘調査を進めてきた。しかし、造成工事計画が変更となり、未造成のまま九州大学が再取得した地区についても造成工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査が必要となった。その調査範囲は大規模な面積に及ぶことなどから、福岡市教育委員会が発掘調査を行うことで九州大学と協定書を締結した。平成 15（2003）年から九州大学との受託契約による発掘調査を開始し、現在整理、報告書の作成を行っている。

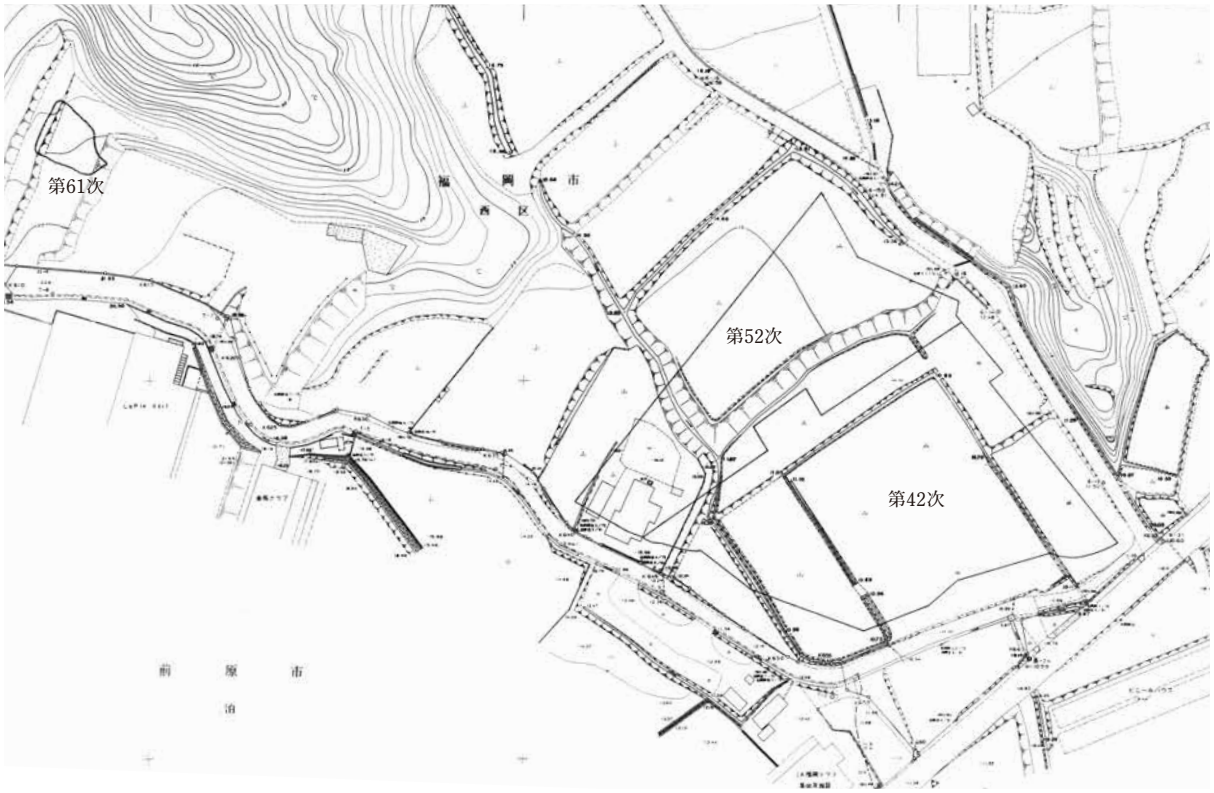


図1　第 61 次調査区位置図（1/2000）

（２）調査の組織

調査委託：九州大学
調査主体：福岡市教育委員会（発掘調査：平成 25 年度・資料整理：平成 26 年度）
調査総括：福岡市経済観光文化局埋蔵文化財調査課

	課長	宮井　善郎	（25年度）
		常松　幹雄	（26年度）
庶　　務：埋蔵文化財審査課	同課調査第２係長	榎本　義嗣	（25年度）
	管理係長	和田　安之	（26年度）
事前審査：埋蔵文化財審査課		内山　広司	（25年度）
	管理係	横田　　忍	（26年度）
	課長	米倉　秀紀	（25年度）
	事前審査係長	加藤　良彦	（26年度）
		佐藤　一郎	（25年度）
	同課事前審査係主任文化財主事	佐藤　一郎	（26年度）
		池田　祐司	（26年度）
	同課事前審査係文化財主事	松尾奈緒子	（25年度）
		福薗美由紀	（26年度）

２．調査の記録

（１）調査区の概要

今回報告する元岡・桑原遺跡群第 61 次調査区は、西区元岡地内に所在し、玄界灘に突出する糸島半島の東側基部の丘陵部に位置する。丘陵には、小河川により樹枝状に侵食された狭い谷が無数に入り込む。現在の糸島半島はその全面で九州本島と繋がっているが、縄文海進以降、中世のある時期までは中央の一部が陸橋状に繋がっていた以外は、東と西にそれぞれ大きく海が湾入していたと考えられる。

調査前の現況は標高約 25.5 m を測る丘陵地であった。調査地点は遺跡の南西部に位置し、隣接する南側では第 56 次、さらに南側では第 42 次、52 次、55 次の各調査が実施され、更にその周囲でも数多くの調査が進んでおり、本調査区は、東南東方向に広がる丘陵上に位置する。第 56 次調査では古墳時代から中世にかけての遺物包含層と掘立柱建物の柱穴が確認されている（図１）。

遺構検出は包含層上面までを重機で剥ぎ取って実施し、以下は人力によって掘削作業を行った。今回の調査では、古墳時代終末期から古代にかけての包含層がみつかった。出土遺物量は、コンテナケースにして 13 箱である。

発掘調査は平成 25（2013）年７月１日に着手した。まず、重機による表土剥ぎ取りから開始し、３日に発掘器材やリース器材を搬入した。その後、遺構面保護、日本測地系によるトラバース杭の設定等を実施し、５日から遺構検出を開始した。順次、包含層の掘り下げや写真撮影、図化、遺物取り上げ、周辺測量等の作業を進め、包含層の掘削作業がほぼ終了した 10 月 18 日に高所作業車による全体写真の撮影を行った。その後、残るベルトの掘り下げ、図化作業や個別遺構写真撮影、片付けを終え、10 月 23 日に第 61 次調査を完了した。

なお、調査対象面積は、407㎡であった。調査時の遺構番号は、001 から３桁の通し番号を遺構の種別に関わらず付した。それらの番号には、欠番があるものの、重複はない。以下の報告にあたって

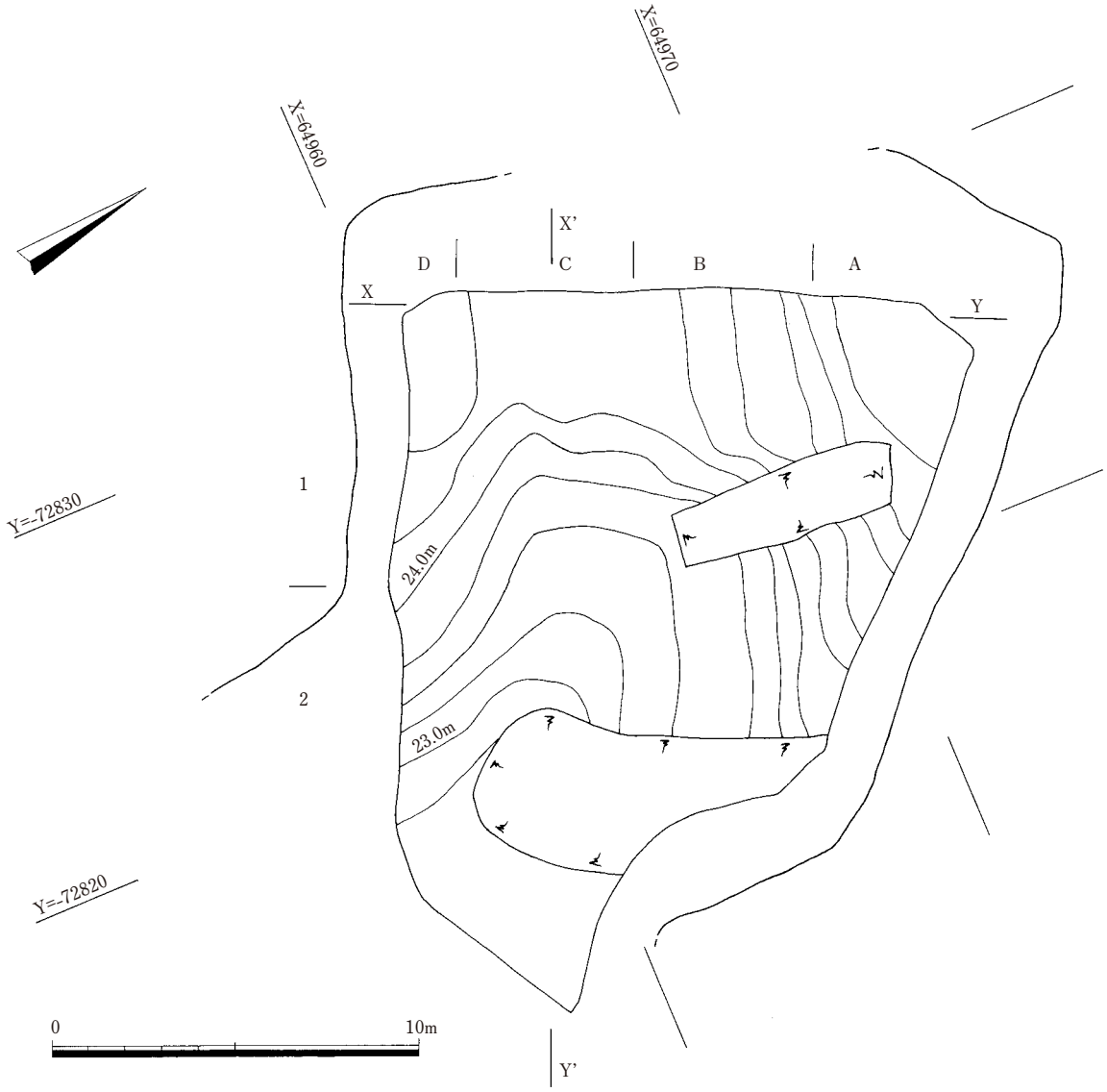


図2　第 61 次調査区全体図（1/200）

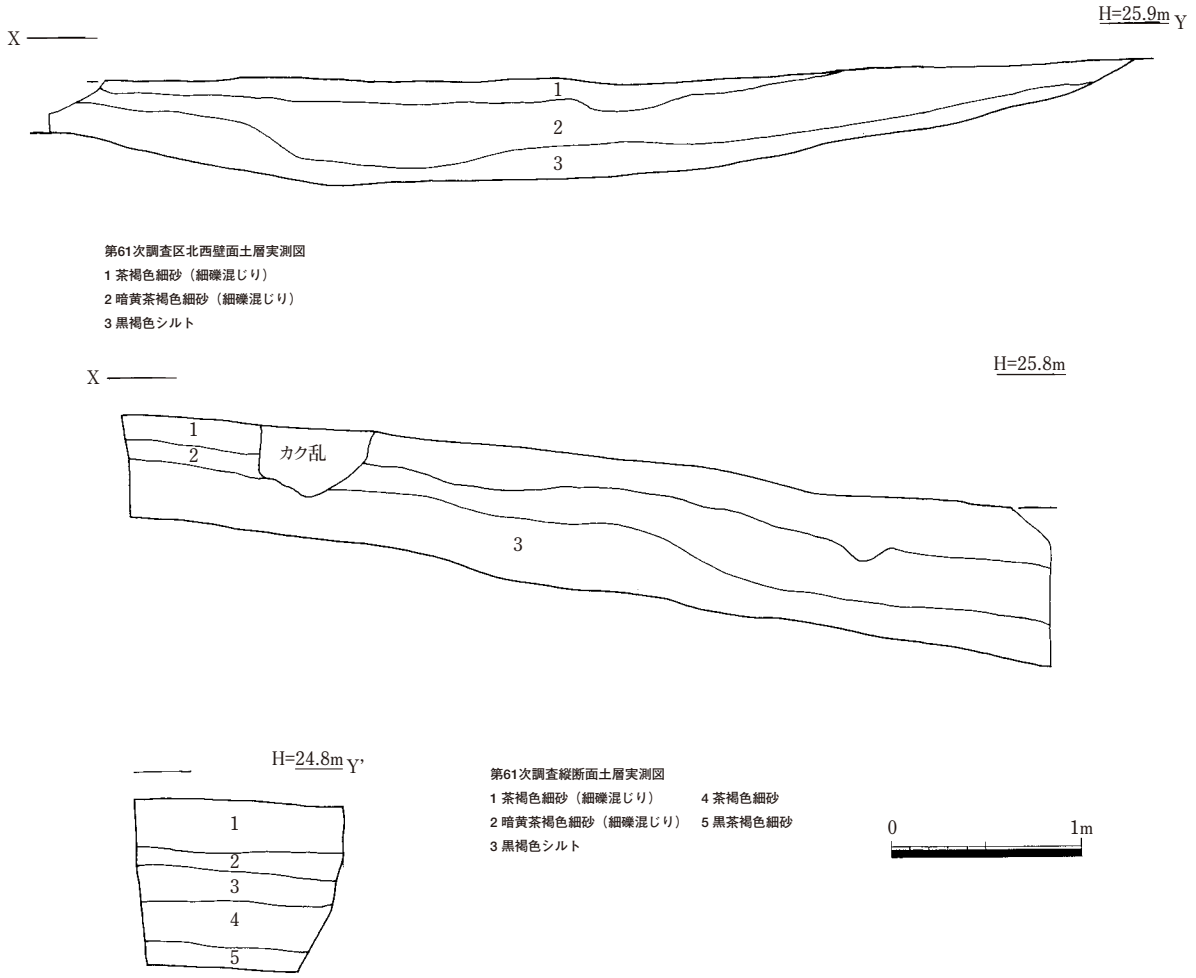


図3　第 61 次調査区壁面土層実測図（1/40）

も、原則的に調査時の遺構番号を用い、例言に記した遺構略号と組み合わせて記述している。

（2）層序

本調査区は表土および客土の下に１茶褐色細砂層(細礫混じり)、2暗黄茶褐色細砂層(細礫混じり)、３黒褐色シルト層、４茶褐色細砂層、５黒茶褐色細砂層があり、地山である花崗岩層に到達する。また、西側が高く、緩い傾斜を伴いながら東側に向かって下降する。調査区より西側は急に立ち上がりをみせ、黄白色を呈する花崗岩の風化礫層が露出している。緩斜面が残る東側は赤～黄褐色を呈する花崗岩の風化土が地山面となっている。遺構面の標高は北西端部で 25. 5 m、南西端部で 22.75 mを測る。以上から本調査区の西側は尾根に、東側は谷部に傾斜する東側緩斜面に相当する（図３）。

３．遺構と遺物

以下、遺構種別に報告を行うが、調査区での遺構位置を本文中で示す際には、調査時における世界測地系による５ｍ単位の平面座標を基準とした英字（北から南にＡ～Ｄ）と数字（西から東に１～２）の組み合わせによるグリッド表記を用いる（図２参照）。なお、実測図には図と共に、出土した位置（グリッド）、層を記載した。

１）包含層（SX001）

Ｂ－２区から出土した。鉄滓はパンケース３箱分出土した。

出土遺物（図４）

１は須恵器の杯身である。高さは３．０㎝、口径は 12. ９㎝である。

２）包含層（SX001）

出土遺物（図５、６、７）

２～ 15 は須恵器である。２～４は坏蓋である。２は高さ約１．１cm、底径約 20. ０cm である。焼成は不良で、全体を回転ナデによって仕上げる。３は高さ約１．３cm、底径約 10㎝である。４は高さ約１．６cm、頭径１．９cm である。５～ 14 は坏身である。５は高さ２．３cm、底径約９．０cm、口径約 18. ０cm の皿状の形態を呈す。６は高さ３．７cm、底径約７．４cm、口径約 12. ０cm である。調整は回転ナデである。７は高さ３．９cm、底径約６．４cm、口径約 12. ３cm である。調整は回転ナデである。８は高さ３．４cm、底径約 10. ６cm、口径約 15cm である。調整は回転ナデである。９は高さ約３．７cm、底径約９．４cm、口径約 13. ０cm である。調整は回転ナデである。10 は高さ約３．９cm、底径６．２cm、口径 11. ０cm である。調整は回転ナデである。11 は高さ約３．０cm、底径約９．８cm が残る。12 は高さ約３．１cm、底径約 10. ２cm が残る。13 は高さ約２．０cm、底径約 11. １cm が残る。14 は高さ約１．８cm、底径約 10. ４cm が残る。調整は回転ナデである。焼成は良好であるが、内側が赤褐色、外側が灰褐色を呈する。15 は壺である。高さ約３．７cm、底径約 14. ２cm である。

16 ～ 24 は土師器である。16 ～ 19 は坏である。16 は高さ約３．８cm、底径５．７cm、口径 12. ５cm である。ほぼ完形に復元できた。焼成は良好であり、胎土は淡赤褐色を呈する。17 は高さ約３．９cm、底径約５．８cm が残る。18 は高さ約２．３cm、底径約５．８cm が残り、高台が高く作られている。胎土は橙褐色であるが、内側は黒く焼けた跡が残っている。19 は高さ約１．７cm、底径約８．０cm が残る。20 は高坏の脚部である。高さ約５．９cm、底径 11cm が残る。焼成は良好であり、胎土は橙褐色を呈する。調整はナデである。21 は壺の口縁部である。高さ約５cm が残る。口縁部から肩部にかけて残っており、ハケ目調整がみられる。22 は甕の口縁部である。高さ約４．２cm が残る。口縁部から肩部にかけて残っており、ハケ目調整がみられる。23 は壺である。高さ約 31. ５cm、口径は約 26. ２cm が残る。外面は敲き調整である。24 は壺の底部である。高さ約 14. ７cm、幅約 24. ６cm が残る。外面にハケ目調整が一部残る。25 は甕である。高さ約 18. ０cm、口径約 28. ０cm が残る。外面は口縁部を除いて、全体にハケ目調整を施し、内面は口縁部のみにハケ目調整を施す。26 は甑である。27 は擂鉢である。胎土は淡赤褐色である。28 は羽口である。全長 18. ０cm、幅６．０～８．０cm である。色調に変化があり、上から灰白色、灰褐色、暗茶褐色、黒褐色に変化する。上部は鞴、下部は炉に接続されていたのであろう。29 は石錘である。重さは約１．８kg、高さ約 11. ４cm、幅約 12. ６cm である。縄を通すための穴が１ヶ所に開く。石質は花崗岩である。30 は磨石である。重さ 0.55 kg、幅９．４cm ～ 10. ２cm、厚さ３．２cm である。石質は花崗岩である。

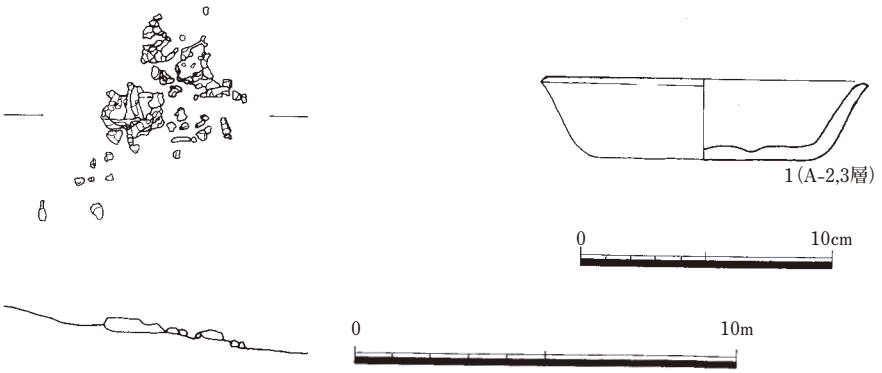


図4　SX001 鉄滓出土状況及び出土遺物

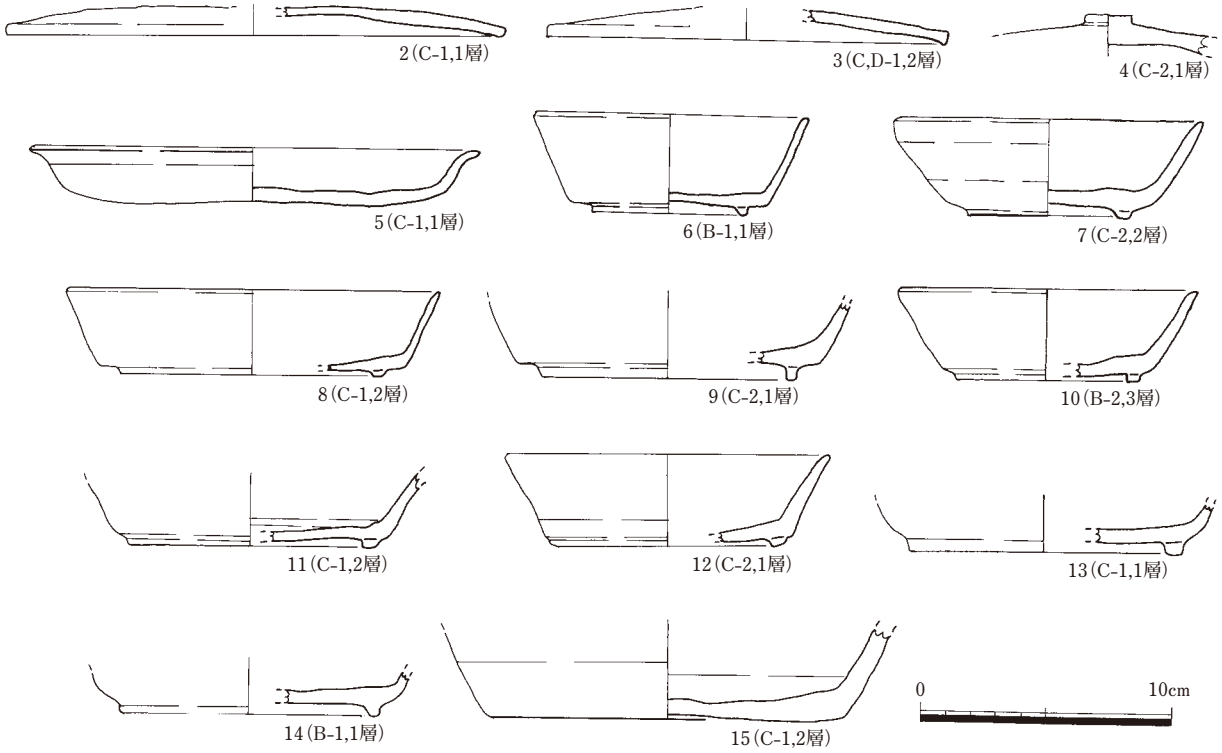


図5　SX001 出土遺物1（1/ 3）

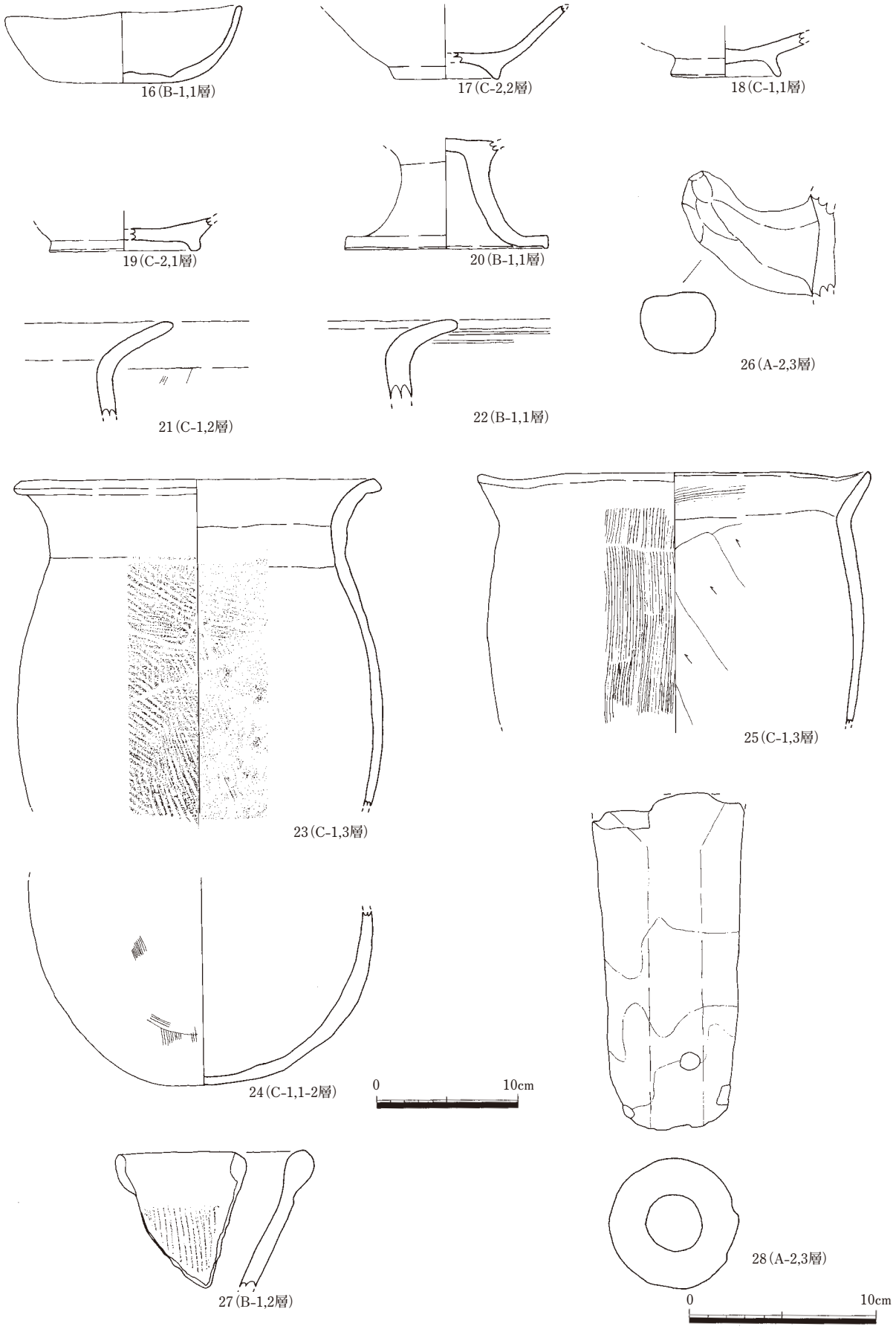


図6　SX 001　出土遺物2（1/ 3、23・24・25は1/ 4）

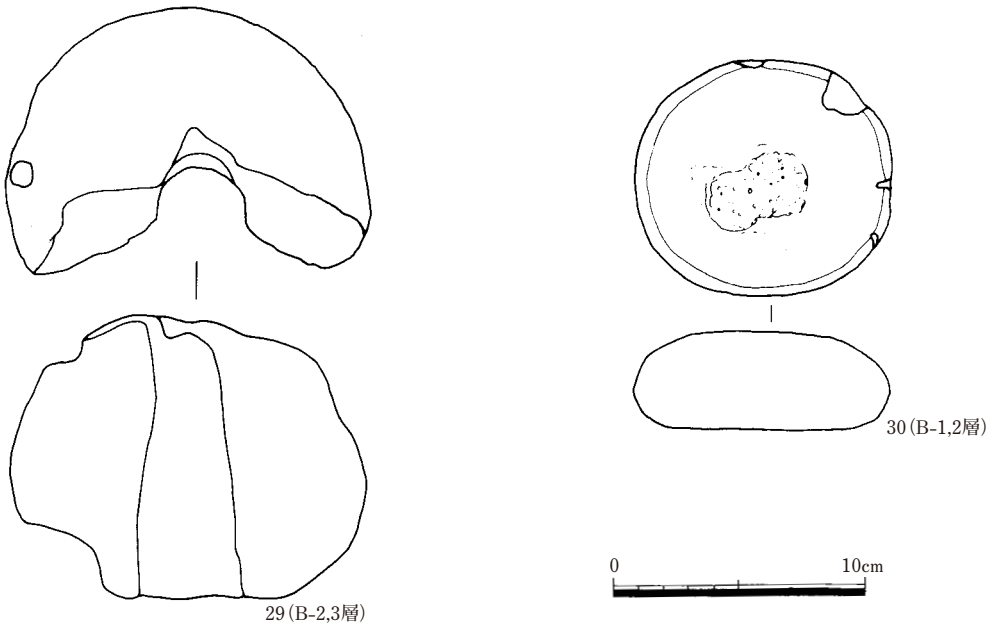


図7　SX 001出土遺物3（1/ 3）

4．結語

元岡・桑原遺跡群第61次調査についてみてきた。遺構は無く、包含層のみの調査であった。第42次調査でみられたような弥生時代の遺物は無く、古代の遺物がそのほとんどであった。第61次調査の西側および北側は高く、傾斜のきつい斜面になっており一部、地山が露出した状態であった。

しかし、西側北側斜面の上には古墳が築造されている。古墳が築造された時代とは違うが古墳の回りの集落、もしくは鉄滓、羽口などは精錬施設があったのかもしれない。

第 61 次調査区全景（東から）

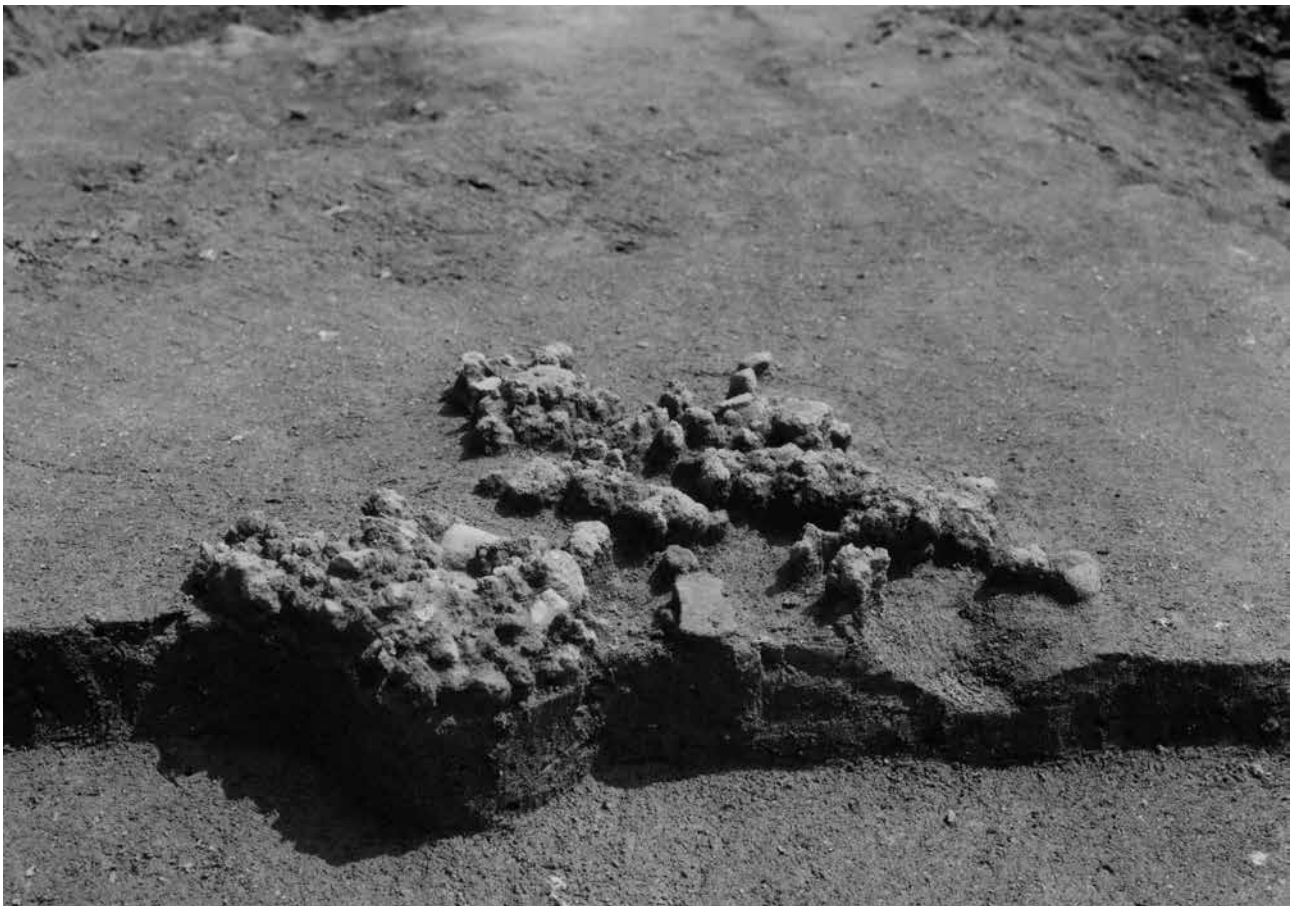
壁面土層 X － Y 1（南から）

図版２

壁面土層Ｘ－Ｙ２（南から）

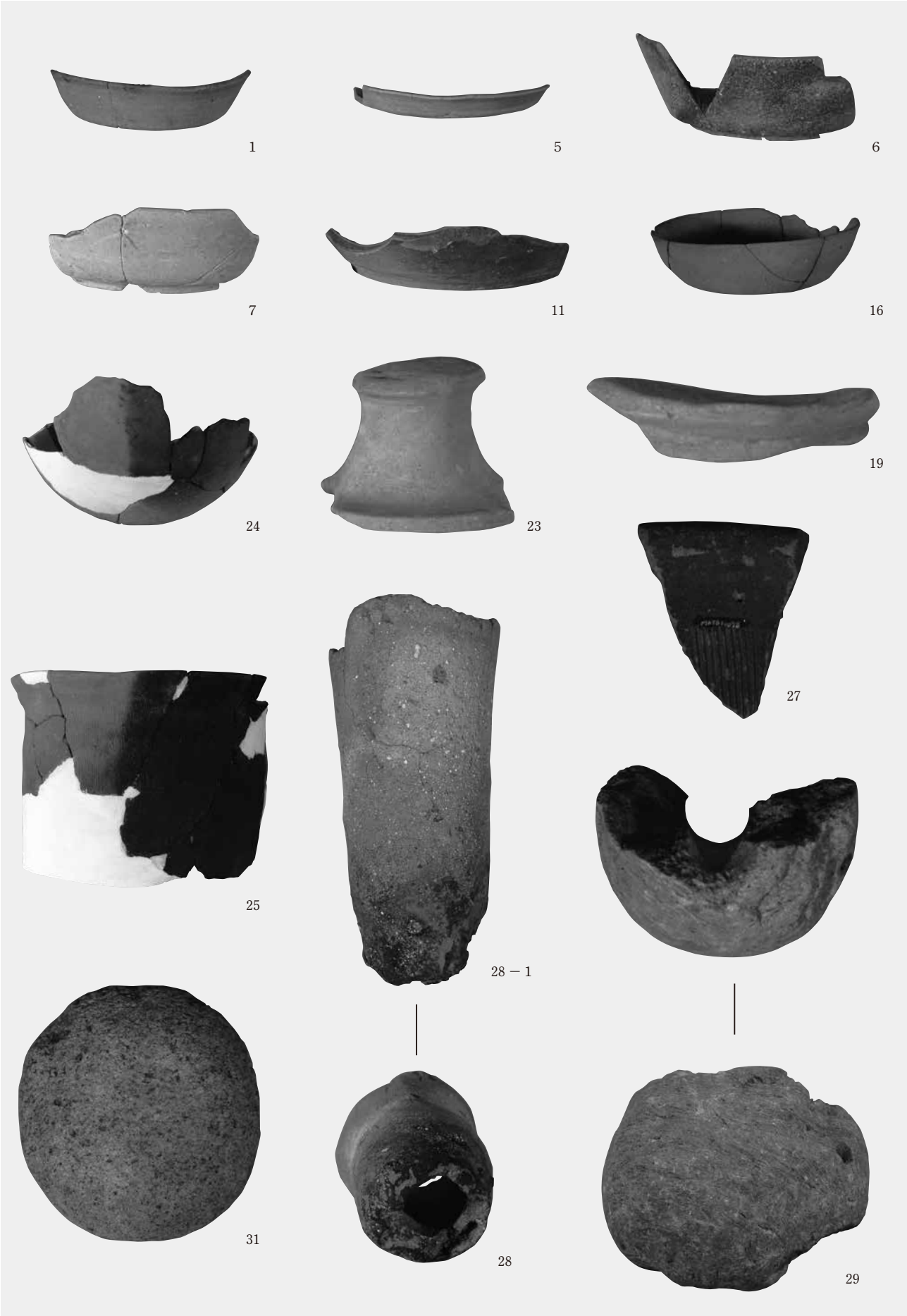
壁面土層Ｘ’－Ｙ’１（東から）

壁面土層 X' － Y' 2（東から）



SX001 鉄滓出土状況（東から）

図版４



第 61 次調査出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	もとおか・くわばらいせきぐん 24
書名	元岡・桑原遺跡群 24
副書名	―第 42 次調査の報告３・第 61 次調査の報告―
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1275 集
編著者名	米倉秀紀・山口譲治・清金良太
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810-8621　福岡県福岡市中央区天神１丁目８番１
発行年月日	2015 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
もとおか・くわばらいせきぐん 元岡・桑原遺跡群 だいよんじゅうにじ 第 42 次	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 にしくおおあざもとおか 西区大字元岡	40137	2782	33-35-6	130-12-4	2004.10.1 ～ 2009.6.30	4,800	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑原遺跡群 第 42 次	集　落	縄文時代～ 古墳時代	自然流路 竪穴住居	縄文土器，弥生土器・土師器・楽浪系土器，土製品，石錘，紡錘車，石斧，石包丁，石鏃，武器形石製品	絵画のある土器、朝鮮系無文土器や山陰・瀬戸内などの外来系土器が出土。総数１万箱。

要　約	谷を南北に流れる２本の自然流路 (幅 30 m前後) の中からコンテナ１万箱をこえる遺物が出土した。時代は縄文時代晩期・弥生時代中期から古墳時代前期に及んでいる。土器の集積を構成する在来系土器には絵画土器なども含まれている。外来系の土器では無文土器や楽浪系土器などの朝鮮半島系の土器が出土した。小銅鐸２点、五銖銭・貨泉などの漢代の貨幣、小形仿製鏡、青銅製鞘尻金具，辰砂の粒子，銅鏃 などの金属器類 が出土しており 1246 集で報告した。絵画のある琴，トリ形木製品，翳とみられる有文木製品，木偶など祭祀系遺物、船材を始めとする多種多様な木製品など、特徴的な遺物が出土した。ＳＤ０１・０２，これら２本の流路の間には、竪穴住居や掘立柱建物群があり、弥生時代中期中頃から古墳時代初頭における糸島地方の祭祀・交易の拠点として機能したと考えられる。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
もとおか・くわばらいせきぐん 元岡・桑原遺跡群 だいろくじゅういちじ 第 61 次	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 にしくもとおか 西区元岡	40137	020767	33° 35′ 00″	130° 12′ 56″	20130701 ～ 20131023	407	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元岡・桑原遺跡群 第 61 次	包含層	古代	包含層	須恵器、土師器、石製品	古代の包含層を確認

要　約	元岡・桑原遺跡群は、福岡市西区元岡・桑原地区に所在し、玄界灘に突出する糸島半島の東側基部の丘陵部に位置する。包含層のみの調査であったが、出土遺物としては古代の土師器、須恵器、羽口、石錘などが出土した。今回の調査で遺構は確認できなかったが、山の頂部には古墳もあり、そこから流れ込んだものと思われる。

元岡・桑原遺跡群24

―第42次調査の報告3・第61次調査の報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1275集

平成27年 3月25日

発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区1－8－1
電話　092－711－4667

印刷　久野印刷株式会社
電話　092－262－5726